

本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

- ◎ お車を安全・快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。
- ◎ 「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。
- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
 アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
 知識	知っておくとお車の性能を十分にお使いいただけるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。 (イラスト内に表示されています)

- コントロールパネルのスイッチは<****>、操作画面に表示されるメニューや項目は [****] と表示しています。
- 参照して読みたいページなどを、➡マークで表示しています。
- 本書では、標準装備またはメーカーオプションのナビゲーションシステムを装着した車両のことを「メーカーオプションナビゲーションシステム装着車」と示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検・整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。● 自然環境保護に配慮してください。● 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。● お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。● 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。 |
|---|

■ 外観フロント.**2**
■ 運転席まわり.**8**

■ 外観リヤ.**4**
■ インストルメントパネル.**10**

■ 車室内.**6**

イラスト目次

P.2

■ e-POWERの特徴.**14**

■ 安全にご利用いただくために.**16**

■ e-POWERと上手に付き合うために.**19**

e-POWER とは

P.13

■ 運転する前に.**22**
■ お子さまの安全のために.**35**

■ シートベルト.**26**
■ 盗難防止機能.**43**

■ エアバッグ.**29**

安全なドライブの
ために

P.21

■ 計器類.**46**

■ 警告灯・表示灯.**55**

■ アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ.**64**

メーターの見かた

P.45

■ ヘッドアップディスプレイ★.**100**

■ メーターの明るさの調節.**105**

■ キー.**108**

■ ドアの施錠と解錠.**112**

■ シート・ハンドルの調節.**125**

■ ミラーの調節.**139**

■ 窓ガラスの開閉.**144**

■ 燃料補給口の開閉.**149**

■ エアコンの操作.**151**

■ オーディオ★.**162**

各部の操作

P.107

■ 始動する.**166**

■ 運転する.**169**

■ ランプをつける、ワイパーを使う.**177**

■ 運転支援機能.**189**

■ 駐車支援システム.**263**

運転のしかた

P.165

■ 室内灯.**290**

■ 収納装備.**292**

■ その他の室内装備.**295**

室内装備

P.289

■ まずはじめに.**314**

■ 緊急時の対処法.**319**

トラブルがおきた
ときは

P.313

■ メンテナンスの前に.**370**

■ 工具・ジャッキ.**371**

■ 点検と整備.**375**

■ 清掃・お手入れ.**385**

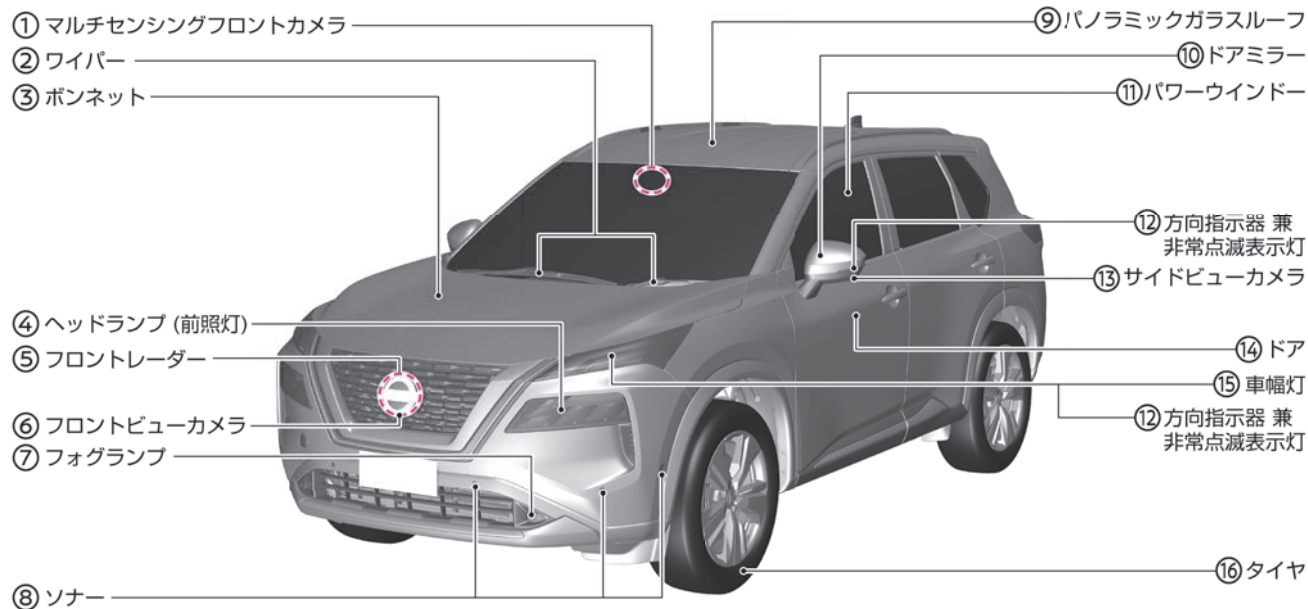
■ サービスデータ.**393**

メンテナンス

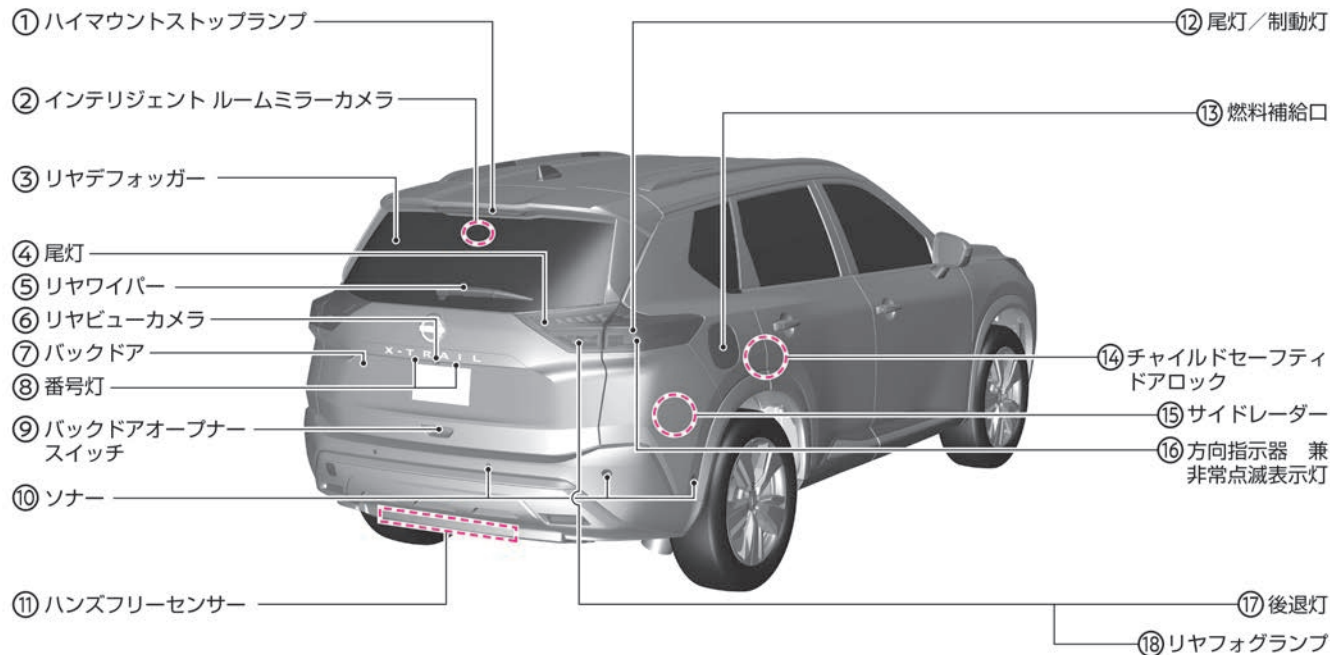
P.369

索引

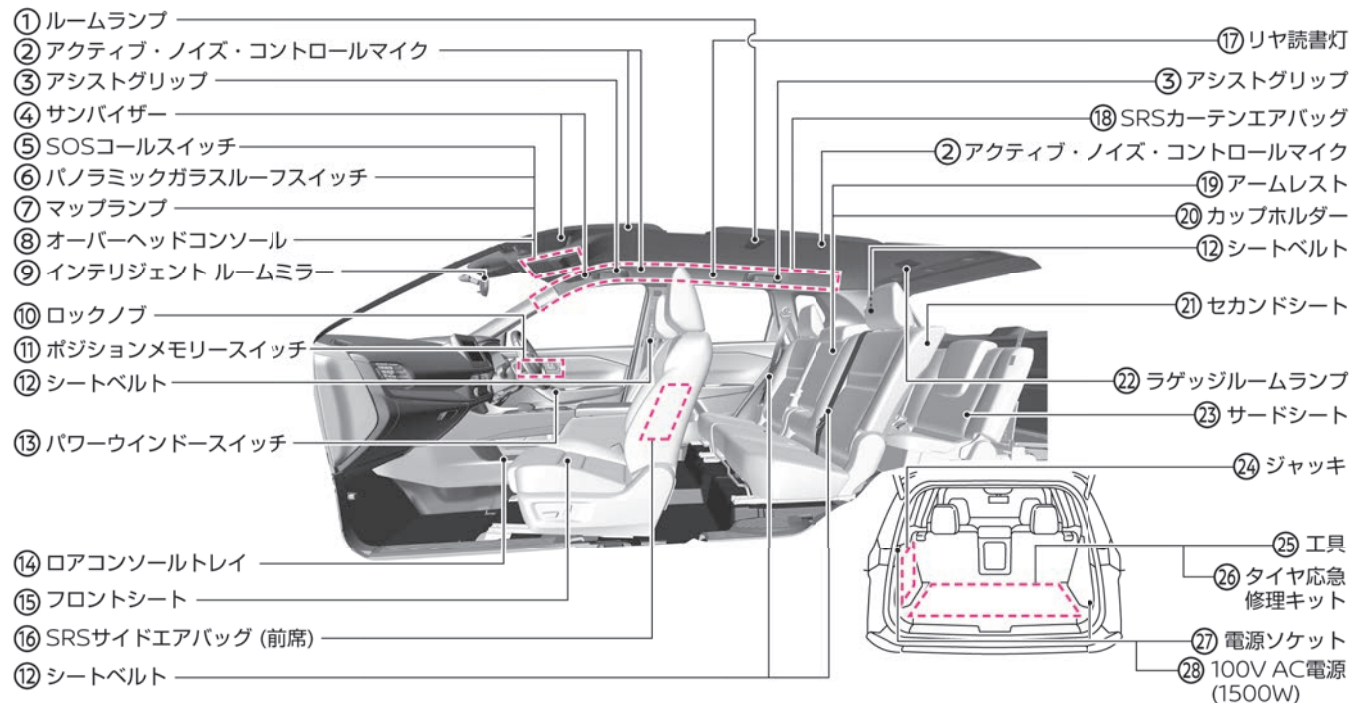
P.399



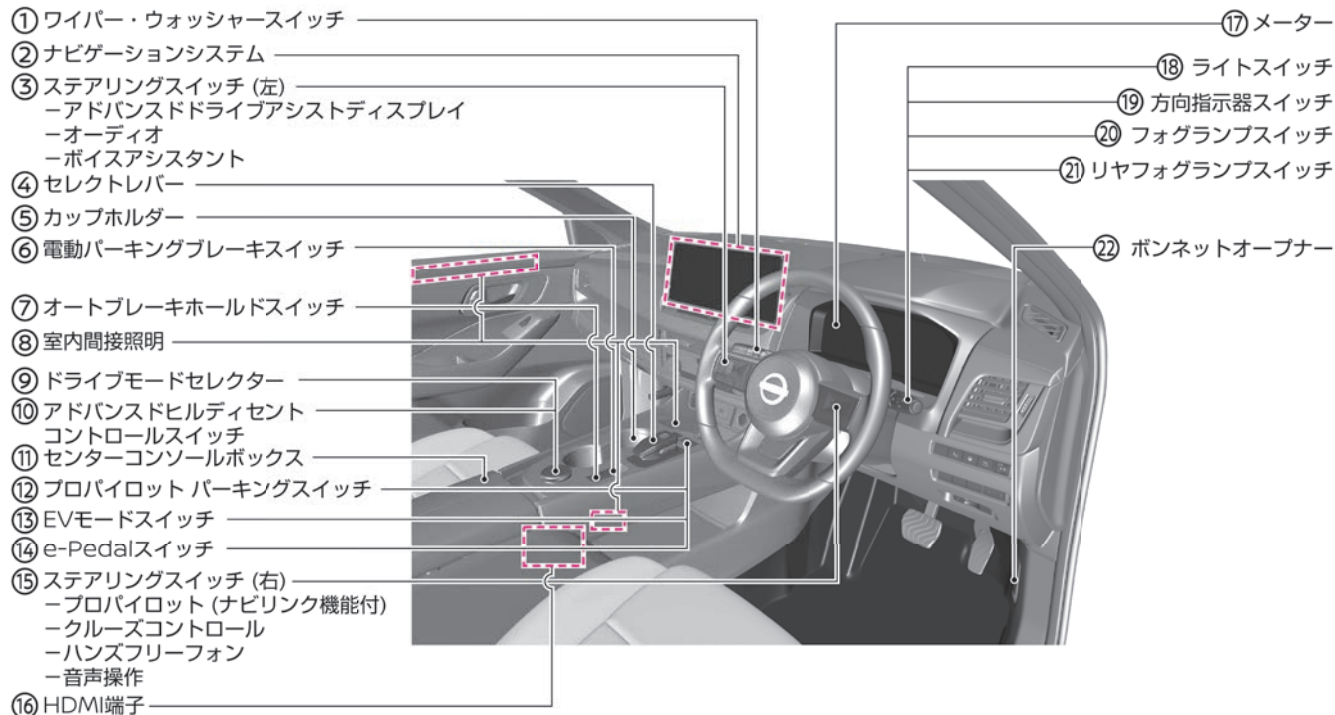
- ① マルチセンシングフロントカメラ (➡P.389)
- ② ワイパー (➡P.186)
- ③ ボンネット (➡P.375)
- ④ ヘッドランプ (前照灯) (➡P.177、➡P.365)
- ⑤ フロントレーダー (➡P.388)
- ⑥ フロントビューカメラ (➡P.389)
- ⑦ フォグランプ★ (➡P.184、➡P.365)
- ⑧ ソナー (➡P.97、➡P.390)
- ⑨ パノラミックガラスルーフ★ (➡P.145)
- ⑩ ドアミラー (➡P.142)
- ⑪ パワーウインドー (➡P.144)
- ⑫ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯 (➡P.183、➡P.365)
- ⑬ サイドビューカメラ (➡P.389)
- ⑭ ドア (➡P.112)
- ⑮ 車幅灯 (➡P.177、➡P.365)
- ⑯ タイヤ (➡P.378)



- ① ハイマウントストップランプ (➡ P.365)
- ② インテリジェントルームミラーカメラ (➡ P.392)
- ③ リヤデフォグガー (➡ P.361)
- ④ 尾灯 (➡ P.177、➡ P.365)
- ⑤ リヤワイパー (➡ P.186)
- ⑥ リヤビューカメラ (➡ P.389)
- ⑦ バックドア (➡ P.116)
- ⑧ 番号灯 (➡ P.177、➡ P.365)
- ⑨ バックドアオープナースイッチ (➡ P.116)
- ⑩ ソナー (➡ P.97、➡ P.390)
- ⑪ ハンズフリーセンサー★ (➡ P.117)
- ⑫ 尾灯／制動灯 (➡ P.177、➡ P.365)
- ⑬ 燃料補給口 (➡ P.149)
- ⑭ チャイルドセーフティドアロック (➡ P.113)
- ⑮ サイドレーダー★ (➡ P.388)
- ⑯ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯 (➡ P.183、➡ P.365)
- ⑰ 後退灯 (➡ P.365)
- ⑱ リヤフォグランプ★ (➡ P.184、➡ P.365)

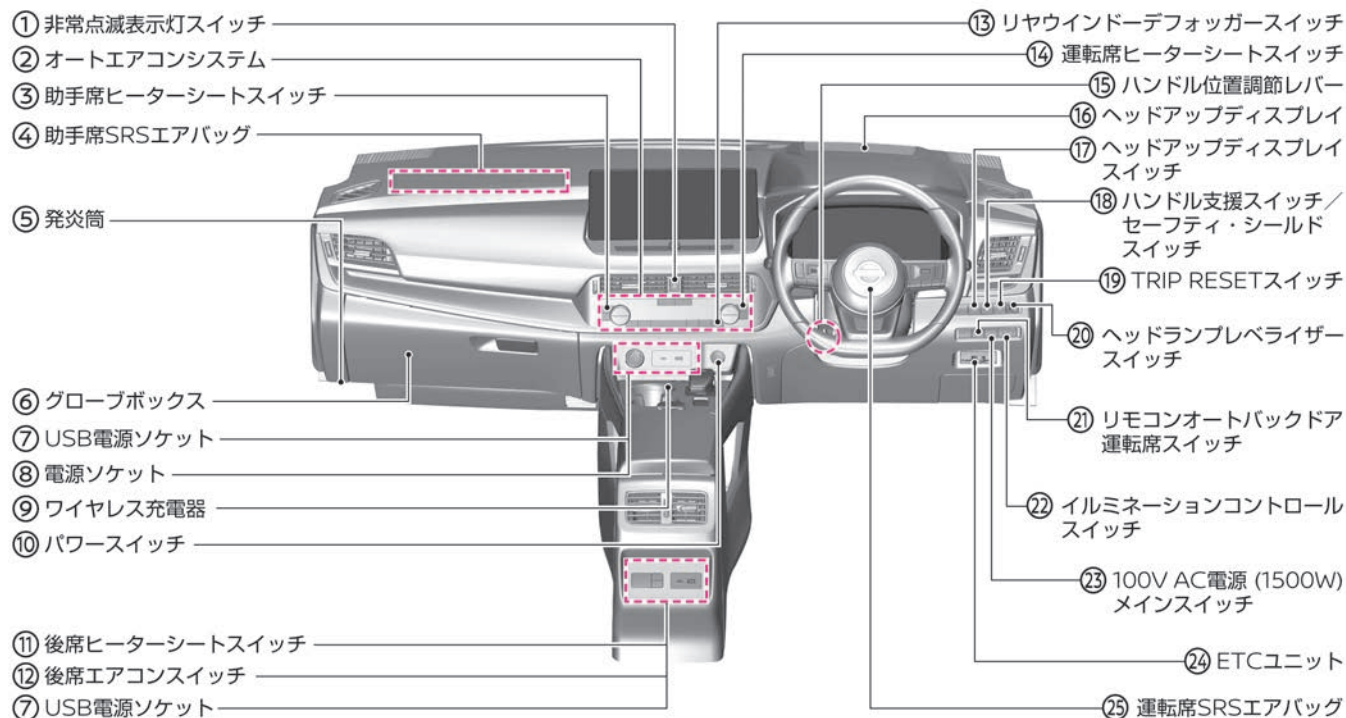


- ① ルームランプ★ (➡P.290)
- ② アクティブ・ノイズ・コントロールマイク (➡P.307)
- ③ アシストグリップ (➡P.310)
- ④ サンバイザー (➡P.309)
- ⑤ SOSコールスイッチ★ (➡P.295)
- ⑥ パノラミックガラスルーフスイッチ★ (➡P.146)
- ⑦ マップランプ (➡P.290)
- ⑧ オーバーヘッドコンソール (➡P.294)
- ⑨ インテリジェントルームミラー (➡P.139)
- ⑩ ロックノブ (➡P.113)
- ⑪ ポジションメモリースイッチ★ (➡P.126)
- ⑫ シートベルト (➡P.26)
- ⑬ パワーウインドースイッチ (➡P.144)
- ⑭ ロアコンソールトレイ (➡P.292)
- ⑮ フロントシート (➡P.125)
- ⑯ SRSサイドエアバッグ (前席) (➡P.33)
- ⑰ リヤ読書灯★ (➡P.291)
- ⑱ SRSカーテンエアバッグ (➡P.34)
- ⑲ アームレスト (➡P.132)
- ⑳ カップホルダー (➡P.293)
- ㉑ セカンドシート (➡P.130、➡P.133)
- ㉒ ラゲッジルームランプ (➡P.291)
- ㉓ サードシート★ (➡P.136)
- ㉔ ジャッキ★ (➡P.371)
- ㉕ 工具★ (➡P.371)
- ㉖ タイヤ応急修理キット (➡P.319)
- ㉗ 電源ソケット (➡P.299)
- ㉘ 100V AC電源 (1500W) ★ (➡P.301)



- ① ワイパー・ウォッシャースイッチ (➡P.186)
 - ② ナビゲーションシステム★ (別冊※)
 - ③ ステアリングスイッチ (左)
 - アドバンスドドライブアシストディスプレイ (➡P.64)
 - オーディオ★ (➡P.162、別冊※)
 - ボイスアシスタント★ (別冊※)
 - ④ セレクトレバー (➡P.169)
 - ⑤ カップホルダー (➡P.293)
 - ⑥ 電動パーキングブレーキスイッチ (➡P.170)
 - ⑦ オートブレーキホールドスイッチ (➡P.171)
 - ⑧ 室内間接照明★ (➡P.291)
 - ⑨ ドライブモードセレクター (➡P.190)
 - ⑩ アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチ★ (➡P.202)
 - ⑪ センターコンソールボックス (➡P.292)
 - ⑫ プロパイロットパーキングスイッチ★ (➡P.275)
 - ⑬ EVモードスイッチ (➡P.194)
 - ⑭ e-Pedalスイッチ (➡P.189)
 - ⑮ ステアリングスイッチ (右)
 - プロパイロット (ナビリンク機能付) ★ (➡P.211)
 - クルーズコントロール★ (➡P.195)
 - ハンズフリーフォン★ (別冊※)
 - 音声操作★ (別冊※)
 - ⑯ HDMI端子★ (別冊※)
 - ⑰ メーター (➡P.46)
 - ⑱ ライトスイッチ (➡P.177)
 - ⑲ 方向指示器スイッチ (➡P.183)
 - ⑳ フォグランプスイッチ★ (➡P.184)
 - ㉑ リヤフォグランプスイッチ★ (➡P.184)
 - ㉒ ボンネットオープナー (➡P.375)
- ※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インストルメントパネル



- ① 非常点滅表示灯スイッチ
- ② オートエアコンシステム (➡P.151、➡P.155)
- ③ 助手席ヒーターシートスイッチ (➡P.299)
- ④ 助手席SRSエアバッグ (➡P.31)
- ⑤ 発炎筒 (➡P.315)
- ⑥ グローブボックス (➡P.292)
- ⑦ USB電源ソケット★ (➡P.300、別冊※)
- ⑧ 電源ソケット (➡P.299)
- ⑨ ワイヤレス充電器★ (➡P.306)
- ⑩ パワースイッチ (➡P.166)
- ⑪ 後席ヒーターシートスイッチ★ (➡P.299)
- ⑫ 後席エアコンスイッチ★ (➡P.155)
- ⑬ リヤウインドーデフォッガースイッチ (➡P.361)
- ⑭ 運転席ヒーターシートスイッチ (➡P.299)
- ⑮ ハンドル位置調節レバー (➡P.138)
- ⑯ ヘッドアップディスプレイ★ (➡P.100)
- ⑰ ヘッドアップディスプレイスイッチ★ (➡P.100)
- ⑱ ハンドル支援スイッチ★/セーフティ・シールドスイッチ★ (➡P.216)
- ⑲ TRIP RESETスイッチ (➡P.50)
- ⑳ ヘッドランプレベライザースイッチ★ (➡P.184)
- ㉑ リモコンオートバックドア運転席スイッチ★ (➡P.116)
- ㉒ イルミネーションコントロールスイッチ (➡P.105)
- ㉓ 100V AC電源 (1500W) メインスイッチ★ (➡P.301)
- ㉔ ETCユニット★ (別冊※)
- ㉕ 運転席SRSエアバッグ (➡P.31)
- ※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

MEMO



イラスト目次

e-POWERの特徴

e-POWERってどんな車？	P.14
----------------	------

安全にご利用いただくために

高電圧部品について	P.16
-----------	------

e-POWERの取り扱いに関する注意事項	P.17
----------------------	------

e-POWERが事故にあったときの注意事項	P.17
-----------------------	------

e-POWERと上手に付き合うために

燃費を良くするためのポイント	P.19
----------------	------

e-POWERってどんな車？

e-POWERはガソリンエンジンで発電用モーターを動かすことにより発電し、その電力をリチウムイオンバッテリーに蓄えたり直接走行用モーターに供給したりします。そしてこれらの電力で走行用モーターを駆動し走行する自動車です。

走行用モーター

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力やエンジンと発電用モーターで発電された電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤを動かす力を生み出します。

発電用モーター

ガソリンエンジンの力により発電します。

リチウムイオンバッテリー

発電用モーターで発電された電力や走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。

リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、エンジンが始動し自動的に充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。

ただし、車両を長時間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも2〜3か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）

万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、e-POWERシステムを始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。

回生ブレーキ

ガソリンエンジン車のエンジンブレーキの代わりに走行用モーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力でリチウムイオンバッテリーを充電することができます。エネルギーを無駄にせず燃費を良くすることができます。

知識

- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。また、指定サイズ以外のタイヤを使用しているときやタイヤの状態によっては、回生ブレーキが正常に作動しなくなることがあります。

車両接近通報装置

本車両は走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいいため、警報装置がついています。交差点などの徐行中に警報音が鳴ります。

車両接近通報装置 (P.203)

エンジンが作動するとき

e-POWERシステムでは次のようなときにエンジンが作動する場合があります。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき（発電のため）
- アクセルペダルを強く踏み込んだとき（発電のため）

- 長い下り坂を走行しているとき（燃料を使用せずに減速度を生成するため）
- 暖房をONにしたとき（熱源となるエンジン水温を上げるため）
- エンジンが冷えているとき（暖機のため）
- e-POWERシステムが作動している状態でボンネットを開けたとき（整備時の事故を防止するため）
- チャージモード中（発電のため）
➡ チャージモード (P.194)
- フロントガラスの<デフロスタースイッチ>をONにしたとき

e-POWERシステム特有の音や振動

e-POWERシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- エンジンの始動・停止による音や振動
- アクセルペダルから足を離れたときやブレーキペダルを踏んだときの作動音やモーター音
- 急加速時のエンジン音
- コンソール下部付近、フロントシート下からのファン作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音
➡ 車両状態記録機能 (P.398)

知識

- 従来のガソリンエンジン車と比較して、アイドリング時のエンジン回転数は高めに設定されています。これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

高電圧部品について

e-POWERシステムには以下の高電圧部品が使われています。高電圧部品は高い電圧を使用しているため、分解や取り外しは絶対にしないでください。また、走行した直後などに高温になることがあるため、手を触れないようにしてください。主な高電圧部品は次のとおりです。

DC/DCコンバーター

●リチウムイオンバッテリーの電力を変換して電装品へ電力を供給するとともに12Vバッテリーへ充電します。

サービスプラグ

●販売会社で整備を行うとき、高電圧を遮断するためのものです。

高電圧ケーブル (オレンジ色)

●オレンジ色のケーブルは、高電圧により大きな電流が流れます。

エアコンコンプレッサー

●車室用の空調装置です。

インバーター

●走行用モーター、発電用モーターを制御しています。

発電用モーター

●発電するためのモーターです。

走行用モーター

●走行するためのモーターです。

1500W ACインバーター★

●リチウムイオンバッテリーの電力を変換して100V AC電源 (1500W)を使用するためのインバーターです。

4WD車用インバーター

●走行用モーターを制御しています。走行直後は高温になることがあるので注意してください。

4WD車用走行用モーター

●走行するためのモーターです。

高電圧ジャンクションボックス

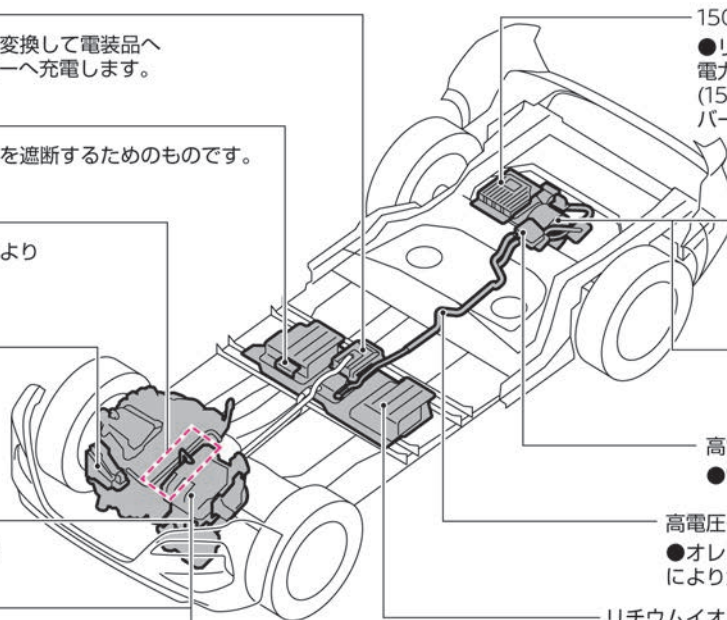
●電力を各部品に分配します。

高電圧ケーブル (オレンジ色)

●オレンジ色のケーブルは、高電圧により大きな電流が流れます。

リチウムイオンバッテリー

●発電用のモーターで発電された電力や、走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。



安全にご利用いただくために

e-POWERの取り扱いに関する注意事項

e-POWERシステムを適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

● 高電圧部位には触れない。

最大で約420Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクタ、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリー、DC/DCコンバーターなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のエンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

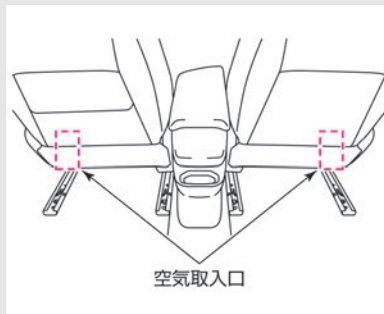
● リチウムイオンバッテリー、DC/DCコンバーター、1500W ACインバーター★に水をかけない。

車室内、ラゲッジルームにふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

⚠ 注意

● 高温に注意する。

走行直後はエンジンルーム内が高温になっている可能性があります。エンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。



● 冷却用空気取入口をふさがない。

フロントシート下にリチウムイオンバッテリーを冷却するための空気取入口があります。

性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などで空気取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。万一、リチウムイオンバッテリー周辺に多量の液体をこぼしてしまった場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

● フロントシート下には重量物を載せない。

フロントシート下にはリチウムイオンバッテリーが配置されているため、重量物を載せたり踏みつけたりして強い負荷を掛けないよう注意してください。

e-POWERが事故にあったときの注意事項

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

● 高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。

高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、(📍 P.16)を確認してください。

● リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。

火災が発生するおそれがあります。

● 車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。

万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

● 走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検する。

⚠ 警告

床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。

火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

- 事故などで車両が損傷し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れて日産販売会社に連絡する。

日産販売会社に連絡するときは、（ガソリンエンジン車ではなく）e-POWERシステムである旨をご連絡ください。

- 板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。

車体が大きく破損・変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）、およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。

- 事故などでランプが破損したまま走行しない。

内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に駆動輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両を破損するおそれがあります。

➡ けん引について (P.315)

知識

- 衝突時やe-POWERシステムに異常があると、高電圧システムがOFFになり走行可能表示灯が消灯する場合があります。これはケガや事故につながる危険を最小限に抑えるもので、異常ではありません。

燃費を良くするためのポイント

燃費は、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。

次のようなことに気をつけ電力の消費を抑え、燃費が良くなります。

お出かけ前に

電力の消費が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は電力の消費が多くなります。上り坂の少ないルートを選択すると電力の消費を抑えられます。

不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、電力の消費を抑えられます。

適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より多くの電力を消費します。

➡ タイヤの点検項目 (P.378)

知識

- 燃費が大幅に悪化する場合は、次のようなことが原因として考えられます。
 - ー 走行するルートの地形に上り坂が多い
 - ー 高速道路など、高速で走行を続けている
 - ー 頻繁に急発進、急加速、急ブレーキをしている

運転するときは

■ なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より多くの電力を消費し、燃費が悪くなります。
- パワーメーター (➡ P.50) で電力の消費状況を確認しながら加速することで、電力の消費を抑えた加速ができます。

■ 車間距離に余裕を持ち、必要以上の減速を極力避ける。

- 必要以上の減速を避けることで、再加速するための電力の消費を抑制できます。

■ 高速道路などで速度を出しすぎない。

- 速度の出しすぎは、電力を無駄に消費します。

■ エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめにOFFにする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。
- 暖房使用時、設定温度を24℃以下に下げると燃費が良くなります。

■ 寒いときは、エアコンの代わりにヒーターシートやステアリングヒーターを使用する。

- エアコンを使わずにヒーターシートやステアリングヒーター★を活用することで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

➡ ヒーターシート (P.299)

➡ ステアリングヒーター★ (P.298)

■ デフロスターは必要以上に使用しない。

- 窓のくもりが取れたら、他の吹き出し口に切り替えることで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

■ ECOモードで走行する。

- ECOモードの方がSTANDARD (AUTO) モード、SPORTモードより、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
- ECOモードやSPORTモードを使用しているときは、アクセルペダルを緩めたときの回生ブレーキによる減速力が強くなり、減速時のエネルギーをより多く回収できます。
- ECOモードが最も燃費重視のモードとなります。
ECOモード←STANDARD (AUTO) モード←SPORTモードの順に燃費が良くなります。

➡ ドライブモードセレクト (P.190)

MEMO

運転する前に

運転前の準備	P.22
運転するときに注意すること	P.23
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項	P.24

シートベルト

3点式シートベルト	P.26
シートベルトの注意事項	P.27

エアバッグ

SRSエアバッグ	P.29
SRSエアバッグ（前席）	P.31
SRSサイドエアバッグ（前席）	P.33
SRSカーテンエアバッグ	P.34

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること	P.35
チャイルドシート	P.36

盗難防止機能

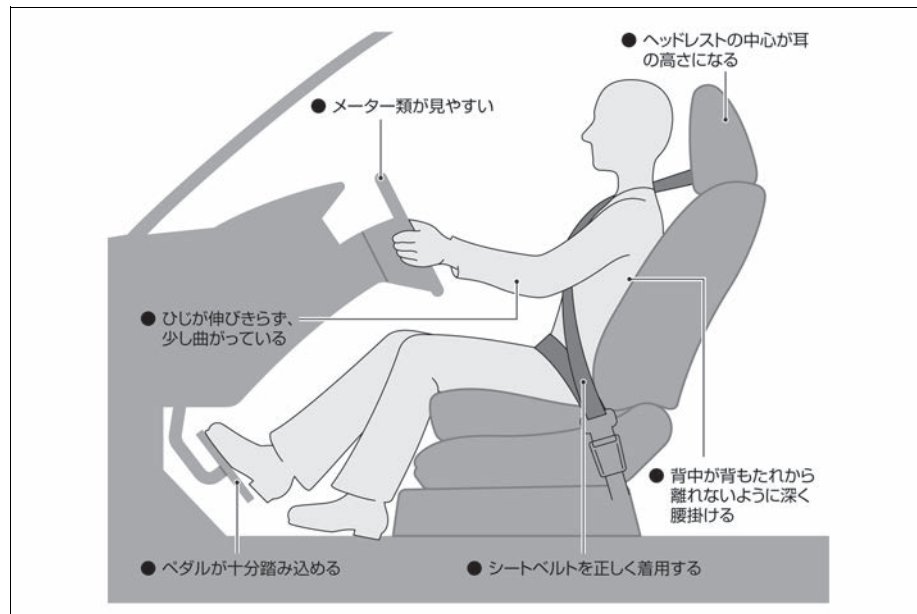
イモビライザー（盗難防止装置）	P.43
-----------------	------

運転する前に

運転前の準備

正しい運転姿勢がとれるよう、ハンドル(➡P.138)、シート(➡P.125)、ミラー(➡P.139)を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



警告

- ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。
固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。
運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
➡ シートベルト (P.26)
- 小さなお子さまを乗せるときは、お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートをご使用ください。
➡ チャイルドシート (P.36)

ミラーの調節

- ハンドル、シートを調節したあと、ミラーを調節します。確実に後方確認がで

運転する前に

きる位置に、ミラーを調節してください。

➡ ドアミラー (P.142)

➡ インテリジェントルームミラー
(P.139)

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- 排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。

- 次の状況では、**e-POWER**システムを長時間作動したままにしない。

排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。

- 雪が積もった場所に駐停車するとき
- 降雪時に駐停車するとき
- 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
- 仮眠や長時間の駐車をするとき
- 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
- 他車の排気口が近くにあるとき
- 走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。

走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。

- 車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。
- 排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。

排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。
炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクタにはご注意ください

- 診断機接続用のコネクタには、後付け用品を取り付けしないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。
引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたりしない。

荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- 灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。

紙くすなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- 排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。

排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。

- 事故などでランプが破損したまま走行しない。

内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

運転する前に

⚠ 警告

e-POWERシステムを作動したまま仮眠をしない

- 万一、シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、セレクトレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ウィンドーにアクセサリを取り付けない。

視界の妨げになったり、吸盤がレンズの動きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- 市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。

正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

🚗 アドバイス

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

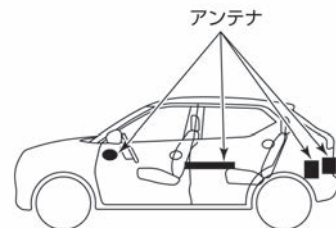
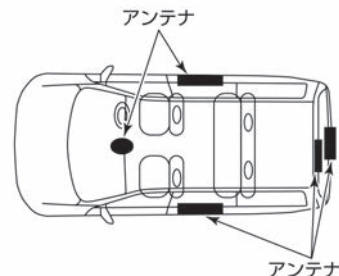
- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

インテリジェントキーについて



⚠ 警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。

ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサー操作時、e-POWERシステム始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。

キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOSコール★について

- SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。

SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

➡ 先進事故自動通報システム★
(P.295)

シートベルト

3点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 注意

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。
誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

⚠ 警告

- SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。
<パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。

🚗 アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

プリテンショナー機構



自動的に巻き取る

- 正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。

- SRSエアバッグシステム（運転席・助手席）と同時に作動します。

➡ SRSエアバッグ (P.29)

- フロントシートにはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

シートベルトの着用のしかた

⚠ 警告

- ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。

万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

- セカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。

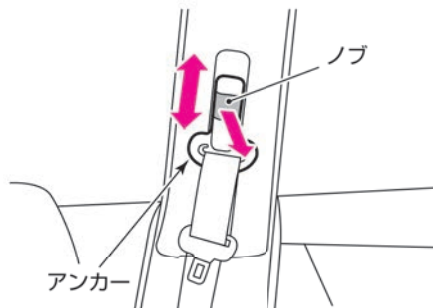
シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。

シートベルト



2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



3. 肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（フロントシートのみ）ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離し

たあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。

4. 外すときは、バックルのボタンを押して、タングを持ってゆっくり戻します。
- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用する。

着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。

シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

- 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
- 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。

- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。
- クリップなどで故意にベルトにたるみを付け、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。

- シートの背もたれを倒したまま走行しない。

シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。

シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。

シートベルト

⚠ 警告

ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。

お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。

👉 チャイルドシート (P.36)

- 事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。

一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

⚠ 注意

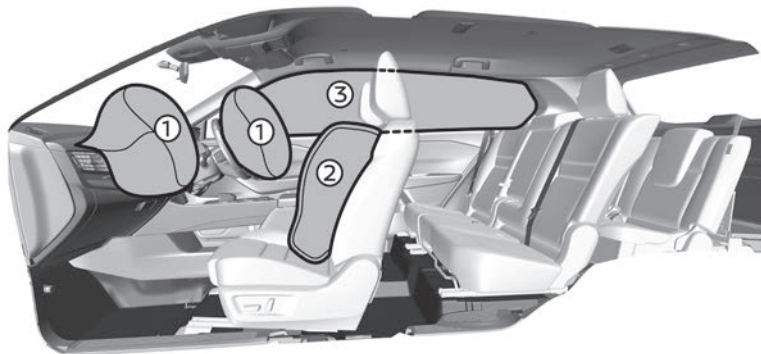
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類

- ① SRSエアバッグ (前席)
- ② SRSサイドエアバッグ (前席)
- ③ SRSカーテンエアバッグ



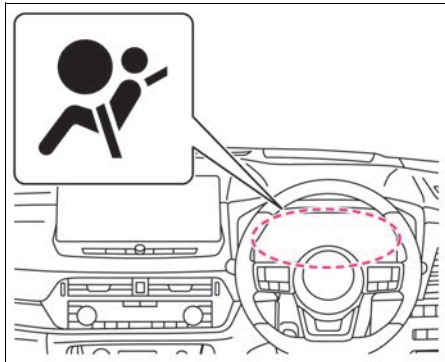
🚗 アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがあります。また、発生するガスによりむせることがあります。また、発生するガスによりむせることがあります。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

エアバッグ

SRSエアバッグの作動



SRSエアバッグは、＜パワースイッチ＞がONのときに作動可能です。

＜パワースイッチ＞をONにしたあと、約7秒間はSRSエアバッグ警告灯が点灯します。このとき、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感じると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。＜非常点滅表示灯スイッチ＞を押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめます。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRSエアバッグの注意事項



⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**

- ＜パワースイッチ＞をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
- SRSエアバッグ警告灯が点灯または点滅し続けるとき

SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

➡ チャイルドシート (P.36)

- **必ず次のことを守る。**

SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。

SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（➡P.31）をお読みください。

SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➡P.33）をお読みください。

SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➡P.34）をお読みください。

- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。
- エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**

高温になるため、やけどをするおそれがあります。

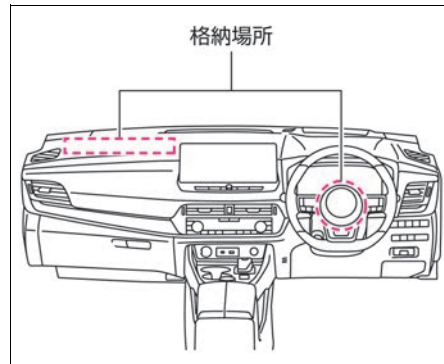
- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**

皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じる場合があります。

SRSエアバッグ（前席）

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。

SRSエアバッグが作動するとき

- 次のような衝撃が強いときに作動します。
 - 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
 - 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき
- 次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくとも乗員への衝撃は強いとき）
 - 高速で縁石などに衝突したとき
 - 深い穴や溝に落ち込んだとき
 - ジャンプして地面にぶつかったとき
- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。
- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむため、視界の妨げになることはありません。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

エアバッグ

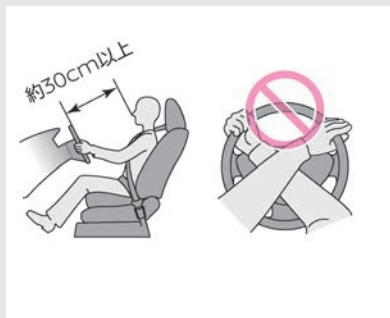
SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRSエアバッグ（前席）の注意事項

警告



- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



ステッカー

- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **フロントガラスにアクセサリなどを付けない。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

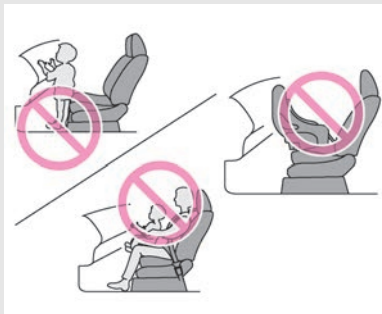
SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

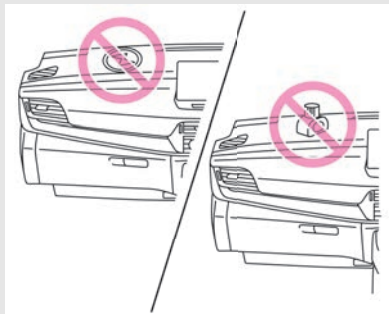
やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。



- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

⚠ 警告

固定方法および取り扱いがたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSサイドエアバッグ（前席）

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに側面衝突されたとき

- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSサイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

ドアにもたれるなど、フロントシートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、フロントシートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- フロントシートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。
- シートカバーは、フロントシート背もたれ側面を覆わないものを使用する。

SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

エアバッグ

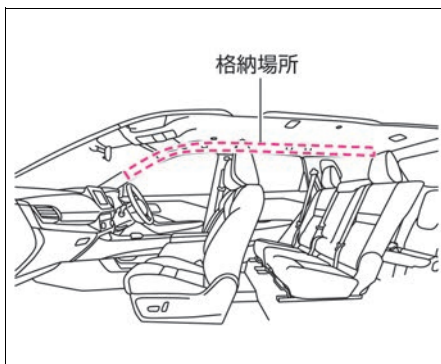
⚠ 注意

- ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。
SRSサイドエアバッグ誤作動するおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに側面衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。

万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリやハンガーなどを取り付けない。

SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。
SRSカーテンエアバッグ誤作動するおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。

お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

➡ 3点式シートベルト (P.26)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。

➡ チャイルドシート (P.36)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。

固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。

車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- お子さまを助手席に乗せるのは避ける。

お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。

開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- チャイルドセーフティドアロック (➡ P.113) や<パワーウインドーロックスイッチ>

(➡ P.144) を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓から手や顔を出さない

- お子さまが腕や顔を出さないように注意する。

急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまと一緒に降ろす。

お子さまの安全のために

⚠ 警告

炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- お子さまのいたすらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格に合わせてチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

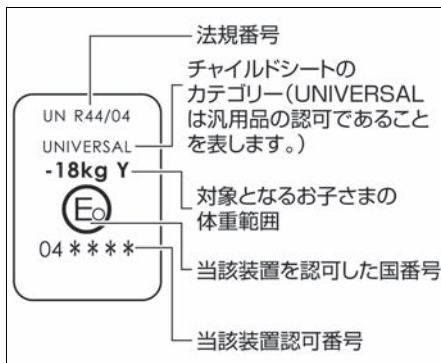
⚠ 警告



- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。

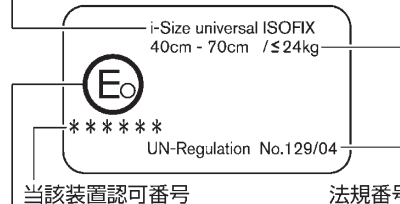
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

チャイルドシートについて



チャイルドシートのカテゴリ (universalは汎用品の認可であることを表します。)

対象となるお子さまの身長／体重範囲



当該装置を認可した国番号

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートには、認可マークが貼られています。
- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置を標準装備しています。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

🔄 シートベルト固定タイプのチャイルド
シートの取り付けかた (P.41)

■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

セカンドシートに付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

🔄 使用できるチャイルドシートについて
(P.38)

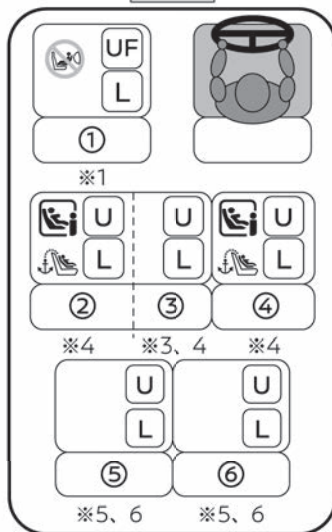
使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。

選択の目安 2列車



3列車



凡例

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-Size及びISOFIXチャイルドシートに適している
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具を装備している座席
	後ろ向きチャイルドシート取り付け禁止
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している

※1：チャイルドシートを取り付ける際は、シートを最も後方に移動させてください。高さ調整ができる場合は最も高い位置に調整してください。

※2：チャイルドシートを取り付ける際は、前席が干渉しない位置にスライドを移動させてください。

※3：サポートレッグ付きチャイルドシートは装着しないでください。

※4：チャイルドシートを取り付ける際は、前席シートスライドを最も前方に移動させ130mm後方に移動させてください。（全長260mm）

※5：チャイルドシートを取り付ける際は、前席シートスライドを最も前方に移動させ最初にロックする位置に調整してください。

※6：チャイルドシートを取り付ける際は、前席の背もたれを最も前傾させ最初にロックする位置に調整してください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

シート位置番号	助手席	後席				
	①	②	③	④	⑤	⑥
汎用ベルトに適する着席位置 (○/×)	○ (前向きのみ)	○	○	○	○	○
i-Size着席位置 (○/×)	×	○	×	○	×	×
横向き固定具に適する着席位置 (L1/L2)	-	-	-	-	-	-
適する最大の後向き固定具 (R1/R2X/R2/R3)	-	R3	-	R3	-	-
適する最大の前向き固定具 (F2X/F2/F3)	-	F3	-	F3	-	-
適する最大のブースター固定具 (B2/B3)	-	B3	-	B3	-	-

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

お子さまの安全のために

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢 (目安)	体重 (目安)	身長 (目安)	推奨チャイルドシート	座席位置					
				①	②	③	④	⑤	⑥
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (後向き)	×	○	×	○	×	×
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (前向き、後向き)	×	○	×	○	×	×
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト 取付 のみ)	○	○ (ベルト 取付 のみ)	○	○ (ベルト 取付 のみ)	○ (ベルト 取付 のみ)
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト 取付 のみ)	○	○ (ベルト 取付 のみ)	○	○ (ベルト 取付 のみ)	○ (ベルト 取付 のみ)

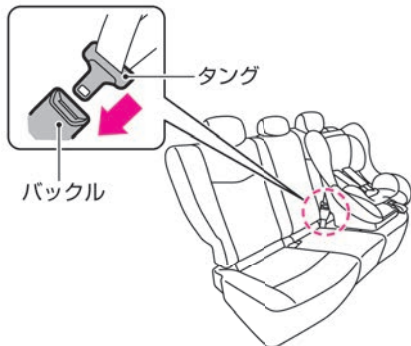
チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は、一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。

確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。



1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに「カ

チツ」と音がするまで確実に差し込みます。

➡ヘッドレストの調節のしかた
(P.129)



2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）

- チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。

確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカレッジ部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。

チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。



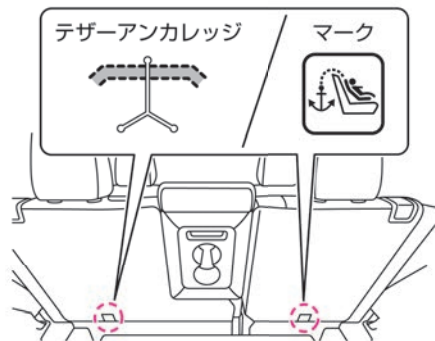
1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX ロアアンカレッジは、セカンドシ

お子さまの安全のために

ト左右背もたれのマーク下側にあります。

ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカレッジに固定します。

➡ ヘッドレストの調節のしかた
(P.129)



2. テザーアンカレッジは、後席シート背もたれ裏側にあります。
テザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

イモビライザー（盗難防止装置）

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外でのe-POWERシステムの始動（＜パワースイッチ＞ON）を禁止するシステムです。

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

MEMO



安全なドライブのために

計器類

各部名称（メータータイプ①クラシック表示）	P.46
各部名称（メータータイプ①エンハンス表示）	P.47
各部名称（メータータイプ②）	P.48
メーター	P.49

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置（メータータイプ①クラシック表示）	P.55
警告灯の表示位置（メータータイプ①エンハンス表示）	P.56
警告灯の表示位置（メータータイプ②）	P.57
表示灯の表示位置（メータータイプ①クラシック表示）	P.58
表示灯の表示位置（メータータイプ①エンハンス表示）	P.59
表示灯の表示位置（メータータイプ②）	P.60
表示灯がついたときは	P.61

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは （メインメニュー）	P.64
車両情報画面	P.65
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは （ショートカットメニュー）	P.76
各種設定画面	P.81
その他の表示機能	P.97

ヘッドアップディスプレイ★

ヘッドアップディスプレイとは	P.100
----------------	-------

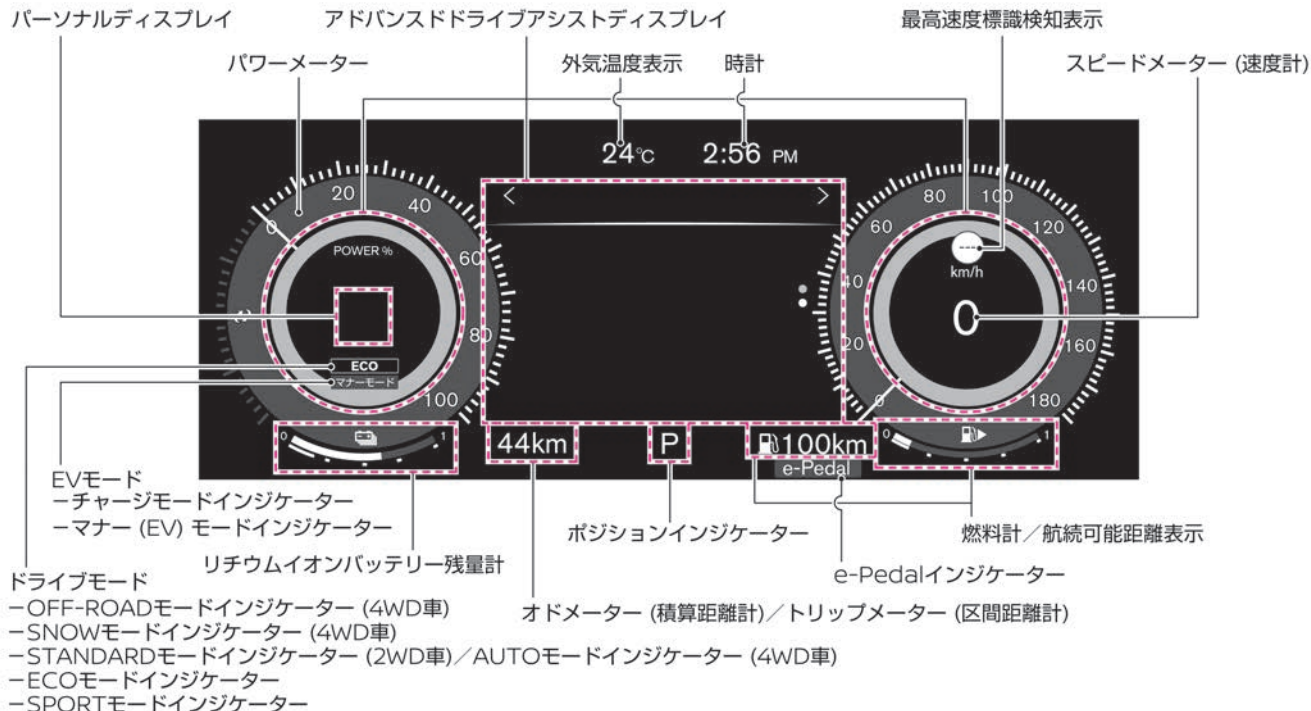
走行支援機能画面	P.100
各種設定画面	P.102

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール	P.105
----------------	-------

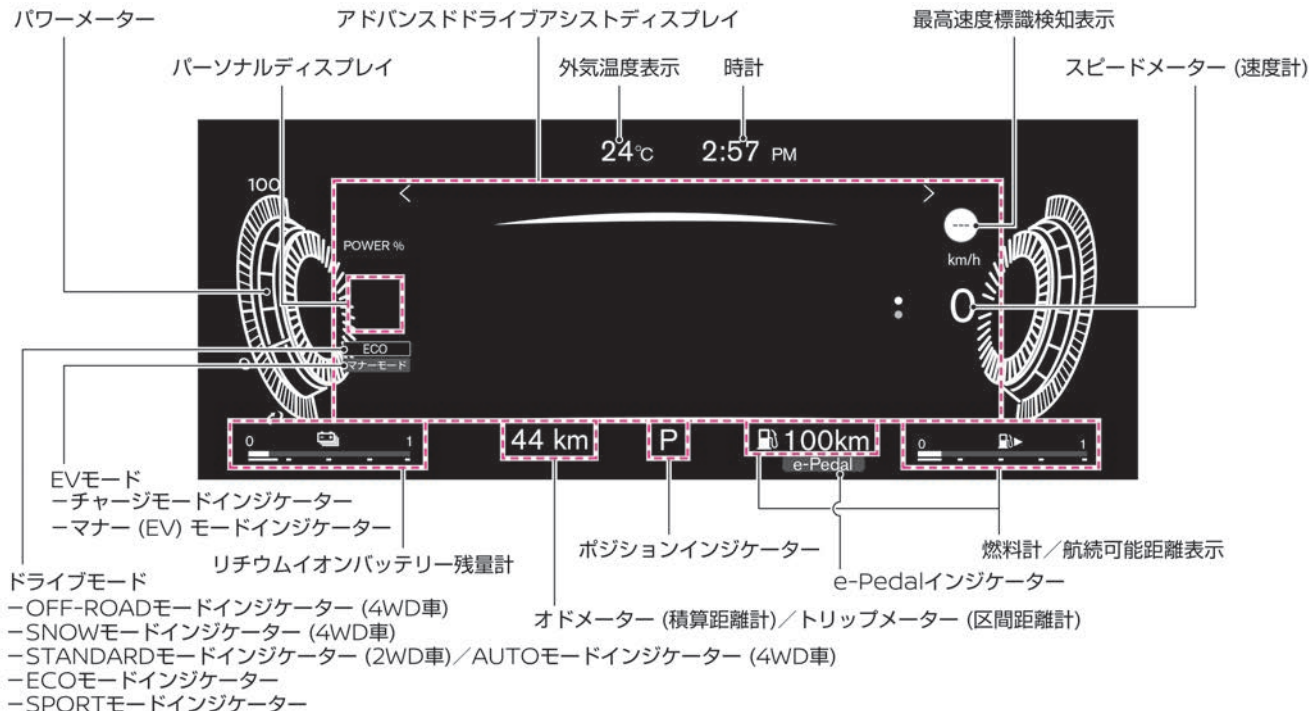
各部名称 (メータータイプ^①クラシック表示)

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<  >スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエレクトロニック表示の2種類あります。



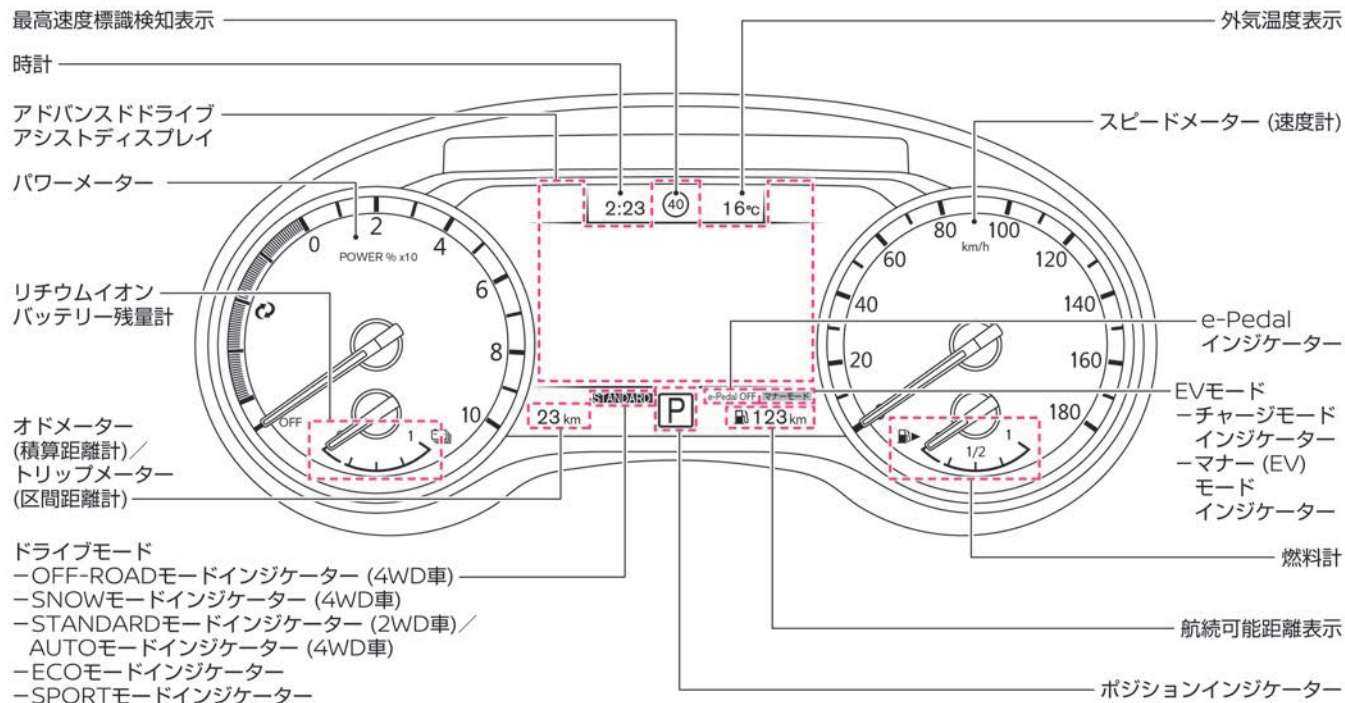
各部名称（メータータイプ[Ⓐ]エンハンス表示）

＜パワースイッチ＞をONにすると、計器類が表示されます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜＞スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各部名称 (メータータイプ[®])

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。



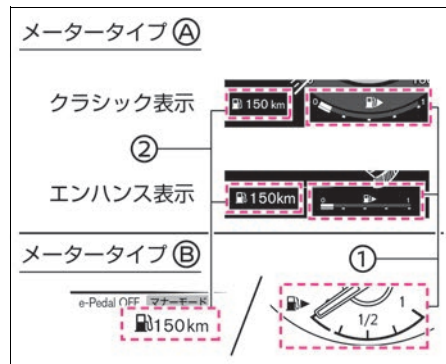
メーター

メーターには、パワーメーター、リチウムイオンバッテリー残量計、航続可能距離表示などがあります。＜パワースイッチ＞をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

- 走行速度を表示します。

燃料計／航続可能距離表示



燃料計①

- 燃料の残量を表示します。
- 燃料タンクの容量は約55ℓです。

航続可能距離表示②

- 現在の燃料残量と平均燃費から、走行可能な距離を表示します。

- 燃料残量警告灯（P.334）が点灯したあとも燃料を補給しないと「---」と表示します。

知識

- 矢印は燃料補給口が車両右側にあることを示しています。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。
- 10ℓ以下の給油では、航続可能距離が更新されないことがあります。

時計

- 時刻を表示します。
- ナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [時計] ⇒ [時計設定モード] を選択すると、時刻の設定を手動に切り替えることができます。設定の詳細については時計（P.89）または（P.64）をお読みください。
- ナビゲーションシステム非装着車の時計は、12Vバッテリーを外すと記憶が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。

ナビゲーションシステム装着車の時計は、12Vバッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。

- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度計

- 外気温を表示します。
- 外気温センサー取り付け部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

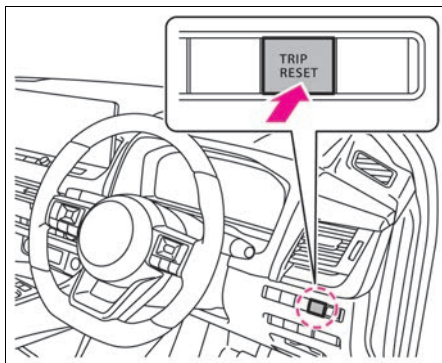
メータータイプ①（クラシック表示）



メータータイプ①（エンハンス表示）



メータータイプ②



- <TRIP RESET>スイッチを押すごとに、オドメーター⇒トリップメーター [A] ⇒トリップメーター [B] ⇒オドメーターの順に切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmで表示します。

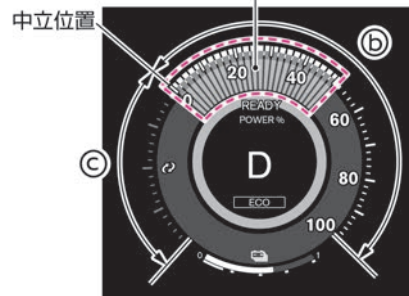
トリップメーター（区間距離計）

- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。[A] と [B] でそれぞれ使い分けることができます。
- [A] または [B] のどちらかリセットしたい方を表示し、<TRIP RESET>スイッチを1秒以上押すとリセットされます。
- 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターの [A] と [B] の記憶が消去され0に戻ります。

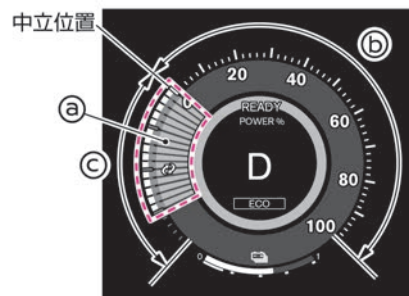
パワーメーター（メータータイプ①クラシック表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。
エンハンス表示に切り替えができます。

加速しているとき



電力を回収しているとき

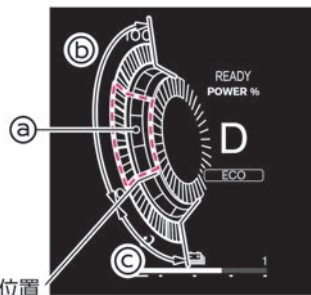


計器類

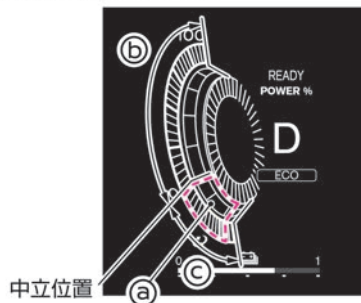
- 一定の速度で走行しているときや加速しているときは、ゲージ③が中立位置より右側④に表示されます。
- 急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、ゲージ③が右側④に増えていきます。
- 電力を回収しているときは、ゲージ③が中立位置から左側③に増えます。ゲージが左側に増えると、多くの電力を回収していることを表します。

パワーメーター（メータータイプ ①エンハンス表示）

加速しているとき

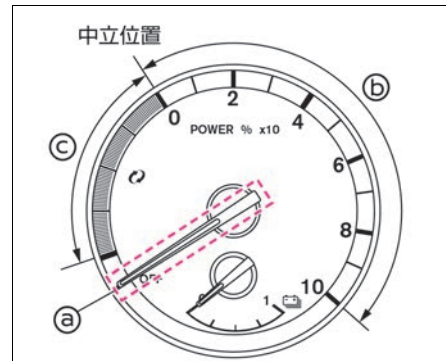


電力を回収しているとき



パワーメーター（メータータイプ②）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



- 一定の速度で走行しているときや加速しているときは、指針③が中立位置より右側④に移動します。

- 急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、指針③が右側④に移動します。
- 電力を回収しているときは、指針③が中立位置から左側③に移動します。指針が左側に移動するほど、多くの電力を回収していることを表します。

リチウムイオンバッテリー残量計

メータータイプ ①

クラシック表示



エンハンス表示



メータータイプ ②



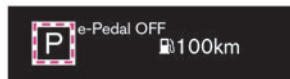
- 現在のリチウムイオンバッテリーの残量を表示します。
- リチウムイオンバッテリーの温度によって、リチウムイオンバッテリー残量が増減することがあります。

ポジションインジケータ

メータータイプ①



メータータイプ②



- セレクトレバーのシフトポジションを表示します。
➡ セレクトレバーの操作 (P.169)
— 適正な位置からずれていると、ポジションインジケータが点滅します。
- パーソナルディスプレイ★でシフトポジションを選択しているときは、パーソナルディスプレイ側にポジションインジケータが表示されます。
➡ パーソナルディスプレイ★ (P.53)

🚗 アドバイス

- 12Vバッテリー電圧低下、および12Vバッテリーあがりにより電装品への電源供給が停止されると、ポジションインジケータが消灯する場合があります。その場合は②スイッチを押してシフトポジションをPにしてください。

ドライブモードインジケータ

- 現在選択されているドライブモードが表示されます。ドライブモードは次のモードがあります。

メータータイプ①

クラシック表示



エンハンス表示



メータータイプ②



- 現在選択されているドライブモードが表示されます。ドライブモードは次のモードがあります。

2WD車	e-4ORCE (4WD) 車
SPORT	OFF-ROAD
STANDARD	SNOW
ECO	AUTO
-	ECO
-	SPORT

- ➡ ドライブモードセクター (P.190)

EVモードインジケータ

メータータイプ①

クラシック表示



エンハンス表示



メータータイプ②



- EVモードを変更すると表示されます。EVモードは次のモードがあります
➡ 充電モード (P.194)
➡ マナー (EV) モード (P.194)

e-Pedalインジケーター

メータータイプ(A)



メータータイプ(B)



- <e-Pedal>スイッチを押してe-Pedal StepをONにすると [e-Pedal] と表示し、e-Pedal StepがOFFのときは、[e-Pedal OFF] と表示します。
- ➡ e-Pedal Step (P.189)

最高速度標識検知表示

メータータイプ(A)

クラシック表示



エンハンス表示



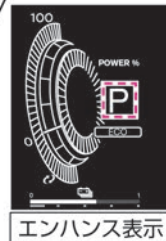
メータータイプ(B)



- フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより最高速度標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。
 - アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [標識検知支援] ⇒ [制限速度標識] を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。
- 設定の詳細については、車両設定 (➡ P.90) または (➡ P.64) をお読みください。

パーソナルディスプレイ★

クラシック表示

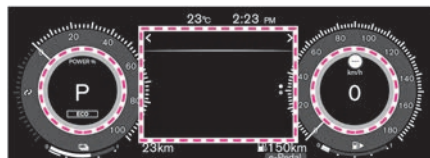


エンハンス表示

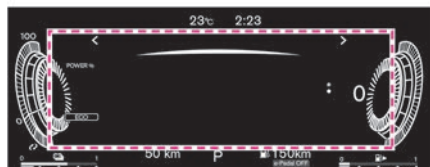
- パーソナルディスプレイで設定した項目を表示します。設定の詳細については、車両設定をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (メインメニュー) (P.64)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

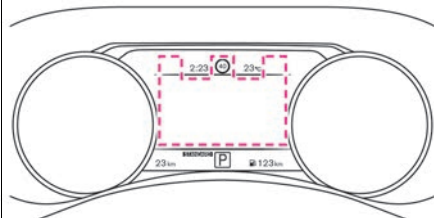
メータータイプ①(クラシック表示)



メータータイプ①(エンハンス表示)



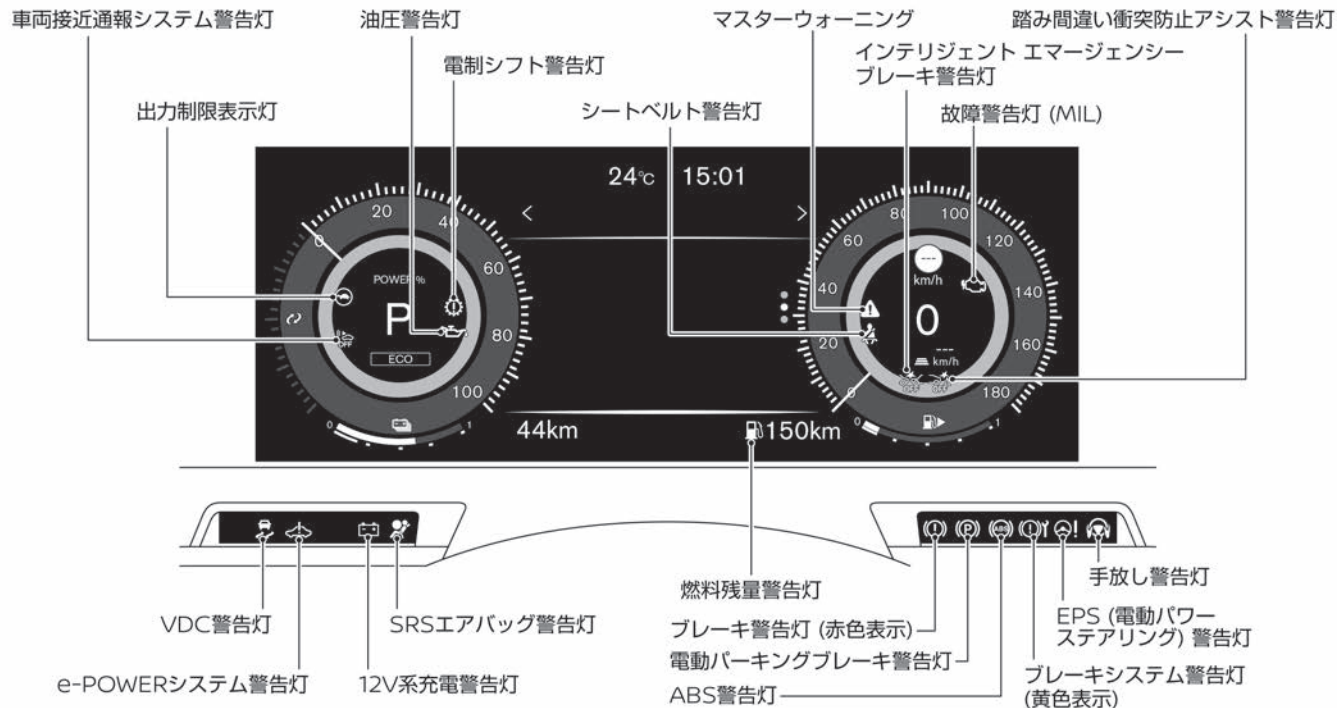
メータータイプ②



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、(➡ P.64)をお読みください。

警告灯の表示位置（メータータイプ^①クラシック表示）

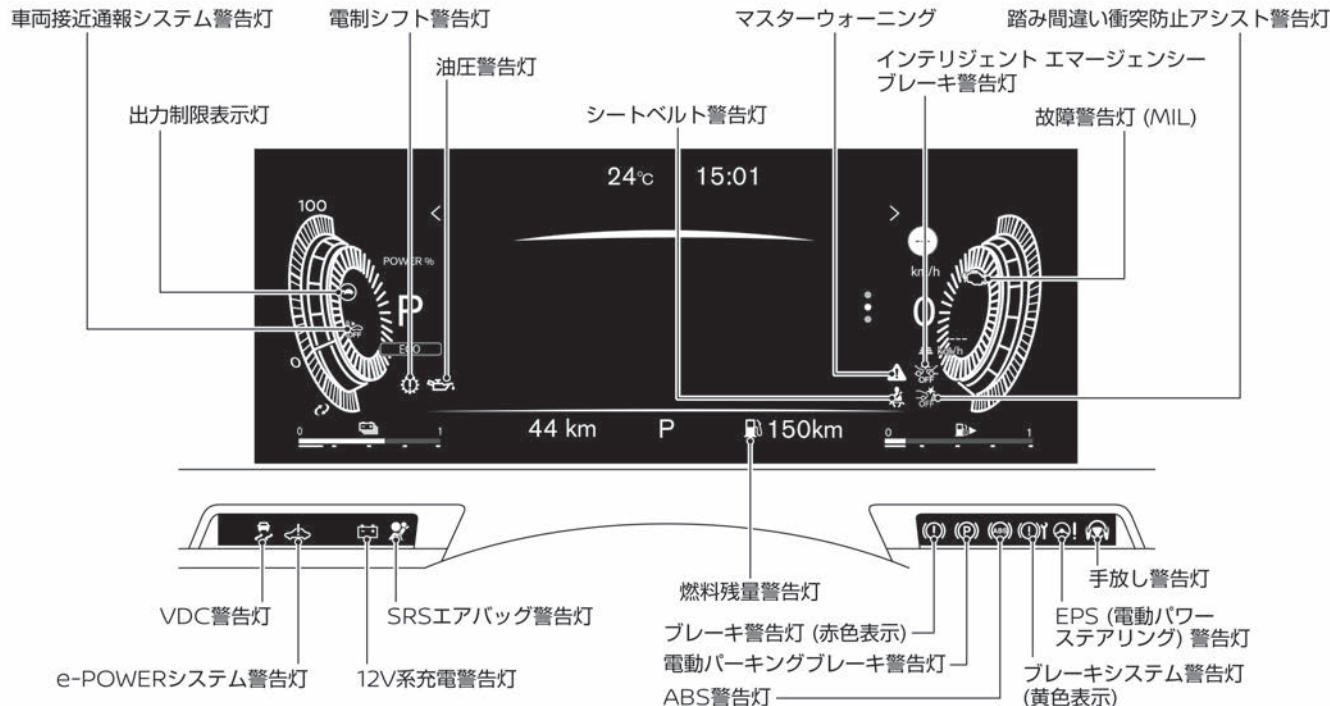
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜＞スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各警告灯については、（ P.329）をお読みください。

警告灯の表示位置 (メータータイプ^①エンハンス表示)

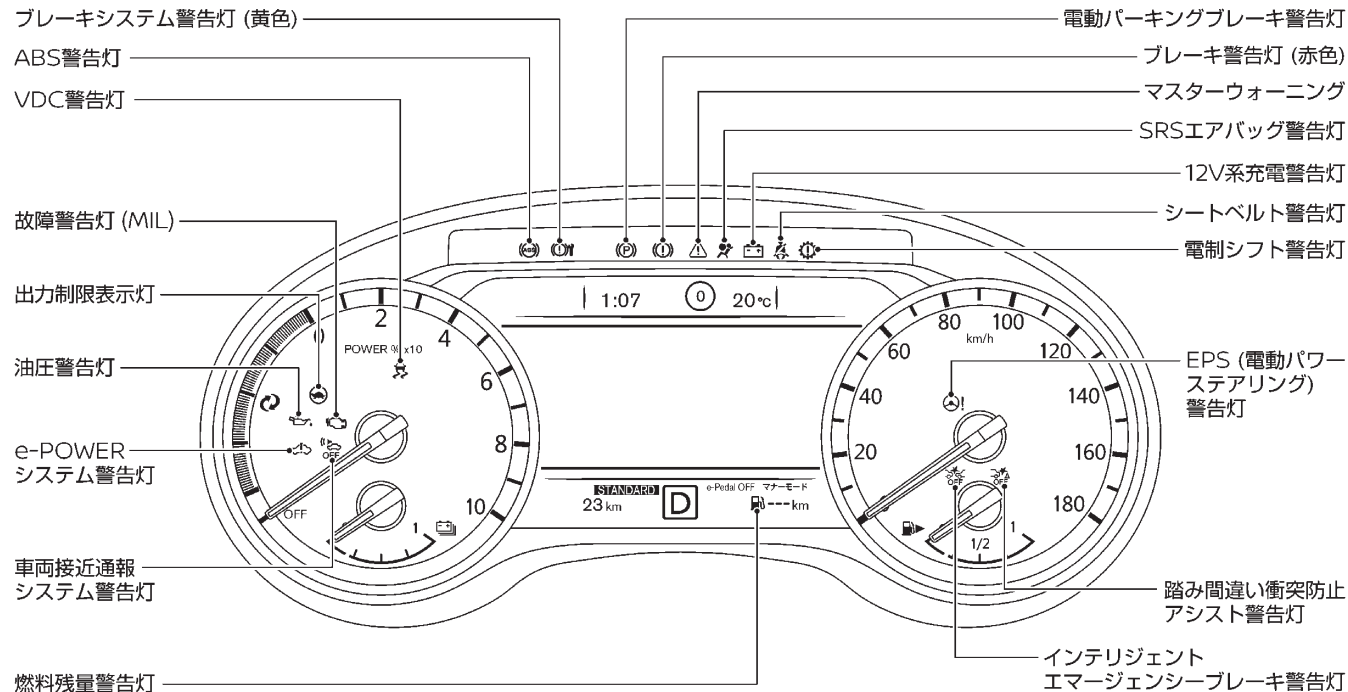
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜＞スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各警告灯については、(➡P.329)をお読みください。

警告灯の表示位置（メータータイプ^⑧）

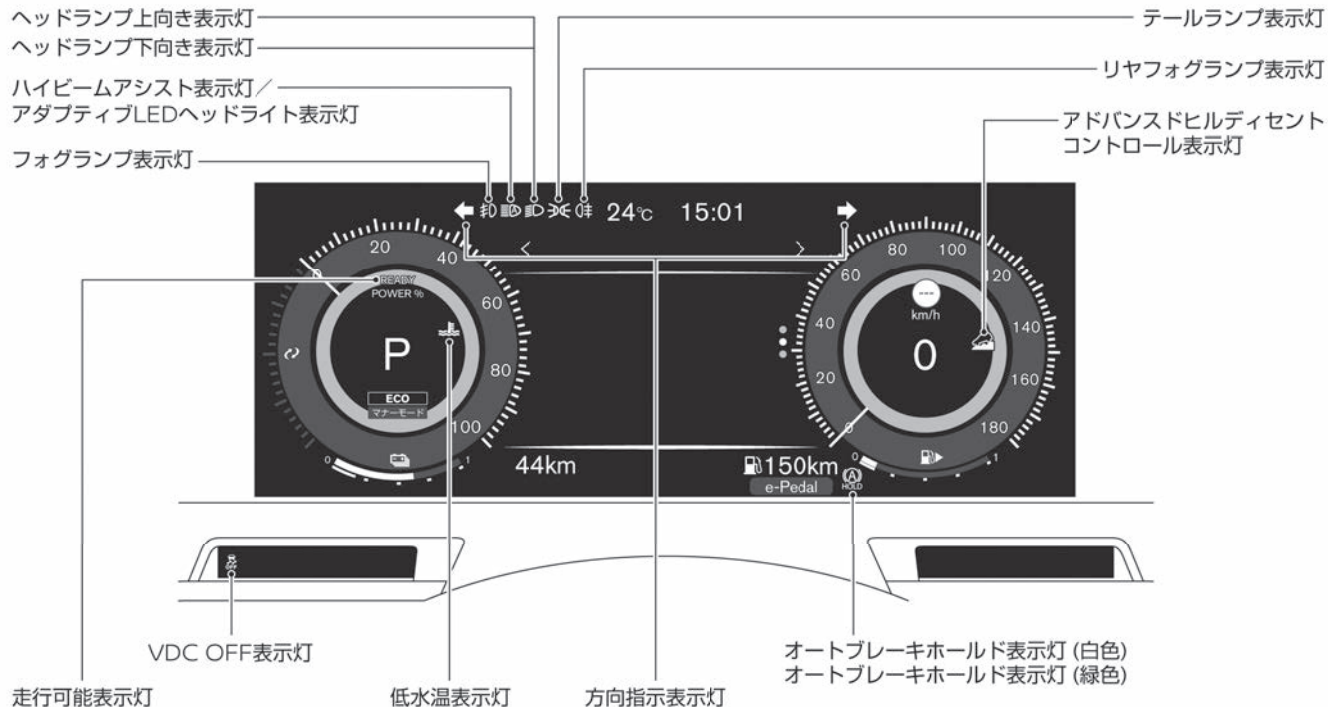
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



各警告灯については、（^⑧P.329）をお読みください。

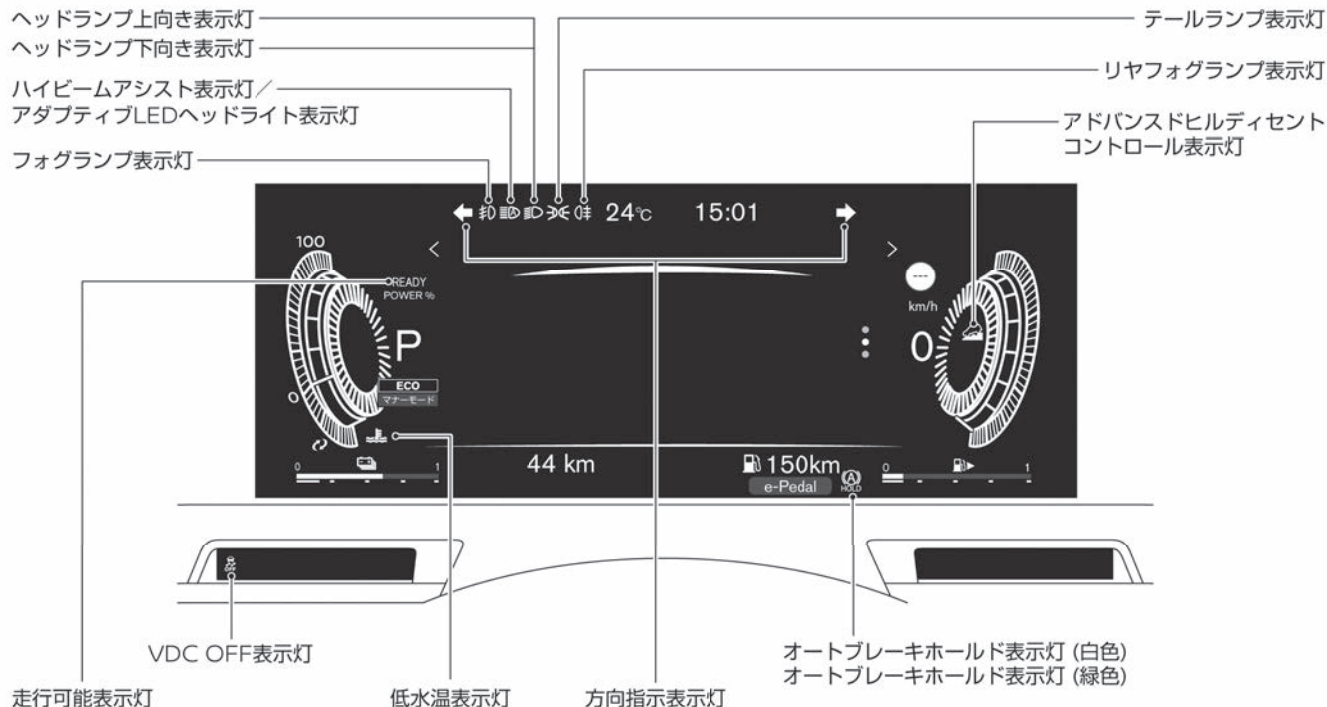
表示灯の表示位置（メータータイプ^①クラシック表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜＞スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



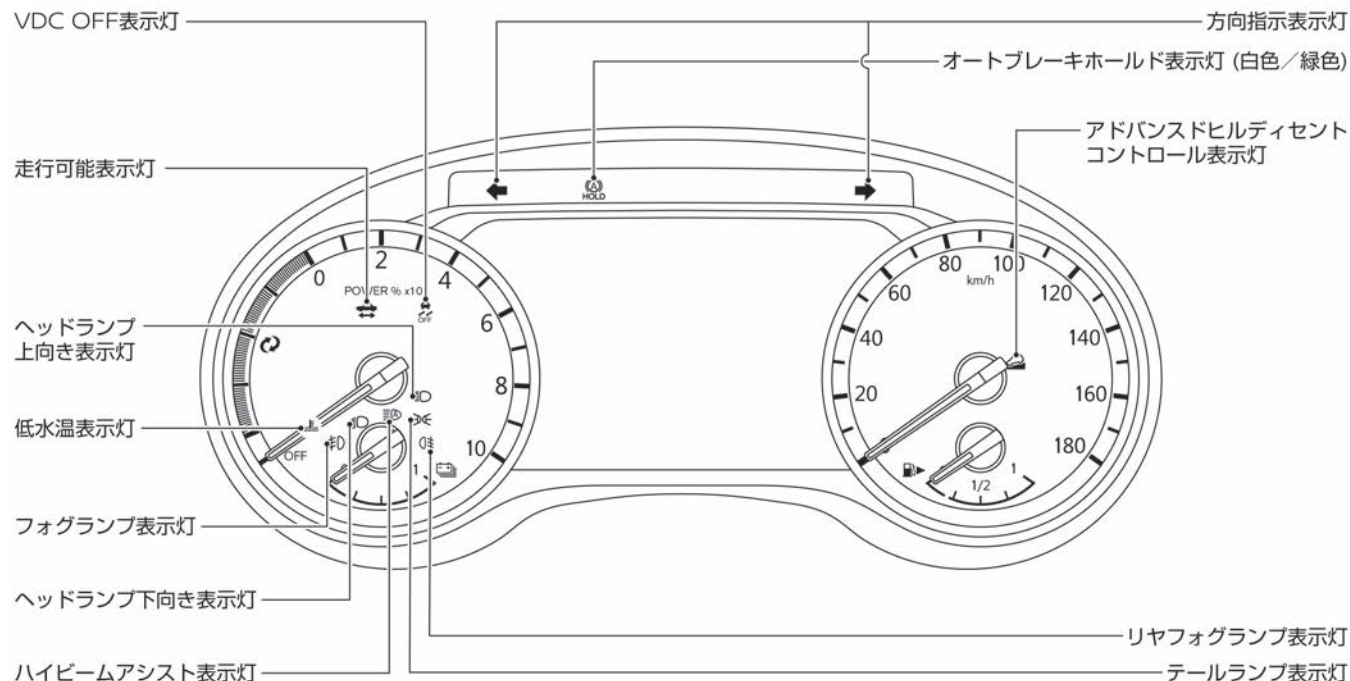
表示灯の表示位置（メータータイプ^①エンハンス表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜  ＞スイッチで「メーター画面モード変更」を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



表示灯の表示位置（メータータイプ®）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。



表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、次の説明をお読みください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● <非常点滅表示灯スイッチ>を押すと左右同時に点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。 ➡ <u>方向指示器の使いかた (P.183)</u>
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➡ <u>ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.182)</u>
	ヘッドランプ下向き表示灯	● ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。	➡ <u>ライトスイッチの使いかた (P.177)</u>
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➡ <u>ライトスイッチの使いかた (P.177)</u>
	フォグランプ表示灯	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➡ <u>フォグランプの使いかた★ (P.184)</u>
	リヤフォグランプ表示灯	● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。	➡ <u>リヤフォグランプの使いかた★ (P.184)</u>
	VDC OFF表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。	➡ <u>VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.199)</u>

警告灯・表示灯

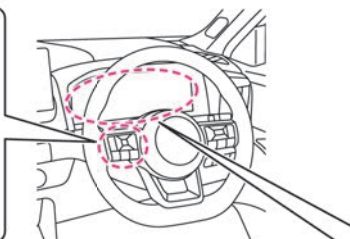
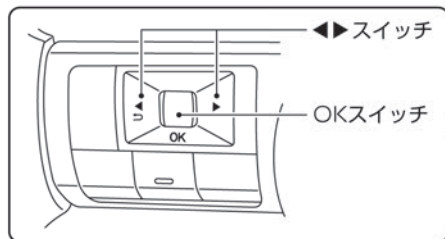
表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
 ハイビームアシスト付車	ハイビームアシスト表示灯	● ハイビームアシストをONにすると点灯します。	② <u>ハイビームアシスト★ (P.179)</u>
 アダプティブLEDヘッドライトシステム付車	アダプティブLEDヘッドライト表示灯	● アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。	② <u>アダプティブLEDヘッドライトシステム★ (P.180)</u>
 オートブレーキホールド表示灯 (白色)	オートブレーキホールド表示灯 (白色)	● オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。	② <u>オートブレーキホールド (P.171)</u>
 オートブレーキホールド表示灯 (緑色)	オートブレーキホールド表示灯 (緑色)	● オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。	② <u>オートブレーキホールド (P.171)</u>
 メータータイプ④  メータータイプ⑤	走行可能表示灯	● 走行できる状態になると点灯します。(走行中も点灯し続けます。) ● e-POWERシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。	● 点滅しているときは、点灯状態になるまで、ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押し続けてください。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	低水温表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。 ● エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると規定の水温以上に達して、消灯します。	 アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチ>を押し、作動が可能になると点灯します。	● <アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチ>を押したとき、表示灯が点滅している場合は作動しません。作動条件が満たされているか確認してください。 ➡ <u>アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★ (P.202)</u>

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチを押すと、ホーム、エコグループ、エネルギーモニター、ナビゲーション情報、オーディオ情報、走行支援グループ、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。車種またはソフトウェア自動更新★などにより表示できる項目が異なる場合があります。



- ・車種により表示できる項目が異なります。
- ・メータータイプ①のメーター表示はクラシック表示とエンハンス表示の2種類があります。イラストはクラシック表示になります。

ホーム ※1※2	エコグループ ※1※2	エネルギー モニター※1	ナビゲーション 情報※1※2	オーディオ 情報※1	走行支援 グループ※1※2	警告	設定 ※2
 ・ホーム ・表示なし	 ・車速 ・ドライブコンピュータ ・平均燃費 / エコインジケータ / エコペダルガイド ・2分間燃費	 ・エネルギーモニター	 ・ナビゲーション ・マップ表示 ・コンパス表示	 ・オーディオ	 ・運転支援 ・クルーズ (CRUISE) ・制限速度標識	 警告が発生している場合表示されます。	 ・VDC設定 ・運転支援 ・パーソナルディスプレイ ・ヘッドアップディスプレイ ・エコ時計 ・VDC設定 ・運転支援 ・パーソナルディスプレイ ・ヘッドアップディスプレイ ・エコ時計 ・車間設定 ・メンテナンス ・画面カスタマイズ ・単位 / 言語 ・工場出荷設定

※1 「メインメニュー選択」で選択した項目を表示します。 ※2 OKスイッチを回すと項目を選択します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

ホーム

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでホーム [] を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは ( P.64) をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ホーム	● 次の情報を表示します。 - ー オーディオ情報★ - ー ナビゲーションシステム情報★ - ー 車速★	● オーディオやナビゲーションシステムの使用状況によって、表示される項目は変わります。
-	表示なし	● アドバンスドドライブアシストディスプレイに何も表示されません。	-

エコグループ

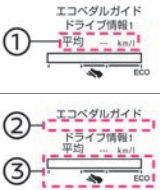
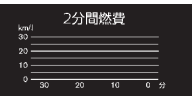
<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでエコグループ [] を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは ( P.64) をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

アドバンスドライバアシストディスプレイ

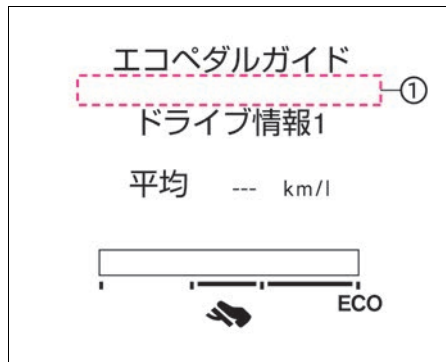
画面表示	項目	概要	詳細説明
	車速★	● 車速および平均車速を表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと〔ドライブ情報1〕、〔ドライブ情報2〕、〔給油後走行情報〕の順で画面が切り替わります。 - 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、〔はい〕を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 - 画面の切り替えかたについては（➡P.64）をお読みください。	-
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピュータを表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと〔ドライブ情報1〕、〔ドライブ情報2〕、〔給油後走行情報〕の順で画面が切り替わります。 - 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、〔はい〕を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 - 画面の切り替えかたについては（➡P.64）をお読みください。	● 〔ドライブコンピュータ〕の項目 — 平均燃費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間 ● ドライブコンピュータの平均燃費をリセットすると、燃費情報およびエコペダルガイドの平均燃費も連動してリセットされません。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
 ① エコペダルガイド ドライブ情報1 平均 km/l ECO ② エコペダルガイド ドライブ情報1 平均 km/l ECO ③ エコペダルガイド ドライブ情報1 平均 km/l ECO	平均燃費／エコインジケータ／エコペダルガイド	● ドライブモードがECOのときに表示します。 ● ①リセットしてからの平均燃費を表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと〔ドライブ情報1〕、〔ドライブ情報2〕、〔給油後走行情報〕の順で画面が切り替わります。表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、〔はい〕を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。画面の切り替えかたについては (➡ P.64) をお読みください。 ● ②アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [エコ] ⇒ [エコ情報設定] ⇒ [エコインジケータ] の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ● ③走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。	● 平均燃費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は [---] と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新されます。 ● 平均燃費をリセットすると、ドライブコンピュータの平均燃費も連動してリセットされます。 ● エコインジケータ、エコペダルガイドの詳細については、エコインジケータ (➡ P.68)、エコペダルガイド (➡ P.68) お読みください。
 2分間燃費 km/l 30 20 10 0 30 20 10 0 分	2分間燃費	● 2分ごとの平均燃費を、最大30分前まで棒グラフで表示します。 ● クラシック表示は20分、エンハンス表示は30分で表示されます。	-

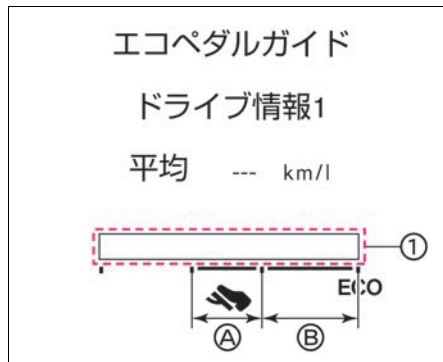
アドバンスドドライブアシストディスプレイ

■ エコインジケータ



- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブするほど、点灯範囲が大きくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [エコ] ⇒ [エコ情報設定] ⇒ [エコインジケータ] を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。設定の詳細については、(P.88) をお読みください。
- シフトポジションが **R** のときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド



- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域 **A** に入るように調整することで、燃費向上につながります。アクセルペダルの踏み加減を **B** の範囲内に調整することでさらなる燃費向上につながります。
- シフトポジションが **R** のときは、点灯しません。

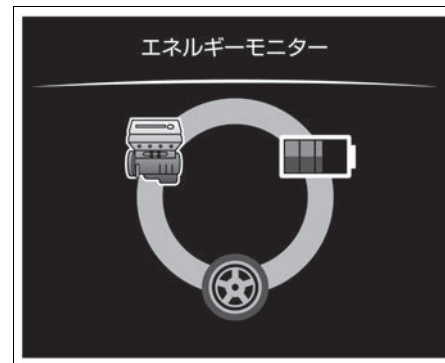
エネルギーモニター

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< >スイッチでエネルギーモニター [] を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは (P.64) をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

- エンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。
- 画面は実際の表示とは異なる場合があります。

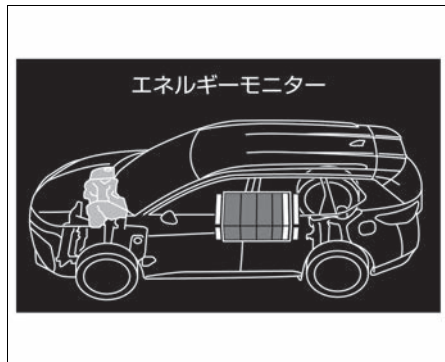
メータータイプ④クラシック表示



アドバンスドライバアシストディスプレイ

メータータイプ④エンハンス表示/メーター

タイプ④



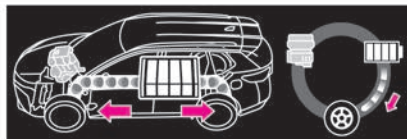
- エンジンからの矢印は、エンジンで発電したエネルギーが流れている状態を示すものです。
- e-POWERシステムでは、発電しなくてもエンジンが作動することがあります。発電していないときは矢印は表示されません。
- 制動灯が点灯しているときは、メーター内の制動灯★も点灯します。

アドバンスドライバシストディスプレイ

エネルギーモニター (2WD車)	
 ・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態	 ・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
 ・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方を行っている状態 ・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態 ・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態	 ・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態
 ・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態	 ・エネルギーの流れがない状態
エンジン表示色	
 灰色：エンジンが燃料を消費していない状態 橙色：エンジンが燃料を消費している状態	 青色：バッテリー残量が通常状態 ・バッテリー残量を表示します。 黄色：バッテリー残量が低下状態 ・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

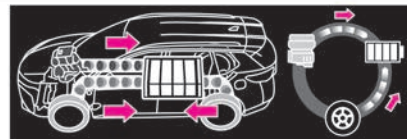
エネルギーモニター (4WD車)



- ・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態
- ・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



- ・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
- ・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



- ・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態
- ・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



- ・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方を行っている状態
- ・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
- ・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態
- ・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



- ・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態



- ・エネルギーの流れがない状態

エンジン表示色



- 灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
- 橙色：エンジンが燃料を消費している状態

バッテリー表示色



- 青色：バッテリー残量が通常状態
- ・バッテリー残量を表示します。
- 黄色：バッテリー残量が低下状態
- ・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

ナビゲーション情報★

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチでナビゲーション情報 [▲] を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（🔍 P.64）をお読みください。

アドバンスドライバアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ナビゲーション	● ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折までの距離などを表示します。 ● 目的地を設定していないときは、表示されません。 ● エンハンス表示のときは、表示されません。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	マップ表示	● ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、ルートガイドを表示します。	
	コンパス表示	● コンパス（車両の進行方位）を表示します。	-

オーディオ情報★

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチで車両情報 [曲] を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➡P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [設定] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オーディオ	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

走行支援グループ（表示項目）

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで走行支援グループ [Ⓔ] を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➡P.64）をお読みください。

アドバンスドライバアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [メインメニュー選択] で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	運転支援	● 運転支援システムのON・OFF状態を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➡P.82）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➡ <u>インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.227)</u> — ➡ <u>踏み間違い衝突防止アシスト (P.232)</u> — ➡ <u>BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.239)</u> — ➡ <u>LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.247)</u> — ➡ <u>インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.251)</u>
	クルーズ (CRUISE) ★	● プロパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの<プロパイロットスイッチ>を押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にプロパイロット画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、ハンドル支援のON・OFFを設定できます。	● プロパイロットについては、（➡P.211）をお読みください。 ● 制動灯が点灯しているときは、メーター内の制動灯も点灯します。 ● <ハンドル支援スイッチ>でもハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。 ➡ <u>プロパイロット★ (P.211)</u>

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
	制限速度標識	● 最高速度標識の検知状態を表示します。	● 最高速度標識検知については、(➡ P.259)をお読みください。

警告

警告について

- 異常を検知するとマスターウォーニング [⚠] が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
警告を一時的に消すときは、<OK>スイッチを押します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合は、<パワースイッチ>がONのときにステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで、警告 [⚠] を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

警告メッセージの表示画面については、(➡ P.338)をお読みください。

ステアリングスイッチの使いかたは(➡ P.64)をお読みください。

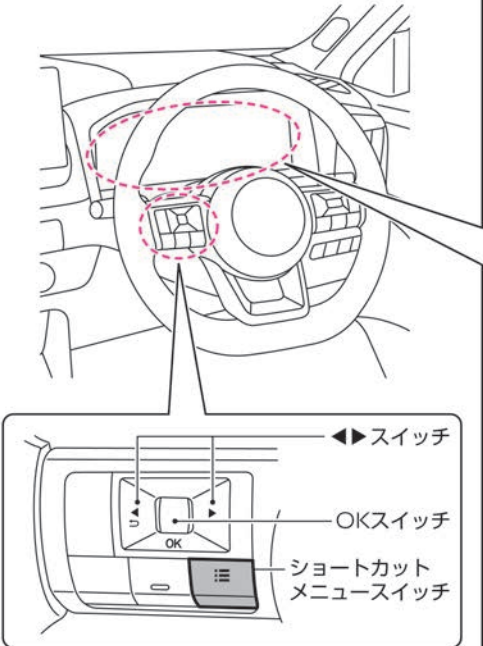
アドバンスドライバアシストディスプレイ

アドバンスドライバアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）

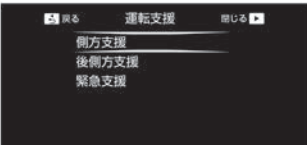
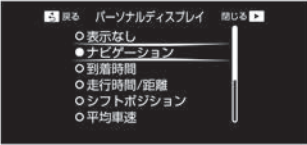
<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ≡ >スイッチを押すと、よく使用する設定項目画面をすばやく表示することができます。メーター画面モード変更★、オーディオ★、運転支援、パーソナルディスプレイ★のいずれかの表示項目を選択できます。

画面の切り替えかた（ショートカットメニュー）

メーターの見た



・車種により表示できる項目が異なります。

メーター画面 モード変更		クラシック表示 エンハンス表示
オーディオ		AM FM 交通情報 TV1 TV2 USB1 USB2 iPod1 iPod2 Apps Bluetoothオーディオ Apple CarPlay Android Auto
運転支援		側方支援 後側方支援 緊急支援
パーソナル ディスプレイ		表示なし ナビゲーション 到着時間 走行時間/距離 シフトポジション 平均車速 ストップランプ

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

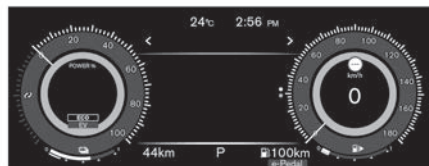
メーター画面モード変更★

- <パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<  >スイッチを押してから「メーター画面モード変更」を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。

ステアリングスイッチの使いかたは
( P.64) をお読みください。

クラシック表示

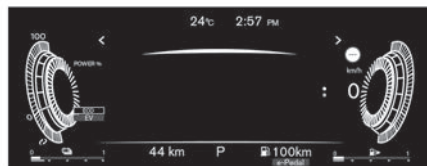
クラシック表示



- 左側にパワーメーター、右側にスピードメーター（速度計）が大きく表示される画面です。

エンハンス表示

エンハンス表示



- 左右のアナログメーター表示をデジタル表示化および移動して、中央のアドバンスドドライブアシストディスプレイを拡大した画面です。

オーディオ★

ステアリングスイッチの<  >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して [オーディオ] を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目1	詳細説明
AM	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。 機器接続状況により表示は異なります。
FM	
交通情報	
TV1	
TV2	
iPod1	
iPod2	
USB1	
USB2	
Bluetoothオーディオ	
Apps	
HDMI	
Apple CarPlay	
Android Auto	

運転支援

ステアリングスイッチの<  >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して〔運転支援〕を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目1	項目2	詳細説明
側方支援	車線逸脱警報	● 設定の詳細については、設定 [] （各種設定画面）の運転支援をお読みください。 ➡ <u>運転支援 (P.79)</u>
	車線逸脱防止支援	
	ステア振動	
後側方支援★	後側方車両検知警報	
	後側方衝突防止支援	
緊急支援	前方衝突防止支援	
	踏み間違い衝突防止支援	

パーソナルディスプレイ★

ステアリングスイッチの<  >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して「パーソナルディスプレイ」を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目1	項目2	詳細説明
表示なし		● 設定の詳細については、設定 []（各種設定画面）のパーソナルディスプレイをお読みください。 ➡ <u>パーソナルディスプレイ★ (P.86)</u>
ナビゲーション		
到着時間		
	ドライブ情報1	
走行時間/距離	ドライブ情報2	
	給油後走行情報	
シフトポジション		
	ドライブ情報1	
平均車速	ドライブ情報2	
	給油後走行情報	
ストップランプ		

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。

ステアリングスイッチの使いかたは (🔍 P.64) をお読みください。

設定 (各種設定画面)

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで設定 [⚙] を表示し、<OK>スイッチを押して設定画面を表示させ<OK>スイッチを回して選択します。<OK>スイッチを押して決定することができます。

🔍 設定例1 (メインメニュー選択) (P.96)

🔍 設定例2 (タイヤ) (P.96)

■ VDC設定

項目	機能
システム	● VDC機能のON・OFFを設定します。 🔍 <u>VDCのON・OFFのしかた (P.200)</u>

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ 運転支援

項目1	項目2	機能
ハンドル支援★		● ハンドル支援のON・OFFを設定します。 ➡ <u>ハンドル支援について (P.225)</u>
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントL（車線逸脱防止支援システム）(P.247)</u>
	車線逸脱防止支援	● インテリジェントL（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントL（車線逸脱防止支援システム）(P.247)</u>
	ステア振動	● ハンドルの振動を、[大]、[中]、[小] から選択します。
後側方支援★	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.239)</u>
	後側方衝突防止支援	● インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.239)</u>
緊急支援	前方衝突防止支援	● インテリジェントエマージェンシーブレーキ、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>インテリジェントエマージェンシーブレーキ (P.227)</u> ➡ <u>インテリジェントFCW（前方衝突予測警報） (P.251)</u>
	踏み間違い衝突防止支援	● 踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを設定します。 ➡ <u>踏み間違い衝突防止アシスト (P.232)</u>

アドバンスドライバアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
標識検知支援	制限速度標識	● 最高速度標識検知のON・OFFを設定します。
	道路標識	● 進入禁止標識検知／一時停止標識検知のON・OFFを設定します。 ➡ <u>標識検知機能 (P.259)</u>
ルート減速支援★		● プロパイロット（ナビリンク機能付）のルート減速支援機能のON・OFFを設定します。 ➡ <u>プロパイロット★ (P.211)</u>
制限速度支援★		● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させる機能のON（[手動] / [自動]）・OFFを設定します。 ➡ <u>制限速度支援機能★について (P.223)</u>
制限速度支援設定★		● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。 ー -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。 ➡ <u>制限速度支援機能★について (P.223)</u> 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき (➡ P.223)

アドバンスドライバアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
駐車支援	移動物検知	● 移動物 検知のON・OFFを設定します。 移動物 検知機能について (➡ P.268)
	ソナー自動表示	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示のON・OFFを設定します。 ➡ <u>ソナー表示 (P.97)</u>
	前方ソナー	● フロントソナーのON・OFFを設定します。 ➡ <u>ソナー表示 (P.97)</u>
	後方ソナー	● リヤソナーのON・OFFを設定します。 ➡ <u>ソナー表示 (P.97)</u>
	ソナー検知距離	● ソナー検知距離を [遠]、[中]、[近] から選択します。障害物までの最長距離が110% ([遠])、100% ([中])、90% ([近]) で変更できます。 [中] を選択したときの障害物までの最長距離は、(➡ P.269) をご参照ください。 ➡ <u>ソナー表示 (P.97)</u>
	ソナー音量	● ボリューム (警告音 (ブザー)) を、[大]、[中]、[小] から選択します。 ➡ <u>ソナー表示 (P.97)</u>
後退時車両検知警報★		● RCTA (後退時車両検知警報) のON・OFFを設定します。 ➡ <u>RCTA (後退時車両検知警報) ★ (P.254)</u>
ふらつき警報		● インテリジェント DA (ふらつき警報) のON・OFFを設定します。 ➡ <u>インテリジェント DA (ふらつき警報) (P.257)</u>
走行時間	---分 / ---分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。 <OK>スイッチを回すと分が切り替わり、<OK>スイッチを押すと決定します。 — 最大360分まで設定できます — 設定時間は30分単位で切り替わります (<◀>スイッチを押すと設定前の画面に戻ります)
	リセット	● [はい] を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。

アドバンスドライバアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
シャシー制御	トレースコントロール	● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON・OFFを設定します。 ➡ <u>インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について (P.201)</u>

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ パーソナルディスプレイ★

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
表示なし		● パーソナルディスプレイに何も表示されません。
ナビゲーション		● パーソナルディスプレイにナビゲーションを表示します。
到着時間		● パーソナルディスプレイに到着時間を表示します。
走行時間/距離	ドライブ情報1	● パーソナルディスプレイに走行時間/距離を表示します。
	ドライブ情報2	
	給油後走行情報	
シフトポジション		● パーソナルディスプレイにシフトポジションを表示します。
平均車速	ドライブ情報1	● パーソナルディスプレイに平均車速を表示します。
	ドライブ情報2	
	給油後走行情報	
ストップランプ		● パーソナルディスプレイに車両を表示します。制動灯が点灯しているときは、パーソナルディスプレイ内に表示される車両の制動灯も点灯します。

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ ヘッドアップディスプレイ★

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
明るさ		● ヘッドアップディスプレイ表示の明るさを設定します。 ー -10～10までの範囲内で明るさを設定できます ➡ <u>ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.104)</u>
高さ		● ヘッドアップディスプレイ表示の高さを設定します。 ー -10～10までの範囲内で高さを設定できます ➡ <u>ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.104)</u>
傾き		● ヘッドアップディスプレイ表示の傾きを設定します。 ー -10～10までの範囲内で傾きを設定できます ➡ <u>ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.104)</u>
表示項目	ナビゲーション	● ナビゲーションシステム表示のON・OFFを設定できます。
	運転支援	● 運転支援表示のON・OFFを設定できます。
	制限速度標識	● 最高速度標識表示のON・OFFを設定できます。
	オーディオ	● オーディオ表示のON・OFFを設定できます。
	TEL/SMS	● ハンズフリーフォン／ショートメッセージ (SMS) 表示のON・OFFを設定できます。
リセット		● ヘッドアップディスプレイの設定を初期設定に戻します。 ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されるので、[はい] を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (➡ P.104)

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ エコ

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
エコモード設定	クルーズコントロール	● ECOモード使用時に燃費を優先する機能に設定するかしないかを、項目ごとにON・OFF設定することができます。 ➡ <u>ドライブモードについて (P.191)</u>
	空調	
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。エコインジケータ (➡ P.68)
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 ➡ <u>エコドライブレポートについて (P.98)</u>
燃費履歴リセット		● 燃費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、[はい] を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。

■ 時計

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
表示		● 時計表示のON・OFFを設定します。 ➡ <u>時計</u> (P.49)
時計設定モード★	自動	● GPSからの情報を使って自動で時刻を設定します。
	手動	● [時計設定] から手動で時刻を設定します。
時間表示		● [OK] スイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。
時計設定		● 時計を設定します。 ① <OK>スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② <OK>スイッチを回して「時」を調整します。 ③ <OK>スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ <OK>スイッチを回して「分」を調整します。 ⑤ <OK>スイッチを押すと時刻が設定されます。 (<◀>スイッチを押すと前の調整画面に戻ります)

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ 車両設定

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
パワーバックドア★		● リモコンオートバックドアのON・OFFを設定します。 ➡ <u>リモコンオートバックドア★ (P.116)</u>
ライト/照明	ウエルカムヘッドライト	● ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。 ➡ <u>ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付） (P.183)</u>
	自動室内灯	● 室内灯の自動点灯機能のON・OFFを設定します。 ➡ <u>室内灯 (P.290)</u>
	室内間接照明	● 前席ドアの内側、ならびにセレクトレバー周辺にある、間接照明の明るさを5段階+OFFで設定できます。
	オートライト感度調整	● インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、[より早い]、[早い]、[標準]、[遅い] から選択します。 ➡ <u>AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.177)</u>
ロック	keyエントリー	● ドアハンドルのセンサーでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。 ➡ <u>インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた (P.112)</u>
ワイパー	リバース連動	● リバース連動機能のON・OFFを設定します。 ➡ <u>リヤワイパーの使いかた (P.186)</u>
運転姿勢★	降車時シート退避	● シートの退避・復帰機能のON・OFFを設定します。 - パーソナルドライビングポジションメモリーシステムの設定のしかた ➡ <u>パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★の設定のしかた (P.126)</u>
後席リマインダー		● 後席リマインダーのON・OFFを設定します。 ➡ <u>後席リマインダー (P.123)</u>

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
ドアミラー	自動開閉OFF	● ドアロック連動格納機能がOFFになります。 ➡ <u>ドアロック連動格納機能について (P.143)</u>
	パワーON連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、＜パワースイッチ＞をONにしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➡ <u>ドアロック連動格納機能について (P.143)</u>
	ドアアンロック連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、リモコンキーまたは、ドアハンドルセンサーで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。また、＜パワースイッチ＞をONにしたときもドアミラーが開きます。 ➡ <u>ドアロック連動格納機能について (P.143)</u>

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

項目	機能
オイル交換時期	● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離を表示します。 － エンジンオイル交換までの距離は、走行状況に応じてシステムにより自動で設定されます。手動で設定することはできません。 － エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。[はい] を選択し、再度<OK>スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。  アドバイス ● エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。
オイル/オイルフィルター	● [メンテナンス] では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。(定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください) － <OK>スイッチを回すと距離が切り替わり、<OK>スイッチを押すと決定します。(< ◀ > スwitchを押すと設定前の画面に戻ります) － 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 － 設定距離は500km単位で切り替わります。 － [リセット] を選択して<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。[はい] を選択し、再度<OK>スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 － 停止する場合は、距離表示を [---] に合わせ<OK>スイッチを押し決定します。
タイヤ	
ユーザー	

アドバンスドライバシストディスプレイ

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

項目1	項目2	項目3	機能
メインメニュー選択			● 車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。  <u>車両情報画面 (P.65)</u>
ナビゲーション設定★	自動割込み設定		● 走行中、次の右左折점에接近したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能のON・OFFを設定します。
クルーズ画面切替★			● クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。 ONにするとプロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。  <u>プロパイロット★ (P.211)</u>
メーター演出	アニメーション		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、e-POWERシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
	サウンド		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、e-POWERシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。

アドバンスドライバアシストディスプレイ

項目1	項目2	項目3	機能
メーターの見た オペレーションガイ ダンス	ライト		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ワイパー	フロント	● ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
		リア	● ワイパースイッチを動かしてリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ハイビームアシスト★		● ライトスイッチが<AUTO>の位置以外でハイビームアシストのスイッチを押したときに、ガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 🔄 <u>ハイビームアシスト★ (P.179)</u>
	アダプティブヘッドライト★		● ライトスイッチが<AUTO>の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 アダプティブLEDヘッドライトシステム (🔄 P.126)
	シートメモリー★		● パーソナルドライビングポジションメモリーシステムのスイッチを押したときに、作動状態をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 パーソナルドライビングポジションメモリーシステム (🔄 P.126)
	インテリジェントクルーズ★		● クルーズコントロールの制御を開始したときに、ガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 🔄 <u>クルーズコントロール★ (P.195)</u>

アドバンスドライバアシストディスプレイ

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

項目	機能
距離/燃費	● 距離と燃費の表示単位をkm, km/lまたはkm, l/100kmに切り替えます。
温度	● 温度の単位を℃ または°F に切り替えます。
言語	● 表示言語を日本語またはEnglishに切り替えます。

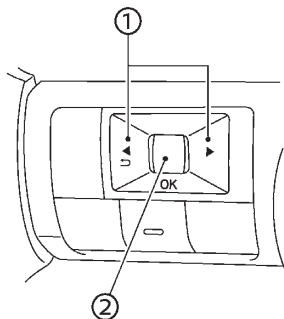
■ 工場出荷設定

走行中は操作できません。

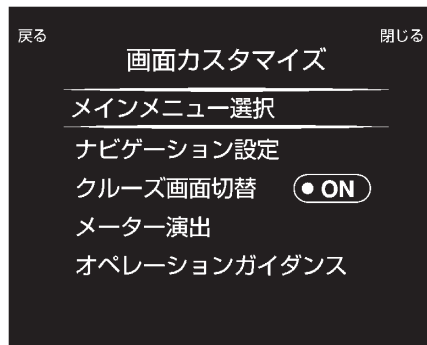
機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● 【はい】 を選択すると、各種設定が初期化されます。

アドバンスドライバアシストディスプレイ

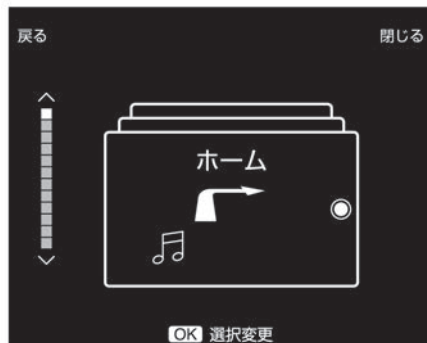
設定例1 (メインメニュー選択)



1. ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチ①を数回押し、設定 [⚙️] 画面を表示して<OK>スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ①を回して、[画面カスタマイズ] を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。



3. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、[メインメニュー選択] を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。

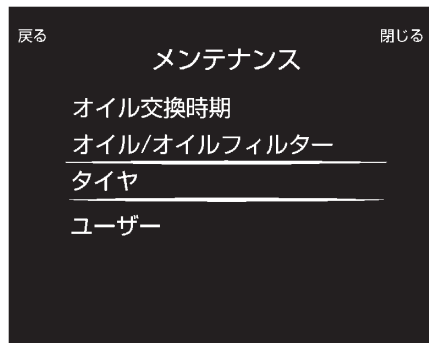


4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して選択し、<OK>スイッチ②を押

して選択すると表示できるようになります。

設定例2 (タイヤ)

1. ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチ①を数回押し、設定 [⚙️] 画面を表示して<OK>スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、[メンテナンス] を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。



3. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、[タイヤ] を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。
4. [タイヤ] 画面でステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を押して、次回メンテナンスを行う距離の

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

設定画面に進みます。（[---km/---km] の右側の表示）

※左側の表示は、設定後に走行した距離を表示します。

- リセットを選択してステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を押すと走行した距離をリセットできます。（[---km/---km] の左側の表示）
- 5. 次回メンテナンスを行う距離を設定できます。（手順4 [---km/---km] 右側の表示）
ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して距離を切り替え、<OK>スイッチ②を押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。
※機能を停止する場合は、距離表示を[---]に合わせ<OK>スイッチ②を押して決定します。

その他の表示機能

ソナー表示



- 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄	ピピピピピ・・・
赤	ビー

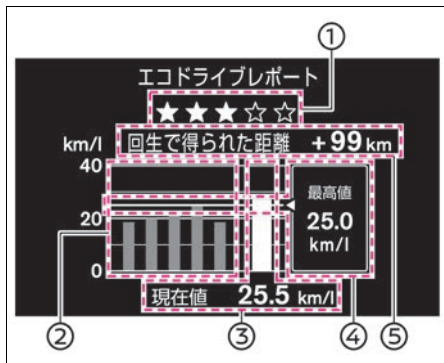
- 次の場合にソナー機能が作動します。
 - ー シフトポジションを**R**にしたとき
 - ー シフトポジションが**D**または**B**で障害物を検知したとき（約10km/h以下）
- ソナー表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチ、<◀▶>スイッチを

押す、または<OK>スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。

- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
 - ー シフトポジションを**N**、**P**にしたとき
 - ー 約12km/h以上で走行したとき
- ソナーについては、（➡P.269）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [運転支援] ⇒ [駐車支援] を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
設定の詳細については、運転支援（➡P.82）をお読みください。
- ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。
➡運転支援 (P.79)
- ソナーのお手入れについては、（➡P.390）をお読みください。
- 障害物の検知は前方4個、後方4個のソナーセンサーを使用して検知をします。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

エコドライブレポートについて



＜パワースイッチ＞をOFFにすると、エコドライブレポート画面を表示します。今回の評価などの結果表示は、約10分以上走行したときに表示します。

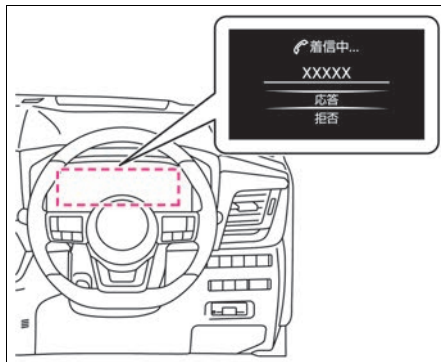
- ① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。
- ② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。
- ③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。
- ④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。
- ⑤ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

- 走行したルートのおよそ下り坂だった場合、回生量が大きく、回生で得ら

れた距離⑤が走行した距離以上になることがあります。

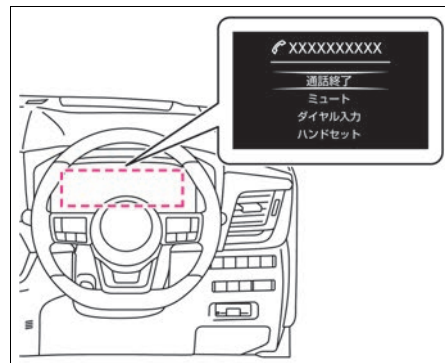
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [エコ] ⇒ [エコ情報設定] ⇒ [エコドライブレポート] を選択すると、エコドライブレポートの表示・非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、(📖 P.88) をお読みください。

着信表示★



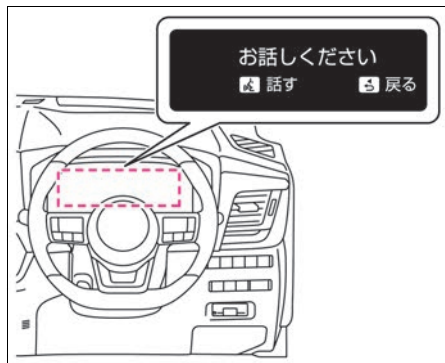
- 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

通話表示★



- 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

音声操作表示★

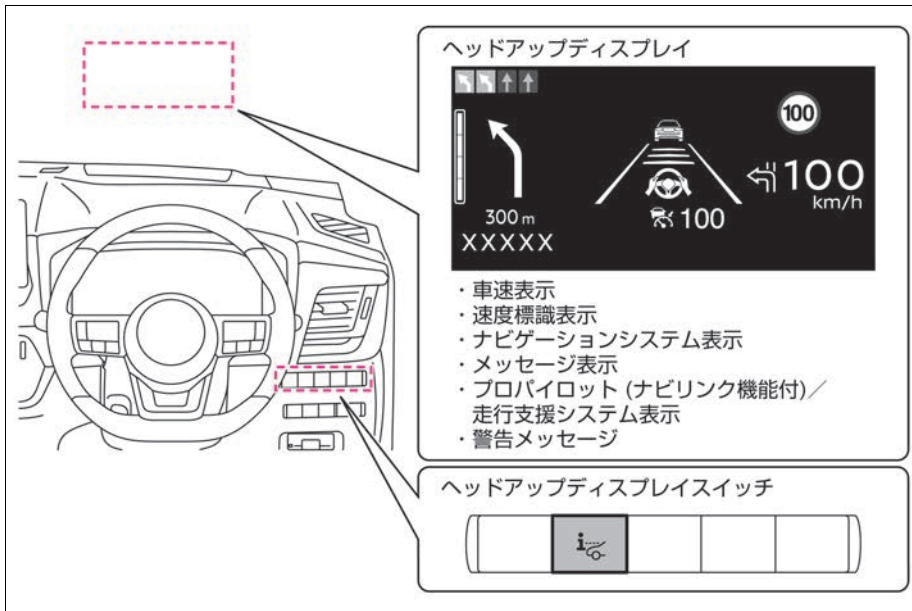


- ナビゲーションシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。音声操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

ヘッドアップディスプレイ★

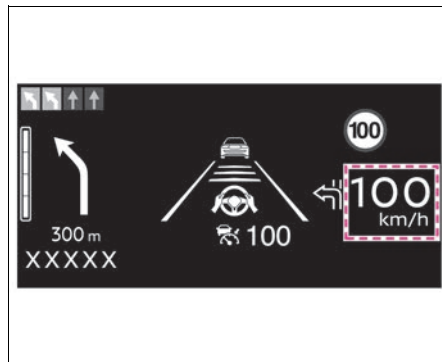
ヘッドアップディスプレイとは

ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。



走行支援機能画面

車速表示



- 走行速度を表示します。
- <パワースイッチ>をONにしたときは、車速のみが表示されます。

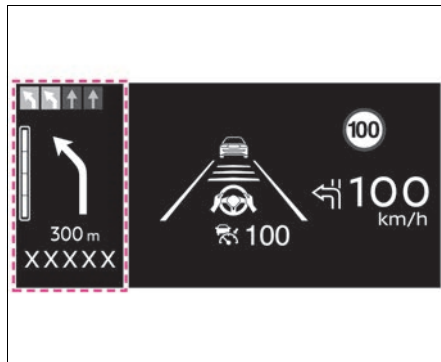
ヘッドアップディスプレイ★

速度標識表示



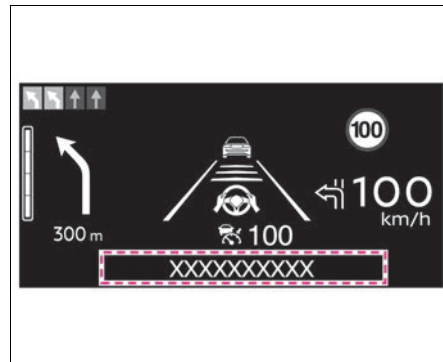
- 検知した速度標識を表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
設定 [⚙️] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [表示項目] ⇒ [制限速度標識]
詳しくは、ヘッドアップディスプレイ★
(📖P.100) をお読みください。

ナビゲーションシステム表示



- ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折地点までの距離などを表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
設定 [⚙️] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [表示項目] ⇒ [ナビゲーション]
詳しくは、ヘッドアップディスプレイ★
(📖P.100) をお読みください。

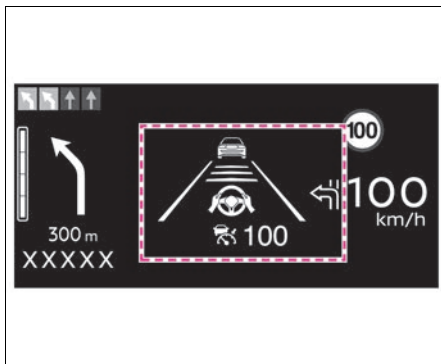
メッセージ表示



- プロパイロット操作ガイドなどが表示されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
設定 [⚙️] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [表示項目] ⇒ [運転支援]
詳しくは、ヘッドアップディスプレイ★
(📖P.100) をお読みください。

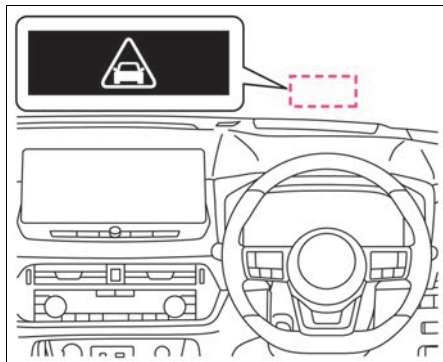
ヘッドアップディスプレイ★

プロパイロット／走行支援システム 表示



- プロパイロットの作動状態、先行車や車線の検知状態を表示します。
詳しくは、プロパイロットの説明をお読みください。
- ➡ プロパイロット★ (P.211)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
設定 [] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [表示項目] ⇒ [運転支援]
詳しくは、ヘッドアップディスプレイ★ (➡ P.100) をお読みください。

警告メッセージ



- 次のシステムが作動すると警告メッセージが表示されます。
詳しくは、各走行支援機能の説明をお読みください。
- ー ➡ プロパイロット★ (P.211)
- ー ➡ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.227)
- ー ➡ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.232)
- 警告メッセージの表示画面については、(➡ P.338) をお読みください。
- <ヘッドアップディスプレイスイッチ> がOFFの場合でも、警告メッセージは表示されます。

各種設定画面

ヘッドアップディスプレイの注意事項

⚠ 注意

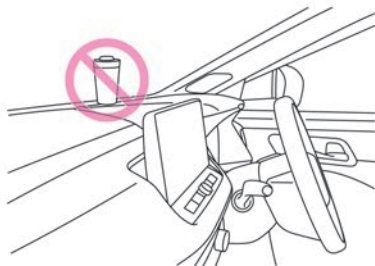
- ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。
運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けない。
車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。
走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

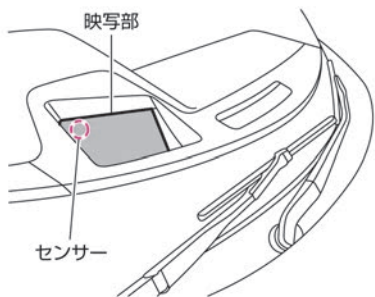
- ヘッドアップディスプレイの映写部に物を置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示の妨げとなります。
- ヘッドアップディスプレイ部には手を触れないでください。故障の原因となります。

ヘッドアップディスプレイ★

🚗 アドバイス



- ヘッドアップディスプレイ周辺には飲物を置かないでください。液体が映写部にかかると故障の原因になります。



- ヘッドアップディスプレイの映写部に強く触れたり、とがったものを押し付けたりすると故障の原因になります。

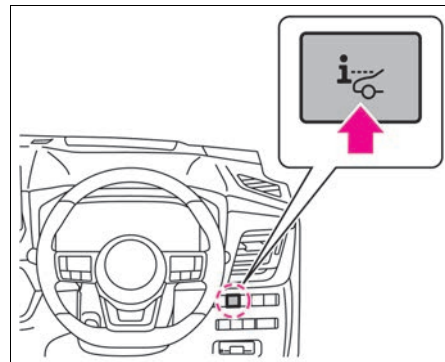
- ヘッドアップディスプレイには、映像の明るさをコントロールするためのセンサーが内蔵されています。センサーを物で塞いでしまうとディスプレイが暗くなってしまい、表示が見えにくくなります。
- ヘッドアップディスプレイのセンサーに強い光を当てないでください。故障の原因になります。
- ヘッドアップディスプレイの画像がゆがんで見える場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドアップディスプレイの画像を鮮明に表示するため、専用のフロントガラスを使用しています。フロントガラスの交換が必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。

- 偏光サングラスを着用すると表示が見えにくくなることがあります。
- 気象条件（雨、雪、太陽の光、温度など）によっては、表示が見えにくくなることがあります。
- 塵、ほこりなどの堆積物はほこり取りワイパーなどで除去してください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。変色やしみができ、ヘッドアップディスプレイが正しく表示されなくなるおそれがあります。
- 飲物をこぼしたときは、クリーンクロスや眼鏡クリーナーなどの乾いた柔らかい布で軽くふいてください。ふいても除去しきれない場合は、水に浸した柔らかい布を固くしぼってからふき取り、そのあ

とに乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。

- 乾いた布やティッシュ、ウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がつく原因になります。

ON・OFFのしかた



- <パワースイッチ>がONのとき、<ヘッドアップディスプレイスイッチ>を押すと表示します。
- <ヘッドアップディスプレイスイッチ>を押すごとに、ON・OFFを切り替えることができます。
- <ヘッドアップディスプレイスイッチ>のON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- 本製品には、以下のソフトウェアが含まれています。

ヘッドアップディスプレイ★

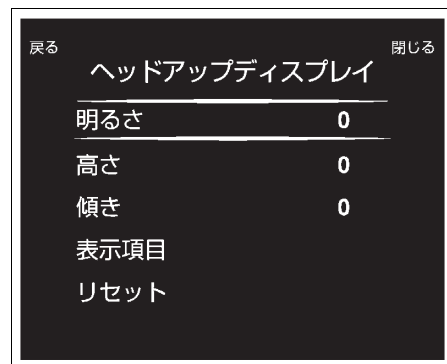
- ①パナソニック株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア
- ②パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
- ③オープンソースソフトウェア

上記③に分類されるソフトウェアには、以下のライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。

また、下記webサイトにもライセンス情報が記載されています。

<http://car.panasonic.jp/oss/i02l1n39>

ヘッドアップディスプレイの調整のしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップ

ディスプレイの表示の明るさ、高さ、傾きを調整することができます。

設定 [] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [明るさ] / [高さ] / [傾き]

詳しくは、 ヘッドアップディスプレイ★ (P.87)をお読みください。

- ヘッドアップディスプレイは走行環境に合わせて、フロントガラスに投影する画像の明るさを自動で調整します。

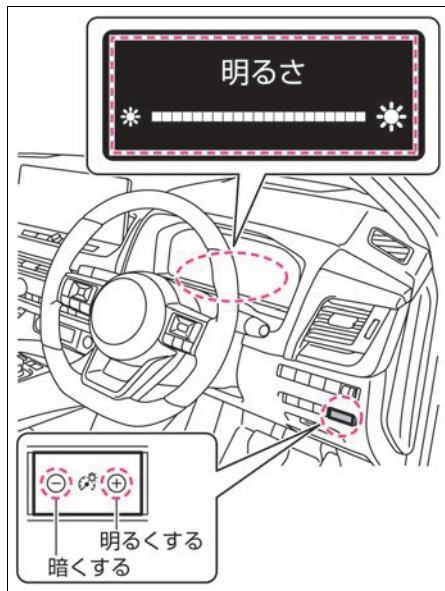
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの設定を初期化できます。
設定 [] ⇒ [ヘッドアップディスプレイ] ⇒ [リセット]

詳しくは、 ヘッドアップディスプレイ★ (P.87)をお読みください。

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさ調節のしかた



＜パワースイッチ＞がONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライバアシストディスプレイに表示されます。
- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。

MEMO



メーカーの見かた

キー

インテリジェントキー	P.108
インテリジェントキーに関する注意事項	P.109

ドアの施錠と解錠

ドア	P.112
バックドア	P.114
リモコンオートバックドア★	P.116
後席リマインダー	P.123

シート・ハンドルの調節

フロントシート	P.125
セカンドシート（2列車）	P.130
セカンドシート（3列車）	P.133
サードシート★	P.136
ハンドル	P.138

ミラーの調節

インテリジェントルームミラー	P.139
ドアミラー	P.142

窓ガラスの開閉

パワーウインドー	P.144
パノラミックガラスルーフ★	P.145

燃料補給口の開閉

燃料補給口	P.149
-------	-------

エアコンの操作

オートエアコン（独立温度調整機能（運転席、助手席））★	P.151
オートエアコン（独立温度調整機能（運転席、助手席、後席））★	P.155
吹き出し口	P.159
エアコンを使うときに注意すること	P.160

オーディオ★

オーディオの使いかた	P.162
ステアリングスイッチ	P.162

インテリジェントキー

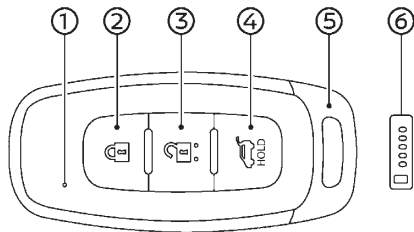
キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠およびe-POWERシステムの始動操作ができます。

ドアの施錠・解錠のしかたは

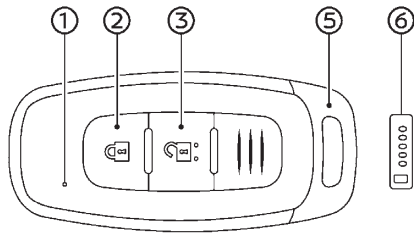
(② P.112)、始動操作は (⑤ P.166) をお読みください。

各部名称と機能

リモコンオートバックドア付車



リモコンオートバックドア無車



- ① **作動表示灯**
いずれかのスイッチを押すと、赤く点滅します。

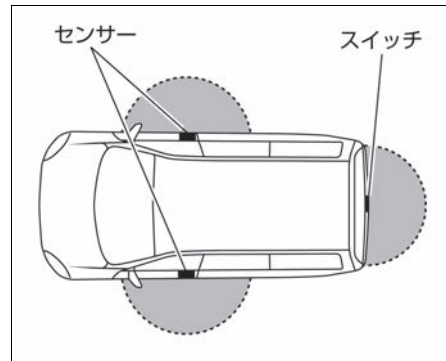
- ② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。
- ③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。
- ④ **リモコンオートバックドア開閉スイッチ★**
スイッチを約1秒以上押すと、バックドアが自動で開閉します。
- ⑤ **内蔵キー（メカニカルキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

- ⑥ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

- キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。
- キーは2個ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やe-POWERシステムの始動（＜パワースイッチ＞ON）を行うことができます。

- ⑤ **内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた** (P.323)

ドアの施錠・解錠の作動範囲



作動範囲は各ドアハンドルのセンサーおよびスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押してドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。
- ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。

インテリジェントキーに関する機能について

■ アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライバアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [車両設定] ⇒ [ライト/照明] ⇒ [ウェルカムヘッドライト] を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。設定の詳細については、車両設定（➡P.90）または（➡P.64）をお読みください。

■ キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約20秒間点灯します。
詳しくは、室内灯（➡P.290）をお読みください。

■ オートロック機能

- <ドア解錠スイッチ>を押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度<ドア解錠スイッチ>を押すと、その時点から約30秒後に施錠されます）

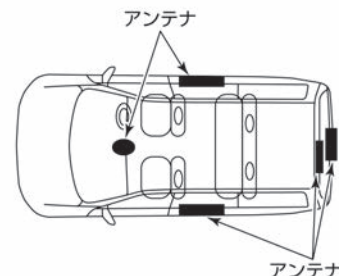
■ スリープモード

ドアハンドルのセンサーおよびスイッチでの施錠・解錠、およびe-POWERシステムの始動を一時的に停止するモードです。

- インテリジェントキーの<ドア施錠スイッチ>を押したまま<ドア解錠スイッチ>を2回押します。
一定時間、キーの作動表示灯が点灯します。作動表示灯が点灯中にドア施錠スイッチを押すと、作動表示灯が2回点滅しスリープモードになります。
- スリープモードを解除するときは、キーのいずれかのスイッチを押してください。

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告



- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。

⚠ 警告

ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。

キーの電波が医療電気機器の作動に影響を与える場合があります。

- 航空機内ではキーのスイッチを押さない。

万が一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。

- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。

- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠されて、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。

- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起るため、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。

ー 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき

ー インテリジェントキーをワイヤレス充電器★の充電エリア内に置いたとき

ー 無線機や携帯電話などの無線通信機器と一緒に携帯しているとき

ー キーが金属製の物に接したり、覆われていたりしているとき

ー 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき

ー キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき

ー コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）

ー 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき

ー 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）

- 手袋などを着用したままドアハンドルのセンサーに触れても反応しないことがあります。その場合は手袋を外してから再度センサーに触れてください。

- キーが施錠・解錠の作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などで多量の水がドアハンドルにかかるとドアが施錠・解錠、またはブザーが鳴ることがあります。その際は、次の操作を行ってください。

ー キーを車両から2m以上離す

ー スリープモード機能を行う

➡ インテリジェントキーに関する機能について（P.109）

- センサーが反応し辛い場合は、手のひらでセンサーに触れてください。

- センサーに雪や泥などが付着すると反応が悪くなりますので、センサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてください。

アドバイス

- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。

- 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）

- 日本国内のみで使用する

- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

➡ インテリジェントキーの電池交換 (P.382)

- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しなかったりすることがあります。

- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。

- 長時間高温になる場所に置かない

- 分解しない

- 無理に曲げたり、落したり、強い衝撃を与えたりしない

- 水に濡らさない

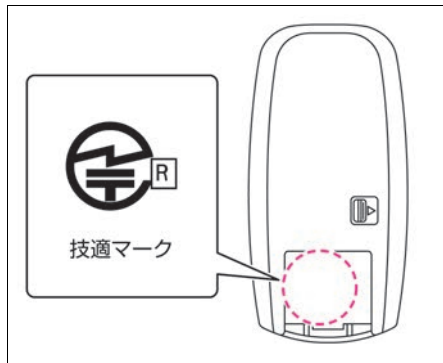
- 超音波洗浄器などにかけない

- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

- テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

- 車両盗難防止のために、インテリジェントキーは車両から2m以上離して保管してください。

- インテリジェントキーの操作をしなくても、車両周辺にキーがあると電池の消耗が早くなります。電池の寿命を長くするためにも、車両周辺にキーを持ったまま長時間滞在しないことをおすすめします。



- キーの認証技術マークはキーの裏面で確認できます。

- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

➡ インテリジェントキーの電池交換 (P.382)

- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。

➡ ドアが開かないときは (P.323)

- 次のような場合は、作動しません。
 - 走行可能表示灯が点灯している
 - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
 - 車から離れすぎているとき
 - キーの電池が切れているとき

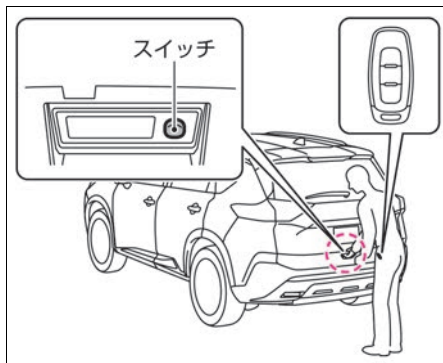
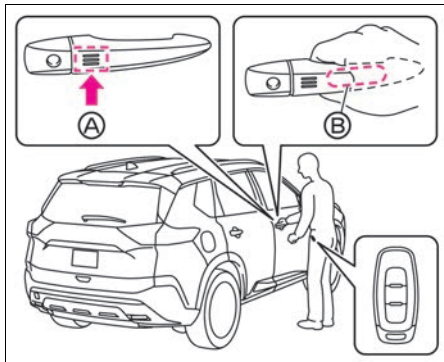
ドアの施錠と解錠

ドア

ドアハンドルのセンサーおよびスイッチやインテリジェントキーのスイッチで施錠・解錠します。

ドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた



- 施錠するときは、運転席または助手席ドアハンドルのセンサー④に触れるか、バックドアにあるスイッチを押します。
- 解錠するときは、バックドアにあるスイッチを押すか運転席または助手席ドアのドアハンドルを握ります。ドアハンドル裏側のタッチセンサー⑤に触れるようにドアハンドルを握ると解錠されます。（施錠した直後の約2秒間は解錠できません）
- ドアハンドルを握りながらドアハンドルのセンサー④に触れても施錠できない場合があります。
- 手袋などを着用したままドアハンドルを握ると、センサーが反応しないことがあります。
- 雨などでドアハンドルが濡れているときは、センサーの反応が遅い場合があります。施錠されるまでドアハンドルのセンサー④に触れ続けるか、一度ドアハンドルを握ってから再度センサー④に触れてください。

- キーが各センサーまたはスイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれていたことにより、施錠できないことがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [ロック] ⇒ [keyエントリー] を選択すると、ドアハンドルのセンサーでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。
- 設定の詳細については、車両設定 (🔑 P.90) または (🔑 P.64) をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
 - ー 走行可能表示灯が点灯しているとき
 - ー ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
 - ー キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
 - ー キーの電池が切れているとき
- センサーに触れたときまたはスイッチを押したときのブザーを停止することができます。

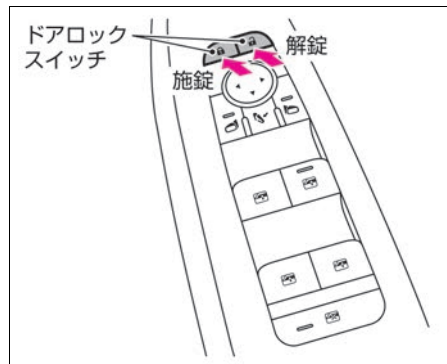
ドアの施錠と解錠

きます。日産販売会社にご相談ください。

■ オートロック機能

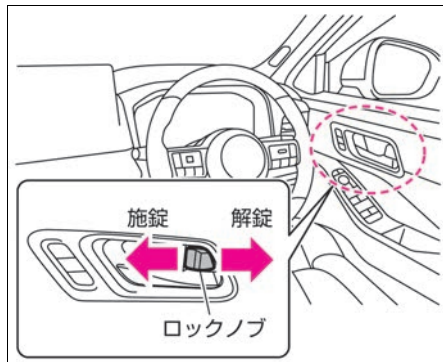
- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押して解錠したあと、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた



- <ドアロックスイッチ>を押すと、全ドアが施錠または解錠します。
- 施錠するときは、施錠側  の<ドアロックスイッチ>を押します。
- 解錠するときは、解錠側  の<ドアロックスイッチ>を押します。
- ドアが開いているときは、<ドアロックスイッチ>での施錠はできません。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた



- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。
- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。

キーを使用しない施錠のしかた

■ 前席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

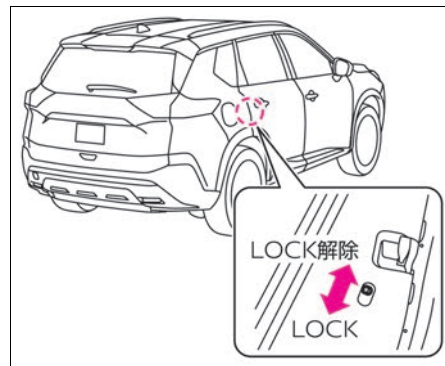
■ 後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

■ キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせし、全ドアを自動的に解錠します。

チャイルドセーフティドアロック



後席に乗せたお子さまなどが、誤って後席ドアを開けないようにロックできます。

■ ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開けるには

- チャイルドセーフティドアロックがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。

ドアの施錠と解錠

- 万一、車室内から開ける場合は、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にドアを確実に閉める。
走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

バックドア

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- バックドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。

後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- 走行する前にバックドアを確実に閉める。

走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。

急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行前にバックドアが確実に閉まっていることを確認する。

バックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。

手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。

- バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。

重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- バックドアを開けるときは、必ず全開にする。

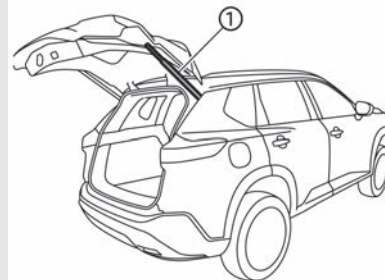
途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- 風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。

風にあおられ、急に閉まることがあります。

- バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。

バックドアガスステーについて



ドアの施錠と解錠

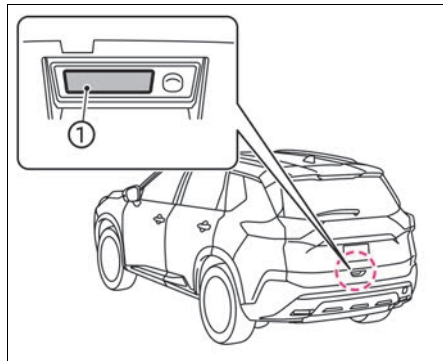
⚠ 注意

- バックドアのガスステー①は、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。
 - ー ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
 - ー ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をガスステーに付着させない
- ガスステーを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。
手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

バックドアの開けかた

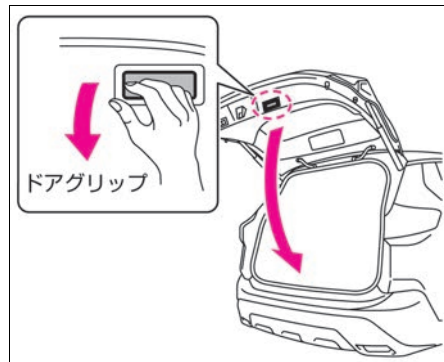
🚗 アドバイス

- <バックドアオープナースイッチ>①を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの日産販売会社にて、早めの点検を受けてください。



- 解錠されているときは、<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯して<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）
- リモコンオートバックドア付車は、リモコンオートバックドアの使いかた（📖 P.116）、バックドアオープナースイッチによる開けかた（📖 P.117）を合わせてお読みください。
- リモコンオートバックドア付車は、オート作動中に<バックドアオープナースイッチ>を押すと、バックドアが途中で止まります。

バックドアの閉めかた



- ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。
- リモコンオートバックドア★については、（📖 P.116）をお読みください。

🚗 アドバイス



ドアの施錠と解錠

アドバイス

- バックドアを開めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

リモコンオートバックドア★

リモコンオートバックドアは、バックドアを自動的に開閉することができます。

リモコンオートバックドアの機能について

リモコンオートバックドアは、次の方法でバックドアを開閉することができます。

運転席スイッチ：

- <運転席スイッチ>でバックドアの開閉ができます。(👉P.116)

リモコンオートバックドア開閉スイッチ：

- インテリジェントキーのスイッチでバックドアを開閉することができます。(👉P.121)

バックドアオープナースイッチ：

- <バックドアオープナースイッチ>でバックドアを開けることができます。(👉P.117)

ハンズフリーセンサー：

- リヤバンパー下側に足先を出し入れするだけで、スイッチなどを押さずにバックドアの開閉ができます。(👉P.117)

バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチ：

- <バックドアインナースイッチ>および<バックドアインナーロックスイッチ>でバックドアを開めることができます。(👉P.118)

また、リモコンオートバックドアには、次の機能があります。

挟み込み防止機構：

- オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っかかりを検知すると、安全のため反対方向に作動します。(👉P.118)

オートクローザー：

- バックドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。(👉P.119)

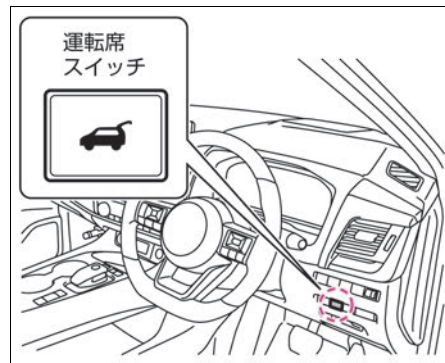
ガレージモード：

- オート作動時にバックドアを途中までしか開かなくすることができます。屋根の低い場所で開閉するときなどに、天井にバックドアがぶつからないように設定できます。(👉P.119)

オート作動でバックドアが閉まるときは、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクローザー機能で全閉します。(👉P.119)

オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。

運転席スイッチによる開けかた・閉めかた



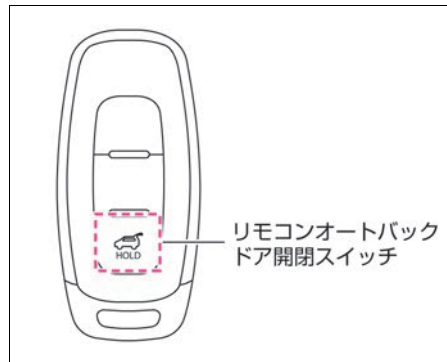
開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を確認してください。

- バックドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、バックドアが自動的に開きます。バックドアが施錠されているときは、バックドアが解錠され自動的に開きます。
- バックドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

シフトポジションが📐以外のときは<運転席スイッチ>による開操作は行えません。

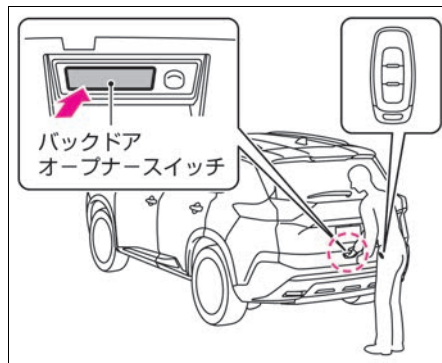
ドアの施錠と解錠

リモコンによる開けかた・閉めかた



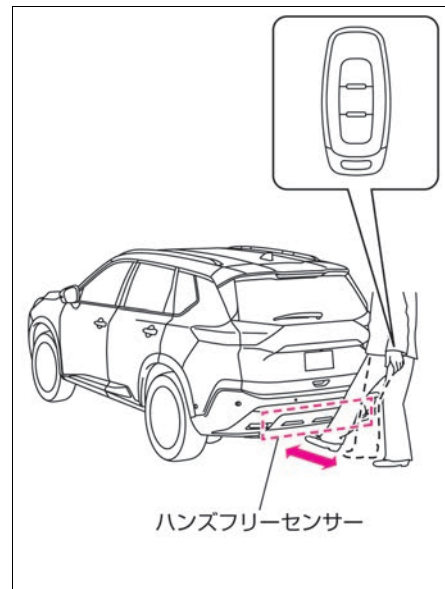
- 車に近づき、<リモコンオートバックドア開閉スイッチ>を約1秒以上押します。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒以上押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。
- バックドアが施錠されていても作動します。
- シフトポジションが**P**以外のとき、または走行可能表示灯が点灯しているときは<リモコンオートバックドア開閉スイッチ>による開操作は行えません。

バックドアオープナースイッチによる開けかた



- バックドアが施錠時にインテリジェントキーを携帯し、<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- バックドアが施錠されていないときは、キーを携帯していなくても<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- オート開作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全閉して停止します。
- シフトポジションが**P**以外のときは<バックドアオープナースイッチ>による開操作は行えません。

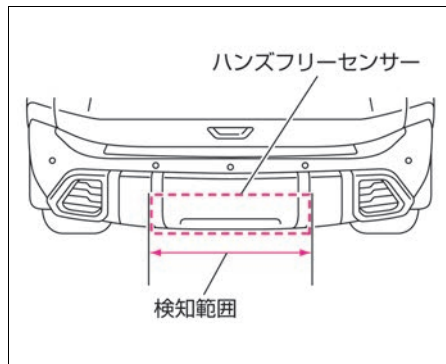
ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた



- リヤバンパー下部のセンサーによって足の動きを感じ、バックドアの開閉を自動的に行います。
- インテリジェントキーを携帯し、リヤバンパー下側に足先を入れてすぐに引くと自動的に開閉します。
(リヤバンパーの下に足を入れたままにしていると作動しません。)
- 施錠時は全ドアが同時に解錠し、バックドアが自動で全開します。

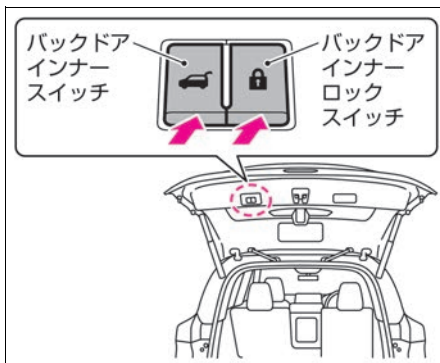
ドアの施錠と解錠

- オート作動中に、足先を入れて引く動作を行うと、その位置でオート作動を停止します。再度、足先を入れて引く動作を行うと、作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。
- ハンズフリーセンサー周辺が汚れている場合は作動しない場合があります。きれいな布で拭いてください。
- ➡ リモコンオートバックドアに関する注意事項 (P.121)
- センサー周辺に水をかけると誤作動するおそれがあります。



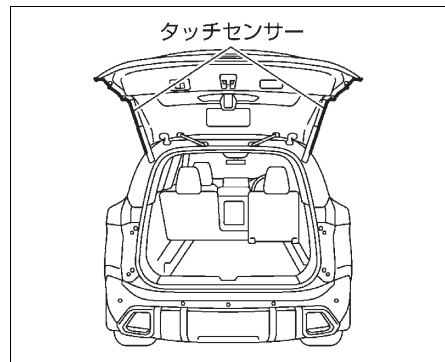
- ハンズフリーセンサーは、センサー中心から左右に約400mmずつの範囲を検知します。
- シフトポジションがP以外のときはハンズフリーセンサーによる開操作は行えません。

バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる開めかた



- バックドアが開いているとき、スイッチを押すと自動的に全閉します。
- オート閉作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全開して停止します。
- <バックドアインナーロックスイッチ>を押すと、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。全閉したあとブザーが1回鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅します。
- 次の場合は<バックドアインナーロックスイッチ>を押してもオート作動が開始されません。
 - ー バックドア以外のいずれかのドアが開いているとき
 - ー 走行可能表示灯が点灯しているとき

挟み込み防止機構について



- バックドアがオート作動中に、挟み込み、引っ掛かりなどを感知すると、反対方向に動きバックドアが停止します。
- バックドアがオート閉作動中にバックドア左右端部のタッチセンサーに触れると、反対方向に動きバックドアが停止します。

⚠ 注意

- 手などを挟まないように十分注意する。

挟まれる物や挟まれかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

🚗 アドバイス

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷つけないでください。

ドアの施錠と解錠

🚗 アドバイス

タッチセンサーが切断されると、オート（自動開閉）機能は作動しなくなります。

- タッチセンサーが切断されたときは、安全のためにすみやかに日産販売会社に連絡をしてください。
- 全開位置付近で挟み込みを感知すると、バックドアは反転せずに停止することがあります。
- 挟み込み防止機構が2回連続で作動すると、バックドアがその場で停止します。
- バックドアオート作動時に乗り降りなどで車両が揺れると、バックドアが反転することがあります。

オートクローガーについて

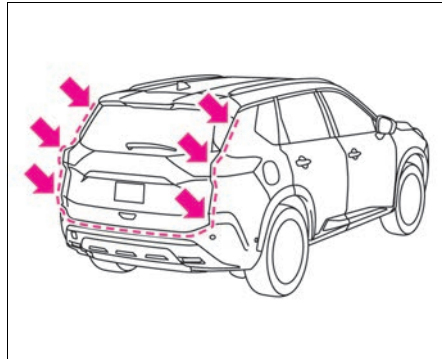
⚠ 注意

- バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握ったりしない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。

手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押して閉めてください。

🚗 アドバイス

- 次のような場合はオートクローガーが作動しません。アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されているときは、バックドアを一旦開けてから閉め直してください。
 - ー バックドアを開けて0.5秒以内に閉めたとき
 - ー <バックドアオープナースイッチ>を押したあと、バックドアを開けなかったとき
- 12Vバッテリーが弱っているとオートクローガーが作動しないことがあります。その場合は、手で強く閉めるかe-POWERシステムを始動してから閉め直してください。
- オートクローガーの故障によりバックドアが閉まりきらないときは、バックドアを一旦開け、再度手で閉めてください。
- 荷物の積みすぎなどによりオートクローガーで閉めきれない状態を繰り返すと、オートクローガーが作動しなくなります。そのときは日産販売会社で点検を受けてください。



オートクローガーは、自動的にバックドアを全閉させる機能です。

閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。

ガレージモードについて

バックドアを自動で開くとき、お好みの高さでバックドアを止める機能です。

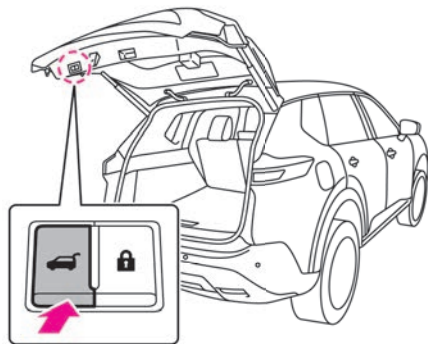
ガレージモードの設定のしかた

⚠ 注意

- バックドアの止まる位置を1/3以下の高さに設定しない。
バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

ドアの施錠と解錠

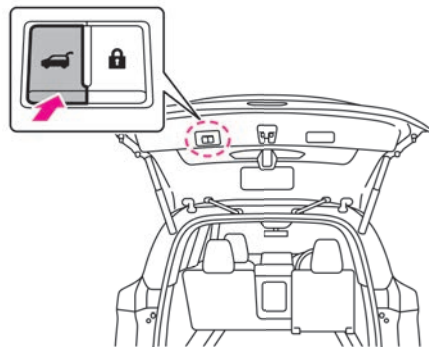
1. セレクトレバーにあるⓈスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。



2. 設定したい高さの位置までバックドアを開け、＜バックドアインナースイッチ＞を約3秒押し続けます。
3. ブザーが2回鳴れば設定完了です。オートで開くと、バックドアが設定した高さで停止します。

ガレージモードの解除のしかた

1. セレクトレバーにあるⓈスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。



2. 全開位置までバックドアを手動で開けて、＜バックドアインナースイッチ＞を約3秒押し続けます。
3. ブザーが2回鳴れば解除完了です。

正常に作動しないとき

バックドアがオートで動かないときは、次の内容を確認してください。

- 連続作動後に動かないときは、バックドアを約5分以上作動させずに放置した後、作動させます。
- バックドアが開いた状態のときは、一度手動で閉めてから作動させます。
- バックドアが全開位置から約150mm開いた位置にあると、いずれのスイッチを操作してもリモコンオートバックドアは作動しません。リモコンオートバックドアを作動させるには、手動でバックドアを押して閉めてください。
- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）と、バックドアがオート開

閉できないことがあります。その場合は、e-POWERシステムを始動してから作動させます。

- ヒューズが切れている場合はヒューズを交換します。（➡P.366）
- ヒューズが切れている場合はヒューズを交換します。日産販売会社にご相談ください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パワーバックドア」がONになっていることを確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、インテリジェントキーを携帯しているか確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、センサー位置および足の動かし方が正しいか確認してください。

➡ ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた (P.117)

- ハンズフリー機能を使うときは、リヤバンパーに足が接触しないようにしてください。センサーが正しく機能しない場合があります。
- ハンズフリー機能は電波塔付近などの電波環境下では正常に作動しないことがあります。その場合は＜バックドアオープナースイッチ＞、＜バックドアインナースイッチ＞または＜バックドアインナーロックスイッチ＞を押して開閉してください。
- ハンズフリーセンサーが作動しないときは、次の操作を確認します。
 - ー ＜バックドアオープナースイッチ＞が作動することを確認します。

ドアの施錠と解錠

- 再度ハンズフリーセンサーの作動を確認します。
 - 作動しないときは、一度12Vバッテリーのマイナス端子を外してリセットし、再度確認します。
- 上記操作を行っても作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [車両設定] ⇒ [ロック] ⇒ [keyエントリー] をOFFにすると、＜バックドアオープナースイッチ＞による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）
- ➡ バックドアオープナースイッチによる開けかた（P.117）
- ➡ ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた（P.117）

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- 確実に停車している状態で開閉操作をする。
- 開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。
バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷したりするおそれがあります。
- 車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。

- オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。

反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。

ハンズフリーセンサーについて

- 足以外でも、インテリジェントキーを携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、バックドアが開閉することがあるため注意する。

ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

- 洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パワーバックドア」をOFFにする。

ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

- バックドア付近にインテリジェントキーを携帯した人がいた場合、キーを携帯していない人がハンズフリーセンサーを使用して、バックドアを開閉できる場合があるため注意する。
思わぬケガをするおそれがあります。

- マフラー付近で足を出し入れする場合は、やけどしないように注意する。

マフラー付近は排気の熱で熱くなっている場合があります。

- 坂道や未舗装路、凍結した路面などで足を出し入れするときは注意する。

転んで思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- e-POWERシステム停止時に何回も作動させないでください。バッテリーが上がりe-POWERシステムの始動ができなくなります。
- オート作動中はe-POWERシステムを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。
- 車を発進させるときは、バックドアが全閉していることを確認してください。開作動中に発進すると、反転して開き出すおそれがあります。
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パワーバックドア」をOFFにしてください。
 - バックドアが故障したとき
 - バックドアを長時間開けたままにすると
 - 洗車や整備を行うとき
 - 手動で使用するとき

🚗 アドバイス

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷付けないようにしてください。センサーが切断されるとオートで作動しなくなります。また、オート閉作動中に切断されると、ドアが作動停止します。その後のオート閉作動もしません。

タッチセンサー



- 12Vバッテリーあがりなどでリモコンオートバックドアへの電源供給が断たれたときや、オート作動中に反転作動（挟み込み防止機構を含む）を連続して作動させたときは、正常に作動しなくなることがあります。その場合は、一旦手動でバックドアを完全に閉めてください。

ハンズフリーセンサーについて

- 次のような使用環境では、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。
 - ー 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
 - ー コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）

ー ゴム長靴など、電気を通しにくい物を履いているとき

- 次のような足の動かし方では、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。

ー 検知範囲内に足を入れたままにしているとき

ー 足を左右に動かしたとき

ー 足の動かし方が早すぎたとき

- ハンズフリーセンサー付近に、メッキ部品や金属部品などを貼ったり組み付けたりしないでください。ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 連続で開閉動作を行うと、安全装置が動き一定時間自動開閉できなくなることがあります。その場合は、少し時間をおいてから再度開閉してください。

- 閉作動時、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクローザー機能で全閉します。

➡ オートクローザーについて (P.119)

- オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パワーバックドア」がONのとき、バックドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはバックドアを閉めると鳴り止みます。）

リモコンオートバックドアのON・OFFのしかた

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [車両設定] ⇒ [パワーバックドア] を選択すると、自動開閉機能のON・OFFを切り替えることができます。

- オート作動は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定がONで、車両が停止しているときに作動させることができます。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パワーバックドア」をOFFにしてもオートクローザーは作動します。

- オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。

- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）ときは作動しません。

ドアの施錠と解錠

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定の作動

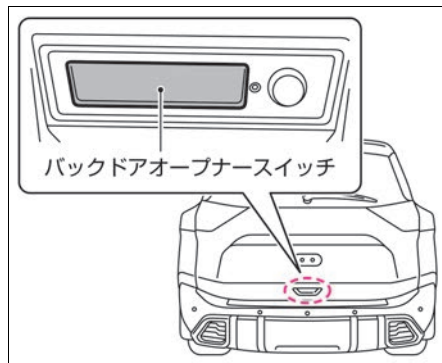
アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定	ON	OFF
運転席スイッチによる開閉操作	作動※ ¹	非作動
リモコンによる開閉操作	作動※ ^{1,2}	非作動
バックドアオープナースイッチによる開操作	作動※ ¹	非作動
ハンズフリーセンサーによる開閉操作	作動※ ¹	非作動
バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる閉操作	作動※ ³	非作動

※1：シフトポジションがP以外のときは開作動しません。

※2：走行可能表示灯が点灯しているときは作動しません。

※3：＜バックドアインナーロックスイッチ＞を使用すると、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。

手動でのバックドアの開けかた・閉めかた



- 解錠されているときは、＜バックドアオープナースイッチ＞を押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キー（インテリジェントキー）を携帯して＜バックドアオープナースイッチ＞を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）
- ＜バックドアオープナースイッチ＞を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- バックドアを引き下げ、半ドア状態で閉めると、自動的に全閉します。

後席リマインダー

後席リマインダーは、人や荷物を後席に置き去りにしないように、運転者が降車する前にお知らせする機能です。

後席リマインダーについて

- 走行前に後席ドアを開閉すると、システムがONになりアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。
➡ 後席リマインダー作動開始表示 (P.356)
- 後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションをPに切り替えたとき、ブザーとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。
➡ 後席リマインダー作動開始表示 (P.356)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [後席リマインダー] を選択すると、後席リマインダーのON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています。）設定の詳細については、車両設定 (➡ P.90) をお読みください。

知識

- 後席リマインダーは、後席ドアの開閉状況に応じ、後席に人や荷物を置き去りにする可能性がある場合にお知らせする機能なので、後席に人や荷物を乗せていなくても作動する場合があります。
- 次の例のような状況では、後席リマインダーが作動しません。

ドアの施錠と解錠



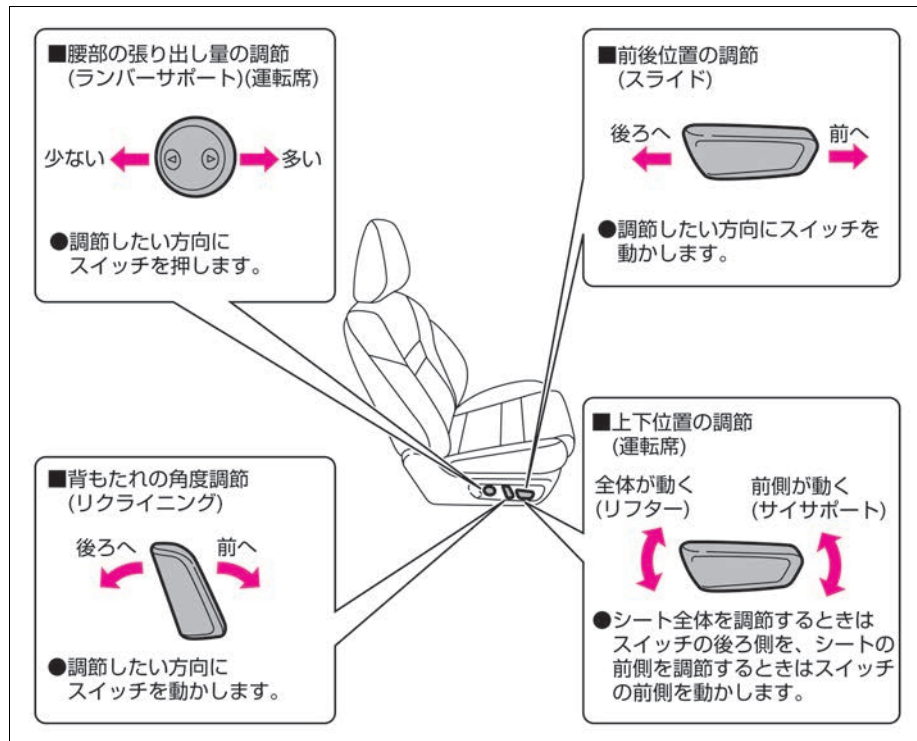
知識

- 前席ドアのみを開閉し、車内で後席に荷物などを置いた場合
- 走行後、シフトポジションを**P**に切り替えたあと、後席に人や荷物を乗せた場合
- 後席ドアの開閉後に車両が走行しなかった場合

シート・ハンドルの調節

フロントシート

シートの調節のしかた（パワーシート）



⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。
運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

シート・ハンドルの調節

アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用したりすると、シートベルトリマインダーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⑨ シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）（P.332）

- ランバーサポートのモーターは、ランバーサポートがスイッチを押した方向に完全に移動したあとでも、スイッチを押している間は作動し続けます。

パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★の設定のしかた

- パーソナルドライビングポジションメモリーシステムは、パーソナルアシスタント機能で認識されたユーザーの運転ポジションを復帰させることができ、次のような機能があります。
 - ー パーソナルアシスタント機能
 - ー シートの退避・復帰機能
 - ー パーソナルアシスタント連動メモリー機能（ナビゲーションシステム装着車）
 - ー スイッチメモリー機能
- すべての機能は、シフトポジションが **P** のときに作動します。
- e-POWERシステム始動時は作動が一時停止しますが、e-POWERシステム始動後に再開します。
- 次のいずれかの操作を行うと作動が停止します。

- ー シフトポジションを **P** 以外にしたとき（シートの復帰機能は停止しませんが、）
- ー シートの調節スイッチを操作したとき
- ー <セットスイッチ>、<メモリースイッチ>のいずれかを押したとき

■ パーソナルアシスタント機能

あらかじめユーザー情報を登録しておく、インテリジェントキーを携帯して車内へ乗り込んだとき、ユーザーを認識します。

- パーソナルアシスタント機能の設定方法
ユーザー情報の登録、設定については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

■ シートの退避・復帰機能

運転席シートが動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

<パワースイッチ>をOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

<パワースイッチ>をONにすると、運転席シートが選択しているユーザーの設定した位置に戻ります。

■ パーソナルアシスタント連動メモリー機能

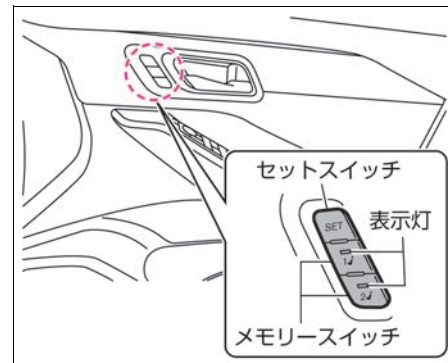
次の手順でパーソナルアシスタント機能に運転ポジション（シート位置、ドアミラー位置★）を記憶することができます。

1. あらかじめユーザー登録の完了しているインテリジェントキーを携帯し、<パワースイッチ>をONにします。
2. 運転席のシート位置、ドアミラー位置を調節し、<パワースイッチ>をOFFにします。

次回から、インテリジェントキーを携帯して<パワースイッチ>をONにすると、記憶した運転ポジション（シート位置、ドアミラー位置★）を呼び出します。

- パーソナルアシスタント機能には運転ポジション以外（ナビゲーションシステム★など）の設定も記憶されます。

■ スイッチメモリー機能



2名分の運転ポジション（シート位置、ドアミラー位置★）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた

- 正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
 ➡ シートの調節のしかた（パワーシート）（P.125）
 ➡ ドアミラーの角度調節のしかた（P.142）
- <セットスイッチ>を押し、押しから5秒以内に記憶させたい方の<メモリースイッチ>を押します。記憶が完了すると、ブザーが鳴るとともに記憶させたスイッチの表示灯が5秒間点灯します。

呼び出した

シフトポジションを**P**にします。

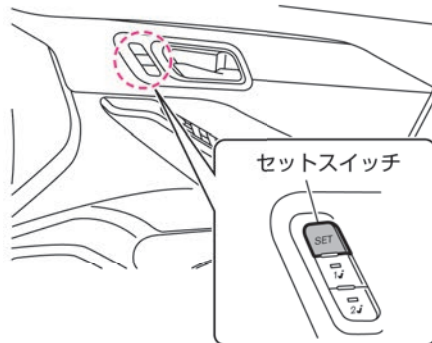
記憶を呼び出したい方の<メモリースイッチ>を押します。

呼び出し中はスイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。

- パーソナルアシスタント機能で記憶した運転ポジションとは別にスイッチに記憶されます。
- 運転ポジション以外の設定はスイッチに記憶しません。
- <セットスイッチ>を押したとき、記憶されていると約5秒間表示灯が点灯します。
- 状況により、<メモリースイッチ>を押してから呼び出しが開始するまで数秒かかることがあります。

■ 退避・復帰の設定の切り替えかた

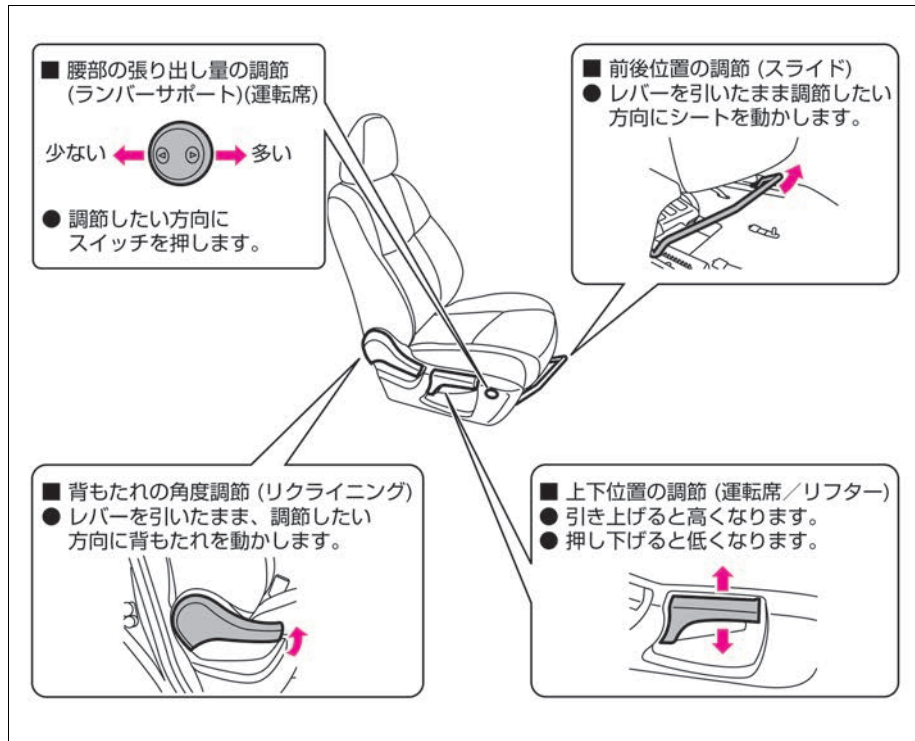
シートの退避・復帰機能の作動・非作動を切り替えることができます。



- <パワースイッチ>をOFFにします。
 - <セットスイッチ>を10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、シートの退避・復帰機能の設定を切り替えることができます。
 設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [運転姿勢] ⇒ [降車時シート退避]
 詳しくは、(➡ P.90) をお読みください。

シート・ハンドルの調節

シートの調節のしかた (マニュアルシート)



⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の上にクッションなどを入れない。
運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。
顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。

シート・ハンドルの調節

⚠ 注意

車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

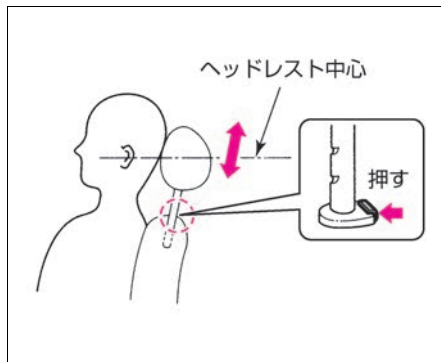
⚠ 警告

- ヘッドレストを外したまま走行しない。

万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。



ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするとき、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするとき、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

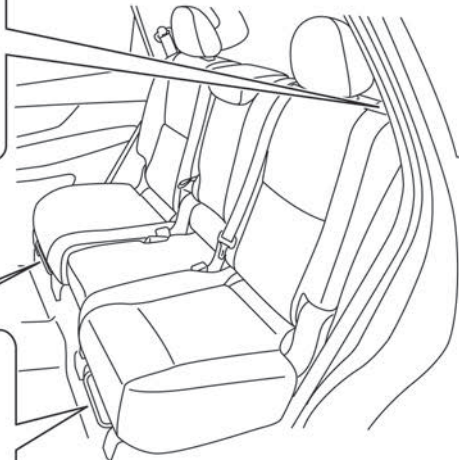
- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

シート・ハンドルの調節

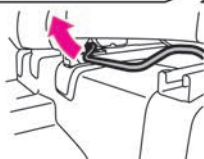
セカンドシート (2列車)

シートの調節のしかた

- 背もたれの角度調節 (リクライニング)
- レバーを引いたまま調節したい方向に背もたれを動かします。



- 前後位置の調節 (スライド)
- レバーを引いたまま、調節したい方向にシートを動かします。



⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。
顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

シート・ハンドルの調節

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

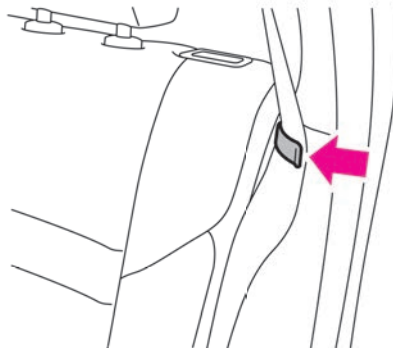
- シートは必ず固定する位置で使用する。

⚠ 注意

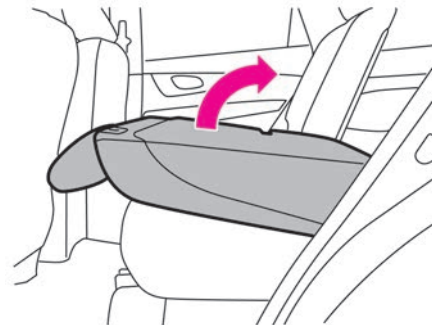
- シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。
シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。
急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

🚗 アドバイス

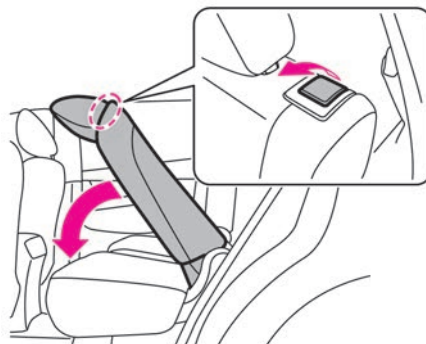
- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラグジュアリー（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷を付けないように注意してください。
- フロントシートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、フロントシートの前後位置を調節してください。



1. シートベルトが外れていることを確認してからシートベルトをクリップで留めます。



3. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。



2. レバーを引いて、背もたれを倒しまず。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

シート・ハンドルの調節

⚠ 注意

- セカンドシート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、**確実に固定されていることを確認する。**

格納状態では機能が十分に発揮できません。

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
 - － 高くするときには、ヘッドレストを引き上げます。
 - － 低くするときには、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

セカンドシート中央席

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
 - － 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
 - － 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

🚗 アドバイス

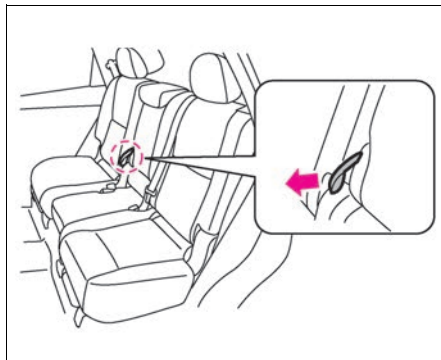
- セカンドシートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。
ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

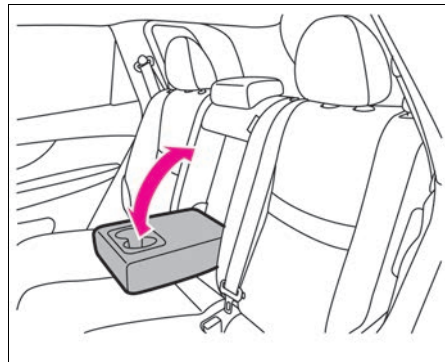
- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。

➡ ヘッドレストの調節のしかた
(P.129)

アームレストの使いかた



- 中央席にあるストラップを引いて、アームレストを前に倒します。

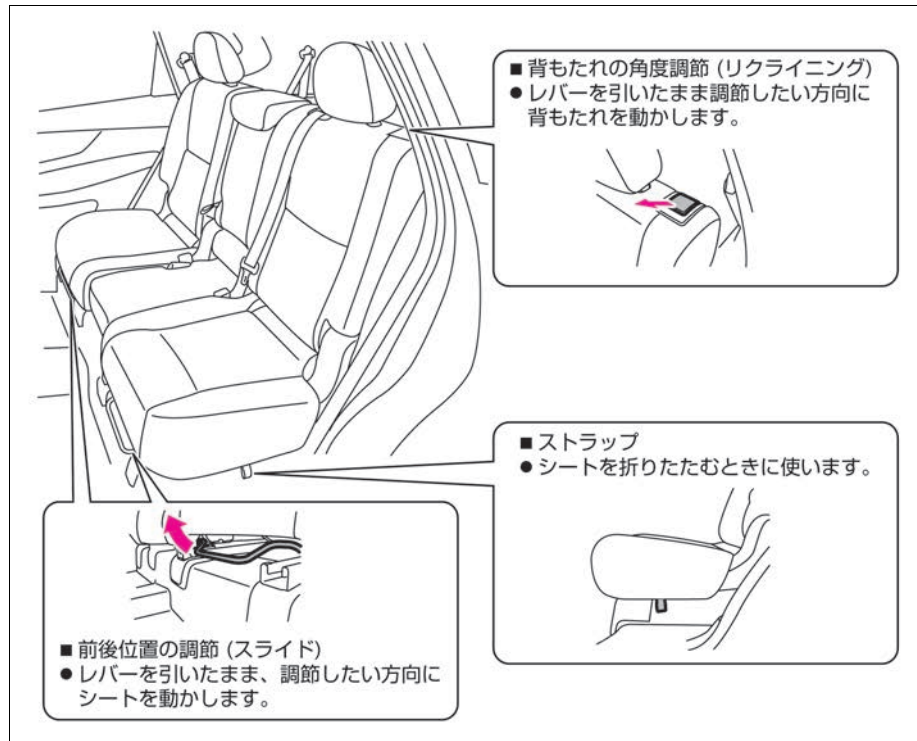


- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

シート・ハンドルの調節

セカンドシート (3列車)

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。
顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

シート・ハンドルの調節

サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）

⚠ 注意

- ウォークイン機構を作動させるときは背もたれを手で押さえ、ゆっくり作動させる。

急に背もたれが倒れたりシートがスライドすると、顔や身体などに当たったり、手や足を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

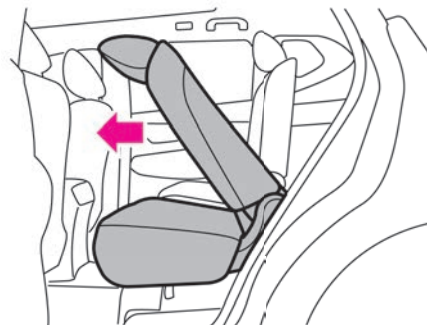
🚗 アドバイス

- シートを倒すときは十分に注意してください。物や飲物などを置いたままウォークイン機構を作動させないでください。物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。

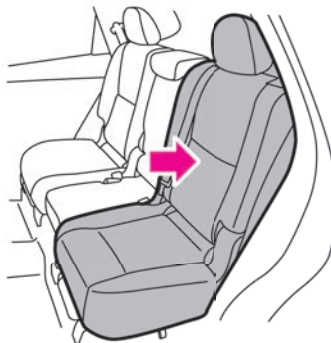


リクライニングレバー

- リクライニングレバーを引いて、背もたれが止まるまで傾けます。



- シートを前方にスライドさせます。



- 戻すときは、シートを後方にスライドさせたあと、背もたれを起こして固定します。

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

- シートは必ず固定する位置で使用する。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。

シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。

シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

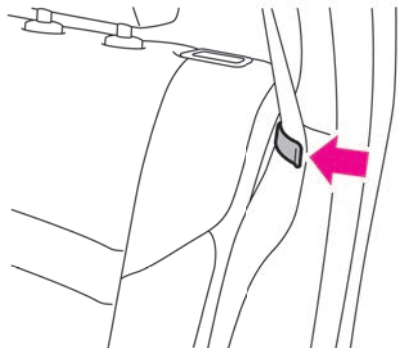
- 背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。

急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

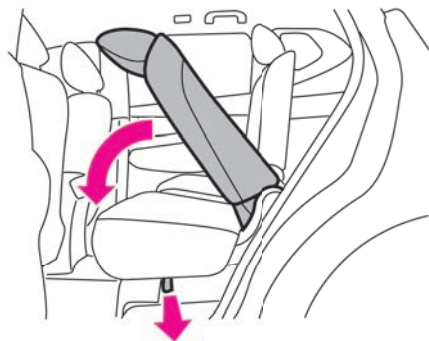
🚗 アドバイス

- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- フロントシートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、フロントシートの前後位置を調節してください。

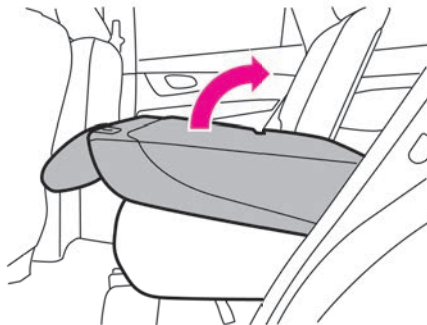
シート・ハンドルの調節



1. シートベルトが外れていることを確認してからシートベルトをクリップで留めます。



2. ストラップを横に引いて、背もたれを倒します。



3. 元に戻すときは、背もたれを起こします。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- セカンドシート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。

格納状態では機能が十分に発揮できません。

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
 - ー 高くするとき、ヘッドレストを引き上げます。
 - ー 低くするとき、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

セカンドシート中央席

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
 - ー 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
 - ー 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

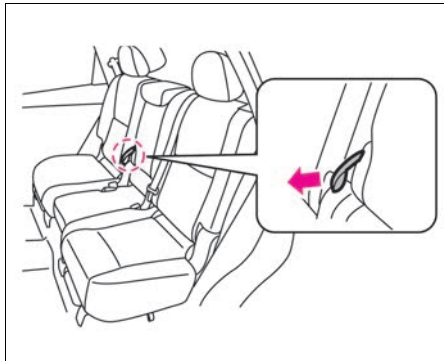
■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。

➡ ヘッドレストの調節のしかた
(P.129)

シート・ハンドルの調節

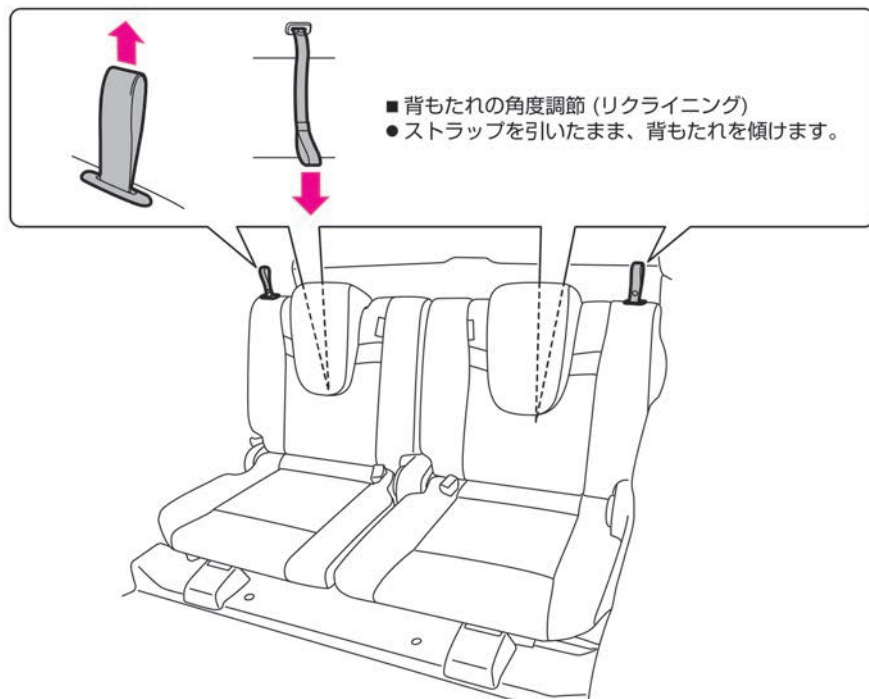
アームレストの使いかた



- セカンドシート中央席にあるストラップを引いて、アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

サードシート★

シートの調節のしかた



シート・ハンドルの調節

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足を近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。
顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

🚗 アドバイス

- サードシートに乗車するときは、セカンドシートのスライド位置を一番後ろから1段以上前の位置にしてください。

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

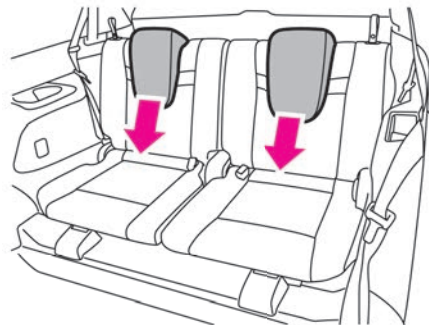
- シートを元の位置に戻したときは、確実に固定されたことを確認する。

⚠ 注意

- シートを倒すときは十分に注意する。
シートに人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。特にストラップで背もたれを倒すときは、シートで前方が見えにくいため注意してください。

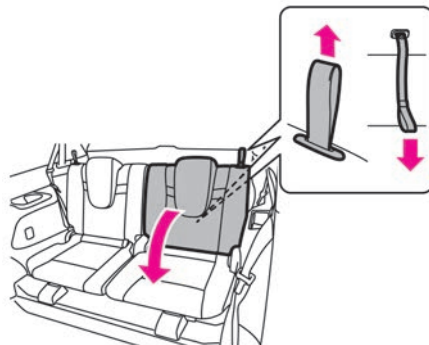
🚗 アドバイス

- ラゲッジルームから背もたれを元に戻すときは、ストラップを引いて起こすこともできます。



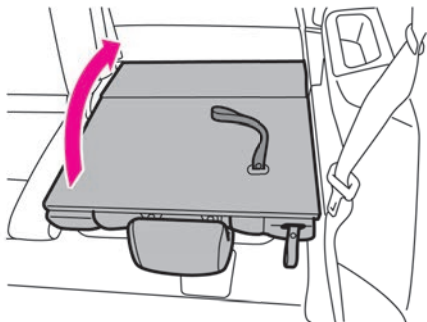
1. ヘッドレストを一番下に下げます。

➡ ヘッドレストの使いかた
(P.138)



2. ストラップを引いたまま、背もたれを前に倒します。

シート・ハンドルの調節



3. 元に戻すときは、背もたれをロックする位置まで戻してから、ストラップを引いて背もたれの角度を調節します。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストはロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用する。

格納状態では機能が十分に発揮できません。

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
 - － 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
 - － 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- ヘッドレストの脱着のしかたは、フロントシートと同じです。

➡ ヘッドレストの調節のしかた
(P.129)

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

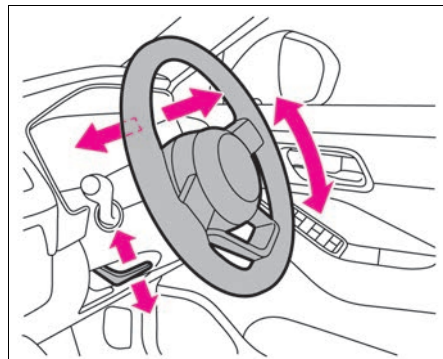
⚠ 警告

- ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。

走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

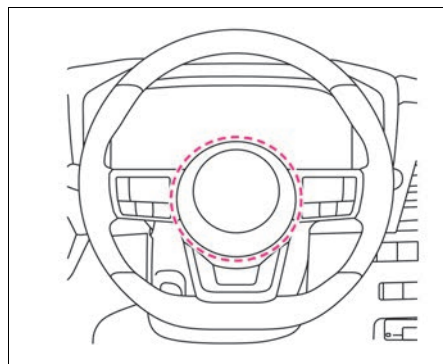
- 調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。

ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後・上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。

ホーンの鳴らしかた

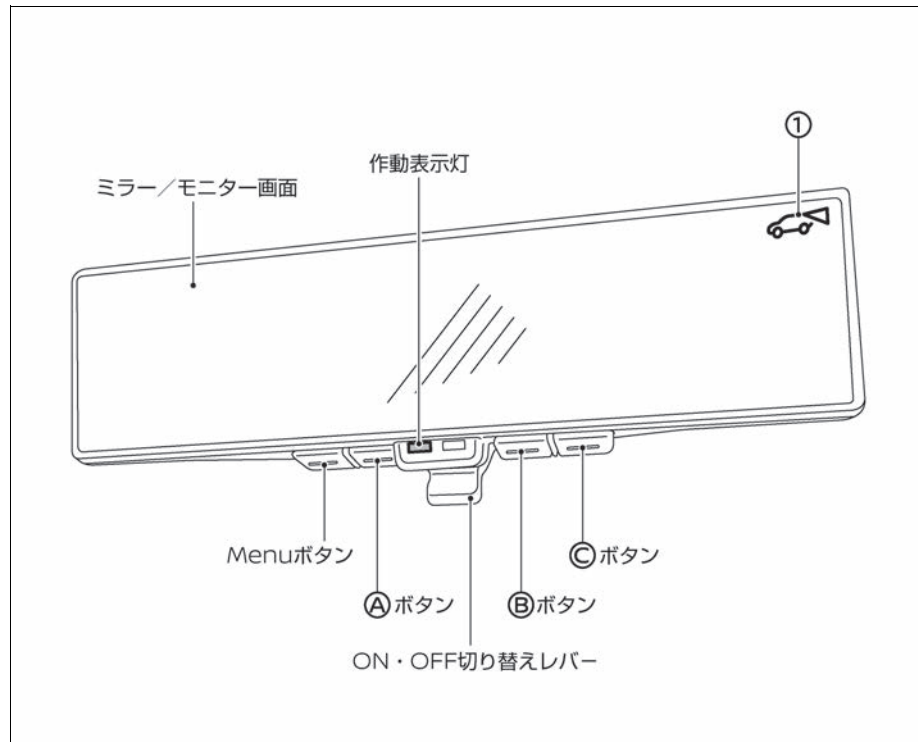


ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

インテリジェント ルームミラー

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



<Menuボタン>：調節する項目を表示

<Aボタン>・<Bボタン>：項目選択および調節

<Cボタン>：決定

■ ルームミラーモード

●ミラーとして使用します。

■ インテリジェント ルームミラーモード

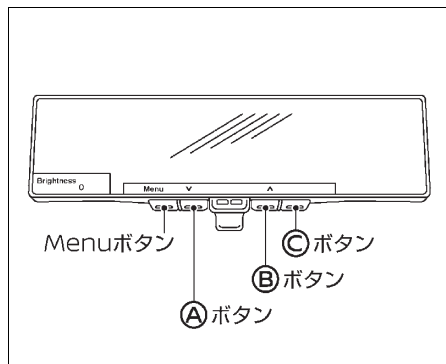
モニターとして使用します。

(インテリジェント ルームミラーモードのときは、①が表示されます)

1. <パワースイッチ>をONにします。
2. インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。(作動表示灯が点灯)
3. インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

●周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたりしたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

インテリジェント ルームミラーの画 質調節



インテリジェント ルームミラーモードのときに、モニター画像の各種調節ができます。

<Menuボタン>を押すと調節できる項目が表示されます。<Aボタン>・<Bボタン>で選択し、<Cボタン>で調節する項目を決定します。

■ Brightness (明るさ)

モニター画像の明るさを調節します。
(周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。)

- <Aボタン>を押すと、画面が暗くなります。
- <Bボタン>を押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8 (暗い) ～+8 (明るい)

■ Down/Up (下／上)

モニター画像の上下位置を調節します。

- <Aボタン>を押すと、画像が下に移動します。
- <Bボタン>を押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8 (下方向) ～+8 (上方向)

■ Left/Right (左／右)

モニター画像の左右位置を調節します。

- <Aボタン>を押すと、画像が左に移動します。
- <Bボタン>を押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8 (左) ～+8 (右)

■ Rotation (回転)

モニター画像位置の回転調節をします。

- <Aボタン>を押すと、画像が左に回転します。
- <Bボタン>を押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8 (左回り) ～+8 (右回り)

■ Indication (インジケーター)

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

- <Aボタン>を押すと、モニター文字表示が非表示になります。

- <Cボタン>を押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language (言語)

表示させる言語を切り替えます。

- <Aボタン>・<Bボタン>で選択し、<Cボタン>で決定します。

■ Switch Backlight (スイッチ照明)

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

- <Aボタン>を押すと、スイッチの照明がOFFになります。
- <Bボタン>を押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License (ライセンス)

ライセンス情報が表示されます。

インテリジェント ルームミラー使用 時の注意事項

⚠ 警告

- 走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。

ルームミラーモード (ミラー状態) にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード (モニター表示状態) にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

ミラーの調節

⚠ 警告

- インテリジェントルームミラーモードのときに作動表示灯が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。

再度インテリジェントルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- あらかじめ死角範囲を確認する。
インテリジェントルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。

異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。

- 走行中に操作しない。

走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。

破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- モニターを凝視しない。

— 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

— 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- 太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェントルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。

- 走行可能表示灯が消灯時に長時間使用すると12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

- 無線機のアンテナをインテリジェントルームミラー近くに取り付けしないでください。無線機の電波により、インテリジェントルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。

- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。

- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。

- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障したりするおそれがあります。

- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。

- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。

- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。

- すばやい動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。

- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェントルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心がけてください。

- モニターの明るさを明るく調節しすぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。

- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。

- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。

- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェントルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

➡ インテリジェントルームミラーのお手入れ (P.392)

ミラーの調節

- バックドアガラスがくもった場合は、リヤデフォグガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまではルームミラーモードで使用してください。
- インテリジェントルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがあります。故障ではありません。
- インテリジェントルームミラーのお手入れについては(🔍P.392)をお読みください。
- 体調などによりインテリジェントルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- インテリジェントルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- インテリジェントルームミラーモードのとき、インテリジェントルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
- インテリジェントルームミラーモードのとき、インテリジェントルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

ドアミラー

＜パワースイッチ＞がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。

ACC状態については、オートACC機能(🔍P.168)をお読みください。

ドアミラーの注意事項

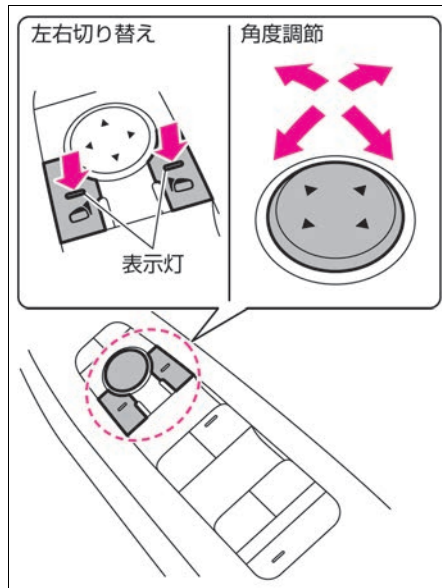
⚠ 警告

- ミラーの調節は、必ず走行前に行う。
走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れない。
手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しない。
後方確認ができないため危険です。

ドアミラーの角度調節のしかた



- 調節したいミラー側の＜左右切り替えスイッチ＞を押します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- ＜角度調節スイッチ＞を前後左右に押し、鏡面角度を調節します。

ドアミラーの格納のしかた



- <格納スイッチ>を押すと、左右のミラーが格納されます。
- <格納スイッチ>をもう一度押すと、元の位置に戻ります。
- スイッチ操作を連続で行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉すると<パワースイッチ>をONにしたとき、<格納スイッチ>の位置によりミラーが動き出すことがあります。
- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前に<格納スイッチ>で開閉操作を行ってください。

ドアロック連動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。

- リモコンまたは、ドアハンドルのセンサーで施錠すると、左右のミラーが格納されます。
- <パワースイッチ>をONにすると、左右のミラーが開きます。(アドバンスドライバアシストディスプレイで、<パワースイッチ>をONにすると左右のミラーが開く設定に変更できます)
- アドバンスドライバアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [車両設定] ⇒ [ドアミラー] を選択すると、ドアロック連動格納機能の設定を変更することができます。設定の詳細については、車両設定 (🔍 P.64) または (🔍 P.90) をお読みください。

ドアミラーヒーターの使いかた

<パワースイッチ>がONのとき、<リヤウインドーデフォグスイッチ> (🔍 P.361) を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

リバース連動下向ドアミラー★

シフトポジションをRにすると(後退時)、ドアミラーの角度が設定した位置を映すように作動します。

1. <パワースイッチ>をONにし、<左右切り替えスイッチ>の左右どちらかを押します。

2. シフトポジションをRにします。
 3. ドアミラーが下向きに作動します。
- 下向きになったドアミラーの角度を調節するときは次の操作をしてください。調節したミラー位置が設定されます。
 1. 調節したいミラー側の<左右切り替えスイッチ>を押します。(スイッチの表示灯が点灯)
 2. <角度調節スイッチ>を前後左右に押し、鏡面角度を調節します。
 3. シフトポジションをPまたはDにします。
 - 次のいずれかの状態になると、元の角度に戻ります。
 - シフトポジションをR以外にする
 - <左右切り替えスイッチ>を中立位置にする
 - <パワースイッチ>をON以外にする
 - 車速が約10km/h以上になる
 - 使用している鏡面角度によっては、リバース時に鏡面が作動範囲まで動いたあとも動こうとしますが異常ではありません。

窓ガラスの開閉

パワーウィンドー

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パワーウィンドーの注意事項

警告

- 乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。
 - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
 - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながることがあります。
 - お子さまにはパワーウィンドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウィンドーロックスイッチ>を押し込んでください。
 - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。

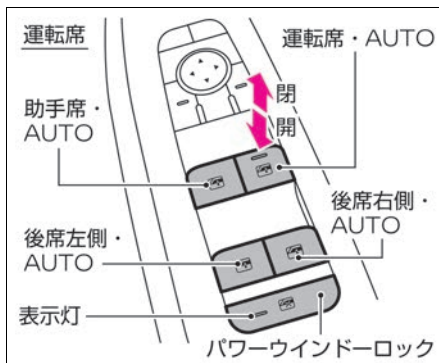
— 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

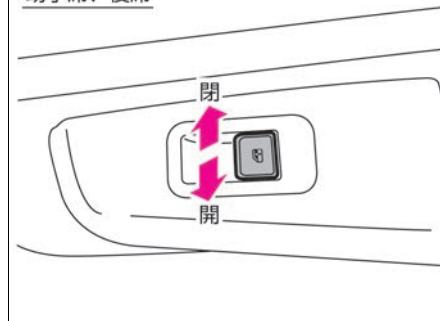
- 指などを挟まれないように注意する。

窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウィンドーの開けかた、閉めかた



助手席、後席



運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

■ 開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

■ 閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

■ 自動開閉するには

窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

窓ガラスの開閉

■ 開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- <パワーウィンドーロックスイッチ>を押すと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチをもう一度押すとロックが解除されます。

■ キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、<パワースイッチ>をOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、その約45秒間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- 窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。
挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。
- 窓ガラスを閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに

加わると挟み込み防止機構が作動することがあります。

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを閉めることができないときは、次の手順で挟み込み防止機構を解除して、窓ガラスを閉めてください。
- ① 挟み込み防止機構が作動するまでスイッチを引き上げます。
- ② ①の手順を2回繰り返します。
- ③ スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めます。
- 挟み込み防止機構の解除は次の場合に終了し、通常の作動に戻ります。
 - 一定時間（約10秒）経過する
 - 窓ガラスを全閉する

正常に作動しないとき

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。
- 窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。
- ① <パワースイッチ>をONにします。
- ② 運転席のスイッチを引き続けて運転席窓ガラスを全閉にしたあと、スイッチから手を離します。※1
- ③ 運転席のスイッチを5秒以上引き続けます。※2
- ④ 運転席のスイッチを押し続けて運転席窓ガラスを全開にしたあと、スイッチから手を離します。

⑤ 運転席のスイッチを5秒以上押し続けます。※2

⑥ 運転席窓ガラスが全閉するまで、運転席のスイッチを引き続けます。

⑦ 運転席窓ガラスを自動開閉させて、正常に作動することを確認します。

※1：全閉になる前に窓ガラスが停止した場合は、スイッチから手を離し、再度スイッチを引き続けて全閉にしてください。

※2：約5秒以上スイッチを引き続ける、または押し続けると再度運転席窓ガラスが動きます。

- 初期設定にしても正常に作動しない場合は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

パノラミックガラスルーフ★

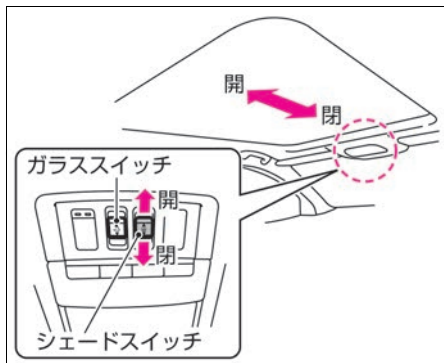
<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パノラミックガラスルーフについて

- パノラミックガラスルーフには、次の機能があります。
 - **➡ サンシェードの開けかた、閉めかた** (P.146)
 - **➡ ガラスルーフのチルトアップのしかた** (P.146)
 - **➡ ガラスルーフの開けかた、閉めかた** (P.146)

窓ガラスの開閉

サンシェードの開けかた、閉めかた



■ 開けるには

- <シェードスイッチ>を車両後方にスライドさせると、サンシェードが半分まで開きます。再度<シェードスイッチ>を車両後方にスライドさせると、全開します。

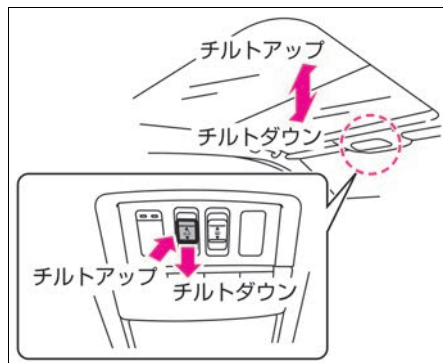
■ 閉めるには

- サンシェードが全開のときに<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、サンシェードが半分まで閉まります。再度<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、全閉します。
- ガラスルーフが全開のときに<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、サンシェードが半分まで閉まります。<ガラススイッチ>を車両前方にスライドさせてガラスルーフを閉めてから

<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせます。

- 途中で止めたいときは、<シェードスイッチ>または<ガラススイッチ>をスライドさせます。

ガラスルーフのチルトアップのしかた



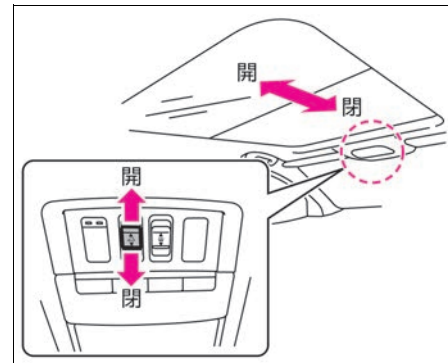
■ チルトアップするには

- <ガラススイッチ>を上を押すと、チルトアップします。
(サンシェードが閉じているときは、サンシェードが開いてからチルトアップします。)
- ガラスルーフが開いているときは、<ガラススイッチ>を車両前方にスライドさせてガラスルーフを閉めてから<ガラススイッチ>を上を押すと、チルトアップします。

■ チルトダウンするには

- <ガラススイッチ>を前方にスライドさせると、チルトダウンします。

ガラスルーフの開けかた、閉めかた



■ 開けるには

- <ガラススイッチ>を車両後方にスライドさせると、コンフォートモード位置まで開きます。(サンシェードが閉じているときはサンシェードが開いてから開きます。)
- コンフォートモード位置から、さらに<ガラススイッチ>を車両後方にスライドさせると全開します。

■ 閉めるには

- <ガラススイッチ>を車両前方にスライドさせると、全閉位置まで閉まります。

窓ガラスの開閉

- 途中で止めたいときは、＜シェードスイッチ＞または＜ガラススイッチ＞をスライドさせます。

■ コンフォートモード

- パノラミックガラスルーフを開けたまま走行するときの位置です。パノラミックガラスルーフを全開にして走行すると、風切音が大きくなる場合があります。走行するときは、コンフォートモードの位置でご使用ください。

挟み込み防止機構

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ガラスルーフを自動で閉めることができないときは、＜ガラススイッチ＞を車両前方に繰り返しスライドさせて閉めてください。
- 自動でガラスルーフを閉めるときに、車体とガラスルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、ガラスルーフが停止し、自動で開き始めます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がガラスルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パノラミックガラスルーフの注意事項

⚠ 警告

- 乗員の操作を含めすべてのガラスルーフやサンシェード開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。

- ー走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- ー閉めるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ーお子さまには操作させないでください。お子さまの誤った操作により事故につながるおそれがあります。お子さまや他の人がガラスルーフやサンシェードに挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。
- ー車から離れるときは＜パワースイッチ＞をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ー故意に挟み込み防止機構を働かせないでください。万一、手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ーインテリジェントキーでガラスルーフやサンシェードを操作する機能が有るときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。お子さまや他の人が挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。また、お子さまにはインテリジェントキーによる操作をさせないでください。

⚠ 注意

- 指などを挟まれないように注意する。

ガラスルーフには挟み込み防止機構がありますが、確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

- 運転中はパノラミックガラスルーフの開閉操作を行わない。

前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。

- ルーフに水や雪などがあるときは開けない。

突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

窓ガラスの開閉

アドバイス

- 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せたりするなど、大きな力を掛けないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためパノラミックガラスルーフを必ず閉めてください。
- 正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

給油口にキャップがない燃料タンクです（キャップレス給油口）。リッドを開け、給油ノズルを直接差し込むだけで給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。給油口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。

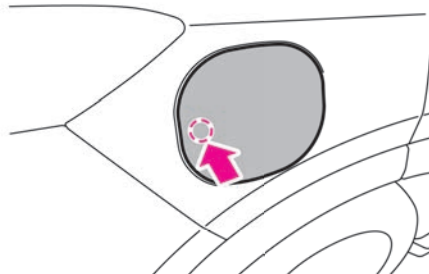
燃料タンクの容量は、約55ℓです。

エンジン型式	指定燃料
KR15DDT	無鉛レギュラーガソリン

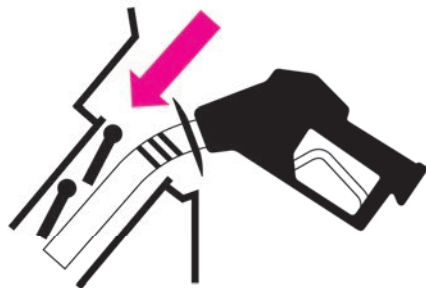
- 燃料が少なくなるとアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。
警告メッセージ (P.342)

燃料補給のしかた

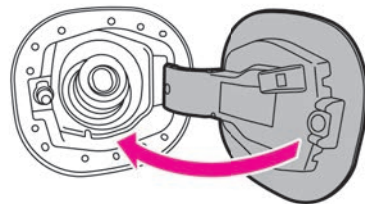
1. ドアを解錠します。



2. リッドを開けます。
リッドの車両後方側中央部あたり（イラストの点線部分）を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。



3. 給油ノズルを給油口へまっすぐ向け、一気に奥まで差し込み、給油します。
給油中はノズルを動かさないでください。
4. 給油ノズルが自動停止したら、給油ノズルに残っている燃料がこぼれないように、約5秒待ってから給油ノズルを引き抜きます。



5. リッドを閉めます。

燃料補給時の注意事項

警告

- 燃料補給時は、次のことを必ず守る。
 - e-POWERシステムを停止する
 - 車のドアや窓を閉める
 - タバコなどの火気を近づけない
 - 気化した燃料を吸わない

燃料補給口の開閉

⚠ 警告

- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。

放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。

- 補給作業はひとりで行う。

作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。

- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。

給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。

継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

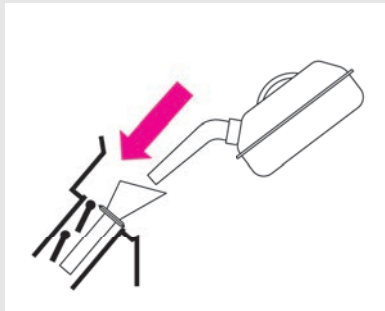
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。

- 給油自動停止後、すぐに給油ノズルを引き抜かない。

給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出るおそれがあります。

- 携行缶から給油する場合、給油ノズルを確実に奥まで差し込む。

給油口には2枚のフラップがあります。給油ノズルを2枚目のフラップの奥まで差し込まないと、給油できず燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。



- 携行缶から給油する場合は、専用の漏斗を準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- フラップを指などの給油ノズル以外のものでも開く、またはのぞき込んだりしない。

フラップの故障やシール不良、損傷のおそれがあります。

- リッドが開いた状態で、高圧洗浄機で給油口付近を洗浄しない。

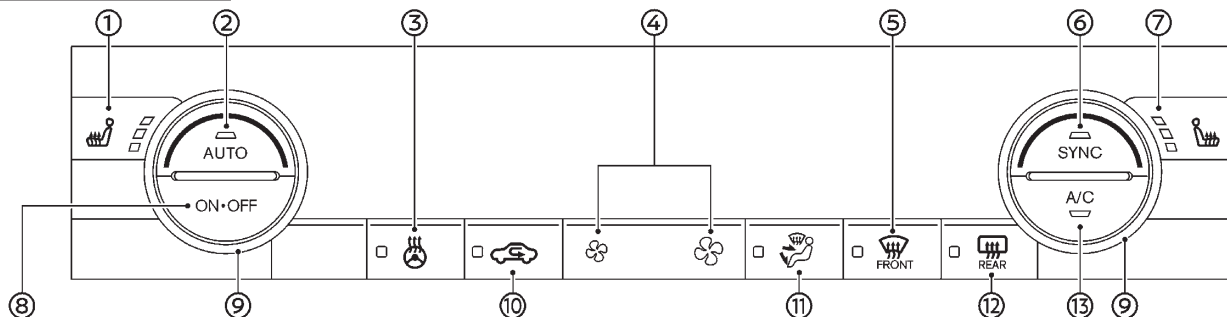
燃料タンク内に水が混入するおそれがあります。

オートエアコン（独立温度調整機能（運転席、助手席））★

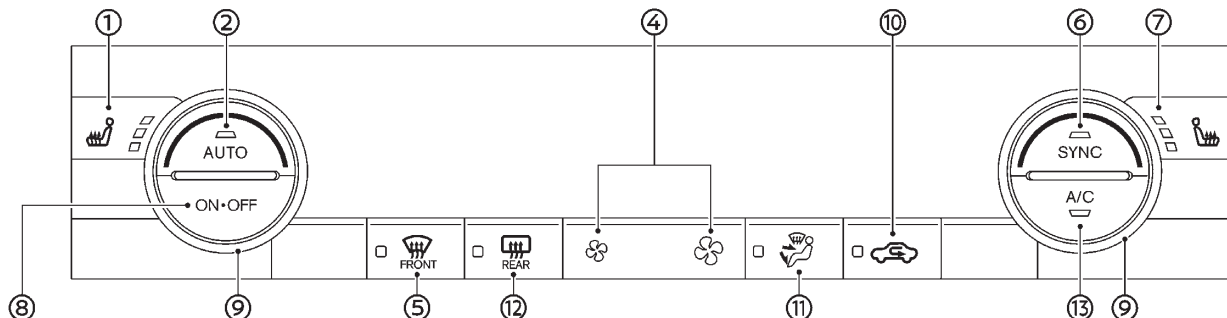
吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで自動制御に切り替えます。

各スイッチの名称と機能

ステアリングヒーター付車

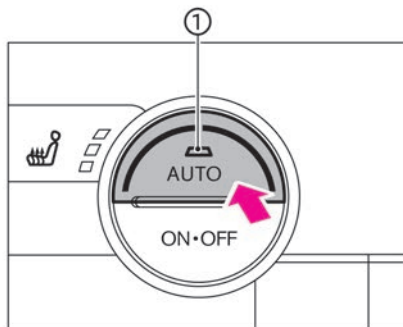


ステアリングヒーター無車



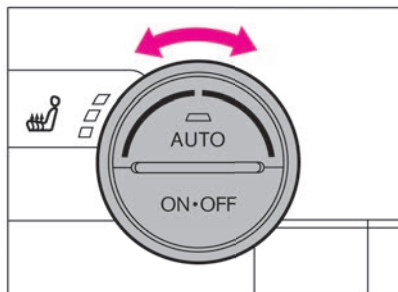
- ① **助手席ヒーターシートスイッチ (🔌 P.299)**
スイッチを押すごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
 - ② **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。
 - ③ **ステアリングヒータースイッチ★ (🔌 P.298)**
 - ④ **風量調節スイッチ**
スイッチを押して風量を切り替えます。
 - ⑤ **デフロスタースイッチ (🔌 P.361)**
フロントガラスのくもりが取れます。
 - ⑥ **SYNCスイッチ (🔌 P.153)**
スイッチを押すと、SYNCモードがONになります。
 - ⑦ **運転席ヒーターシートスイッチ (🔌 P.299)**
スイッチを押すごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
 - ⑧ **ON・OFFスイッチ**
オートエアコンのON・OFFを切り替えます。
 - ⑨ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して希望の設定温度を切り替えます。SYNCモードがONのときは、運転席側で温度を調節すると助手席側も同時に温度調節します。(Lo 18.0°C〜32.0°C Hi)
 - ⑩ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。(内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。)
 - ⑪ **吹き出し口切り替えスイッチ (🔌 P.159)**
吹き出し口を切り替えます。
 - ⑫ **リヤウインドーデフォグガースイッチ (🔌 P.361)**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動して、霜やくもりが取れます。
 - ⑬ **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。
- 温度調節ダイヤルを回して設定温度をHiに切り替えると、エンジンを制御して車室内が早く温まるように暖房を優先するモードに切り替わります。

オートでの使いかた

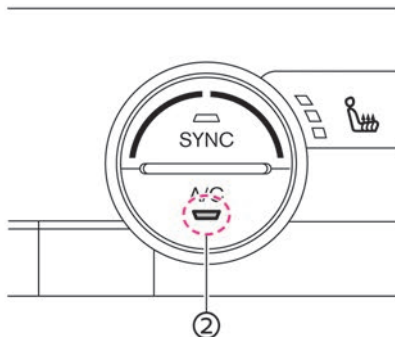


1. <AUTO>スイッチを押します。
(スイッチの表示灯①が点灯)

●オートで使用中に風量の調整または吹き出し口の切り替えを行うと<AUTO>スイッチの表示灯①は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。
また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に<内外気切り替えスイッチ>を押すと、マニュアルモードに切り替わります。(スイッチの表示灯①が点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。)



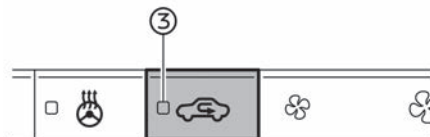
2. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し：設定温度を上げる
左回し：設定温度を下げる



3. <A/C>スイッチの表示灯②が消灯しているときは、<A/C>スイッチ

を押します。(スイッチの表示灯②が点灯)

<A/C>スイッチの表示灯②点灯時：冷房・除湿機能ON



4. <内外気切り替えスイッチ>を約2秒間押し続けます。
スイッチの表示灯③が2回点滅し、自動制御モードに切り替わります。

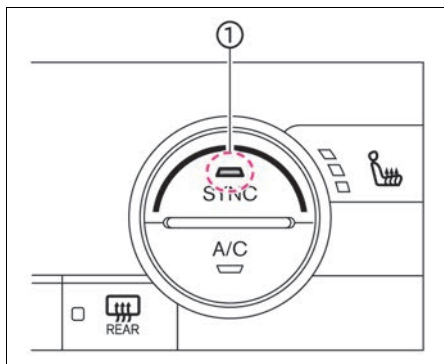
※スイッチの位置は車種により異なります。

●<パワースイッチ>をOFFにし、再度<パワースイッチ>をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

SYNCモードの使いかた

運転席と助手席の温度を同時に調節するときに使います。

エアコンの操作



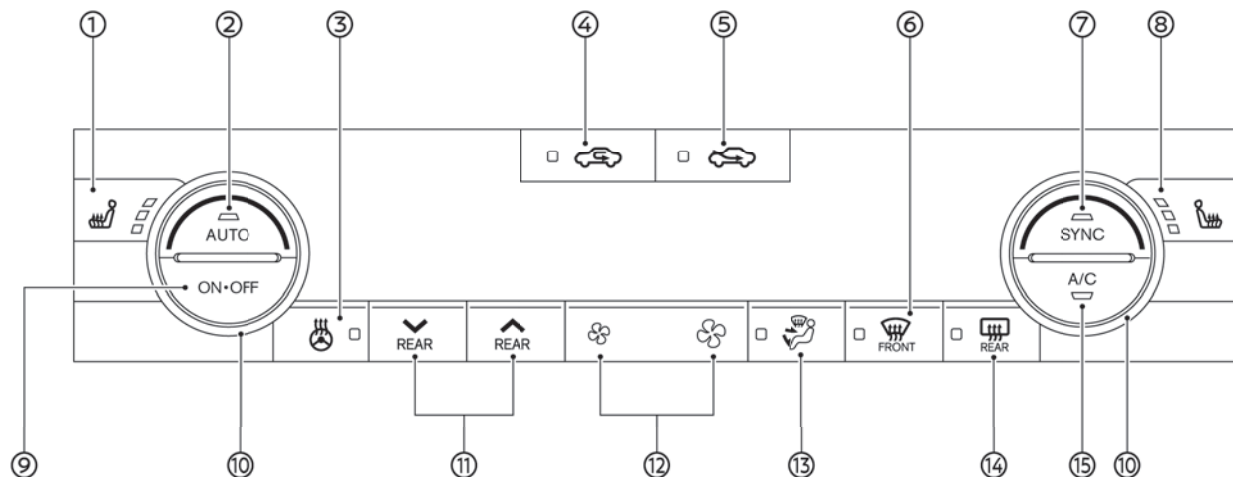
- <SYNC>スイッチを押すとSYNCモードになります。（スイッチの表示灯①が点灯）
- 解除するときは、助手席側の設定温度を調節します。（スイッチの表示灯①の表示灯が消灯）

オートエアコン（独立温度調整機能（運転席、助手席、後席））★

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。

また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで自動制御に切り替えます。

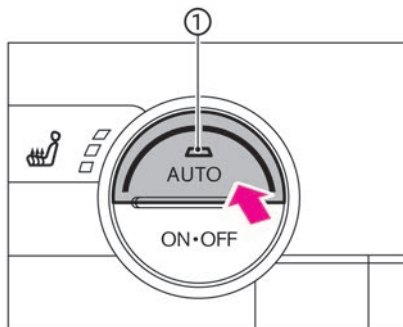
各スイッチの名称と機能



エアコンの操作

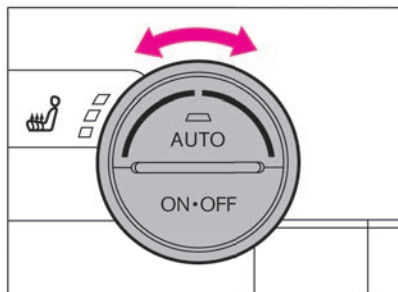
- ① **助手席ヒーターシートスイッチ (👉P.299)**
スイッチを押すごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
 - ② **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。
 - ③ **ステアリングヒータースイッチ (👉P.298)**
 - ④ **内気循環スイッチ**
トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときに使います。
 - ⑤ **外気導入スイッチ**
外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。
 - ⑥ **デフロスタースイッチ (👉P.361)**
フロントガラスのくもりが取れます。
 - ⑦ **SYNCスイッチ (👉P.157)**
スイッチを押すと、SYNCモードがONになります。
 - ⑧ **運転席ヒーターシートスイッチ (👉P.299)**
スイッチを押すごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
 - ⑨ **ON・OFFスイッチ**
オートエアコンのON・OFFを切り替えます。
 - ⑩ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して設定温度を切り替えます。(Lo 18.0°C～32.0°C Hi)
 - ⑪ **後席温度調節スイッチ**
スイッチを押して後席の設定温度を切り替えます。SYNCモードがONのときは、運転席側で温度を調節すると後席側も同時に温度調節します。(Lo 18.0°C～32.0°C Hi)
 - ⑫ **風量調節スイッチ**
スイッチを押して風量を切り替えます。
 - ⑬ **吹き出し口切り替えスイッチ (👉P.159)**
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。
 - ⑭ **リヤウインドーデフォグgersスイッチ (👉P.361)**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動して、霜やくもりが取れます。
- 温度調節ダイヤルを回して設定温度をHiに切り替えると、エンジンを制御して車室内が早く温まるように暖房を優先するモードに切り替わります。

オートでの使いかた

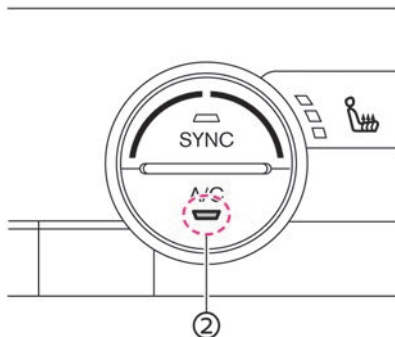


1. <AUTO>スイッチを押します。
(スイッチの表示灯①が点灯)

●オートで使用中に風量の調整または吹き出し口の切り替えを行うと<AUTO>スイッチの表示灯①は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。
また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に<内外気切り替えスイッチ>を押すと、マニュアルモードに切り替わります。



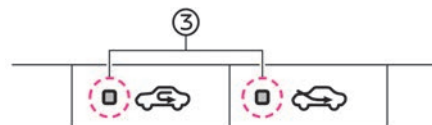
2. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し：設定温度を上げる
左回し：設定温度を下げる



3. <A/C>スイッチの表示灯②が消灯しているときは、<A/C>スイッチ

を押します。(スイッチの表示灯②が点灯)

<A/C>スイッチの表示灯②点灯時：冷房・除湿機能ON



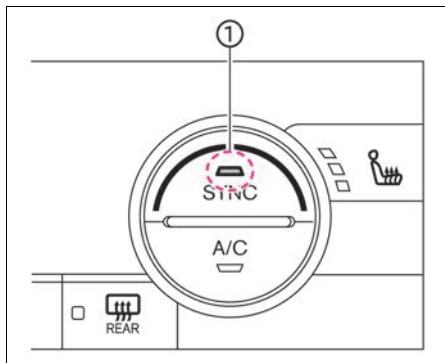
4. <内外気切り替えスイッチ>を約2秒間押し続けます。
スイッチの表示灯③が2回点滅し、自動制御モードに切り替わります。

●<パワースイッチ>をOFFにし、再度<パワースイッチ>をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

SYNCモードの使いかた

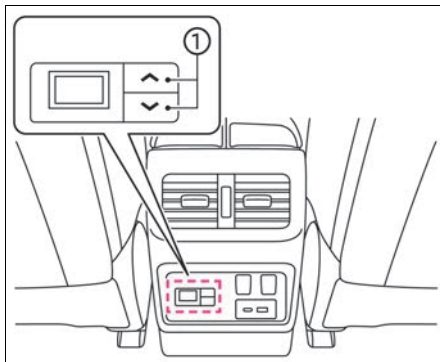
運転席、助手席、後席の温度を同時に調節するときに使います。

エアコンの操作



- <SYNC>スイッチを押すとSYNCモードになります。（スイッチの表示灯①が点灯）
- 助手席側のSYNCモードを解除するときは、助手席側の設定温度を調節します。
- 後席のSYNCモードを解除するときは、後席の設定温度を調節します。
- 助手席、後席のSYNCモードを解除すると<SYNCスイッチ>の表示灯①が消灯します。

各スイッチの名称と機能（後席用）

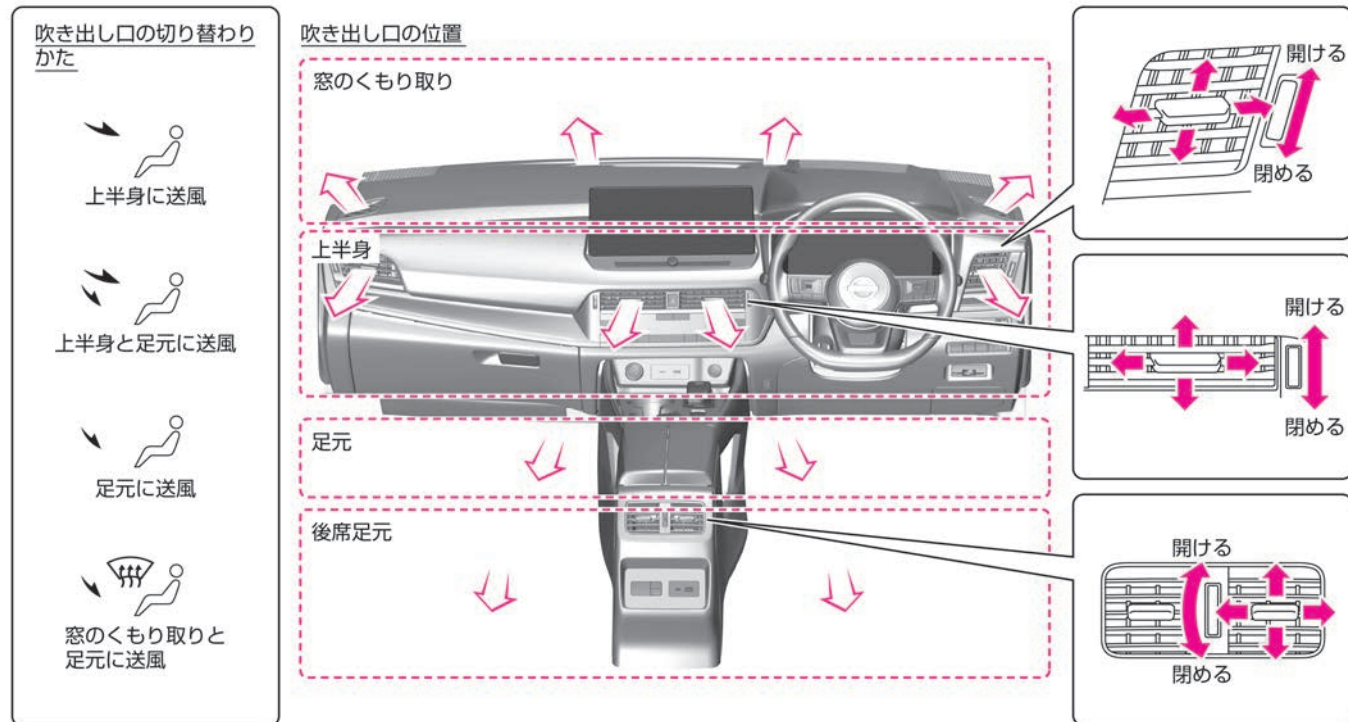


- 前席用エアコン作動時に温度調節することができます。

① 後席温度調節スイッチ
スイッチを押して、設定温度を切り替えます。（Lo 18°C～32°C Hi）

吹き出し口

〔〕 または<デフロスタースイッチ>を押して希望の吹き出し口に切り替えます。



エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

- 内気循環で長時間使用しない。

窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

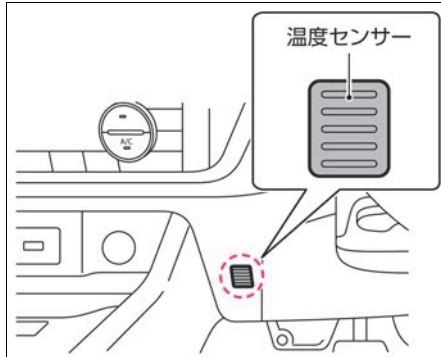
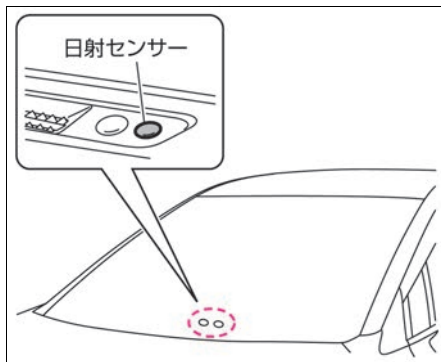
⚠ 注意

- 吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。

特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

- <デフロスタースイッチ>をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。

フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。



- オートエアコンの自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹き掛けしないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。
- ほこり、花粉、粉塵などを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、ク

リーンフィルターは定期的に交換してください。

**交換時期：1年ごとまたは12,000km
走行ごと**

- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効が悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどき [A/C] スイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。
- エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。
- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、[A/C] スイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。

エアコンの操作

- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、“カチカチ”、“シュー”、“コツン”などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターからの風量が多くなります。

エアコンのにおいについて

- エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じる場合があります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた

安全運転のために

警告

- 走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。
前方不注意となるおそれがあります。
- 音量を大きくしない。
大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

- 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞かせください。

ラジオの受信について

アドバイス

- アンテナに雪が積もっている場合は、雪を落としてください。受信感度が低下し、雑音が入るおそれがあります。
- ルーフに載せた荷物が電波を遮り、受信感度が下がる場合があります。可能であれば、アンテナの近くに荷物を載せないでください。
- ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。
- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使う

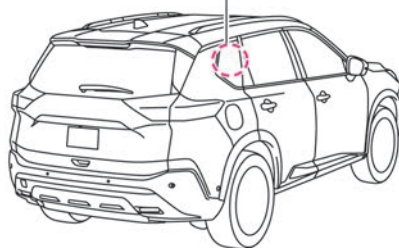
と、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

ガラスアンテナについて

アドバイス

- リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けしないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
- リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布でアンテナ線にそって軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷付けないようにしてください。

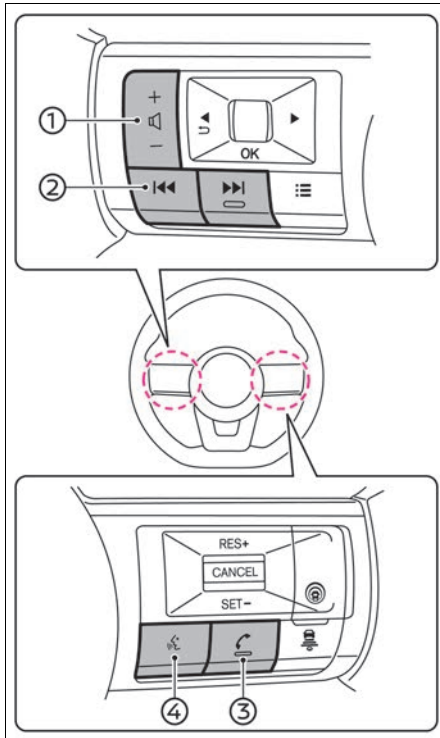
ガラスアンテナ



- アンテナ線は、リヤサイドガラスの内側にあります。

ステアリングスイッチ

メーカーオプションナビゲーションシステム、または日産オリジナルナビゲーションシステムを操作することができます。



- ① **音量スイッチ（＋／－）**
音量を調節できます。
＋：音量を上げる
－：音量を下げる
押したままにすると連続して音量の増減ができます。
 - ② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。
 - ③ **通話開始／終了スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。通話中に押すと電話を切ります。
 - ④ **音声操作スイッチ**
音声操作画面に切り替えます。
- 取り扱いについては、ナビゲーションシステム取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
 - 日産純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

MEMO

始動する

パワースイッチ	P.166
オートACC機能	P.168

運転する

セレクトレバー	P.169
電動パーキングブレーキ	P.170
オートブレーキホールド	P.171
GPF（ガソリンパティキュレートフィルター）★	P.173
発進・走行	P.174
停車・駐車	P.175

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ	P.177
フォグランプスイッチ★	P.183
ヘッドランプレベライザースイッチ★	P.184
ワイパー・ウォッシャースイッチ	P.186

運転支援機能

e-Pedal Step	P.189
ドライブモードセクター	P.190
チャージモード	P.194
マナー（EV）モード	P.194
クルーズコントロール★	P.195
e-4ORCE（4WD）車★の扱い	P.197
エマージェンシーストップシグナル	P.198

ABS（アンチロックブレーキシステム）	P.198
VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	P.199
シャシー制御	P.201
ヒルスタートアシスト	P.201
アドバンスドヒルディセントコントロール （速度設定機能付）★	P.202
車両接近通報装置	P.203
走行支援機能	P.205
プロパイロット★	P.211
インテリジェント エマージェンシーブレーキ	P.227
踏み間違い衝突防止アシスト	P.232
BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★	P.239
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）	P.247
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	P.251
RCTA（後退時車両検知警報）★	P.254
インテリジェント DA（ふらつき警報）	P.257
標識検知機能	P.259

駐車支援システム

インテリジェント アラウンドビューモニター （移動物 検知機能付）	P.263
インテリジェント アラウンドビューモニターに 関する注意事項	P.271
プロパイロット パーキング★	P.275

始動する

パワースイッチ

⚠ 警告

- **e-POWERシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**

ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりe-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **e-POWERシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**

運転席以外から行くと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **e-POWERシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON・OFF状態を確認してから走行する。**

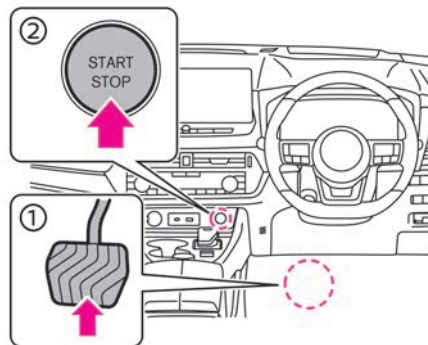
e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

🚗 アドバイス

- メーター内の走行可能表示灯が点灯しているとき、ボンネットを開けたままにしないでください。12Vバッテリーへの充電が停止するため、12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

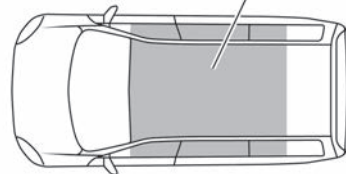
始動のしかた

1. インテリジェントキーを携帯して車両に乗り込みます。アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢(📖P.22)がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



2. ブレーキペダル①をしっかりと踏み込みながら、<パワースイッチ>②を押します。
3. メーター内の走行可能表示灯が点灯し、走行できるようになります。

作動範囲（車室内）



- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、e-POWERシステムを始動することができます。
- 車両状態によっては<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯が点滅から点灯に変わるまでにエンジンが作動することがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下している状態では<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯が点滅から点灯に変わるまでに数分かかることがあります。その間は、エネルギーモニターは表示されません。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、「カチッ」と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯が点灯します。

始動する

せんで、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

- e-POWERシステムが始動できない場合には、一旦e-POWERシステムをOFFにして、5秒以上待ってから再始動してください。

停止のしかた

⚠ 警告

- <パワースイッチ>をOFFにするときは、パーキングブレーキを確実に掛け、シフトポジションがPであることを確認する。

車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。
 2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを掛けます。
➡ 電動パーキングブレーキのかけかた (P.170)
 3. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
 4. <パワースイッチ>を押します。ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、メーター内の走行可能表示灯が消灯していることを確認します。
- インテリジェントキーの電池が切れている、または車室内にキーがない場合にe-POWERシステムを停止するときは、

<パワースイッチ>を長押ししてください。

パワースイッチでのモードの切り替えかた



アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。
 - 次の条件がそろった状態でしばらくすると自動的に<パワースイッチ>がOFFになります。
 - ー <パワースイッチ>がON（メーター内の走行可能表示灯は消灯）の状態のとき
 - ー 停車しているとき
 - <パワースイッチ>がOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。
- ACC状態については、オートACC機能（➡ P.168）をお読みください。
- インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。
 - ー ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。

- ー ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが始動します。
- ー e-POWERシステムが始動中に<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが停止します。

始動する

モード	動き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● e-POWERシステムを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

非常停止のしかた

警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

緊急時など、走行中に強制的にe-POWERシステムを停止（＜パワースイッチ＞OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

- ＜パワースイッチ＞を2秒以上押し続ける。
- ＜パワースイッチ＞をすばやく3回押す。

オートACC機能

＜パワースイッチ＞がOFFのときでも、特定の条件で、ナビゲーションシステム★やドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。e-

POWERシステムの停止後や、＜パワースイッチ＞をONにする前でも、ナビゲーションシステム★やドアミラーなどの電装品が使用できます。

オートACC機能について

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。
- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
 - － リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを施錠または解錠したとき
 - － ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
 - － ドアを開けたとき
 - － ドアを閉めたとき
- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
 - － ナビゲーションシステム装着車は、ACC状態のまま約11分経過したとき
 - － ナビゲーションシステム装着車は、ACC状態のままナビゲーションの操作を行わずに約11分間経過したとき
 - － e-POWERシステム停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから約1分間経過したとき

ナビゲーションシステム装着車

- ナビゲーションシステムは、e-POWERシステム停止後も作動し続けます。
- e-POWERシステムOFF後、約10分間でナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。
- 画面が消灯しても約1分以内に＜＞を押すと再度ナビゲーションシステムを約10分間使用することができます。
- 運転席ドアを開くとナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。画面が消灯しても約1分以内に＜＞を押すと再度ナビゲーションシステムを使用することができます。
- ナビゲーションシステムの操作によりACC状態は最大で30分まで延長することができます。延長された場合はドアミラーなどの電装品も使用することができます。（ナビゲーションシステム以外の電装品では、ACC状態を延長することができません）

セレクトレバー

⚠ 警告

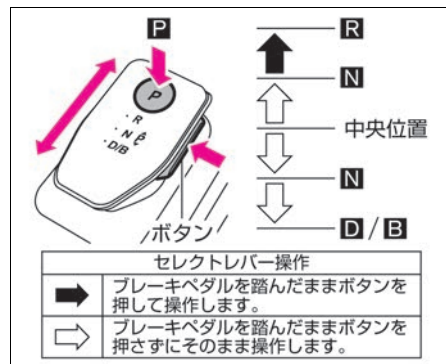
- セレクトレバーには物を掛けない。
車両が突然発進するなど、事故の原因になるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- セレクトレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。中央の位置以外で保持し続けしないでください。故障の原因になります。

走行可能表示灯が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。セレクトレバーを操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

セレクトレバーの操作



P	セレクトレバーにあるⓅスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、ボタンを押して車両前方へ2段階スライドさせます。
N	P のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方、または車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 D・B のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 R のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、車両後方に2段階スライドさせます。
B	D のときに車両後方に2段階スライドさせると B に切り替わり、もう一度2段階スライドさせると D に戻ります。

- セレクトレバーが中央に無いときは、Ⓟスイッチを押しても**P**に切り替えられません。
- シフトポジションを**P**に切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションは**N**に切り替わります。
 - ー 前進中にシフトポジションを**R**に切り替える

ー 後退中にシフトポジションを**D**に切り替える

- <パワースイッチ>がONでも走行可能表示灯が点灯していないときは、**D・B・R**には切り替えられません。
- 次の条件が重なったとき、シフトポジションが自動で**P**に切り替わる場合があります。
 - ー 運転席のシートベルトを外したとき
 - ー 運転席ドアを開けたとき
- この車両にはオートP機能がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションが**P**以外で<パワースイッチ>をOFFにしようとしても、ブザーが鳴り、<パワースイッチ>をOFFに切り替えられません。<パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。
 - ー ①停車してパーキングブレーキを掛けます。
 - ー ②ブレーキペダルを踏み込みながら<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>をONに切り替えま
 - ー ③セレクトレバーにあるⓅスイッチを押して**P**に切り替えます。
 - ー ④<パワースイッチ>を押して、OFFに切り替えます。

各シフトポジションの機能

シフト ポジ ション	役割
P	駐車およびe-POWERシステムを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき (満充電時や低温時などはブレーキが弱くなることがあります。)

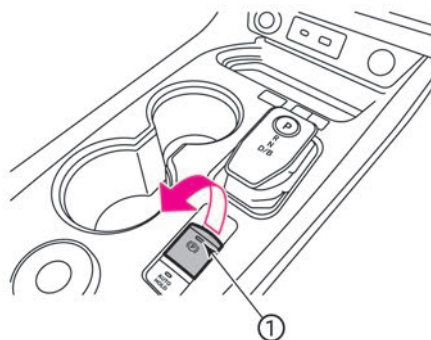
- シフトポジションを**P**に切り替えずに<パワースイッチ>をOFFにすると、自動的にシフトポジションが**P**に切り替わります。(オートP機能)
- シフトポジションが**B**のときは減速力を強くするため、**D**のときよりエンジン作動頻度が多くなります。また、エンジン回転数が高くなる場合があります。

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作してパーキングブレーキを掛けると、後輪が固定されます。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を引きます。
スイッチを引き上げると、<電動パーキングブレーキスイッチ>の表示灯が点灯し、電動パーキングブレーキ警告灯〔(P)〕が、約2秒後に点灯します。
- オートブレーキホールド機能が作動しているときにシフトポジションを**P**にすると、パーキングブレーキがかかります。その他、オートブレーキホールドについては(●P.171)をお読みください。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を押します。
スイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されると電動パーキングブレーキ警告灯〔(P)〕が消灯します。

キが解除されると電動パーキングブレーキ警告灯〔(P)〕が消灯します。

- 電動パーキングブレーキは、<パワースイッチ>がONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションを**D**、**B**または**R**にし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯〔(P)〕が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、次の条件を満たしている必要があります。
 - ー 運転席ドアが閉まっている
 - ー 走行可能表示灯が点灯している
 - ー シフトポジションが**P**、**N**以外のとき

電動パーキングブレーキに関する注意事項

警告

- 車両を離れるときは、電動パーキングブレーキを掛けたと、シフトポジションを**P**に切り替える。

⚠ 警告

- 非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。

ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。

- 電動パーキングブレーキを掛けたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。

システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

🚗 アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPに入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。

- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音

が聞こえることがあります。これは異常ではありません。

- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキを掛ける必要があるときは、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き続けてください。ブレーキが掛かるとともにブザーが鳴り、電動パーキングブレーキ警告灯〔P〕が点灯し、電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告

（P.341）が表示されます。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。

- ＜パワースイッチ＞がOFFまたはACC状態のときに、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き上げると、スイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。

ACC状態については、オートACC機能（P.168）をお読みください。

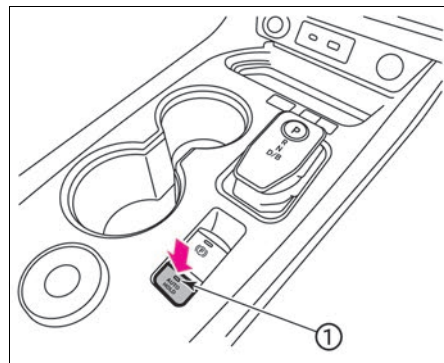
オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について

- オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

オートブレーキホールド機能の作動について



- オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、＜パワースイッチ＞をOFFにしても、その設定が維持されます。

オートブレーキホールド機能をONにする

- ＜パワースイッチ＞をONにし＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、スイッチの表示灯が点灯します。
- オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみに、オートブレーキホールド表示灯〔P〕（白色）が点灯し、待機状態になります。
 - （P.62）
 - ー 運転席のシートベルトを着用している
 - ー 電動パーキングブレーキが解除されている
 - ー シフトポジションがP以外にある
 - ー 急な坂道の途中に停車していない

運転する

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。

また、ブレーキ力が保持されている状態で、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、必ずブレーキペダルを踏みながら＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押します。

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（オートブレーキホールド表示灯〔〕が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯〔〕が緑色に点灯します。（P.62）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、オートブレーキホールド表示灯〔〕が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

- 坂道では、オートブレーキホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- 急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。

オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

- オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。

ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

警告メッセージ（P.341）

- 次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。

- 洗車機を使用するとき
- 車両のけん引時
- 過積載のとき

- 次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキを確実にかけているか確認する。

車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。

- 駐車するとき
- 人が乗降するとき
- 荷物の積み下ろしをするとき

- VDC警告灯〔〕

（P.332）、ブレーキシステム警告灯（黄色）〔〕〕

（P.331）、電動パーキングブレーキ警告灯〔〕〕

（P.330）、またはマスターウォーニング〔〕〕

（P.337）が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ

（P.342）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。

- オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押す。

急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。

- ブレーキペダルから足を離す前に、オートブレーキホールド表示灯〔〕（緑色）が点灯していることを確認する。

⚠ 注意

- オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯 [] (緑色) が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。

ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯 [] (緑色) は点灯しません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。

- 警告メッセージが表示されたとき
- <オートブレーキホールドスイッチ>を押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかる

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備

り、ブレーキ力が解除されます。
(オートブレーキホールド表示灯が消灯)

- オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき
- シフトポジションをDにしたとき
- <電動パーキングブレーキスイッチ>を引いたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- <パワースイッチ>をOFFにしたとき
- オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき

- ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

GPF (ガソリンパーティキュレートフィルター) ★

GPF (Gasoline Particulate Filter) は排気ガスに含まれるPM (Particulate Matter) を捕集し、自動的にPMを燃焼 (GPF再生) 処理する装置です。

年間を通じて走行距離が少なく、低速走行を主体に運転するとき

アドバイス

- GPFが詰まるのを防ぐため、次のことをお守りください。

- エンジンが通常の作動温度にならないような、短距離走行の繰り返しは避けてください。

- 定期的に60km/hを超える速度で長時間 (30分以上) 運転してください。

- GPFが飽和状態になるとアドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFメンテナンス表示 ( P.354) を表示します。

- GPFは通常は、捕集したPMを自動的に燃焼 (GPF再生) 処理しますが、走行条件により処理が完了しないとき、GPF内にPMが堆積することがあります。このとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFセルフクリーニング表示 ( P.353) を表示します。

- GPF再生中は、エンジン回転数が上昇し、エンジン音が大きくなる場合がありますが異常ではありません。

- クルーズコントロール★およびプロパイロット★作動中、アドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFセルフクリーニング表示が表示されると、制御がOFFになることがあります。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFメンテナンス表示が表示されたときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

故障警告灯 (MIL) も同時に点灯する場合があります。GPFメンテナンス表示が表示されたり、故障警告灯

運転する

(MIL) が点灯したりしているときに長時間運転すると、GPFを損傷する可能性があります。

- クルーズコントロール★およびプロパイロット★作動中、アドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFメンテナンス表示が表示されると、制御がOFFになります。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- 発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 停車中、シフトポジションがP、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。
クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキを掛け、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押して、走行可能表示灯が点灯していることを確認します。
 2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを車両後方に2段階スライドさせ、シフトポジションをDに切り替えます。
➡ セレクトレバーの操作 (P.169)
 3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。
➡ 電動パーキングブレーキの解除のしかた (P.170)
 4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。
- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト (➡ P.201) が作動します。
 - 緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動しない場合がありますが、自動的に車両の後退を抑制する機能が働き、一定の車速以上では後退しないように制御します。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

- e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

➡ e-Pedal Step (P.189)

- e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。
- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- 走行中はシフトポジションをNに切り替えない。
回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 上り坂では、クリープを利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションをDまたはBのまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障のおそれがあります。

アドバイス

- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

走行のしかた

- シフトポジションを**D**にしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 下り坂では、回生ブレーキ（ P.14）を併用して走行します。シフトポジションが**D**のときより**B**のほうが、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。
- リチウムイオンバッテリーが満充電になった場合は、回生で発電した電力を、発電用モーターでエンジンを作動させることで消費させます。その際にエンジン音が大きくなる場合がありますが、異常ではありません。
- 走行中にセレクトレバーにある⑨スイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます）

停車・駐車

停車・駐車の手続き事項

警告

- 駐車するときは、ガスライターなどに注意する。

操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- 停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが**P**、**N**以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車後に再発進するときは、シフトポジションの位置を目で確認してください。

- 換気の悪い場所では、e-POWERシステムを作動したままにしない。

排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- 車から離れるときは、必ずシフトポジションを**P**にして、e-POWERシステムを停止する。

e-POWERシステムが作動したまま、シフトポジションが**P**、**N**以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐車しない。

排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

- 長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるため注意する。

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。

停車・駐車の手続き事項

1. 停車するときは、シフトポジションは**D**または**B**のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

運転する

2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを掛けます。
➡ 電動パーキングブレーキのかけかた (P.170)
3. ブレーキペダルを踏んだままセレクタレバーにあるⓐスイッチのスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押します。
メーター内の走行可能表示灯が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

ランプをつける、ワイパーを使う

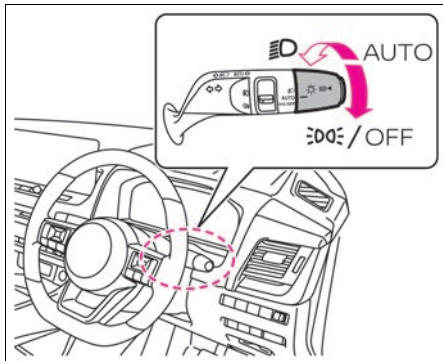
ライトスイッチ

ライトスイッチの注意事項

アドバイス

- 走行可能表示灯が点灯していないときは、長時間点灯させないください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた



スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
< D >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
< AUTO >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯・消灯します。

スイッチ位置

点灯するランプ

< D / OFF >

(< D / OFF > の位置にしても手を離すと自動で < AUTO > の位置に戻ります)

停車時に < D / OFF > の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
 停車時に < D / OFF > の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。
 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはテールランプ表示灯 [D] が点灯します。
- ロービームが点灯しているときはヘッドランプ下向き表示灯 [D] が点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [オペレーションガイド] ⇒ [ライト] を選択すると、ライトスイッチを動かしたときにメーターに表示する機能の ON・OFF を切り替えることができます。
 設定の詳細については、画面カスタマイズ (P.93) または (P.64) をお読みください。
- 通常時は < AUTO > の位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したまま走行可能表示灯が点灯時に < パワースイッチ > を OFF にすると、12Vバッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。

- < パワースイッチ > を ON にする
- ライトスイッチを操作する (約5分後にランプは再度消灯します)

オートレベライザー★

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するシステムです。

ヘッドランプ消し忘れ警報

- < パワースイッチ > が ON 以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴ります。
 - ライトスイッチが < D > の位置にあるとき
 - ライトスイッチを < D / OFF > の位置に回して、テールランプ表示灯 [D] が点灯しているとき

< D > の使いかた

- ライトスイッチを < D > の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

AUTO (自動点灯・消灯) の使いかた

- < パワースイッチ > が OFF のときは消灯します。
- < パワースイッチ > が ON のときは次のように作動します。

ランプをつける、ワイパーを使う

周囲が明るいとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

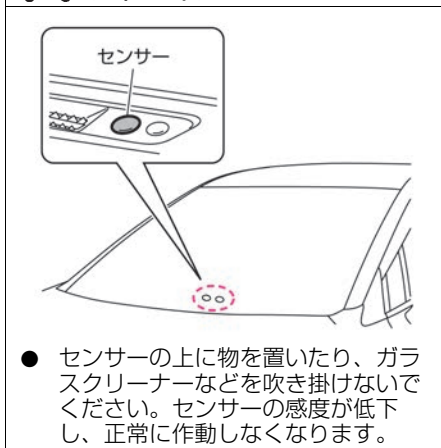
周囲が暗いとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

■ フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [車両設定] ⇒ [ライト/照明] ⇒ [オートライト感度調整] を選択すると、インテリジェントオートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度調整ができます。設定の詳細については、車両設定（ P.90）または（ P.64）をお読みください。

アドバイス



< > の使いかた

- ライトスイッチは<  > の位置に回しても手を離すと自動で< AUTO > の位置に戻ります。

- ライトの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを< > の位置に回したとき

- 停車時にライトスイッチを<  > の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- 停車時にライトスイッチを<  > の位置に回しても、走行すると周囲の明るさ、ワイパー作動に応じてヘッドランプが自動点灯します。

- 走行中にライトスイッチを<  > の位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。周囲が暗いとき、またはワイパーが作動してヘッドランプが点灯しているときは、ライトスイッチを<  > の位置に回しても、点灯しているヘッドランプを消灯できません。（ヘッドランプは停車時のみ消灯可能です）

ライトスイッチを< > の位置に回して1秒以上保持したとき

- 停車時にライトスイッチを<  > の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。
- 停車時にライトスイッチを<  > の位置に回して1秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いとき、またはワイパーが作動しているときは、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- 走行中にライトスイッチを<  > の位置に回して1秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。

- 再度ライトスイッチを<  > の位置に回す
- <  > の位置にしてから< AUTO > の位置にする

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

- 自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

ランプをつける、ワイパーを使う

ヘッドランプの消灯方法

- ライトスイッチを<IDLE/OFF>の位置に回すと、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

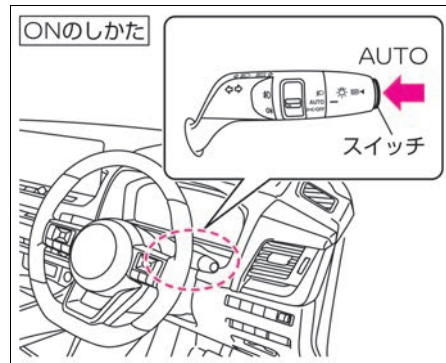
- ライトスイッチを<IDLE/OFF>の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

ハイビームアシスト★

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

ハイビームアシストの操作方法



- ライトスイッチが<AUTO>の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、ハイビームアシストが

ONになります。（ハイビームアシスト表示灯 [E] が点灯）

- ライトスイッチが<AUTO>の位置でもう一度スイッチを押すと、ハイビームアシストがOFFになります。

🚗 アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯 [E] が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

🔍 ハイビームアシスト表示灯 (P.62)

📖 知識

- 次のいずれかの操作をすると、ハイビームアシストがOFFになります。

ハイビームのとき

- ライトスイッチを<AUTO>の位置以外にする
- ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）
- ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

ロービームのとき

- ライトスイッチを<AUTO>の位置以外にする
- ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

■ ハイビームとロービームの切り替え制御

- 次のような原因で、ハイビームとロービームの切り替わるタイミングが変化することがあります。
 - 対向車または先行車のランプの明るさ
 - 対向車または先行車の向きや動き
 - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
 - 対向車または先行車が二輪車
 - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
 - 乗車している人数や荷物の量
- ハイビームアシストがONでハイビームのとき、ヘッドランプ上向き表示灯 [E] が点灯します。
ヘッドランプ上向き表示灯 (P.61)
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

■ マルチセンシングフロントカメラについて

フロントガラス上部に、ハイビームアシストの制御に必要な周囲の状況を検知するためのカメラがあります。

ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- カメラの周辺にアクセサリやステッカーなどを取り付けしないでください。
- カメラのレンズには触れないでください。

ランプをつける、ワイパーを使う

- カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。
- ➡ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.389)

ハイビームアシスト★の注意事項

⚠ 警告

● システムを過信しない。

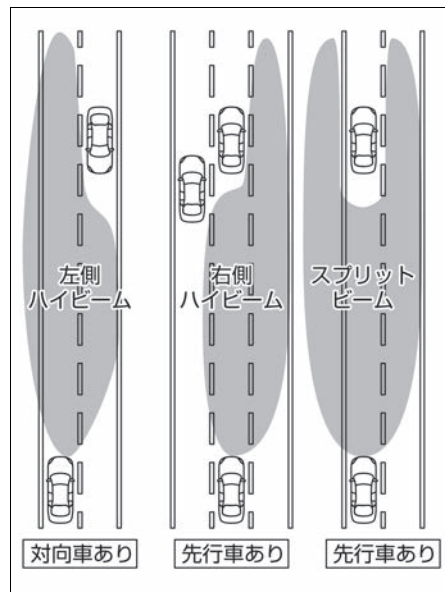
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

● 次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。

- 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
- カメラの向きがずれているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
- 対向車または先行車が無灯火のとき
- 対向車のヘッドランプが破損または汚れていた、光軸がずれているとき

- 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
- 歩行者など光を発しないものとき
- 明るさの急激な変化が連続しているとき
- 段差や起伏のある道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アダプティブLEDヘッドライトシステム★

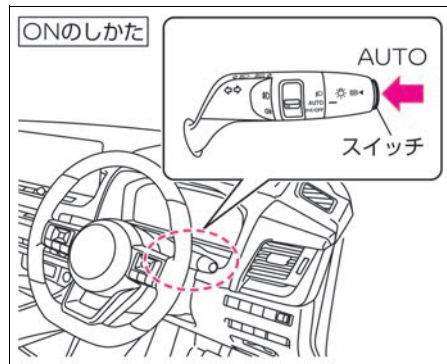


先行車や対向車に照射しないよう、自動的にハイビーム（上向き）の照射範囲を切り替えます。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

ランプをつける、ワイパーを使う

■ アダプティブLEDヘッドライトシステムの操作方法



- ライトスイッチが<AUTO>の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがONになります。(アダプティブLEDヘッドライト表示灯 [≡A] が点灯)
- ライトスイッチが<AUTO>の位置でもう一度スイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [オペレーションガイダンス] ⇒ [アダプティブヘッドライト]を選択すると、ライトスイッチが<AUTO>の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示す

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備

る機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ (P.64) をお読みください。

■ アダプティブLEDヘッドライトシステムをOFFにする方法

📖 知識

- 次のいずれかの操作をすると、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御中のとき

- ー ライトスイッチを<AUTO>の位置以外にする
- ー ライトスイッチを車両前方に押す (ハイビームに切り替わります)
- ー ライトスイッチを車両後方に引く (ロービームに切り替わります)

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御していないとき

- ー ライトスイッチを<AUTO>の位置以外にする
- ー ライトスイッチを車両前方に押す (ハイビームに切り替わります)

アダプティブLEDヘッドライトシステムの注意事項

⚠ 警告

- システムを過信しない。

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

- 次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。

- ー 悪天候のとき (雨、霧、雪など)
- ー 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ー カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
- ー カメラの向きがずれているとき
- ー 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
- ー 対向車または先行車が無灯火のとき
- ー 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
- ー 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
- ー 歩行者など光を発しないものとき

ランプをつける、ワイパーを使う

警告

- 明るさの急激な変化が連続しているとき
- 段差や起伏のある道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しなかったり、作動中にメーター内にアダプティブLEDヘッドライト表示灯 [E] が点灯しなかったりしたときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。
アダプティブLEDヘッドライト表示灯 (P.62)
- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、(P.389)をお読みください。

照射範囲切り替え制御

- 次のような原因で、照射範囲の切り替わるタイミングが変化することがあります。
 - 対向車または先行車のランプの明るさ
 - 対向車または先行車の向きや動き
 - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
 - 対向車または先行車が二輪車
 - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
 - 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯することがあります。（ハイビームの一部が点灯しているため）

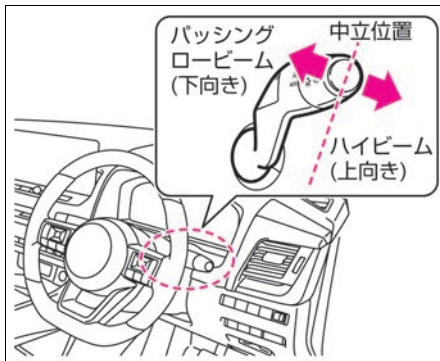
ヘッドランプ上向き表示灯 (P.61)

- アダプティブLEDヘッドライトシステムがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。（アダプティブLEDヘッドライトシステムはONを維持）
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。



ライトスイッチが<O>の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻りたいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチが<AUTO>の位置のとき

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すとハイビームに切り替わります。

ランプをつける、ワイパーを使う

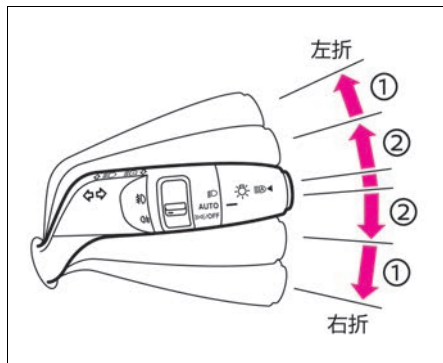
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドランプ上向き表示灯 [≡○] が点灯します。
- ハイビームアシストまたはアダプティブLEDヘッドライトシステムがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた



アドバイス

- 方向指示器のランプと方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、日産販売会社で点検を受けてください。



<パワースイッチ>がONのとき使えます。

- 右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
また、スイッチ②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離れたときは3回点滅し消灯します。(コンフォートフラッシャー機能)

その他の機能について

- ウェルカムライト機能 (フェアウェル機能付)
- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。(施錠時約10秒、解錠時約30秒)

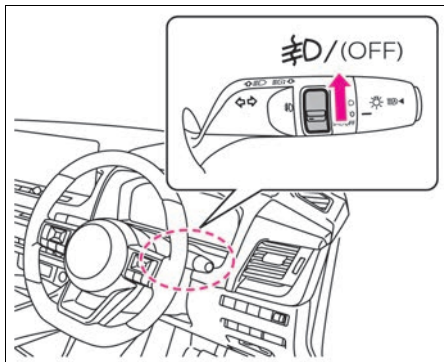
- ドアが施錠された状態でキー (インテリジェントキー) を携帯して車両に近づいたり、離れたったりしたときも車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。(ドアを解錠せず、複数回近づいたり離れたったりした場合、誤作動防止のため点灯しない場合があります。)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [ライト/照明] ⇒ [ウェルカムヘッドライト] を選択すると、ウェルカムライト機能 (フェアウェル機能付) の設定を変更することができます。設定の詳細については、車両設定 (🔍 P.90) または (🔍 P.64) をお読みください。

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用します。

ランプをつける、ワイパーを使う

フォグランプの使いかた★

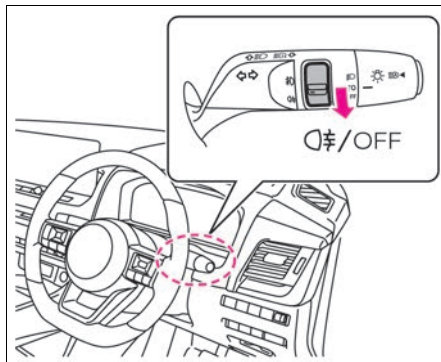


- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチをく 霧D > の位置に合わせます。
(リヤフォグランプ付車は、スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります)
- 消灯するときは、スイッチを元の位置に戻します。
(リヤフォグランプ付車は、再度操作します)
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯 [霧D] が点灯します。

リヤフォグランプの使いかた★

🚗 アドバイス

- 降雪時には雪が積もる場合があるため、こまめにリヤフォグランプの雪を取り除いてください。



- ヘッドランプまたはフォグランプ★が点灯しているときに使用できます。
- スイッチをく 霧R > の位置に合わせます。
(スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります)
- 消灯するときは、スイッチを再度操作します。
- リヤフォグランプが点灯しているときは、リヤフォグランプ表示灯 [霧R] が点灯します。

リヤフォグランプの注意事項

⚠ 警告

- 晴天時は使用しない。
後続車の視界を悪くするおそれがあります。

⚠ 注意

- リヤフォグランプは霧、雨、雪などの視界が悪いときに使用する。

ヘッドランプレベライザースイッチ★

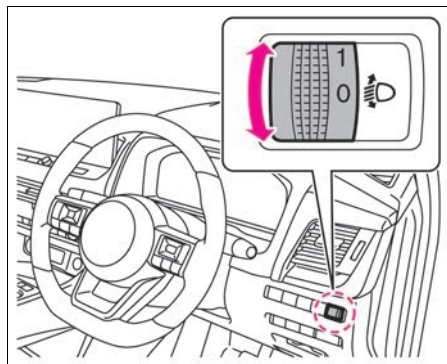
ヘッドランプの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドランプレベライザースイッチの使いかた

🚗 アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

ランプをつける、ワイパーを使う



ヘッドランプが下向きとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

2列車

乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置	
運転席のみ	積載なし	0	
フロントシート2名		0	
5名		1	
運転席のみ	満載	2	
		3	

3列車

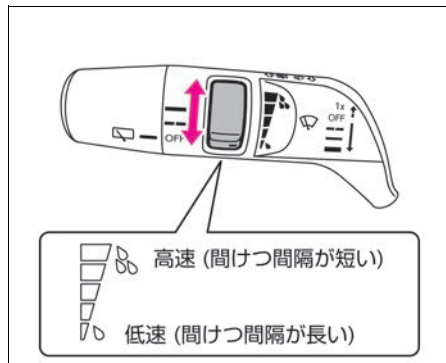
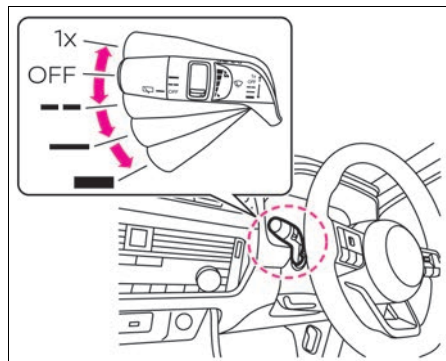
乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置	
運転席のみ	積載なし	0	
フロントシート2名		0	
フロントシート2名 +サードシート2名		1	
7名		2WD車 : 1	e-4ORCE (4WD) 車 : 2
運転席のみ	満載	2	
		3	

ランプをつける、ワイパーを使う

ワイパー・ウォッシャースイッチ

<パワースイッチ>がONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた



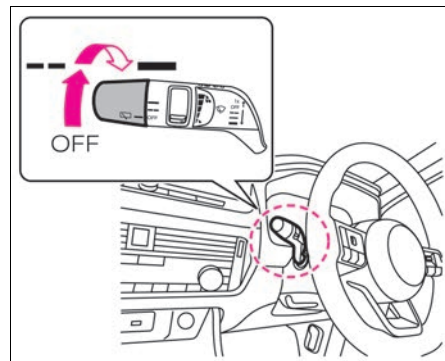
- スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
< 1x >	スイッチを上げている間作動します。 手を離すと自動的にOFFに戻ります。
< OFF >	停止します。
< -- >	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
< — >	低速で連続して作動します。
< — >	高速で連続して作動します。

- スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。
- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- インテリジェントオートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮感知「おもしろライト」機能付）は、ライトスイッチが<AUTO>の位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドランプが点灯します。
➡ AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.177)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [オペレーションガイド] ⇒ [ワイパー] ⇒ [フロント] を選択すると、ワイパースイッチを動か

したときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ (➡ P.93) または (➡ P.64) をお読みください。

リヤワイパーの使いかた



スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
< OFF >	停止します。
< -- >	間けつで作動します。
< — >	低速で連続して作動します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [画面カスタマイズ] ⇒ [オペレーションガイド] ⇒ [ワイパー] ⇒ [リア] を選

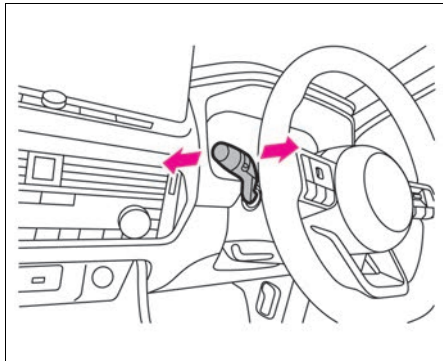
ランプをつける、ワイパーを使う

抑えると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、画面カスタマイズ(➡P.64)または(➡P.93)をお読みください。

■ リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にシフトポジションを**R**に切り替えると、リヤワイパーが作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [ワイパー] ⇒ [リバース連動]を選択すると、リバース連動機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、車両設定(➡P.90)または(➡P.64)をお読みください。

ウォッシャーの使いかた



■ フロントウォッシャー

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間は作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ リヤウォッシャー

- スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- 寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。

寒冷時は、ガラスに吹き付けられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- 雪が降りそうときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチを<OFF>にして障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで(約1分間)待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。

ランプをつける、ワイパーを使う

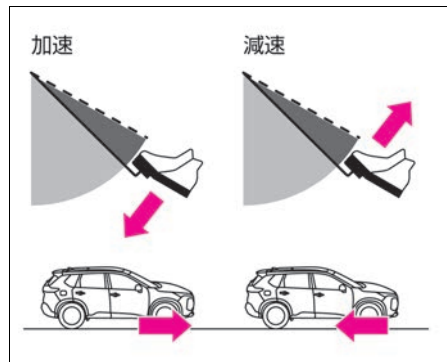
アドバイス

- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷付けるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

e-Pedal Step

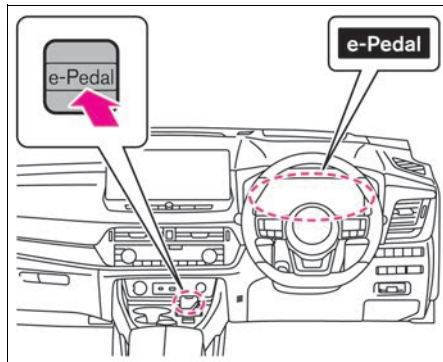
アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

e-Pedal Stepについて



- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。

e-Pedal Stepの使いかた



- <パワースイッチ>がONのとき、<e-Pedal>スイッチを操作することによりON・OFFが切り替わります。（メーター内のe-Pedalインジケーターに状態を表示します。）
- ➡ e-Pedalインジケーター（P.53）
- 一度<パワースイッチ>をOFFにしてからe-POWERシステムを再始動すると、e-Pedal StepはOFFになります。

e-Pedal Stepの作動について

- アクセルペダルを離したときの減速度がガソリン車より強いいため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。

- アクセルペダルを離した際、発生する減速度、およびブレーキペダルの操作状態に応じて制動灯が点灯します。
- 車速によって最大減速度が変わります。極低速は回生ブレーキを作動させずクリープ現象が発生します。停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- e-Pedal StepがONのときも、ブレーキペダルを使用することができます。
- 後退時はe-Pedal Step OFFと同じ特性になります。

e-Pedal Stepに関する注意事項

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
走行・道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。
- メーターに【e-Pedalシステム異常減速、停車する際はブレーキを踏んでください】と警告メッセージ（➡P.349）が表示されたときは、e-Pedal Stepが故障しているため、ただちに日産販売会社で点検を受ける。
- 極低速は回生ブレーキを作動させずe-Pedal Step OFF同様のクリープ現象が発生します。
停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 警告

- 減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。

車両が動きだしたり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。

- 過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。
- けん引中は、**e-Pedal Step**をOFFにする。

- e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なります。e-Pedal StepのON・OFFをメーターで確認してください。
- e-Pedal StepがONのとき、シフトポジションを**D**から**B**または、**B**から**D**に切り替えてもe-Pedal Stepの特性は変わりません。
- シフトポジションが**P**、**N**のときは、e-Pedal Stepは作動しません。
- 運転支援機能が作動しているときは、運転支援機能が優先されます。
- 減速によってブレーキペダルが動いたりe-Pedal Stepが作動しているときに作動音が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブモードセクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

ドライブモードセクターの注意事項

⚠ 注意

- 走行中に<ドライブモードセクター>や画面を注視しない。
前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

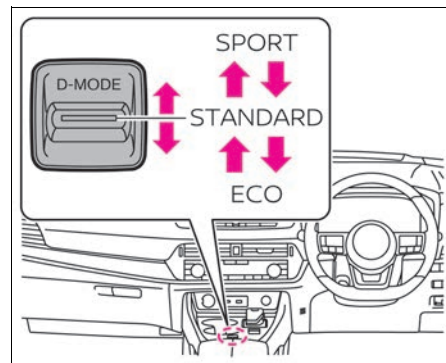
モードの切り替えかた

🚗 アドバイス

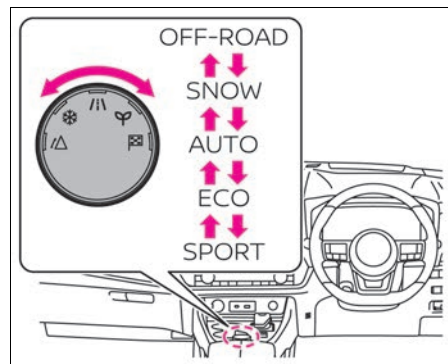
- <ドライブモードセクター>を操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
- <パワースイッチ>がONのとき、<ドライブモードセクター>を操作すると、選択可能なドライブモードがアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。

- モードの設定は、<パワースイッチ>をONにするたびに次のように変更されます。
ECOモードで<パワースイッチ>をOFFにしたとき：ECOモード
ECOモード以外で<パワースイッチ>をOFFにしたとき：STANDARD (AUTO) モード

■ 2WD車



■ e-4ORCE (4WD) 車



ドライブモードについて

■ 2WD車

ドライブモード	特徴
SPORT	より力強いスポーティな走行に適するモード ● アクセルペダル踏み込みに対する加速レスポンスを高めて加速性能を向上させ、力強い走りができる ● アクセルペダルオフ時に、回生ブレーキを強めており、微量な加減速コントロールによって、車両姿勢変化を作りやすい ● ステアリングの操舵力が重めになり、コーナリング中にしっかりとした手応えを与え、スポーティドライブを楽しむ
STANDARD	EV車のようなスムーズな加速性能と燃費を両立する通常走行に最適なモード ● モーター駆動特有の滑らかでレスポンスのよい力強い加速と、快適な乗り味をバランスよく楽しめるモード

ドライブモード	特徴
ECO	燃費の向上を重視するモード ● 穏やかな加速性能により、エネルギー消費を抑えられるモード ● アクセルペダルOFF時の回生ブレーキを強めて、多くのエネルギーを回収できる。また、フットブレーキの踏み変え頻度を低減し、運転ストレスを軽減させる

■ e-4ORCE (4WD) 車

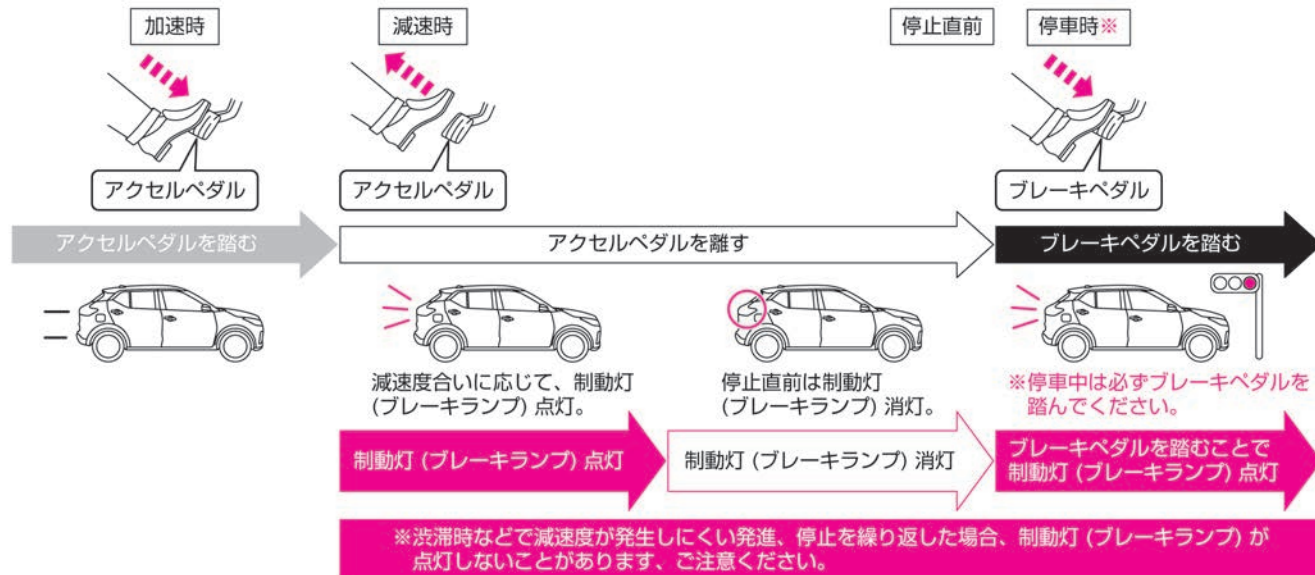
ドライブモード	特徴
OFF-ROAD	凹凸や段差のある未舗装路や登坂、砂地での発進や走行を容易にするモード ● 滑りやすい路面やぬかるみでも、スリップが少なく発進し、力強く走ることができる

ドライブモード	特徴
	モーターのきめ細かな制御と前後駆動力配分により、雪道や凍結路面での発進や走行を容易にするモード ● モーターのきめ細かな制御により、滑りやすい路面でも、スリップを抑えて、気を使うことなく発進できる ● 前後モーターの力強い加速でスタックを防ぎ、深雪でも走破できる ● 最適な前後駆動配分により、滑りやすい路面でも思い通りに走行できる
	EV車のようなスムーズな加速性能と燃費を両立する通常走行に最適なモード ● モーター駆動特有の滑らかでレスポンスのよい力強い加速と、快適な乗り味をバランスよく楽しめるモード

ドライブモード	特徴
	燃費の向上を重視するモード ● 穏やかな加速性能により、エネルギー消費を抑えられるモード ● アクセルペダルOFF時の回生ブレーキを強めて、多くのエネルギーを回収できる。また、フットブレーキの踏み変え頻度を低減し、運転ストレスを軽減させる
	より力強いスポーティな走行に適するモード ● アクセルペダル踏み込みに対する加速レスポンスを高めて加速性能を向上させ、力強い走りができる ● アクセルペダルオフ時に、回生ブレーキを強めており、微量な加減速コントロールによって、車両姿勢変化を作りやすい ● ステアリングの操舵力が重めになり、コーナリング中にしっかりとした手応えを与え、スポーティドライブを楽しめる

アクセルOFF時の制動灯（ブレーキランプ）について

アクセルペダルを離した際、発生する減速度合いに応じて制動灯（ブレーキランプ）を点灯させて、停止直前に消灯します。停車中はブレーキペダルを踏むことで、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。



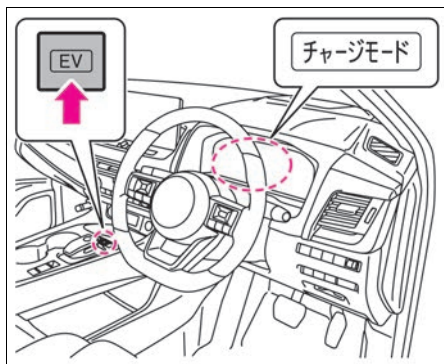
チャージモード

<EVモードスイッチ>を押し続けると強制的にエンジンを始動し、リチウムイオンバッテリーの充電を行います。マナー（EV）モードによる走行距離を長くしたいとき、あらかじめリチウムイオンバッテリーを充電するモードです。

チャージモードの使いかた

アドバイス

システムに異常が発生したときは、自動的にチャージモードが解除されます。



- 走行可能表示灯が点灯しているとき、<EVモードスイッチ>を押し続けるたびにチャージモードのON・OFFが切り替わります。
- マナー（EV）モード中に<EVモードスイッチ>を押し続けると、チャージモードに切り替わります。

- ONにするとメーター内に「チャージモード」インジケーターが点灯します。
- チャージモードを使用すると、エンジンで発電するため燃費が悪化します。
- チャージモードでは、リチウムイオンバッテリー残量が満充電近くまで充電されます。またチャージモード作動中でも、エンジンが始動しないこともあります。
- チャージモード中でも、急加速、上り坂など走行負荷が高いときは、充電ができない場合があります。
- システムの状態によっては、充電時間が長くなることがあります。
- 外気温が低いときは、充電時間が長くなることがあります。
- 駐停車中にチャージモードを使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。

チャージモードを使用できない、または解除されるとき

- チャージモード中でも、リチウムイオンバッテリーを保護するために一時的に発電を停止することがあります。
- シフトポジションがPのときにアクセルを操作すると、チャージモードを解除します。
- 外気温が低いときは、チャージモードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、チャージモードを

使用できない、またはチャージモードを解除します。

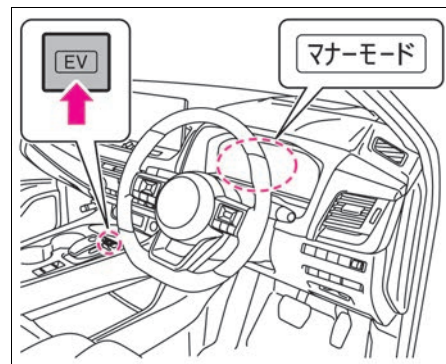
マナー（EV）モード

<EVモードスイッチ>を押すと、エンジンの始動を極力抑えて走行することができます。リチウムイオンバッテリーの電力だけで走行するため、早朝や深夜の住宅街など、静かに走行したいときに使用するモードです。

マナー（EV）モードの使いかた

アドバイス

- システムに異常が発生したときは、自動的にマナー（EV）モードが解除されます。



- 走行可能表示灯が点灯しているとき、<EVモードスイッチ>を押すたびにマナー（EV）モードのON・OFFが切り替わります。

- チャージモード中に＜EVモードスイッチ＞を押すと、マナー（EV）モードに切り替わります。
- ONにするとメーター内に「マナーモード」インジケーターが点灯します。
- チャージモードをONにしてリチウムイオンバッテリー残量を増やしておく、バッテリー電力だけで走行できる距離が長くなります。
- 外気温が低いときはエンジンが始動することがありますが、エンジンが始動する前にマナー（EV）モードをONにすると、エンジンの始動が抑えられてバッテリー電力だけの走行が可能です。

マナーモードを使用できない、または解除されるとき

- 急加速や上り坂などでアクセルを強く踏み込んだ場合、エンジンを始動し、マナー（EV）モードが解除されます。
- 長い下り坂での回生ブレーキによりリチウムイオンバッテリー残量の上限まで充電されると、リチウムイオンバッテリー保護のためマナー（EV）モードが解除されます。
- シフトポジションがPのときにアクセルを操作すると、エンジンが始動しマナー（EV）モードが解除されます。
- リチウムイオンバッテリー残量が少ないときはマナー（EV）モードを使用できない、またはマナー（EV）モードが解除されます。
- システムが強制充電を必要と判断した場合、マナー（EV）モードを解除しエンジンを始動します。

- システムが暖機が必要と判断した場合、エンジンを始動し、マナー（EV）モードが解除されます。
- フロントガラスの＜デフロスタースイッチ＞（P.361）を押すと、マナー（EV）モードを使用できない、またはマナー（EV）モードが解除されます。
- 外気温が低いときは、マナー（EV）モードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、強制的にエンジンが始動しマナー（EV）モードを使用できない、またはマナー（EV）モードが解除されます。

クルーズコントロール★

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度（約40km/h以上）で走行できるシステムです。

プロパイロット（ナビリンク機能付）付車には、クルーズコントロールと同様の機能である定速制御機能（P.211）があります。

システムに関連する表示とスイッチ

⚠ 警告

- クルーズコントロールを使用するときは、十分な車間距離をとる。

車間制御は行わないため、ブレーキ操作制御や警報は行われません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

● 次の状況では、クルーズコントロールを使用しない。

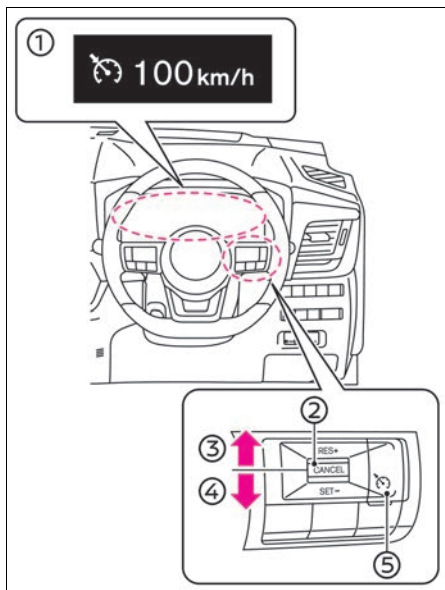
- 交通量の多い道や急カーブのある道
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
- 急な下り坂

● クルーズコントロールを使用しないときは、＜＞スイッチを必ずOFFにする。

誤ってセットされると事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- クルーズコントロール表示が点滅したときは、安全な場所に停車して、＜パワースイッチ＞を一旦OFFにし、再始動してから再度クルーズコントロールをセットしてください。点滅が続いたり、セットできないときは日産販売会社で点検を受けてください。



車両情報ディスプレイ

①クルーズコントロール表示

- クルーズコントロールをONにすると点灯します。セットすると設定した速度を表示します。

ステアリングスイッチ

②<CANCEL>スイッチ

- クルーズコントロールを解除します。

③<RES+>操作（上押し）

- 設定速度を上げます。
- クルーズコントロールを解除後、解除前の設定速度に再度セットします。

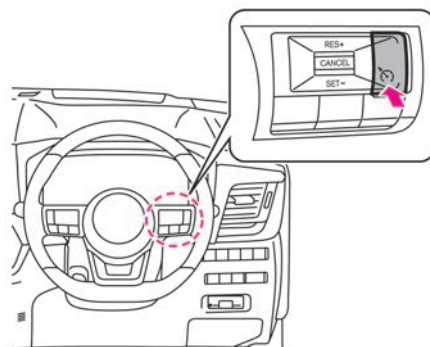
④<SET->操作（下押し）

- 設定速度を下げます。
- クルーズコントロールをセットします。

⑤<RES+>スイッチ

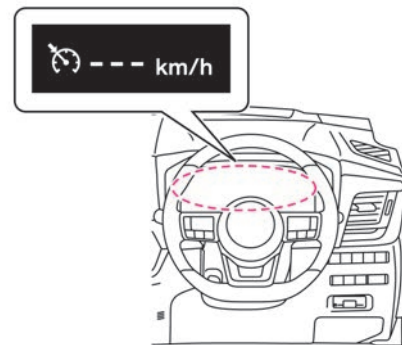
- クルーズコントロールのON・OFFができます。

定速走行のしかた

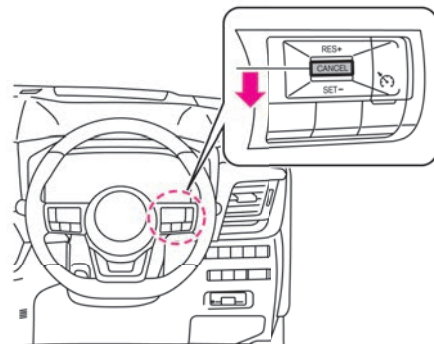


1. ハンドル右側にある<RES+>スイッチを押し、クルーズコントロールをONにします。

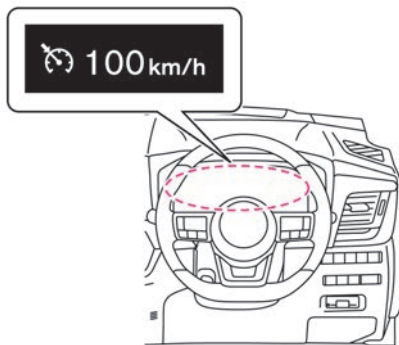
●定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。



2. アドバンスドドライブアシストディスプレイにクルーズコントロール表示が点灯していることを確認します。



3. 設定したい速度まで加速または減速し、<SET->方向に押します。



4. スイッチを離すと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示された速度で定速走行がセットされます。

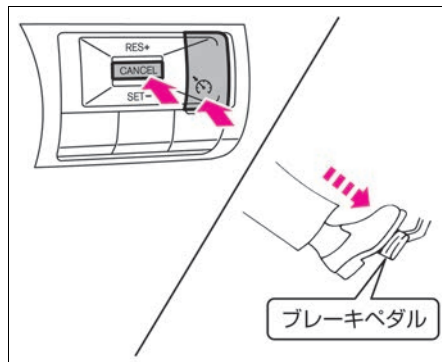
定速走行の解除のしかた

🚗 アドバイス

<CANCEL>スイッチで解除したとき
やブレーキペダルを踏んで解除したときは、セッティング状態になります。もう一度、定速走行にする場合は、再度<SET->方向に押します。(アドバンスドドライブアシストディスプレイにクルーズコントロール表示が再点灯)

- 次の場合は、解除されます。
 - ー 速度が30km/h以下になったとき
 - ー 設定速度より約13km/h以上速度が低下したとき
 - ー VDCが作動したとき
 - ー タイヤが空転したとき

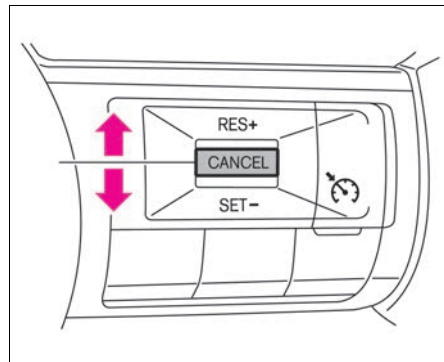
- ー セレクトレバーをNに入れたとき
- ー システムに異常があるとき



次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- <CANCEL>スイッチを押す
- <🚫>スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む

設定速度の変更のしかた



速度を上げる

- 定速走行中に<RES+>方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中に<SET->方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作でも設定速度を調節できます。アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で速度を調節し、設定したい速度で<SET->方向に押します。

e-4ORCE (4WD) 車★の扱い

e-4ORCEは、前後2つのモーターと4輪のブレーキを瞬間的に統合制御するシステムです。

運転支援機能

e-4ORCE (4WD) 車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。

e-4ORCE (4WD) 車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

⚠ 警告

- 4WD車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。
 - 渡河などの水中走行はしない
 - 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
 - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは次のことを必ずお守りください。
 - 河川などの水中走行はしない
 - 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
 - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルペダルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。
- e-4ORCE (4WD) 車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

走行のしかた

⚠ 警告

- 急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。
タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

- ドライブモードセレクターをOFF-ROADまたはSNOWモードに切り替えます。
- 路面の状態に合わせ慎重に走行します。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 50km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
 - ブレーキペダルから足を離したとき
 - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
- メーター内のABS警告灯 [(ⓘ)] (P.330) が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しない場合があります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすいシステムです。

ABSに関する注意事項

⚠ 警告

- カーブの手前では十分に減速する。
ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとる。**

ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によ

るものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- <パワースイッチ>をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、モータールーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
 - ー VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
 - ー トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、走行用モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。

ー ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキを掛けることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。

ー ABS機能：ABS（P.198）

- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

VDCの作動について

- VDCの作動と警告灯
 - ー VDCが作動しているときは、VDC警告灯 [] が点滅します。
 - ー トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯 [] が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっているため特に慎重に運転してください。
- 次の場合、VDC警告灯 [] が点灯することがあります。一度<パワースイッチ>をOFFにし、再度ONにするとVDC警告灯は消灯します。
 - ー 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
 - ー 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

VDCに関する注意事項

⚠ 警告

- 滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。

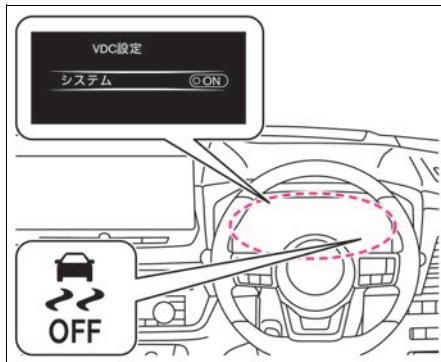
この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。

- 次の場合、VDC警告灯 [] が点灯し正常に作動しないことがあるため注意する。

- サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
- サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき

- VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。

VDCのON・OFFのしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [VDC設定] ⇒ [システム] を選択すると、VDC機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、VDC設定 (P.81) または (P.64) をお読みください。
- VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯 [] が点灯します。
- 再度、VDCを使用 (ON) するときは、もう一度アドバンスドドライブアシストディスプレイでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯 [] が消灯し、VDCがONになります。
- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏

み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはアドバンスドドライブアシストディスプレイでVDCを停止してください。

- VDC機能をOFFにすると、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。
(ABS機能およびブレーキLSD機能を除く)
- インテリジェントトレースコントロール (コーナリング安定性向上システム) (P.201)
- ブロパイロット (P.211)
- インテリジェントエマージェンシーブレーキ (P.227)
- 踏み間違い衝突防止アシスト (P.232)
- インテリジェントLI (車線逸脱防止支援システム) (P.247)
- インテリジェントBSI (後側方衝突防止支援システム) ★ (P.240)
- <パワースイッチ>をONにするたびに、VDCは自動的にONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- <パワースイッチ>をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、モータールーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

シャシー制御

シャシー制御には、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）があります。

⚠ 警告

- インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。
インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

🚗 アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御システム故障」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージ (P.342)

インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキ、駆動トルク（e-4ORCE（4WD）車）、前後駆動力配分（e-

4ORCE（4WD）車）を制御して、車両の挙動を滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

- インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）をOFFにしている場合、急ハンドル時などには作動する場合があります。
- VDCをOFFにすると、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。
ぬかるみや雪道から脱出するためにVDCをOFFにした場合でも、トラクションを確保するため前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムのは作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- <ドライブモードセレクト>のモード位置により、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は影響を受けます。
② ドライブモードセレクト (P.190)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [🔧] ⇒ [運転支援] ⇒ [シャシー制御] ⇒ [トレースコントロール] を選択すると、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）機能のON・OFFを切り替えることができます

す。（前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません）
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

② アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.64)

② 運転支援 (P.74)

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- ヒルスタートアシストの機能を過信しない。

凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキを掛けてください。

- 停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。

この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキを掛けてください。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションが **P**、**N** 以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- セレクトレバーを操作した直後はブレーキペダルを踏んだ状態で約1秒間待ってから発進してください。シフトポジションを **P** から **D** または **N** から **D** に操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。
- VDC警告灯 [] (➡ P.332) が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）★

アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）は、急な下り坂や滑りやすい路面を下るとき、一定の走行を補助するシステムです。

アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）の機能について

⚠ 警告

- アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）の機能を過信しない。

極端に急な下り坂、凍結路、泥状の下り坂では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の速度を保持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）は、回生ブレーキだけでは十分な減速ができないような急な下り坂や、オフロードのような滑りやすい路面を下るとき、一定の低車速を保ち、下り坂での走行を補助するシステムです。
- システムが作動しているとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）の作動について

アドバイス

- 長時間連続使用するとシステム温度が上昇し、一時的に作動が停止します。このとき、アドバンスドヒルディセセントコントロール表示灯が点滅します。

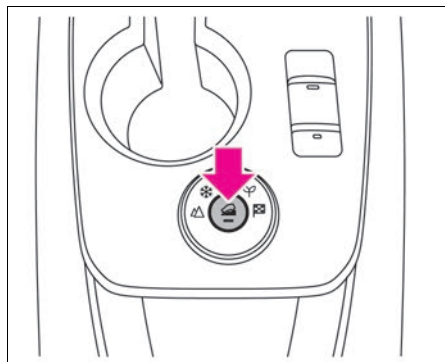
- VDC警告灯が点灯しているときは、アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）は作動しません。

- ドライブモードがOFF-ROADまたはSNOWのときに作動します。
➡ ドライブモードセクター (P.190)
 - アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）は、次の条件が満たされたときのみ作動することができます。
 - ー <アドバンスドヒルディセセントコントロール>スイッチを押してONにしている
 - ー セレクトレバーが **P** または **N** 以外に入っている
 - ー ドライブモードがOFF-ROADまたはSNOWになっている
 - ー 車速が約30km/h以下
 - ー アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき
- アドバンスドヒルディセセントコントロール（速度設定機能付）をONにしているとき、条件が満たされていないときはアドバンスドヒルディセセントコントロール表示灯 (➡ P.63) が点滅し、システムが作動しません。

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の使いかた

アドバイス

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は作動を停止します。ペダルから足を離すとシステムが再び作動するため、車速を調節することができます。
- <アドバンスドヒルディセントコントロール>スイッチをONにしても表示灯が点滅または点灯しないときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。



- スイッチを押すとアドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）がONになり、アドバンスドヒルディセ

ントコントロール表示灯が点灯または点滅します。

- アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯が点滅しているときは、作動条件を満たしていないためアドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）が作動しません。
- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）で走行しているときは、アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で車速を変更することができます。
- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）をOFFにするときは、もう一度スイッチを押します。

車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせるシステムです。

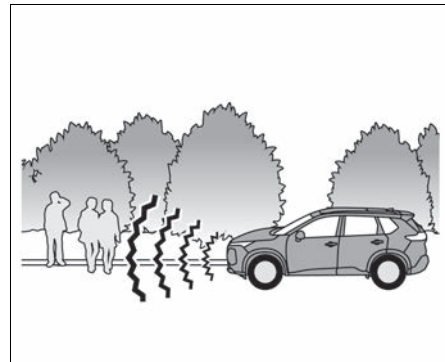
警告

- 車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。
車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションを**R**にし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

車両接近通報装置について

車両接近警報装置は、走行可能表示灯が点灯中にエンジンが停止していると、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションが**R**のとき



車両接近通報装置の故障について

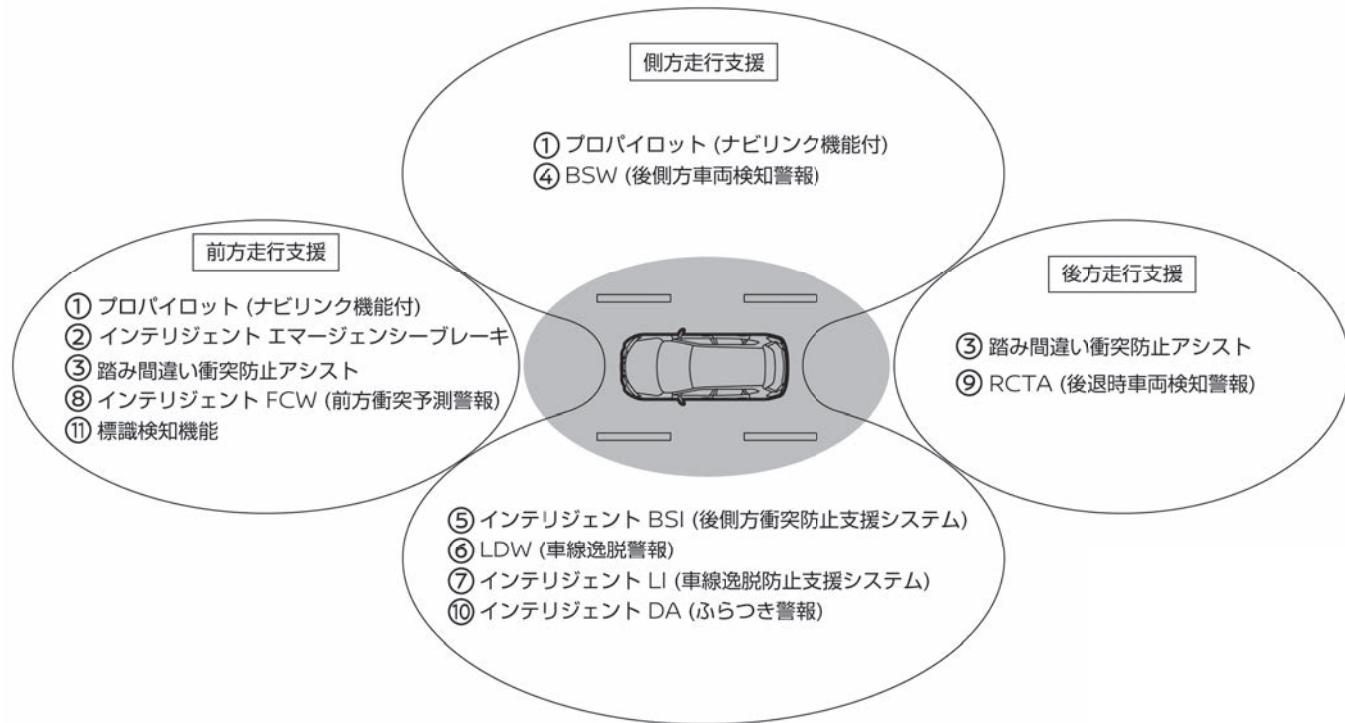
- システムに異常があると、メーター内の車両接近通報システム警告灯  が点灯します。
車両接近通報システム警告灯
(P.337)
- 次の条件がそろうとパワースイッチをOFFにし忘れることを防止するため、車両接近通報装置が作動します。
 - シフトポジションが**P**のとき
 - 走行可能表示灯が点灯しているとき
 - 運転席のシートベルトが非装着のとき

運転支援機能

- ー 運転席ドア、助手席ドアまたは後席ドアが開いているとき
- 車両接近通報装置の音を大きくしたい場合は、日産販売会社へご相談ください。音を小さくすることはできません。

走行支援機能

走行支援機能について



運転支援機能

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ (フロント)	ソナー	カメラ (アラウンドビュー モニター)
前方 側方	①	プロパイロット（ナビリンク機能付）★	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。 (👉P.211)	支援	○	○	○	—
前方	②	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。(👉P.227)	支援	○	○	—	—
前方 後方	③	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。(👉P.232)	支援	—	○※2	○	○※3
前方	⑧	インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。(👉P.251)	警報	○	—	—	—
	⑪	標識検知機能	運転者に車両進入禁止標識があることを知らせます。(👉P.259)		—	○	—	—

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ (フロント)	ソナー	カメラ (アラウンド ビュー モニター)
側方	⑤	インテリジェントBSI (後側方衝突防止支援システム) ★	隣車線に車両がいる時に車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。 (👉 P.244)	支援	○	○	—	—
	⑦	インテリジェントLI (車線逸脱防止支援システム)	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。(👉 P.247)		—	○	—	—
	④	BSW (後側方車両検知警報) ★	車線変更時、隣車線に車両がいる場合に警報します。(👉 P.239)	警報	○	—	—	—
	⑥	LDW (車線逸脱警報)	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。(👉 P.247)		—	○	—	—
	⑩	インテリジェントDA (ふらつき警報)	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。(👉 P.257)		—	—	—	—
後方	⑨	RCTA (後退時車両検知警報) ★	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。(👉 P.254)	警報	○	—	—	—

※1：レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意に従って、お手入れをお願いします。適切なお手入れを行わないと、システムが正常に作動しないおそれがあります。(👉 レーダーセンサーの取り扱い (P.388))、(👉 マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.389))、(👉 ソナーの取り扱い (P.390))、(👉 フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い (P.389))、(👉 リヤビューカメラの取り扱い (P.389))

※2：後方への支援には使用されません。

※3：後方への支援時にリヤビューカメラが使用されます。

走行支援機能

⚠ 警告

- 走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じハンドル、ブレーキ、アクセルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.209)

➡ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)

➡ ソナーの検知条件と制限 (P.211)

フロントガラスに装備されたマルチセンシングフロントカメラ、フロントグリルおよびリヤバンパーに装備されたレーダーセンサー、フロントバンパーおよびリヤバンパーに装備されたソナーセンサーで構成された、走行を支援するシステムです。

■ 作動させるためにスイッチ操作が不要な機能（メーターでのON設定が必要）

- インテリジェント エマージェンシーブレーキ
- 踏み間違い衝突防止アシスト
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
- BSW（後側方車両検知警報）★
- LDW（車線逸脱警報）
- RCTA（後退時車両検知警報）★
- インテリジェント DA（ふらつき警報）
- 標識検知機能

■ 作動させるために操作が必要な機能

- プロパイロット（ナビリンク機能付）★
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

走行支援機能の設定

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ 必要な機能を選択すると、ON・OFFを切り替えることができます。

機能名	設定できる機能
ハンドル支援★	ハンドル支援機能
側方支援	LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）
後側方支援★	BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
緊急支援	インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシスト
制限速度標識	最高速度標識検知
ルート減速支援★	プロパイロット（ナビリンク機能付）のルート減速支援機能
制限速度支援★	標識検知機能で検出した速度をプロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させる機能
制限速度支援設定★	標識検知機能で検出した速度を、プロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させるときのオフセット速度の設定を変更できる機能
道路標識	進入禁止標識検知／一時停止標識検知
駐車支援	移動物検知機能や、ソナー機能など
後退時車両検知警報★	RCTA（後退時車両検知警報）
ふらつき警報	インテリジェント DA（ふらつき警報）

レーダーセンサーの検知条件と制限

- レーダーセンサーは次のような障害物は検知できないことがあります。
 - － 歩行者、自転車、動物など
 - － 対向車
 - － 約30km/h以上の速度で通過する車両
 - － 約8km/h以下の速度で通過する車両
 - － 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のとき
- 次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
 - － 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - － 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - － 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - － 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
 - － トンネル内を走行しているとき
 - － 前方の車両がけん引を行っているとき
 - － 前方の車両との距離が極端に近いとき
 - － 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。
 - － 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき
 - － 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

- 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき
- 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限

- マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物を検知できないことがあります。
 - 子供などの背の低い人、動物、自転車
 - 対向車両
 - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）
- マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、以下のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
 - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
 - 前方を横切って通過する車両
 - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

- カメラ前方のフロントガラスのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れている、または光軸調整が適切に行われていないとき
- 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- カーブを走行しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
- 始動してから約15秒間
- カメラの向きがずれているとき
- マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状

を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。

- 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
- 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映りこむなど）
- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- 車高の低い車両
- 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両（二輪車など）
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

- マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
 - 複数の対象物同士が近接している場合
 - 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
 - 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

ソナーの検知条件と制限

- 次のような場合、ソナーは正しく検出できませんことがあります。
 - 人、動物などの動いているもの、特に人は衣服の種類によっても検出できません場合があります。
 - 背の低い障害物
 - 溝や穴など地面より低い場所
 - ボールなどの幅の狭い障害物
 - 針金、ロープ、チェーンなどの細い障害物
 - 金網、フェンス、ショッピングカートなどのすき間が多い障害物
 - 鋭角的な形の障害物
 - 壁などに配置されている配管などの障害物
 - 地面から高い位置に存在する障害物
 - 柱などで構成されている平面ではない障害物
 - スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
 - バンパーに非常に近い障害物
 - 急に進行方向に現れた障害物

- 急にソナーの検出範囲に飛び込んできた障害物
- 急に近づいてきた障害物
- 車両側方にある障害物
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めするとき
- ソナーセンサー部が凍結したり、雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着したりしているとき
- 車両姿勢が大きく傾いているとき
- 炎天下や寒冷時でセンサー周辺が著しく高温または低温のとき
- 凸凹道、坂道、砂利道、草むらを走行しているとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき

- 次のような場合、ソナーは検知することがあります。

- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 高さのあるゲート、狭いトンネル、料金所のバーなど
- マンホールやスピードバンプなど路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 勾配路

- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
- 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
- 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき

プロパイロット★

プロパイロット（ナビリンク機能付）は、高速道路や自動車専用道路を運転者が設定した車速を上限に、先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

プロパイロットに関する注意事項

- プロパイロット（ナビリンク機能付）は自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車両の状況に応じて確実にハンドル、アクセル、ブレーキを操作して、安全な運転を行う責任があります。

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**
は高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。

一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**
は同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。

対向車両、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両や、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**
は車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。

交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**
の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。

自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドル

を操作し、常に安全運転を心がけてください。

レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくはは、左側に引かれた線のことを示します。

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**
を解除せず降車しないでください。
車両を停止し続ける能力をもっていません。降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、セレクトレバーにあるⓈスイッチを押してシフトポジションをPに切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。

- 次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

- － 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
- － 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- － 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
- － 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
- － 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
- － 料金所を通るとき
- － タイヤの空気圧が適正ではないとき
- － 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- － 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき

- － フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- － マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき
- － マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき
- － サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- － レーダー、カメラ、ソナー、GPSアンテナの視界を妨げるものを取り付けたとき
- － 極端に重い荷物を積んでいるとき
- － けん引しているとき

- ナビゲーションの地図が古い場合は、プロパイロット（ナビリンク機能付）の機能が正しく作動しない場合があります。
プロパイロット（ナビリンク機能付）を使うときはあらかじめ地図の更新をするなど常に最新の地図を使用してください。
ナビゲーションの地図更新についてはナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

プロパイロットの機能

プロパイロット（ナビリンク機能付）には次の機能があります。

機能名	概要説明	参照先
車速・車間制御機能	● 先行車を検出していないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。 ● 先行車を検出しているときは、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。	➡ P.220
ルート減速支援機能	● 地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。	➡ P.222
制限速度支援機能	● 標識検知機能により検出した速度を、自動または手動で設定車速に反映することができます。	➡ P.223
ハンドル支援	● 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。	➡ P.225

システム構成

⚠ 警告

- プロパイロット（ナビリンク機能付）は次のような障害物に反応しません。
 - 歩行者、動物など
 - 落下物
 - 工事などで設置されるパイロンなど
 - 特殊な形状をした車両
- 次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。
 - 前方に急な割り込みがあったとき
 - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
 - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
 - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

- 次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができずハンドル支援が使用できないことがあります。
 - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
 - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
 - レーンマーカーが多重に描かれているとき
 - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
 - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
 - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
 - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
 - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
 - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
 - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
- トンネルの出入り口や日陰などに明るさの変化が起こったとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- フロントレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➡ レーダーセンサーの取り扱い
(P.388)

⚠ 警告

- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

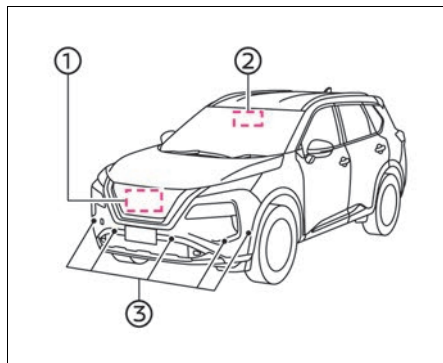
➡ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.389)

🚗 アドバイス

- プロパイロット（ナビリンク機能付）を正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびソナーセンサー周辺のお手入れを行ってください。

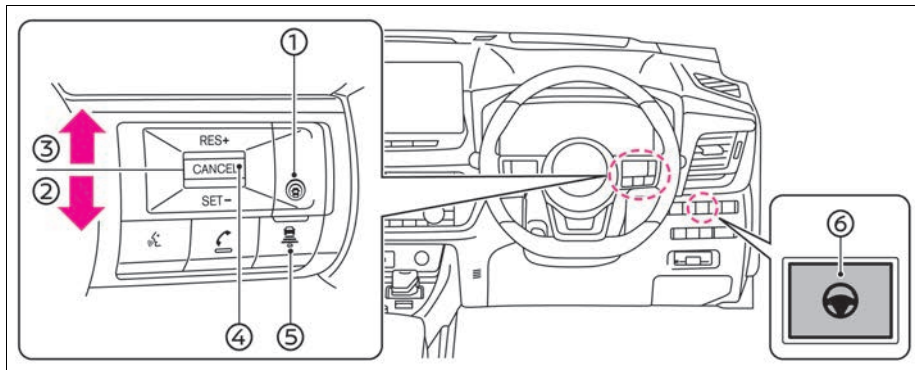
➡ 外装のお手入れ (P.385)

プロパイロット（ナビリンク機能付）は次のような部品で構成されています。



- ① フロントレーダーセンサー
前方の車両を検知し、インテリジェントクルーズコントロールに使用
- ② マルチセンシングフロントカメラ
車線のレーンマーカースを検知し、ハンドル支援に使用
- ③ ソナーセンサー
前方の車両を検知

プロパイロットに関連するスイッチ



- ① **プロパイロットスイッチ**
プロパイロット（ナビリンク機能付）のON・OFFができます。
- ② **SET-操作（下押し）**
＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロット（ナビリンク機能付）を開始できます。
設定車速を下げるができます。
- ③ **RES+操作（上押し）**
プロパイロット（ナビリンク機能付）を解除後、解除前の設定車速で再び開始することができます。
設定車速を上げるができます。
- ④ **CANCELスイッチ**
プロパイロット（ナビリンク機能付）の解除ができます。

- ⑤ **車間設定スイッチ**
車間距離を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。
- ⑥ **ハンドル支援スイッチ**
ハンドル支援のON・OFFができます。
●＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを同時に行います。

プロパイロットの使いかた

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を押します。（1.5秒未満）
 - プロパイロット（ナビリンク機能付）がONになります。
 - アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロット（ナビリンク機能付）の状態が表示されます。
(➡P.218)

知識

- ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し続けると定速制御機能に切り替わり、ハンドル支援を行いません。
2. ＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロット（ナビリンク機能付）を開始します。
 - 先行車を検出していない場合、運転者が設定した車速を維持するように制御します。または、制限速度支援機能★（➡P.223）やルート減速支援機能★（➡P.222）により車速が制御されます。
 - システムが起動した場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに作動状態が表示されます。（➡P.218）

■ 車間距離設定のしかた


警告

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）**は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。

先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

＜車間設定スイッチ＞を押すと、車間距離を設定できます。車両アイコン下のバーの本数で設定を表示します。

アイコン下のバーの本数	車間距離
3本	長
2本	中
1本	短

- 車間設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

■ 設定車速の変更のしかた

加速したいとき：

- 設定車速を上げたいときは、＜RES+＞方向に押します。

減速したいとき：

- 設定車速を下げたいときは＜SET-＞方向に押します。

設定車速が5km/hきざみで変更できます。スイッチを押し続けると設定車速が5km/hずつ連続して変わります。希望の速度でスイッチを離してください。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき


警告

- **アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。**

通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

- ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。
- アクセルペダルを踏んで加速したときなど、設定車速より実際の車速が高くなった場合は、設定車速表示が点滅します。
- アクセルペダルを離すと再び車速車間制御を行います。
- ブレーキペダルを踏むと減速します。（プロパイロット（ナビリンク機能付）は解除されます）
- 解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES+＞方向に押します。

■ ハンドル支援のON・OFFのしかた

スイッチでのON・OFFのしかた

- ＜ハンドル支援スイッチ＞を押すごとにハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。

メーターでのON・OFFの設定

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [ハンドル支援] を選択すると、ハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。
- ハンドル支援のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ プロパイロット（ナビリンク機能付）の解除のしかた


警告

- **プロパイロット（ナビリンク機能付）をOFFにせず降車しないでください。**

降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを作動させ、シフトポジションをPにしてください。

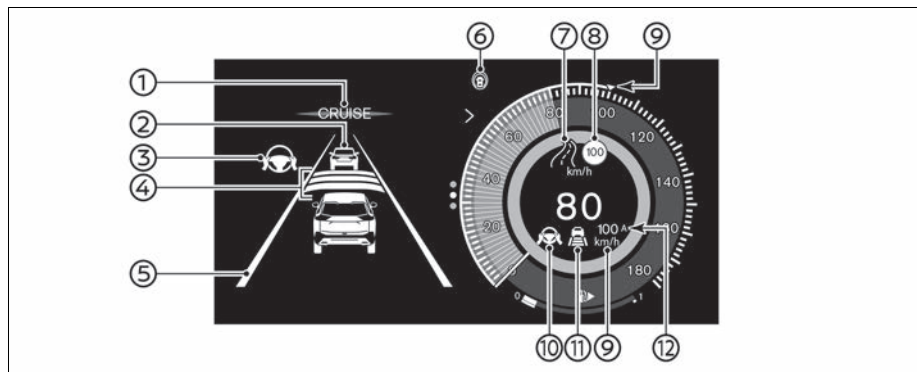
次のいずれかの操作でプロパイロット（ナビリンク機能付）が解除されます。

- ＜CANCEL＞スイッチを押す

運転支援機能

- ブレーキペダルを踏む（車速・車間制御機能により、自車が停止しているときを除く）
解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES+＞方向に押します。
車速・車間制御機能により自車が停止しているとき、システムを解除すると電動パーキングブレーキが作動します。

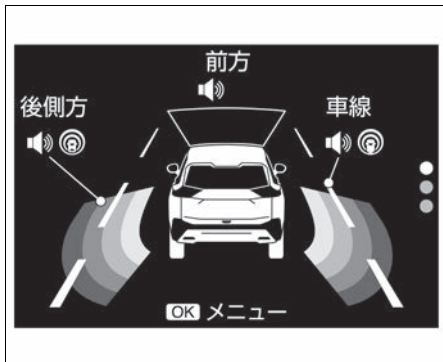
アドバンスドドライブアシストディスプレイ表示



- ① プロパイロット（ナビリンク機能付）作動表示
- ② 先行車検出表示
- ③ ハンドル支援作動灯
- ④ 車間設定表示
- ⑤ ハンドル支援作動表示
- ⑥ プロパイロット（ナビリンク機能付）作動灯
- ⑦ ルート減速支援表示★
- ⑧ 標識検知機能
- ⑨ 設定車速表示
- ⑩ ハンドル支援作動灯/警告灯
- ⑪ 車速・車間制御作動灯
- ⑫ 制限速度支援表示★

メーター表示項目		表示内容	
①	プロパイロット（ナビリンク機能付）作動状態	プロパイロット（ナビリンク機能付）作動中は青色に点灯	
②	先行車検出の有無	車両アイコン非表示 ⇒先行車検出無し	車両アイコン表示 ⇒先行車検出有り
③ ⑤	ハンドル支援の作動状態	灰色 ⇒ハンドル支援待機中	緑色 ⇒ハンドル支援中
④	車間設定表示	車間設定状態を表示	
⑥	プロパイロット（ナビリンク機能付）の作動状態	白色 ⇒プロパイロット（ナビリンク機能付）ON	青色 ⇒プロパイロット（ナビリンク機能付）作動開始
⑦	ルート減速支援表示	ルート減速作動時に表示	
⑧	標識検知表示	標識検知機能で検出した速度標識を表示	
⑨	設定車速表示	設定車速を表示	
⑩	ハンドル支援作動灯／警告灯	灰色⇒ハンドル支援待機中	黄色⇒車線維持機能（ハンドル支援）が故障状態
		赤色⇒ハンドルを離している状態（手放し警報のみ）	緑色⇒ハンドル支援中
⑪	車速・車間制御作動状態	車両アイコン非表示 ⇒先行車検出無し（定速制御中）	車両アイコン表示 ⇒先行車検出有り（定車間制御中）
		白色⇒プロパイロットON	緑色⇒プロパイロット作動開始
		黄色⇒プロパイロットが故障状態	
		車間距離の設定状況を表示	
⑫	制限速度支援表示	A：オートモード（自動）の作動状態 ↑：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも高い場合に表示 ↓：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも低い場合に表示	

運転支援ステータス画面



プロパイロット（ナビリンク機能付）を起動したあと、車速を設定する前に運転支援ステータス画面が表示されます。画面は、後側方、前方運転支援、および側方運転支援のステータスを表示します。運転支援設定で選択されている場合、＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、システムも作動状態になります。

- 運転支援ステータスを変更するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次のようにメニューを選択し、設定を変更してください。（➡P.209）
設定 [⚙️] ⇒ [運転支援]

運転支援機能をONに設定している場合の表示

範囲	運転支援機能名称	機能	表示
前方	インテリジェントエマージェンシーブレーキ	支援	[🔊]
	インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）	警報	
車線	LDW（車線逸脱警報）	警報	[🔊]
	インテリジェントLL（車線逸脱防止支援システム）	支援	[🛑]
後側方	BSW（後側方車両検知警報）	警報	[🔊]
	インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）	支援	[🛑]

[🔊]：警報機能がONになっている場合に表示

[🛑]：支援機能がONになっている場合に表示

[OFF]：どの機能もONになっていない場合に表示

車速・車間制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

インテリジェントクルーズコントロールは、プロパイロット（ナビリンク機能付）の機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➡P.216）やディスプレイの理解（➡P.218）を含め、プロパイロット（ナビリンク機能付）全体（➡P.211）をお読みください。

インテリジェントクルーズコントロールは、フロントレーダーセンサーを使用して制御します。

- 先行車を検出していない場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェントクルーズコントロールは停止した状態を保持します。

- 先行車がいなくなると設定車速まで加速します。
- 設定車速は設定車速表示を確認しながら変更してください。
- インテリジェントクルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

インテリジェントクルーズコントロールは、車両ブレーキ力の最大40%しか適用しないため、車速がかなり一定に保たれる交通状況で使用してください。

ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。

車速・車間制御の自動解除

次の場合は、警告音とともに車速・車間制御機能が自動的に解除されます。

- 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
- 運転席、助手席、後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき
- シフトポジションを、**D**または**B**以外にしたとき
- ドライブモードをOFF-ROADまたはSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキをかけたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDCが作動したとき
- タイヤが空転したとき
- 周辺の電波源の影響を受けているとき
- 周辺の電波源や環境による反射等により、一時的に電波を受信できなかったとき
- レーダーセンサーが汚れているとき

次の場合は、プロパイロット（ナビリンク機能付）の制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します）

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
- 運転席のシートベルトを着用していないとき
- 車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
- シフトポジションが**D**または**B**以外のとき
- ドライブモードがOFF-ROADまたはSNOWのとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキが作動しているとき
- ブレーキを踏んでいるとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCSが作動したとき
- タイヤが空転したとき

システム作動

⚠ 警告

- 運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

車速・車間制御機能で停止した後、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動きだし割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

インテリジェント クルーズコントロールは、次の2つのモードのいずれかに設定できます。

- 定速制御機能（➡ P.226）
- 車速・車間制御機能（➡ P.220）
- ハンドル支援は定速制御機能では使用できません。ハンドル支援なしで車速・車間制御機能を使用するには、プロパイロット（ナビリンク機能付）を起動してから、＜ハンドル支援スイッチ＞または設定メニューでハンドル支援をOFFにします。詳細については、➡ ハンドル支援のON・OFFのしかた（P.225）を参照してください。

■ 先行車を検出していないとき

先行車がないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。

先行車がいなくなると先行車検出表示と車速制御作動灯が消灯し、運転者が設定した車速まで加速します。

■ 先行車を検出しているとき

先行車検出表示と車速制御作動灯が点灯し、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。

➡ 車間距離設定のしかた（P.217）

■ 先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

- インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズ

運転支援機能

コントロールは停止した状態を保持します。

（停止した状態を保持しているときは、
「前の車に続いて発進します」と表示され、先行車検出表示と車速制御作動灯が点滅します）

高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。その後、先行車が約30秒の間に発進すると追従走行を再開します。

- 約30秒を超えて停止した場合、
「RES+で発進します」とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。

■ 先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

- インテリジェントクルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェントクルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、
「RES+で発進します」と表示されます）

■ 先行車が発進したとき

- インテリジェントクルーズコントロールで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、<RES+>方向に押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びインテリジェントクルーズコントロールによる追従走行を開始します。

- 車両停止保持状態のときに、<RES+>方向に押すと、約3秒間は発進待機状態になります。（車両停止保持状態が解除されます）

割り込み検知

自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、「ブーン」という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

- 車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、ブザーとアドバンスドライバアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。
- 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが「ピッ、ピッ、ピッ…」と鳴り、アドバンスドライバアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。
- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
 - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
 - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
 - 他車が至近距離に割り込んできたとき

追い越し時加速機能

- 設定車速が70km/h以上で車速・車間制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。
- 運転者がハンドルを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者が設定した車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
 - ブレーキペダルを踏んだとき
 - <CANCEL>スイッチを押したとき

ルート減速支援機能★

ルート減速支援機能は、ナビゲーションシステム搭載車両のプロパイロット（ナビリンク機能付）の機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット（ナビリンク機能付）全体（📍P.211）と標識検知機能（📍P.260）をお読みください。

⚠ 警告

- ルート減速支援機能の性能には限界があります。

⚠ 警告

ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

- ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。

減速が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。

- 運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。

路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

- ー ナビゲーションシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- ー ナビゲーションシステムが推奨するルートを行っていないとき
- ー ナビゲーションシステムが新しいルートを探索しているとき
- ー ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき

- ー ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき
- ー 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき
- ー 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき
- ー 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき

- アクセルペダルを踏み込んでいる場合、ルート減速支援機能を行いません。プロパイロット（ナビリンク機能付）の車速・車間制御機能の設定や、先行車の検出状態によっては、システムが作動しない場合があります。
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中にナビゲーションシステムの地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。
- すべてのカーブまたは出口の速度を常に低下させるとは限らないため、必要に応じて運転者はいつでも追加でブレーキをかけてください。
- 車両がカーブを通過すると、車両は再び設定速度まで加速します。高速道路出口で、運転者はブレーキをかける必要があります。
- ルート減速支援機能が作動しているとき、次のどちらかのアイコンが表示されます。

	カーブ
	出口

■ ルート減速支援機能のON・OFFのしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [ルート減速支援] を選択すると、ルート減速支援機能のON・OFFを切り替えることができます。
- ルート減速支援機能のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

制限速度支援機能★について

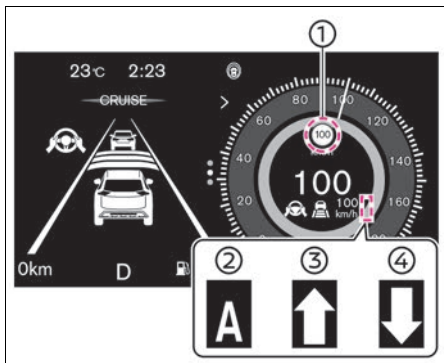
制限速度支援機能は、ナビゲーションシステム搭載車両のプロパイロット（ナビリンク機能付）の機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット（ナビリンク機能付）全体（ P.211）と標識検知機能（ P.260）をお読みください。

- 標識検知機能により、新しく最高速度標識を検出した場合、新しい速度を自動または、手動で設定車速に反映することができます。次の場合は作動を開始します。
- ー 検出した制限速度が30km/h以上のとき
- ー アドバンスドドライブアシストディスプレイで制限速度支援機能が [手

運転支援機能

動]、または [自動] に設定されているとき

- <RES+>方向に押し、標識検知機能が検知している速度よりも高い速度に設定したあとは、より高い速度の速度標識を検出しても設定車速を超えない場合は反映しません。
- 標識検知機能により新しい速度標識を検出すると、速度標識支援表示が点灯します。



- ① 検知された新しい速度標識
- ② オートモード（自動）の作動状態
- ③ マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より高い
- ④ マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より低い

制限速度支援機能★の作動

警告

- 次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。
 - ー 標識検知機能が適切に作動していないとき
 - ー システムをOFFに設定しているとき
 - ー ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
 - ー ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき
 - ー 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
 - ー 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出る路線）
 - ー 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき
 - ー 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - ー ナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき

オートモード（自動）選択時

- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行しているときに、新しい速度標識を検出した場合、速度標識支援表示が点灯するとともに「設定車速を変更しました」と制限速度支援ガイダンスが表示され、新しい速度を設定車速に反映します。
インテリジェント クルーズコントロールで先行車に続いて自車が停止した状態でも、設定車速に反映されます。

マニュアルモード（手動）選択時

- 新しく最高速度標識が検出されると、「[RES+で設定車速を変更します]」、または「[SET-で設定車速を変更します]」と制限速度支援ガイダンスが表示されます。
- 反映させるには、<RES+>、または<SET->方向に押します。
- <RES+>、または<SET->方向に押さない場合、速度標識支援表示（[↑↓]）は約10秒後に消灯します。
（表示している矢印とは反対の<RES+>／<SET->方向に押すと、速度標識支援表示（[↑↓]）はすぐに消灯します）
- 制限速度支援機能は、速度標識が検出されていない場合は作動しません。

モード設定のしかた

- アドバンスドライバアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [制限速度支援] を選択すると、モードを設定できます。

設定	制限速度
自動	検出速度を自動的に反映
手動	検出速度の反映を選択
OFF	機能停止

- 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。

ー -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。
制限速度支援機能について
(➡P.223)

- 制限速度支援機能の設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

ハンドル支援について


警告

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません
- 手放し運転はしない。
必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

ハンドル支援は、プロパイロット（ナビリンク機能付）の機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➡P.216）やディスプレイの理解（➡P.218）を含め、プロパイロット（ナビリンク機能付）全体（➡P.211）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- ハンドル支援は、マルチセンシングフロントカメラを使用して、左右のレーンマーカを検出し、車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。
- レーンマーカとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。ハンドル支援は、車速・車間制御機能と組み合わせた場合にのみ利用できます。
- 次の条件を満たすとハンドル支援作動表示が緑色で点灯し、作動を開始します。（表示が緑色になります）
 - ー 車速・車間制御機能が作動しているとき
 - ー 両側のレーンマーカを検出しているとき
 - ー 車速が約50km/h以上のとき
 - ー 車速が約50km/h以下では、先行車を検出しているとき
 - ー 運転者がハンドルを持っているとき
 - ー 車線の中央付近を走行しているとき
 - ー 方向指示器が作動していないとき
 - ー ワイパーが高速で作動していないとき
 - ー ハンドル支援がONのとき
- カーブまたは強い横風により、ハンドル支援中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカに近づいたと判断すると、警報音とともにインテリジェントL（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。インテリジェントL（車線逸脱防止支援システム）（➡P.247）

■ ハンドル支援のON・OFFのしかた

- <ハンドル支援スイッチ>を押すごとにハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙️] ⇒ [運転支援] ⇒ [ハンドル支援] を選択すると、ハンドル支援のON・OFFが切り替えられます。
ハンドル支援のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ ハンドル支援の解除

- 次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が灰色になり、ハンドル支援が一待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
 - ー レーンマーカを検出しなくなったとき
 - ー 前方から強い光を受けたとき
 - ー カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき
 - ー 運転者がハンドル操作をしたとき
 - ー 車速が50km/h以下で、先行車を検知していないとき
- 次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が消灯し、ハンドル支援が解除されます。
 - ー 車速・車間制御機能が解除されたとき
 - ー ワイパーが高速で作動しているとき

運転支援機能

- 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき
- ワイパーが高速で作動しているときは、高速動作を解除してください。その後、プロパイロット（ナビリンク機能付）を再度セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。

■ 手放し警告について

運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、アドバンスドドライバシストディスプレイに手放し警告が表示されます。



概要および対処	
一次警報	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

概要および対処	
二次警報	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 - ー 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
緊急停止	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 - ー 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。 ● 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅灯は自動で消灯します。 ● 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレータに接続し、オペレータから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。（SOSコールのシステムを利用するにはNissanConnect サービスの契約が必要です。）

知識

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。

- ー 運転者が手袋を着用しているとき
- ー ハンドルにカバーが取り付けられているとき
- ー 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
- ー ハンドルに手を軽く添えて運転しているとき

プロパイロット警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、プロパイロット（ナビリンク機能付）警告メッセージ（P.357）「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

定速制御機能について

警告

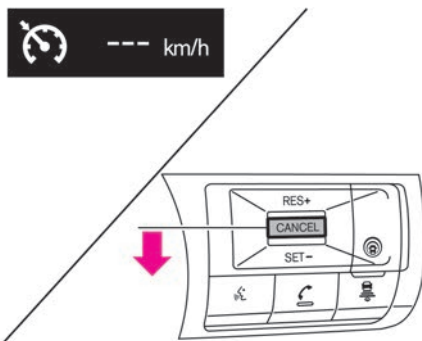
- 定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。

先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

＜プロパイロットスイッチ＞をONにする
と点灯し、システムの作動状態を色で表示
します。セットすると設定した速度を表示
します。

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。

- 白色：システムがONになると表示
- 緑色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障



2. <SET->方向に押したときの車速で定速制御機能をセットします。

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

■ 設定車速の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中に<RES+>方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中に<SET->方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。

■ 定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- <CANCEL>スイッチを押す
- <プロパイロットスイッチ>を押す
- ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
 - ー 速度が約25km/h以下になったとき
 - ー VDCをOFFにしたとき
 - ー VDC/TCSが作動したとき
 - ー タイヤが空転したとき
 - ー シフトポジションを、**D**または**B**以外にしたとき
 - ー システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

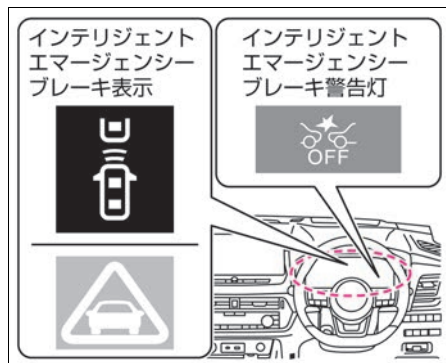
インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

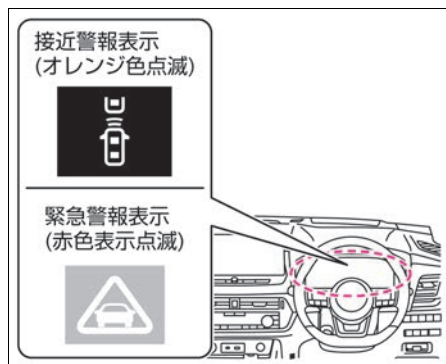
🔍 レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.209)

🔍 マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)



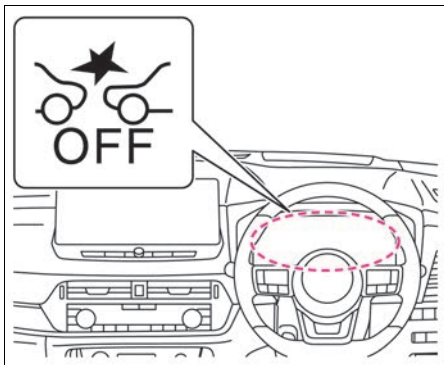
- ヘッドアップディスプレイ付車はインテリジェントエマージェンシーブレーキが作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

インテリジェントエマージェンシーブレーキについて



- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。歩行者・人が乗車している自転車には約10km/h～80km/hの範囲で作動します。
(車速約100km/h以上では停止車両に対しては作動しません。)
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音(ブザー)とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェントエマージェンシーブレーキ表示(接近警報表示)がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェントエマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音(ブザー)とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
 - ー アクセルペダルを強く踏み込んだとき
 - ー ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
 - ー 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなると判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、インテリジェントエマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動したりしない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを[運転支援]および[プロパイロット]★に切り替えると、インテリジェントエマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは、➡アドバンスドドライブアシストディスプレイとは(メインメニュー) (P.64)をお読みください。

インテリジェント エマージェンシー ブレーキの停止のしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援]
⇒ [緊急支援] ⇒ [前方衝突防止支援]
を選択すると、インテリジェント
エマージェンシーブレーキのON・OFF
を切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）
- ➡ 運転支援（P.82）
走行中はインテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができません。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）

- e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してOFFになります。
- ➡ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.251）

インテリジェント エマージェンシー ブレーキに関する注意事項

- 次のような障害物は検知しません。
 - 子供などの背の低い人、動物
 - 対向車両
 - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
 - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
 - 前方を横切って通過する車両
 - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
 - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
 - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
 - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
 - カーブを走行しているとき
 - 勾配の変化があるところを走行しているとき
 - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
 - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
 - 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
 - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）

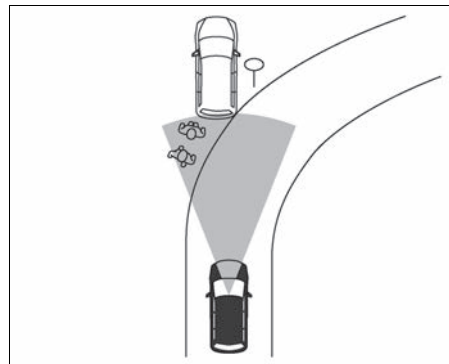
- e-POWERシステムを始動してから約15秒間
- e-POWERシステム始動後、走行してからインテリジェントエマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
- カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
- カメラの向きがずれているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
- 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
 - 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
 - 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
 - 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映りこむなど）
 - 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき

- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
 - 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
 - 対向して接近する歩行者、自転車
 - 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
 - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
 - 車高の低い車両
 - 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
 - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
 - 前方の至近距離に割り込んだ車両
 - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
 - 自車の正面から横にすれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
 - 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
 - リヤタイヤから車両後端までが長い車両
 - 四輪車以外の車両（二輪車など）
 - 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
 - ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

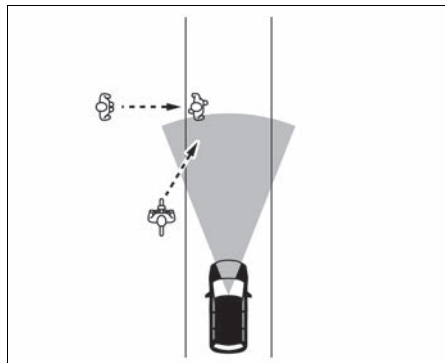
- 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
 - 複数の対象物同士が近接している場合
 - 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行しているとき
 - 勾配のある路面を走行しているとき
 - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
 - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
 - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
 - 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
 - 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込ん

だ模様、わだちなどや光の反射を含む)、前方の道路構造物(トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器(リフレクター)、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板)などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

- 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。
- 前の車両に接近し追い越し場合、システムが作動する場合があります。
- 道路形状(カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など)によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



- 道路脇にある物(道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など)
- 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車



- 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づく歩行者や人が乗車したりしている自転車
- 路面上にある物(線路、格子、鉄板など)
- 駐車場内にある物(梁など)
- 走行車線または隣接する車線にある物(歩行者、車両など)
- 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物(歩行者、車両など)
- 対向して接近する歩行者
- 走行路にある物(近接する樹木など)

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 [点灯] が点灯し、作動が停止します。
 - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
 - VDCをOFFにしたとき
- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 [点灯] が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
 - フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
 - 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
 - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
(室内の温度が下がると、作動を復帰します。)
 - 悪天候(雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など)で視界が悪いとき
 - 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
- 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき
(例：長い橋、雪原、長い壁の横など)
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
- インテリジェントエマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
- けん引されているとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内のインテリジェントエマージェンシーブレーキ警告灯  が点灯し、アドバンスドドライプアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯 (P.335)
警告メッセージ (P.344)
- e-POWERシステムが始動してから約15秒間はシステムチェックのためインテリジェントエマージェンシーブレーキシステムは作動しません。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、(P.389)をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯 (P.335)

- VDCをOFFにしたときは、接近警報のみ作動します。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）とソナーで進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者を検知し、駐車操作時など低速のときにブレーキペダルと間違えてアクセルペダルを踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにe-POWERシステムやブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示

警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

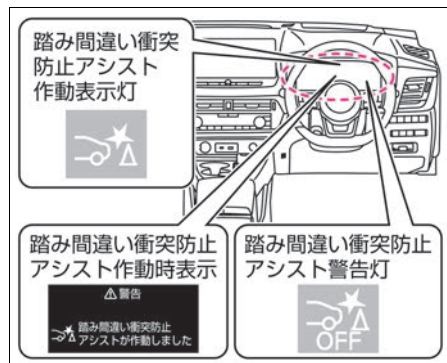
踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

- ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

 マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)

 ソナーの検知条件と制限 (P.211)

 インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.275)



踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。

- 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると、作動時表示と作動表示灯が表示されるとともに、後退時はインテリジェントアラウンドビューモニター画面に赤枠も表示されます。ヘッドアップディスプレイ付車はヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

踏み間違い衝突防止アシストの作動

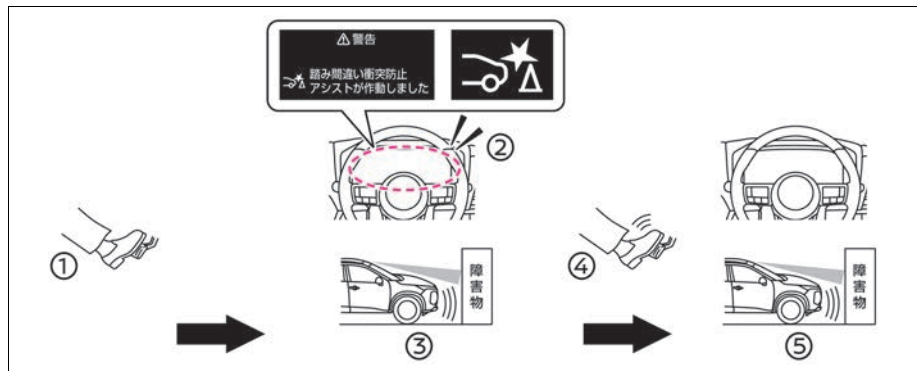
前進時

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知し、フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、前方の障害物を検知します。

後退時

- リヤナンバープレート上部のインテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）とリヤバンパーに取り付けられたソナーにより、後方の障害物を検知します。

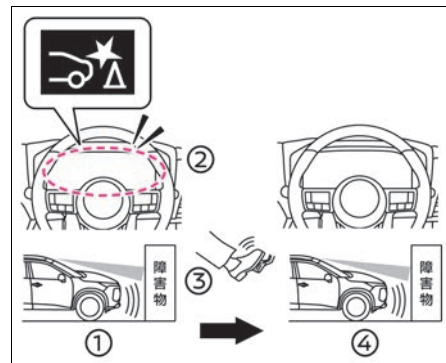
低速加速抑制機能



- ① アクセル誤踏み込み
- ② 警報音と作動表示
- ③ 低速加速抑制
- ④ ブレーキ
- ⑤ 停車、作動停止

- 前進または後退時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者（前進時）、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 次の車速範囲で作動します。
 - － 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h
 - － 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/h
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示します。また、アドバンスドドライバアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。
警告メッセージ（➡P.343）

低速衝突軽減ブレーキ機能



- ① 低速衝突軽減ブレーキ
 - ② 警報音と作動表示
 - ③ ブレーキ
 - ④ 停車、作動停止
- 前進、または後退時、進行方向に車両や壁などの障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
 - 後退時、進行方向に歩行者を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
 - 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約15km/h以下のとき作動します。
 - 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝

運転支援機能

突防止アシスト作動表示灯の表示によって運転者に警告します。

- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

縦列駐車をするとき

シフトポジションを**D**から**R**、または**R**から**D**に切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

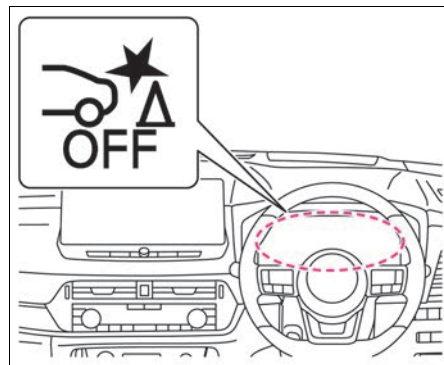
- ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合は、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。

- シフトポジションが**R**のときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションが**D**のときは後方の障害物に対して作動しません。
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。
- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。
- 他の車両が自車両に対して横にすれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。
- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。
- 他の車両が自車両に対して横にすれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションが**R**のときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションが**D**のときは後方の障害物に対して作動しません。
- 壁から突き出している柱や配管などの障害物に対しては作動しません。
- 低い障害物に対しては作動しません

踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [緊急支援] ⇒ [踏み間違い衝突防止支援] を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
② アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。（踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）
- シフトポジションを**R**にしてソナー表示中に<OK>スイッチを押すと、一時的に後方の低速加速抑制機能、低速衝突軽減ブレーキ機能を停止できます。
- e-POWERシステムを再始動するとONになります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- 故意にアクセルペダルを踏み込まない。

車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。

- 次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。

- けん引するとき
- トレーラーなどに積載するとき
- 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
- 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
(車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります)
- センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき

- ソナーは次のような障害物は検知しません。

- 背の低い障害物
- 幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープなどの細い障害物

- バンパーに非常に近い障害物
- 急に進行方向に現れた障害物

- ソナーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。

- 地面から高い位置に存在する障害物
- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 周囲に超音波を発するものがあるとき
- スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物

- ソナーは次のような場合は検知しないことがあります。

- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 周囲に超音波を発するものがあるとき
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。

低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。

車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

- アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できなかったりすることがあります。

- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
- 滑りやすい路面を走行しているとき
- ハンドルを大きく切って旋回しているとき

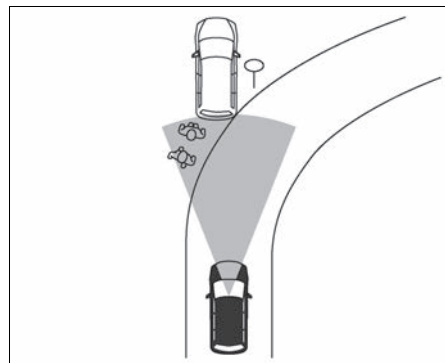
● アドバイス

- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱、または水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

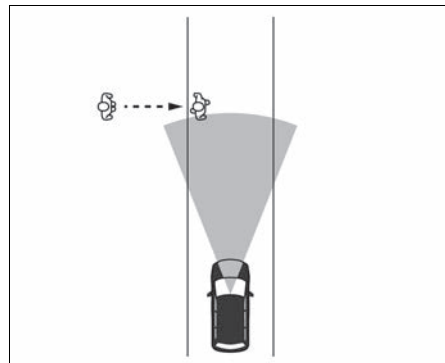
低速加速抑制機能について

- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。

- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
 - アクセルペダルをゆっくりと踏み込んだとき
 - ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - シフトポジションが **D**、**B**、**R** 以外 のとき
 - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
 - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で行走している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



- 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



- 歩行者が自車前方の走行レーンに近づいた場合
- 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
- 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）

- 駐車場内にある物（梁など）
- 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
- 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
- 対向して接近する歩行者
- 走行路にある物（近接する樹木など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
 - シフトポジションが **D**、**B**、**R** 以外するとき
- シフトポジションが **R** のときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションが **D** のときは後方の障害物に対して作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナー、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラはいつもきれいにしておいてください。各センサー、カメラ類の取り扱いについては（➡P.389）、（➡P.390）をお読みください。

- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

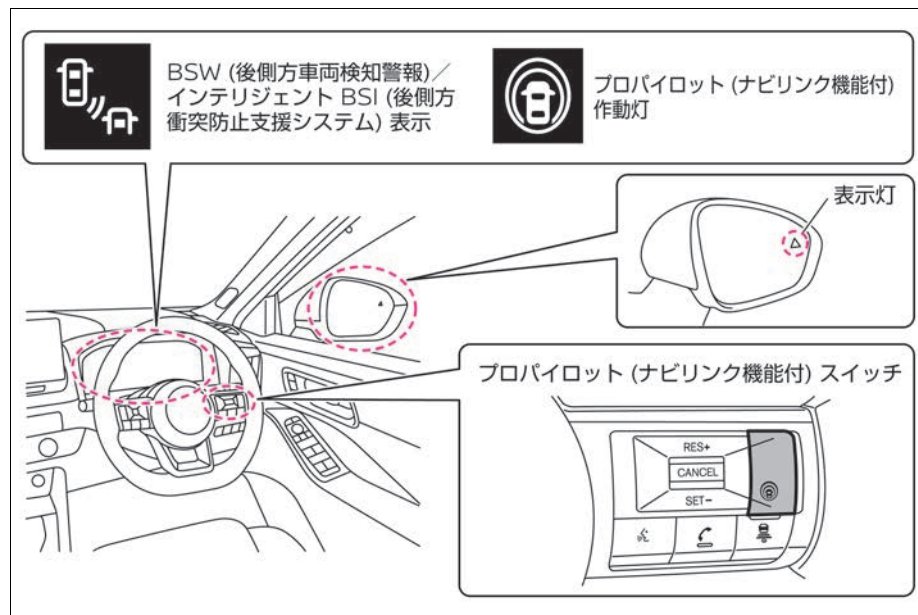
警告灯（➡P.336）

- 次の場合、メーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 [] が点灯し、作動が停止します。
 - 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしたとき
 - VDCをOFFにしたとき
- 踏み間違い衝突防止アシストが一時的に作動できなくなったときは、メーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 [] がゆっくり点滅します。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 [] が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（➡P.336）
警告メッセージ（➡P.343）

BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻す方向に力を発生させ、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

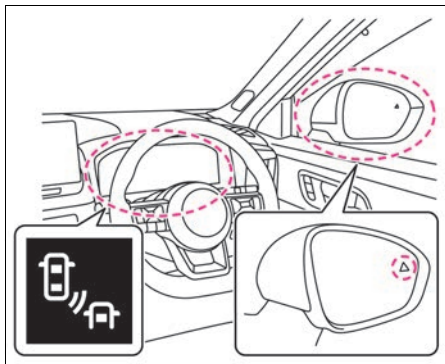
BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.209)

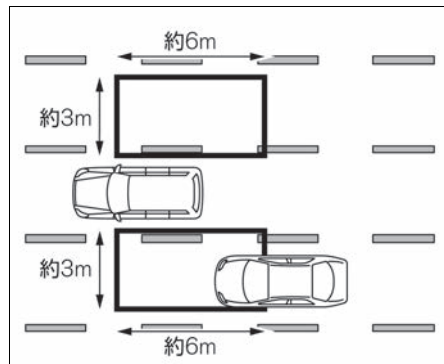
➡ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)

BSW（後側方車両検知警報）について



- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

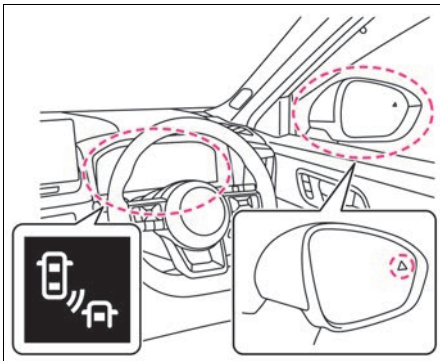
検知範囲について



- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にある車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- ドアミラー鏡面の表示灯は<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを〔運転支援〕に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について

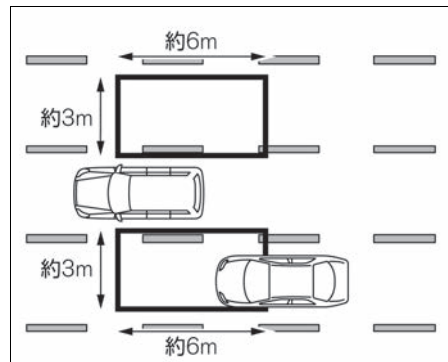


- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカールを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカールに自車両が接近すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にブレーキを制御し、車両を元の車線に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車両を元の車線に戻す操作を促します。

運転支援機能

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

検知範囲について



- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とブレーキ制御の両方が作動します。ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」に切り替えると、

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

詳しくは、**④ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）**（P.64）をお読みください。

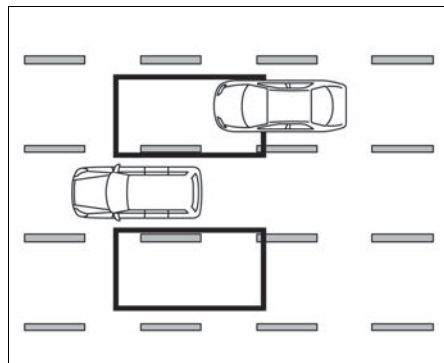
作動するとき・しないとき

⚠ 注意

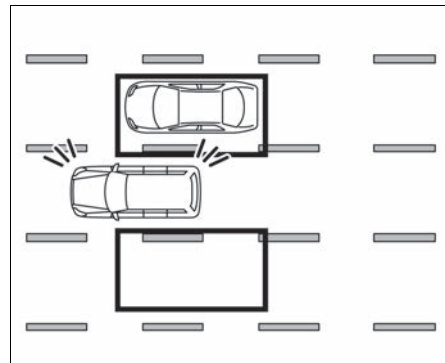
- 車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。

自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

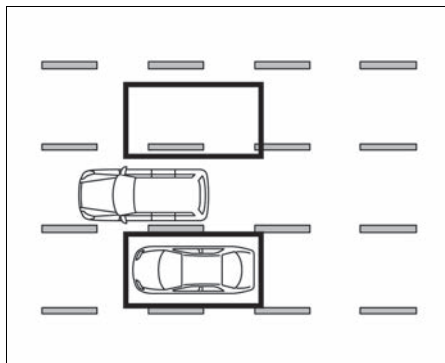
後方から車両が接近してくるとき



- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。

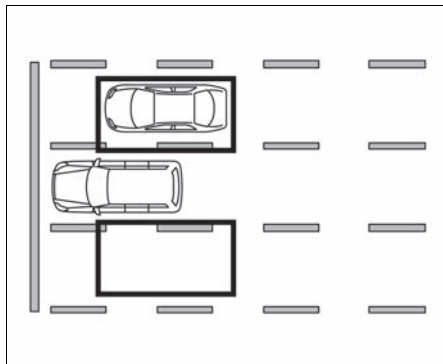


- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
- 方向指示器を作動したあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。
- 自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。



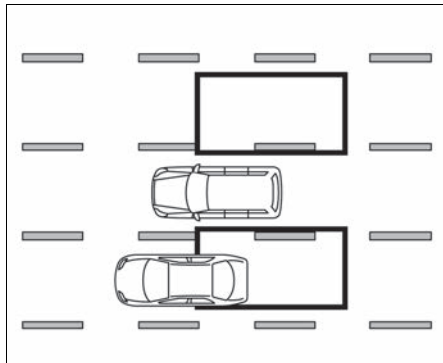
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

発進するとき

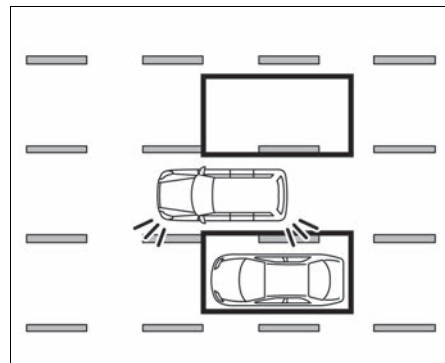


- 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。

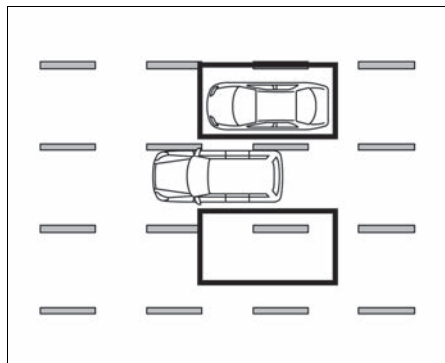
他の車両を追い越すとき



- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。

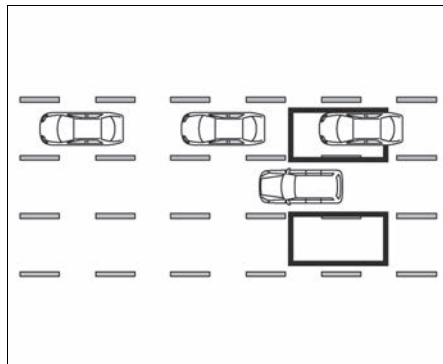


- 車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
- 速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。



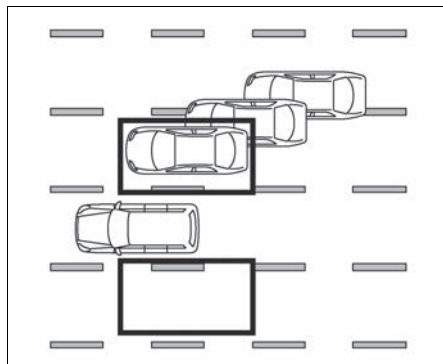
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

他の車両に追い越されるとき

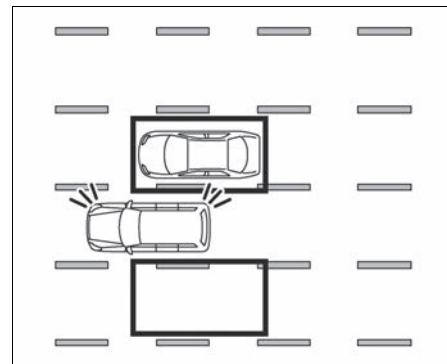


- 複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

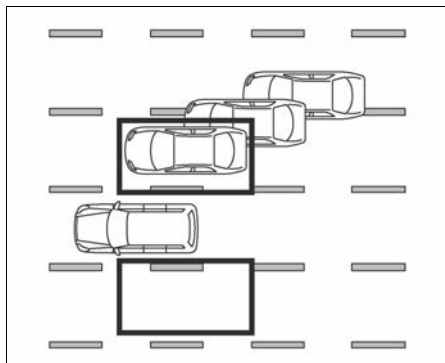
他の車線から車両が接近してきたとき



- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。

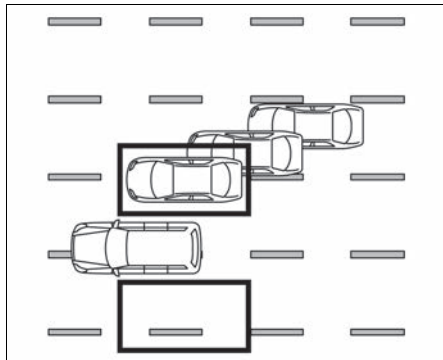


- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。



- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき



- 検知範囲に車両が入ってもインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [後側方支援] ⇒ [後側方車両検知警報] を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [後側方支援] ⇒ [後側方衝突防止支援] をONにしているとき、＜プロパイロットスイッチ＞を押すとプロパイロット作動灯が点灯し、システムがONになります。インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにするには、BSW（後側方車両検知警報）をONにしている必要があります。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）

- ＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、インテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [後側方支援] ⇒ [後側方衝突防止支援] でOFFにすると、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）はOFFになります。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますのでインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。
 - － 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - － 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - － 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - － 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - － 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - － 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スベアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき

－ 純正部品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

- 次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。

- － 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
- － 停車状態から検知範囲に居続ける車両
- － 後方から速い速度で接近してくる車両
- － 自車両が速い速度で追い越した車両
- － 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両

- 次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。

- － 強い光（太陽光など）を受けているとき
- － 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- － 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
- － 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- － 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- － 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。

- － 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
- － 急なカーブのある道路を走行するとき
- － 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- － 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）
- － 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
- － 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- － 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
- － 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- － 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき

⚠ 警告

- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

⚠ 注意

- レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 対向車

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

- 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線にいる車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- 次の場合はブレーキ制御を行いません。
 - 大きな減速が車にかかったとき
 - 素早いハンドル操作を行ったとき
 - インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき

- インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
- 非常点滅表示灯を作動させているとき
- カーブ路でスピードを出して走行しているとき

- ブレーキ制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御を中止します。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、[\(P.388\)](#)をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてくださ

い」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。

- レーダーセンサーが汚れているとき
- レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。

警告メッセージ [\(P.344\)](#)

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
 - VDCをOFFにしたとき
 - ドライブモードをOFF-ROADまたはSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「滑りやすい路面のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
 - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度<プロパイロットスイッチ>をOFFにし、再

運転支援機能

度インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしてください。

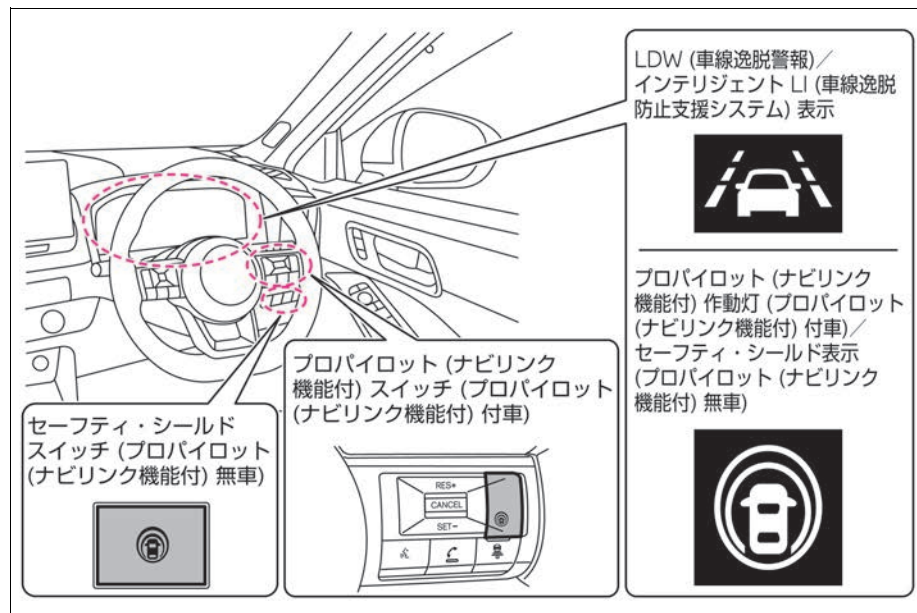
- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
 - ー サイドレーダー周辺が汚れているとき
 - ー サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」および、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しようとしたとき、警報によって注意を促します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しようとしたとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



警告

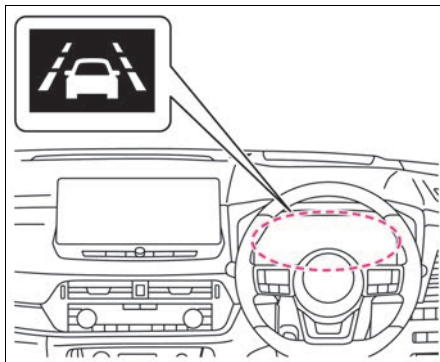
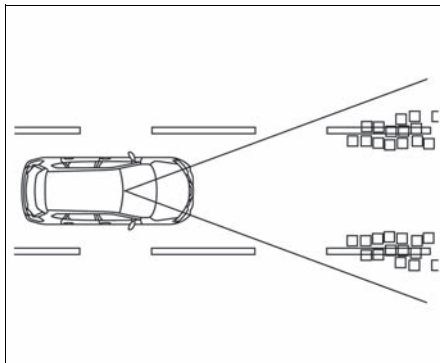
- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLi（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

➡ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)

LDW（車線逸脱警報）について



- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ステ

アリングホイール（ハンドル）の振動とともにメーター内のLDW（車線逸脱警報）表示がオレンジ色に点滅します。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

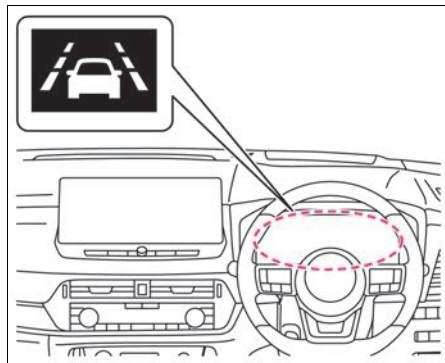
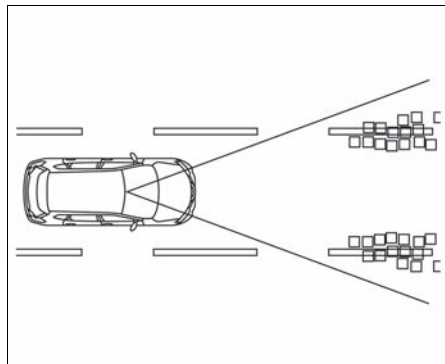
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [側方支援] ⇒ [ステア振動] を選択すると、LDW（車線逸脱警報）作動時のステアリングホイール（ハンドル）振動を調節することができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.64)

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを [運転支援] に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。詳しくは、運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.64)

インテリジェント L (車線逸脱防止支援システム) について



- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。

- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ステアリングホイール (ハンドル) の振動とともにメーター内のインテリジェント L (車線逸脱防止支援システム) 表示がオレンジ色に点滅します。同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [側方支援] ⇒ [ステア振動] を選択すると、インテリジェント L (車線逸脱防止支援システム) 作動時のステアリングホイール (ハンドル) 振動を調節することができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (メインメニュー) (P.64)

- 車両の移動する方向に方向指示器を使用している場合は、警報もブレーキ制御も行いません。(方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを [運転支援] に切り替えると、インテリジェント L (車線逸脱防止支援システム) の作動状態をアドバンスド

ドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (メインメニュー) (P.64)

ON・OFFのしかた

■ LDW (車線逸脱警報)

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [側方支援] ⇒ [車線逸脱警報] を選択すると、LDW (車線逸脱警報) 機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (メインメニュー) (P.64)

■ インテリジェント L (車線逸脱防止支援システム)

プロパイロット (ナビリンク機能付) 付車

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [側方支援] ⇒ [車線逸脱防止支援] をONにしているとき、<プロパイロットスイッチ>を押すとプロパイロット作動灯が点灯し、システムがONになります。

運転支援機能

設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➡ **アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）**（P.64）

- <プロパイロットスイッチ>を押すとインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

プロパイロット（ナビリンク機能付）無車

- <セーフティ・シールドスイッチ>を押すとセーフティ・シールド表示が点灯してシステムがONになります。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェント L（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。
 - － 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - － 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - － 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - － 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - － 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - － 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
 - － 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。

- － 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
- － 急なカーブのある道路を走行するとき
- － 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- － 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）
- － 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
- － 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- － 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
- － 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- － 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- － 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- － 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）



アドバイス

- 外部の状況などにより、ステアリングホイール（ハンドル）の振動を感じにくい場合があります。
- 次の場合はブレーキ制御を行いません。
 - 大きな減速が車にかかったとき
 - 素早いハンドル操作を行ったとき
 - インテリジェントクルーズコントロールの接近警報★が鳴っているとき
 - インテリジェントエマージェンシーブレーキが作動しているとき
 - 非常点滅表示灯を作動させているとき
 - カーブ路でスピードを出して走行しているとき
- ブレーキ制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御を中止します。

作動が停止するとき



アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（📖 P.389）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

e-POWERシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「カメラが高温のため現在使用できません」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告（📢 P.344）

インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
 - VDCをOFFにしたとき
 - ドライブモードをOFF-ROADまたはSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「滑りやすい路面のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。

— ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度<プロパイロットスイッチ>/<セーフティ・シールドスイッチ>をOFFにし、再度インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。

- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」および、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示

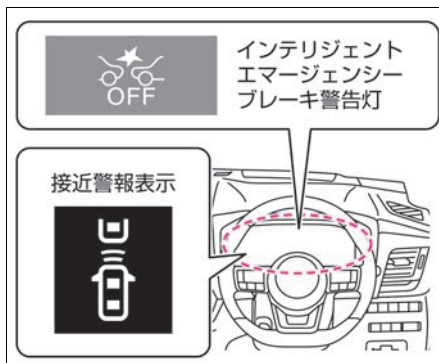
⚠ 警告

- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行います。衝突を回避する機能はありません。
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。

前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

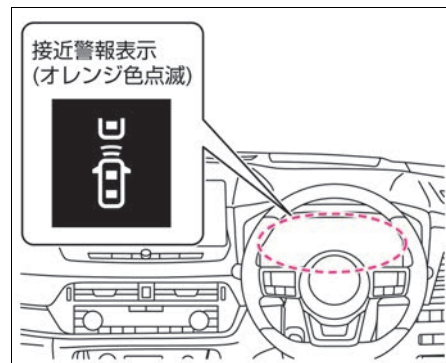
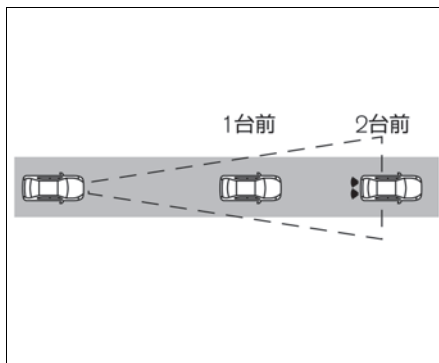
- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

➡ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.209)



- ヘッドアップディスプレイ付車はインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）が作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について



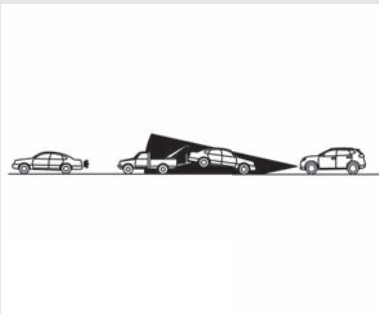
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。
- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らし、運転者に注意を促します。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してON・OFFされます。
- ➡ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.227)

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

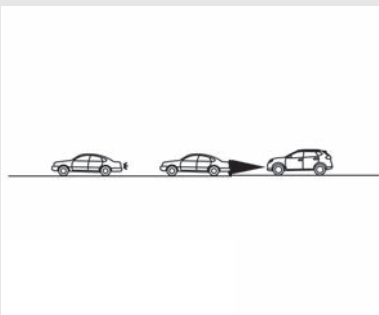
⚠ 警告

- 次のような障害物は検知しません。
 - － 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
 - － 対向車両
 - － 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
 - － 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - － 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - － 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - － 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

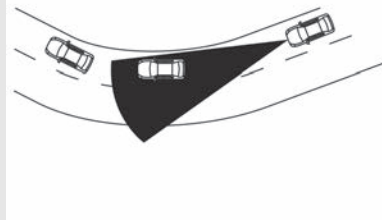
－ トンネル内を走行しているとき



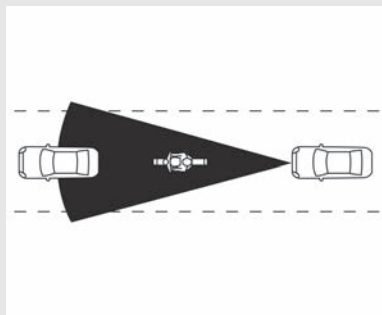
－ 前方の車両がけん引を行っているとき



－ 前方の車両との距離が極端に近いとき



－ 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯 (🔴 P.335)
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、(🔴 P.388)をお読みください。
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 [🔴] が点灯し、作動が停止します。
 - ー インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
 - ー インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
- 次の場合、メーター内のインテリジェントエマージェンシーブレーキ警告灯 [🔴] が点灯するとともに、アドバ

ンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。

- ー フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
- ー 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
- ー 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- ー 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
- ー 周辺の電波源の影響を受けているとき
- ー 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
- ー 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
- ー 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき

- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内のインテリジェントエマージェンシーブレーキ警告灯 [🔴] が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

RCTA（後退時車両検知警報）★

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうと接近する車両を検知した場合、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示

警告

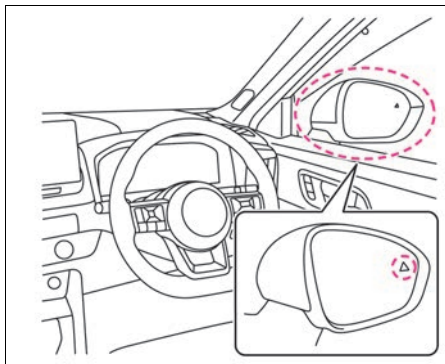
- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

⚠ 警告

- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

➡ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.209)



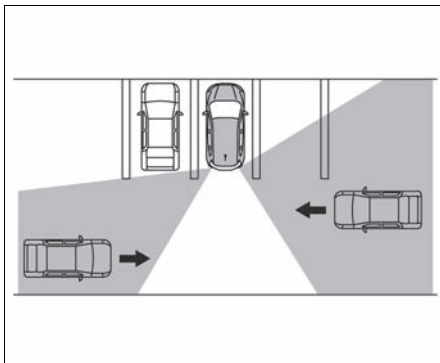
RCTA（後退時車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。
- シフトポジションがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。
- レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

● RCTA（後退時車両検知警報）の設定をOFFにしているときにシフトポジションをRにすると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システムOFF」と表示されます。

● RCTA（後退時車両検知警報）が作動しているときは、インテリジェントアラウンドビューモニター画面に黄色枠が表示されます。

検知範囲について



- レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。
- ドアミラー鏡面の表示灯は<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [後退時車両検知警報] を選択すると、RCTA（後退時車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.64)

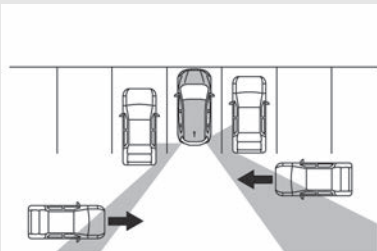
- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

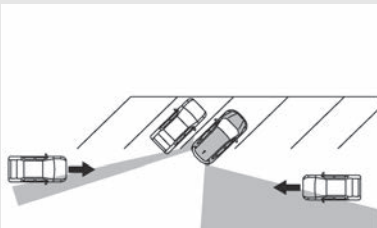
⚠ 警告

- 後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 約30km/h以上の速度で通過する車両
 - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。

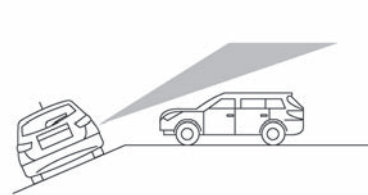
⚠ 警告



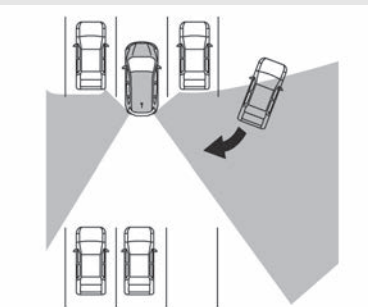
- 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



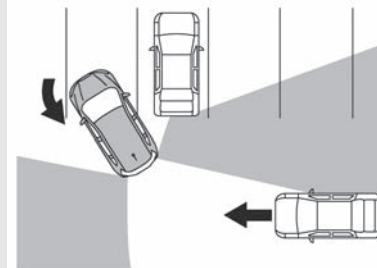
- 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



- 傾斜した地面に駐車しているとき



- 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき



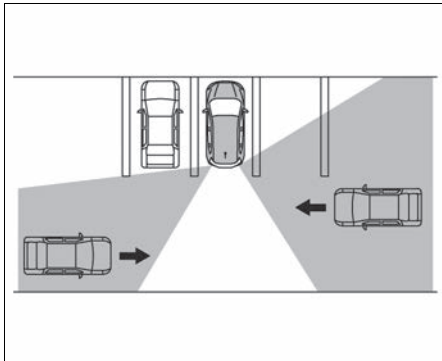
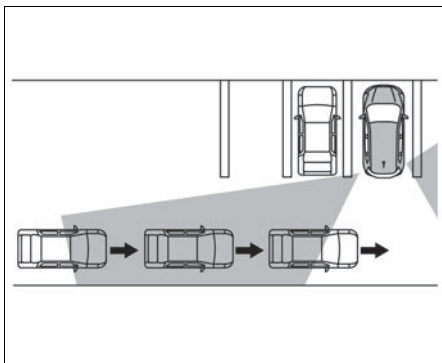
- 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

- 次のような場合は、思わぬ事故につながることがありますので、システムを使用しないでください。

- 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき

- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。



- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。

RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

🚗 アドバイス

- レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、
(📖 P.388) をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに【サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください】と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
 - ー レーダーセンサーが汚れているとき
 - ー レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ (📖 P.344)

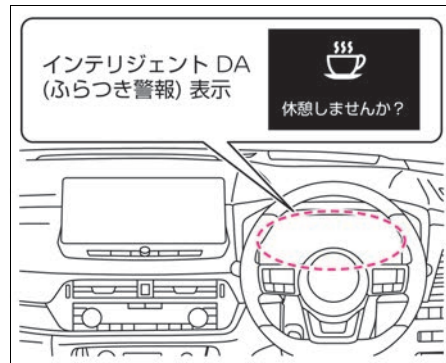
インテリジェント DA（ふらつき警報）

インテリジェント DA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

⚠️ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。



インテリジェント DA（ふらつき警報）について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「休憩しませんか？」と警告メッセージを表示します。警告メッセージ（🔊 P.344）

インテリジェント DA（ふらつき警報）の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [🔊] ⇒ 「運転支援」 ⇒ 「ふらつき警報」を選択すると、インテリジェント DA（ふらつき警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
🔊 アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）
- 設定は、e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- プロパイロット（ナビリンク機能付）のハンドル支援中★は、インテリジェント DA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。
🔊 プロパイロット★（P.211）

インテリジェント DA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
警告メッセージ（🔊 P.344）

標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

システムに関連する表示

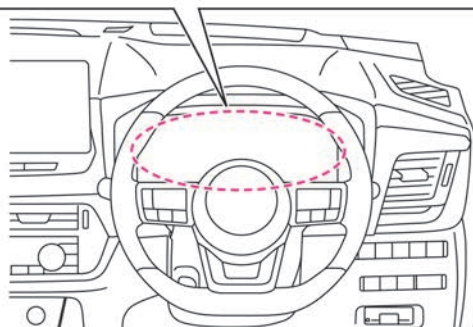
進入禁止標識検知表示



一時停止標識検知表示



最高速度標識検知表示



警告

- 走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。

標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。

標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

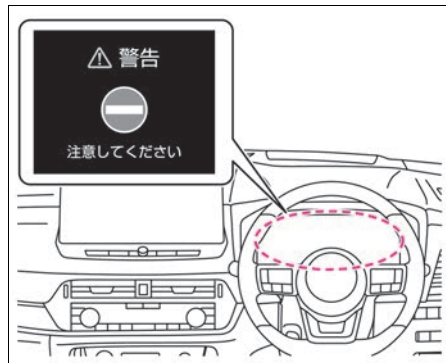
- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

➡ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.210)

標識検知機能について

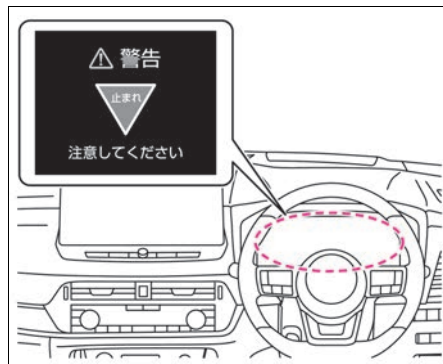
- 標識検知機能には次の機能があります。

進入禁止標識検知



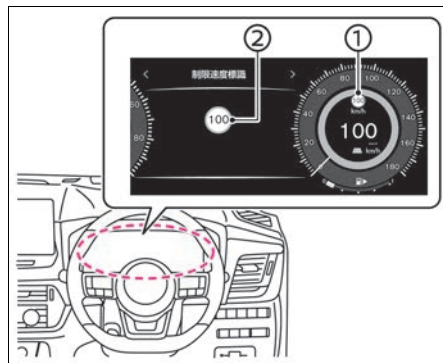
- 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。
- 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。

一時停止標識検知



- 前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

最高速度標識検知



- 前方の最高速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディ

スプレイ①、および走行支援グループ
[⑥] ②に表示されます。

➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）

- 次の場合は、最高速度標識の表示が切り替わります。
 - ー 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を検知したとき
- 次の場合は、最高速度標識の表示を終了します。
 - ー 最高速度標識を検知し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
 - ー 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき

進入禁止標識／一時停止標識検知の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [⚙] ⇒ [運転支援] ⇒ [標識検知支援] ⇒ [道路標識] を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）
- いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

最高速度標識検知の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [標識検知支援] ⇒ [制限速度標識] を選択すると、最高速度標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
- ➡ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（P.64）

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなくなったりすることがあります。
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
 - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
 - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき

- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 隣車線の車両で視界がさえぎられているとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
- 標識が自転車から遠く離れた位置にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
- 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき

- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません
- 次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）
 - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）

⚠ 警告

- 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）



- 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）
- コントラストが低い電光標識
- 数字が認識しにくい電光標識（遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
- 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき

- ナビゲーションシステム★の地図データが最新ではない、または利用できないとき
- ナビゲーションシステム★が推奨するルートを走行していないとき
- ナビゲーションシステム★が新しいルートを検索しているとき
- ナビゲーションシステム★の位置検出が正しく行えないとき
- ナビゲーションシステム★の地図に無い道路を走行しているとき

⚠ 注意

- 標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。

標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。



ここまで



8-20

- 標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

🚗 アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、(📖 P.389)をお読みください。
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

駐車支援システム

インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物検知機能付）

インテリジェントアラウンドビューモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

インテリジェントアラウンドビューモニターについて

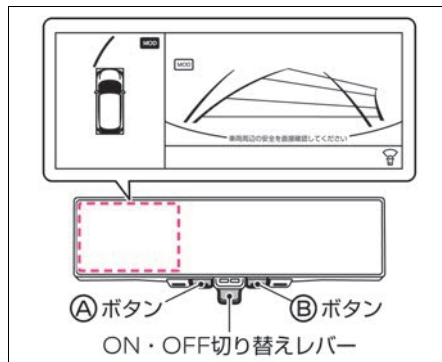
⚠ 警告

● インテリジェントアラウンドビューモニターの機能を過信しない。

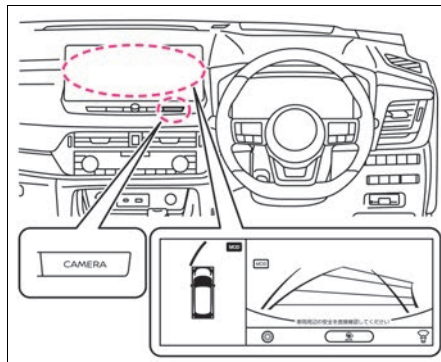
インテリジェントアラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

● 実際の距離感を間違えないように注意する。

インテリジェントアラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。



● メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、パワースイッチがONのときに、インテリジェントルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引き、＜Aボタン＞を押すか、シフトポジションをRにするとインテリジェントルームミラーに表示します。



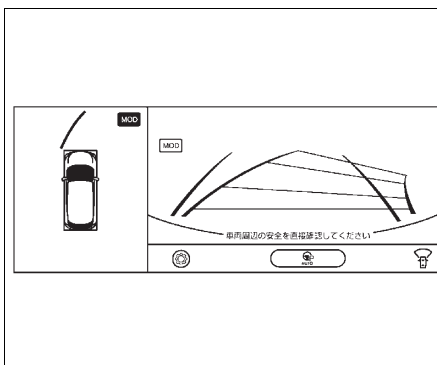
● メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、＜パワースイッチ＞がONのときに、ナビゲーションシステムの＜CAMERA＞ボタンを押すか、シフトポジションをRにするとナビゲーションシステムに表示します。

インテリジェントアラウンドビューモニターの使いかた

⚠ 警告

● ドアミラーを格納した状態で使用しない。

ドアミラーを格納すると、一部の表示が欠けるなど正確に表示できません。周辺を直接確認し十分注意して使用してください。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。



● メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェントルー

駐車支援システム

ミラーがインテリジェントルームミラーモードのときに使用できます。

(➡P.139)

- シフトポジションを**R**にするとインテリジェントアラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションを**R**から他の位置にすると、インテリジェントアラウンドビューモニターがOFFになります。
- シフトポジションが**D**または**B**のときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェントアラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェントアラウンドビューモニターはOFFになります。
- インテリジェントルームミラーの＜Aボタン＞（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）または＜CAMERA＞ボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すとインテリジェントアラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。

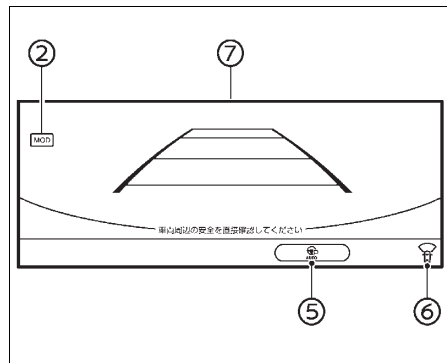
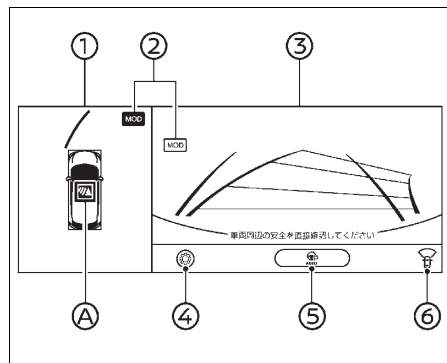
知識

- インテリジェントルームミラーの＜Bボタン＞（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または＜CAMERA＞ボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すと、画面を切り替えることができます。
 - ー シフトポジションが**R**のとき
トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）→リヤワイドビュー（全画面）
 - ー シフトポジションが**R**以外のとき
トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）→フロントワイドビュー（全画面）→インテリジェントアラウンドビューモニターOFF
- 右側画面にフロントビューが表示されているときにシフトポジションを**R**にすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションを**R**から他の位置にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

● 3分タイマー機能

インテリジェントルームミラーの＜Aボタン＞（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または＜CAMERA＞ボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してから約3分後にインテリジェントアラウンドビューモニター表示が消える機能です。シフトポジションが**R**以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中にインテリジェントルームミラーの＜Bボタン＞（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または＜CAMERA＞ボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押したり、ソナーまたは移動物検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。）

画面の見かた



①左側画面

- トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。
- <パワースイッチ>をONにしてから初めてインテリジェントアラウンドビューモニターを表示したときに、アイコン

④の色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。

- 赤色に点滅：ソナーON
- 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します。）

②移動物 検知機能作動状態アイコン

● どちらのビューで移動物 検知機能が作動するかを表します。

- **MOD**（緑色）：移動物 検知機能が作動します
- **MOD**（灰色）：移動物 検知機能が作動しません

● 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

③右側画面

● シフトポジションが**R**のときはリヤビューを、**R**以外のときはフロントビューを表示します。

④プロパイロットパーキング設定アイコン★

● プロパイロットパーキングの設定ができます。

➡ プロパイロットパーキングの設定
(P.286)

⑤プロパイロットパーキング開始アイコン★

● タッチするとプロパイロットパーキングを開始します。

⑥方向指示アイコン

● 画面の映している方向を表します。

- ：リヤビュー表示
- ：フロントビュー表示
- ：ワイドリヤビュー表示
- ：ワイドフロントビュー表示

⑦全画面ワイドビュー画面

● フロントまたはリヤワイドビューを表示します。

※：本表示はメーカーオプションナビゲーションシステム装着車の表示になります。グレード、オプションなどにより表示は異なります。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

- リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。
- 囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されないことがあります。
- カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。
- トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。

駐車支援システム

⚠ 警告

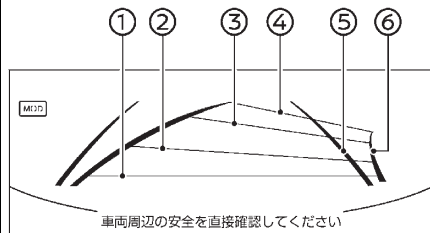
- 路上の線は映像の継ぎ目ですれたり、曲がって見えたりすることがあります。すれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。

画面表示の種類について

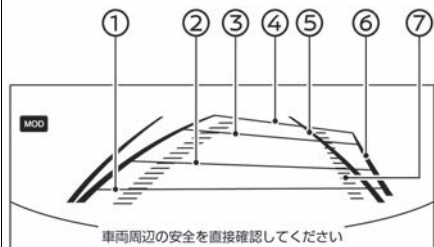
■ フロントビュー／リヤビュー

- 車両の前方／後方の映像をインテリジェントアラウンドビューモニター右側画面に表示します。

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

- 車体からの距離の目安を表示します。

- ①赤色：約0.5m
- ②水色：約1m
- ③水色：約2m
- ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

- 車幅の目安を表示します。

⑥予想進路線

- 運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

- フロントビューは、車速が約10km/hを超えると表示されなくなります。

⑦タイヤ予想進路線

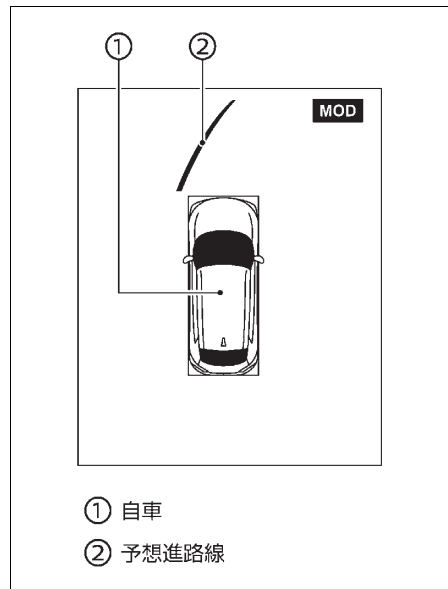
- タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

🚗 アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

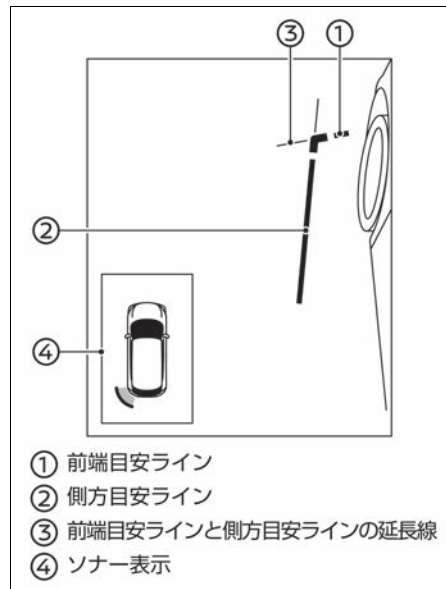
駐車支援システム

■ トップビュー



- 自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をインテリジェントアラウンドビューモニター左側画面に表示します。
- 車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 予想進路線②はハンドルを切った角度のまま進んだときの予想進路を表示します。

■ サイドブラインドビュー



- 車両の左側前輪付近から前方を、インテリジェントアラウンドビューモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

- モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
 - ー ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
 - ー ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。

- ー ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、水色の破線が表示します。

ソナー表示

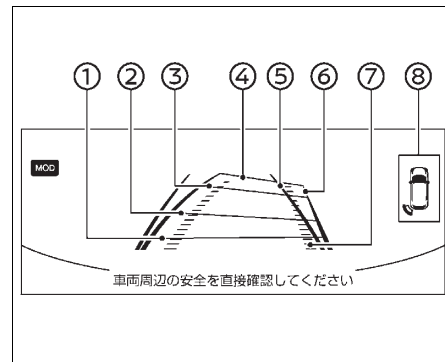
- ④ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、約10km/h以上になると画面の一部がグレーとなりますが、異常ではありません。

■ 全画面フロントワイドビュー／全画面リヤワイドビュー

- 車両の前方／後方の映像を、画面いっぱいに表示します。



駐車支援システム

距離目安ライン

- 車体からの距離の目安を表示します。

- ー ①赤色：約0.5m
- ー ②水色：約1m
- ー ③水色：約2m
- ー ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

- 車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

- 運転操作時に予想進路を示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦タイヤ予想進路線（全画面リヤワイドビューのみ）

- タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑧ソナー表示

- ソナーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

画質調整のしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェントアラウンドビューモニター画面の画質を調整することができます。

[] ⇒ [] ⇒ [カメラ]

ナビゲーションシステムの操作方法是、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

項目1	項目2	機能
画像調整	明るさ	● [+]、[-] をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	● [+]、[-] をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	● [+]、[-] をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	● [+]、[-] をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	● [+]、[-] をタッチして黒レベルを調整します。

移動物 検知機能について

注意

- 車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。

- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。

- トップビューに **MOD**（緑色）表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。

- 移動物 検知機能は以下の条件のとき、**MOD**（緑色）が表示されている画面で作動します。

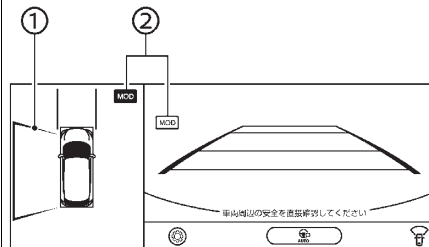
- ー シフトポジションが **P** または **N** で停車しているときに、トップビュー側で作動します。
- ー シフトポジションが **D** で車速約 8km/h 以下のときに、フロントビューで作動します。
- ー シフトポジションが **R** で車速約 8km/h 以下のときに、リヤビューで表示します。

- ソナーブザーが鳴っている場合は移動物 検知機能ブザーは鳴りません。

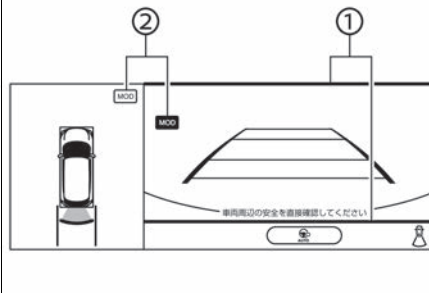
- サイドブラインドビューには移動物 検知機能がないため、**MOD** アイコンを表示しません。

画面の見かた

<トップビュー>



<リヤビュー>



①移動物 検知表示

- 移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- 移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを緑色で表示します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- **MOD**（緑色）：移動物 検知機能が作動します

- **MOD**（灰色）：移動物 検知機能が作動しません

- 以下の場合には移動物 検知機能は作動しません。
 - 車速やシフトポジションが移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
 - トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
 - リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合
- トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納式ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

⚠ 警告

- バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。
- 純正以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。
- ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

🔍 ソナーの検知条件と制限 (P.211)

⚠ 注意

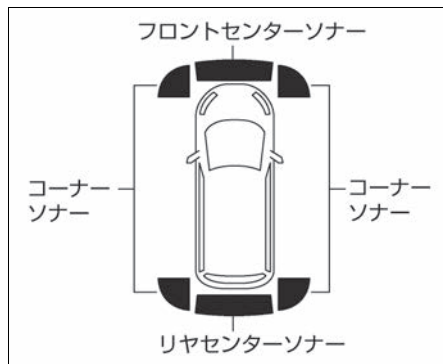
- 気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。
- 次のような障害物には作動しません。
 - 背の低い障害物
 - 幅の狭い障害物
 - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
 - ソナーに非常に近い障害物
 - 急に進行方向に現れた障害物
- 次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。
 - 地面から高い位置に存在する障害物
 - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

駐車支援システム

⚠ 注意

- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めするとき
- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 車両感知センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
- 炎天下や寒冷時
- 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があってもソナーが検知しないことがあります。
（氷が解ければ、正常に復帰します）

- ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリなどを取り付けないでください。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。



- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェントルームミラーがインテリジェントルームミラーモードのときにソナー表示が使用できます。
- インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたは全画面ワイドビュー画面に表示されます。

- 障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。

🚗 アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（📖 P.390）をお読みください。

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点減速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ...	ピピピ、ピピ...	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～70cm	70～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点減速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ...	ピピピ、ピピ...	ピー

駐車支援システム

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離 (目安)	150～70cm	70～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点減速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ...	ピピピ ピピ...	ピー

■ ソナー表示色

- ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
- フロントソナーが検知したときは低音、バックソナーが検知したときは高音でお知らせします。

■ ソナー機能OFF

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [運転支援] ⇒ [駐車支援] を選択すると、各ソナー機能のON・OFFを設定できます。

■ ソナーによるカメラ画面の自動表示機能

- シフトポジションが  かつ車速約10km/h以下でカメラが表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はインテリジェントアラウンドビューモニター画面を自動で表示します。
- 障害物がなくなると、自動的にインテリジェントアラウンドビューモニターはOFFになります。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。ソナーシステム異常警告 ( P.345)

インテリジェントアラウンドビューモニターに関する注意事項

警告

- カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。

- 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。
- サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。
- 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くに見えるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くに見えるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。
- フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。
-  フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い (P.389)

🚗 アドバイス

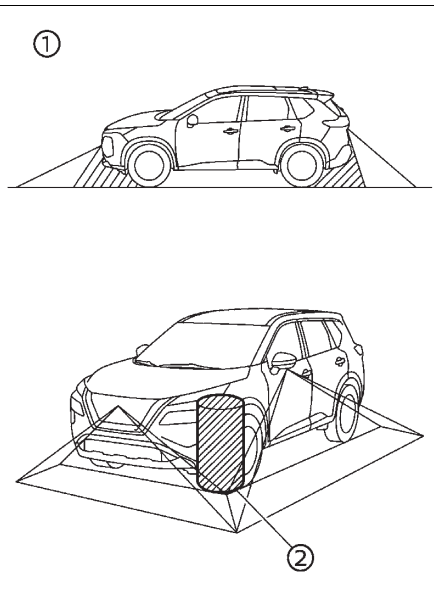
📺 リヤビューカメラの取り扱い (P.389)

- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。
- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広がっています。
- シフトポジションが **R** 以外のとき、インテリジェントルームミラーの<Aボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>ボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してインテリジェントアラウンドビューモニターを表示させたあと、ソナーまたは移動物検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、インテリジェントアラウンド

ビューモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）

- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェントアラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出るがありますが、異常ではありません。
- インテリジェントアラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗い所や夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じる場合があります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
 - ー 立体物が倒れこんで見える
 - ー 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
 - ー 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
 - ー 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲



- 特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地表面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

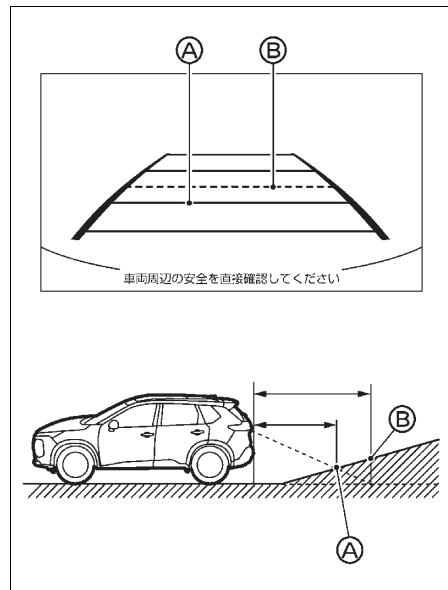
映像と実際の路面との誤差

- フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として

駐車支援システム

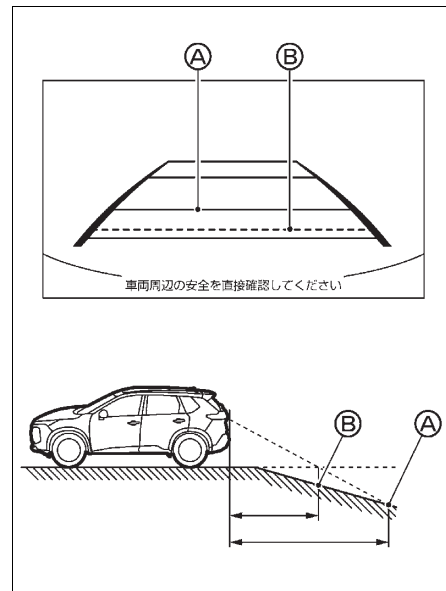
使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



- 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Aまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Bです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くに見えるようになります。

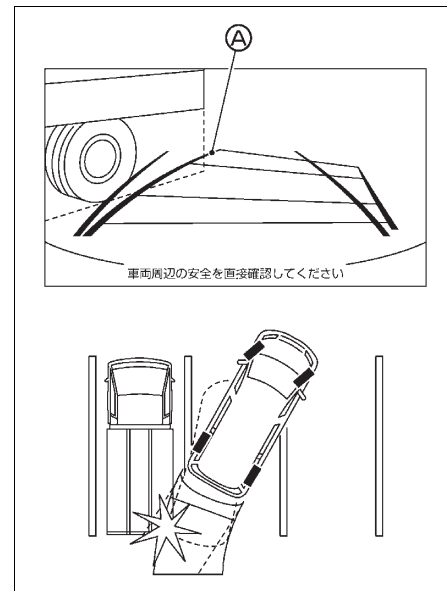
急な下り坂が後方にあるとき



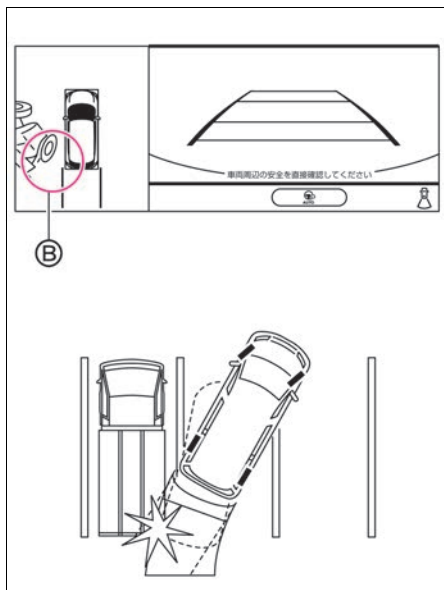
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。例えば、位置Aまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Bです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くに見えるようになります。

立体物が近くにあるとき

- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。

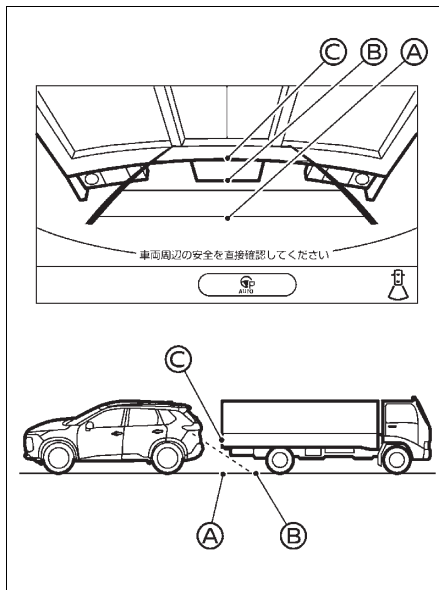


- 例1：予想進路線Aは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



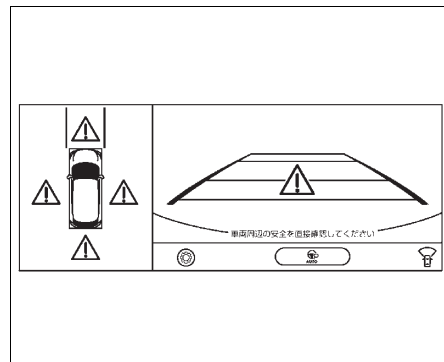
- 例2：表示されているトップビュー⑧では、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。

立体物に接近するとき

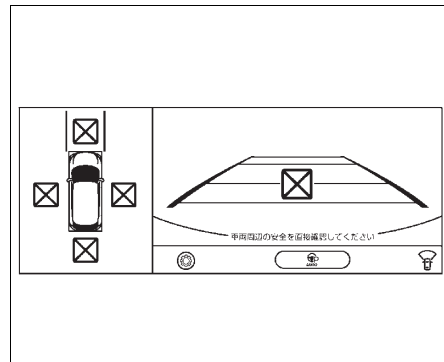


- ③の位置は⑧の位置よりも遠くにあるように見えますが、実際は④の位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、④の位置まで下がるとぶつかることがあります。

画面のエラー表示について



- △ アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。



駐車支援システム

☒ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

- インテリジェントアラウンドビューモニターカメラは次のような場合、障害物や区画線などを検知できないことがあります。
 - 雨や水しぶきがかかったとき
 - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂じん、吹雪など）などで視界が悪いとき
 - カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
 - 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
 - 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
 - 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
 - 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
 - カメラのレンズの曇りや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
 - カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき

- カメラのレンズに強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 急ブレーキや積載によって車両姿勢が大きく傾いたとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- バックドアが開いているとき
- シフトポジションがR以外のとき
- 至近距離に歩行者が飛び出してきたとき
- 子供などの背の低い人や動物、自転車
- 前屈や後屈など直立・歩行以外の姿勢の人
- 乗り物に乗っている人
- ショッピングカートやベビーカーなどを押している人
- 合羽やワンピースなど輪郭が曖昧になる服装の人
- 傘や大きなカバンを所持していて体の一部が隠れている人
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

カメラ映像が正常に表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、インテリジェントアラウンドビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられ

ます。通常走行には支障ありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

- インテリジェントアラウンドビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラECUが作動しない場合（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

- インテリジェントアラウンドビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、前の画面（ナビゲーションシステムなど）を表示し続けているとき

カメラが作動しない／カメラの故障／カメラECUの故障などにより映像に異常がある場合

- インテリジェントアラウンドビューモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

プロパイロットパーキング★

プロパイロットパーキングは、車庫入れ、縦列駐車、前向き駐車を支援する機能です。

プロパイロットパーキングについて

⚠ 警告

- プロパイロットパーキングの性能には限界があります。

⚠ 警告

安全運転を行う責任は運転者にありますので、通常の運転操作と同様に、周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。

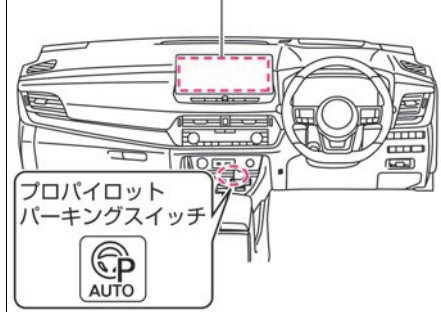
- ソナーやカメラの性能には限界があるため、障害物を検出できず、駐車位置や切り返し位置が適切に調整されない場合があります。

詳細については、ソナー/インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。(P.211、P.287)

- ステアリング制御中に、ハンドルのスポーク部に触れない。

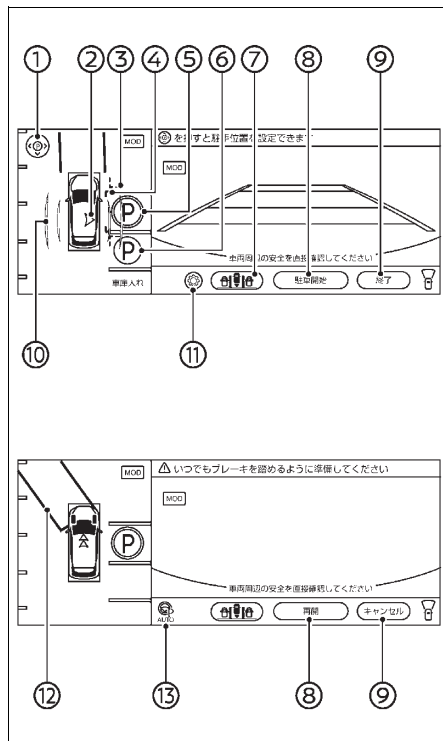
手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロット パーキング画面



- ナビゲーションシステムの画面に表示されます。
- カメラとソナーにより駐車位置を検出し、アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作を制御することにより駐車操作を支援します。
- スイッチを押すとプロパイロットパーキングが起動します。

プロパイロット パーキング画面



- ① 駐車目安枠調整アイコン
())
駐車目安枠の位置を調整できます。

駐車支援システム

- ② **駐車位置検出アイコン**
 駐車位置検出中に、左右どちらの駐車位置が検出されているか表示します。
 [▶]：右側の駐車位置が検出されているとき
 [◀]：左側の駐車位置が検出されているとき
- ③ **障害物目安線（赤色）**
 駐車制御中に車両が通過する目安範囲を表示します。
- ④ **駐車目安枠（緑色）**
 駐車しようとする目安位置を表示します。駐車制御中に水色に変わります。
- ⑤ **㊦（青色）**
 これから駐車する位置を表示します。
- ⑥ **㊦（無色）**
 選択された駐車位置以外に、選択可能な駐車位置を表示します。タッチすると㊦（青色）に切り替わりります。
- ⑦ **駐車方法切り替えアイコン**
 現在選択されている駐車方法を表示します。
 タッチすると駐車方法を切り替えることができます。
- ⑧ **【駐車開始】 / 【再開】**
 駐車制御を開始します。
- ⑨ **【終了】 / 【キャンセル】**
 プロパイロットパーキングを終了します。

- ⑩ **駐車位置検出目安線（水色）**
 駐車位置を検出する目安範囲を表示します。
- ⑪ **設定アイコン（[⚙]）**
 プロパイロットパーキングの設定を変更できます。
- ⑫ **切り返し目安枠（緑色）**
 切り返しを開始する目安位置を表示します。
- ⑬ **プロパイロットパーキング制御アイコン（[🚗]）**
 プロパイロットパーキングの制御状態を色で表示します。
 緑色：制御中
 灰色：非制御中

- ワイパー作動中やカメラレンズに付着した水滴などを検出すると[🌧]が表示されます。[🌧]表示中は、検出できる駐車位置が制限されます。

■ 車速が約10km/h以上になった場合

駐車位置検出中に車速が約10km/h以上になると、画面が切り替わります。
 車速が約10km/h以下になると、通常のプロパイロットパーキング画面に戻ります。

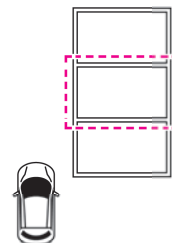
駐車方法の選択

- 【駐車開始】をタッチする前に、駐車方法切り替えアイコンで駐車方法を変更できます。アイコンをタッチすることによって駐車方法が切り替わります。

表示	駐車方法
車庫入れ 	並列駐車場所に後退して駐車
縦列駐車 	縦列駐車場所に後退して駐車
前向き駐車 	並列駐車場所に前進して駐車

プロパイロットパーキングを使って駐車する

■ 操作例：車庫入れ（右側）

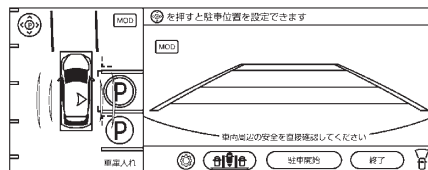


駐車支援システム

1. 駐車したい場所の手前で停車します。
2. <プロパイロットパーキングスイッチ>を押すと、プロパイロットパーキングが起動します。



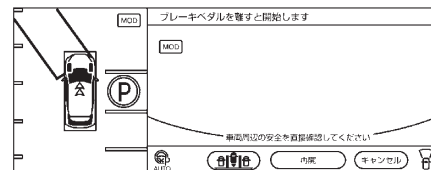
3. ゆっくりと前進し、駐車したい場所の真横（約1m）でブレーキペダルを踏んで停車する。
駐車位置検出アイコン [▶] が駐車したい場所の中央付近を示すように車両を停止します。
2本の駐車位置検出目安線（水色）の範囲内に駐車区画線が入るように車を移動すると、駐車位置を検出しやすくなります。



4. 停車状態で、駐車したい場所に④が表示されていることを確認してください。
④が表示されている駐車場所内や周辺に近接した障害物がないこと、車両が駐車できる十分な広さがあり、駐車可能な場所であることを確認してください。



5. ブレーキペダルを踏んだまま画面上の「駐車開始」をタッチするとプロパイロットパーキング制御アイコン [AUTO] が緑色になり、自動でブレーキをかけて停車状態を保持します。
ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動できないと判断した場合は、駐車制御が開始されません。その場合は通常走行で駐車を行ってください。



6. ブレーキペダルを離すと切り返し目安枠の方向（矢印の向き）に車両が移動します。周辺状況に応じてブレーキペダルを踏んで車速を調整してください。



7. 繰り返し目安枠（緑色）に到達するとシフトポジションが自動で切り替わり、車両が後退します。障害物などがあり繰り返し目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、セレクトレバーで進行方向を切り替えてください。
 ➡ 駐車制御の進行方向を切り替える (P.283)



8. 駐車目安枠（水色）に到達すると車両が停止し、駐車制御が終了します。駐車制御が終了すると、音と表示でお知らせします。そのとき、シフトポジションがPに切り替わり、電動パーキングブレーキが作動します。駐車目安枠（水色）に到達する前に駐車制御が自動で終了することがあります。
 ➡ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について (P.280)
- 障害物などがあり駐車目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、画面上の「キャンセル」をタッチしてプロパイロットパーキングを終了させてください。

- ナビゲーションシステムの <CAMERA> ボタンを押し、インテリ

ジェントアラウンドビューモニター画面上の「CAMERA」をタッチしても、プロパイロットパーキングを起動できません。

➡ インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物検知機能付） (P.263)

- プロパイロットパーキング作動中はオーディオなどの音量が小さくなります。
- 駐車目安枠が実際の駐車可能な位置に表示されない場合（障害物や側溝にかかるなど）、適切な駐車位置に手動で設定してください。

➡ 駐車目安枠の調整 (P.282)

- 駐車制御を開始するとソナー機能が自動でONになります。プロパイロットパーキングが終了すると、アドバンスドドライバアシストディスプレイで設定されたソナーの設定状態に戻ります。
- 駐車制御中は「CAMERA」、「CAMERA」などのランチャーメニューのアイコンをタッチしても画面は切り替わりません。<CAMERA> ボタンを押すと、プロパイロットパーキングは終了します。
 ➡ プロパイロットパーキングの終了のしかた (P.280)

- 以下の場合には駐車制御を開始できません。状況が改善すると駐車制御を開始できます。
 - 運転席のシートベルトを締めていないとき
 - 電動パーキングブレーキが作動しているとき
 - VDCがOFFのとき

駐車支援システム

- 駐車車両などの障害物が障害物目安線にかかっている場合、ソナーが障害物を検知して車両が停止し、駐車を完了できないことがあります。

プロパイロットパーキングの一時停止について

駐車制御の自動停止

以下の場合には自動的にブレーキがかかり車両が停止します。

- 進行方向に障害物を検出したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 駐車制御を再開すると、自動でシフトポジションが**D**または**R**に切り替わります。
- 障害物を検出して停止した場合、駐車制御を再開すると進行方向を変えて、切り返しにより駐車制御を継続します。
- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。
- シートベルトを着用しないと駐車制御を再開できません。

状況が改善されたことを確認し、ブレーキペダルを踏みながら画面上の「再開」をタッチすると駐車制御を再開できます。

プロパイロットパーキングの終了のしかた

画面上の「終了」または「キャンセル」をタッチすると、プロパイロットパーキングが終了します。

駐車制御中にプロパイロットパーキングを終了すると、自動的にブレーキがかかり車

両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションは**P**に切り替わります。

■ 駐車位置検出中の自動終了について

⚠ 警告

- 駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む。
自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

以下の場合、プロパイロットパーキングが自動的に終了します。

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- プロパイロットパーキング起動後約500m以上走行したとき
- 車速が約30km/hを超えたとき
- ドアミラーを閉じたとき
- **[△]** や<CAMERA>ボタンなどで画面を切り替えたとき
- システムに異常が検出されたとき

■ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について

以下の場合、プロパイロットパーキングが自動的に終了します。

駐車制御中に自動終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションは**P**に切り替わります。

- ハンドルを操作したとき

- アクセルペダルを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションを切り替えたとき
- <CAMERA>ボタンを押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- <プロパイロットパーキングスイッチ>を押したとき
- 障害物などにより駐車位置まで移動ができないと判断したとき
- 駐車制御による駐車位置が大きくずれたと判断したとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 駐車位置に近い場所で以下の状況になったとき
 - 駐車経路上に障害物を検出したとき
 - 運転席のシートベルトを外したとき

■ 駐車制御中（一時停止時）の自動終了について

以下の場合には音と表示でお知らせし、プロパイロットパーキングが自動的に終了します。

このとき、電動パーキングブレーキが作動し、シフトポジションが**P**に切り替わります。

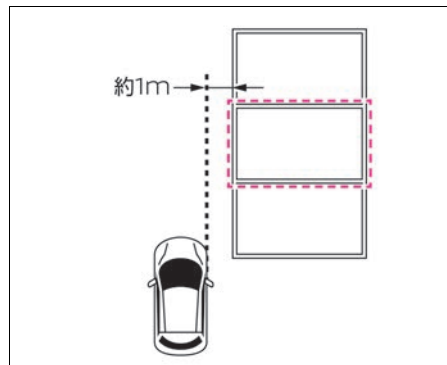
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき

駐車支援システム

- アクセルペダルを踏んだとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションを**P**または**N**に切り替えたとき
- 一時停止状態が約1分以上経過したとき
- <CAMERA> ボタンを押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- システムに異常が検出されたとき
- <プロパイロットパーキングスイッチ>を押したとき

プロパイロットパーキングの駐車方法について

■ 車庫入れ



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

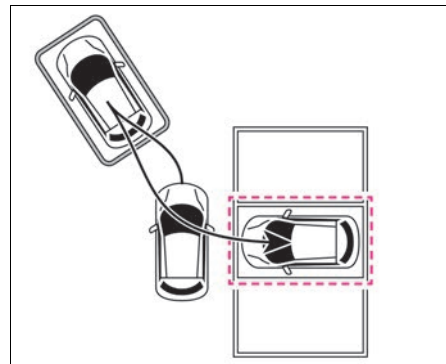
☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

② 駐車位置検出機能について (P.283)

ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

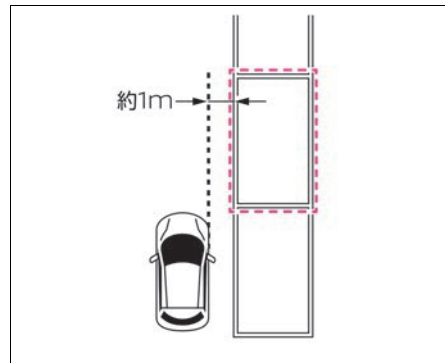
自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、繰り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

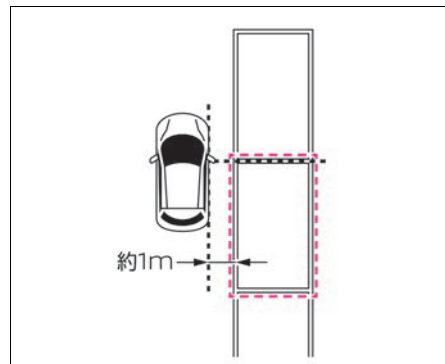
■ 縦列駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

② 駐車位置検出機能について (P.283)

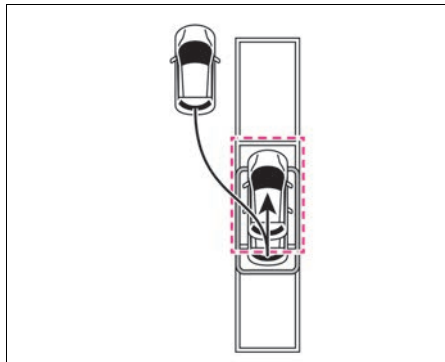


駐車支援システム

ゆっくりと前進し、駐車位置に平行になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

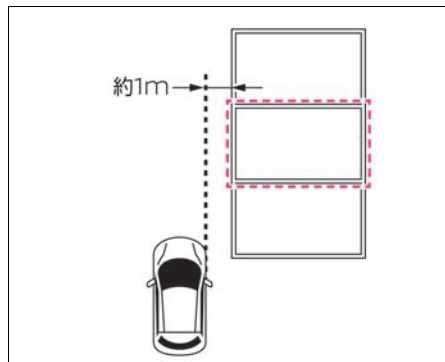
自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の先端になるように車両を停止させてください。

(例) 後退から開始する場合の経路



図のような経路で駐車制御を行います。障害物や駐車位置によっては後退から開始する場合があります。駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

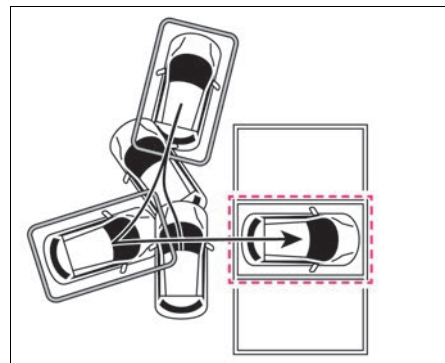
■ 前向き駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

🔍 駐車位置検出機能について (P.283)

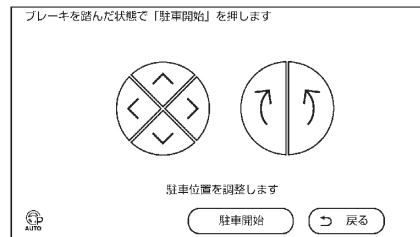
ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

駐車目安枠の調整

駐車目安枠を手動で調整することができます。



駐車支援システム

- ブレーキを踏んで車両を停止し、画面上の駐車目安枠調整アイコン（）をタッチします。
⑨が表示されているときは、⑩のあった位置に駐車目安枠が表示されます。
駐車位置が検出されていないときは、デフォルトの位置に駐車目安枠が表示されます。
- 矢印をタッチして微調整します。
 - 表示される障害物目安線は駐車位置に移動する際に車両の一部がはみ出す可能性がある範囲の目安を示します。車両やポールなどの障害物が障害物目安線より外側にあるときに円滑な駐車を行うことができます。
 - 左側画面を直接タッチすることで、駐車目安枠を移動することができます。
 - 方向指示器を使って駐車目安枠の方向を切り替えることができます。

駐車制御の進行方向を切り替える

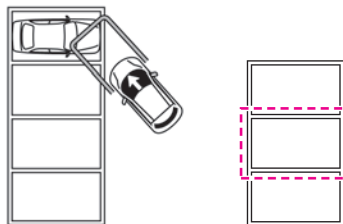
車両の進行方向に障害物（ポールなど）がある、または溝や崖など地面より低い場所があるときには、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

⑨ プロパイロット パーキングの注意事項 (P.285)

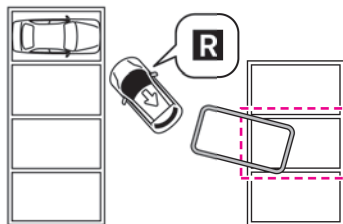
その後、セレクトレバーで進行方向を切り替え、駐車制御を再開します。

- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。

(例) 駐車車両がある場合



- ブレーキペダルを踏んで車両を停止させます。



- セレクトレバーで進行方向を切り替えます。
「再開」をタッチすると駐車制御を再開します。

駐車位置検出機能について

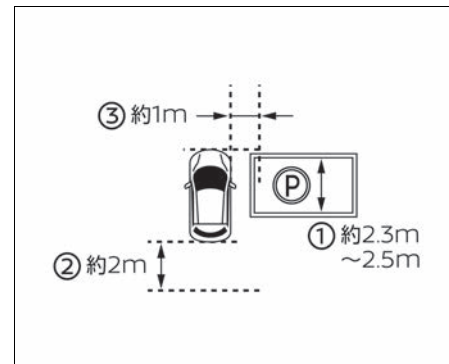
カメラとソナーを使って駐車位置を検出します。複数の駐車位置を検出できます。

カメラを使い、駐車区画線を認識して駐車位置を表示します。

ソナーにより、検出した駐車区画内に障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

- フロントビュー、サイドビュー、リヤビューカメラのいずれかのカメラのレンズに汚れ、水滴などが付着しているときは検出できる駐車位置に制限がかかる場合があります。

■ 車庫入れ、前向き駐車が選択されている場合

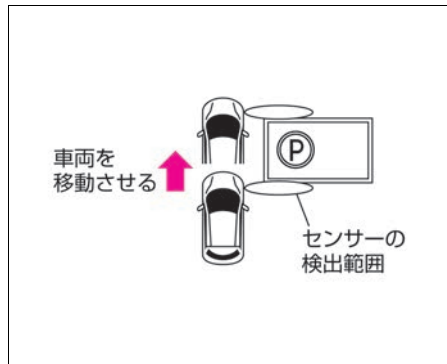


以下の条件で駐車位置を検出します。

- 幅約2.3m~2.5m①の駐車区画を基本として認識します。
- 単線またはU字の区画線を基本として認識します。

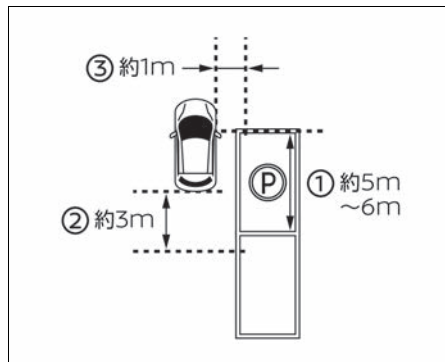
駐車支援システム

- 区画線の太さは約15cmを基本として認識します。
 - 自車の前端から自車の後端約2m②以内に区画線があるときに認識します。
 - 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
 - [左右の自動選択] がONの場合は車両の両側の駐車位置が検出されます。
- ➡ プロパイロットパーキングの設定
(P.286)



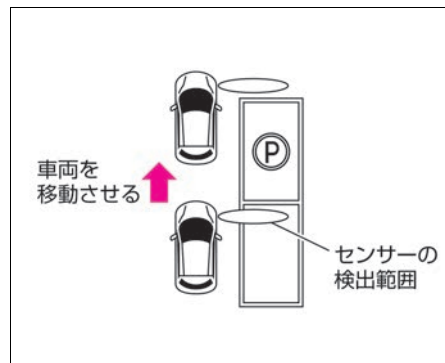
フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。
ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

縦列駐車が選択されている場合



以下の条件で駐車位置を検出します。

- 長さ約5m～6m①の駐車区画を基本として認識します。
 - 区画線は単線を基本として認識します。
 - 区画線の太さは約15cmを基本として認識します。
 - 自車の運転席ドア付近から自車の後端約3m②以内に区画線があるときに認識します。
 - 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
 - [左右の自動選択] がONの場合は車両の両側の駐車区画が検出されます。
- ➡ プロパイロットパーキングの設定
(P.286)

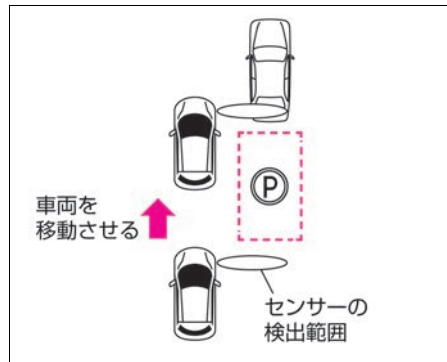


フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

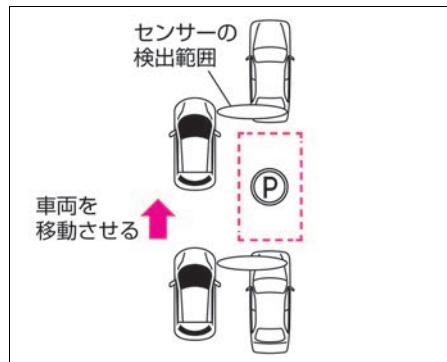
ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。
駐車区画線が認識されない場合は、ソナーセンサーを使って周囲の障害物から駐車場所を検出します。
周囲の障害物の位置や角度によっては駐車目安枠は大きくずれる場合があります。

駐車支援システム

● 障害物の手前にスペースがある場合



● 障害物間に駐車可能なスペースがある場合



プロパイロットパーキングに使用するカメラ、ソナーセンサーについて

インテリジェントアラウンドビューモニターのカメラと前後左右12個のソナーセンサーを使用しています。

取り扱いについては、フロントビュー／サイドビューカメラ (➡ P.389)、リヤビューカメラ (➡ P.389)、ソナー (➡ P.390) をお読みください。

プロパイロットパーキングの注意事項

⚠ 警告

- 画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。

障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

- 周囲の車両や人の動きに十分注意してください。

検出された通路幅を有効に使うって駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。

- プロパイロットパーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロットパーキングを終了してください。

プロパイロットパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。

- プロパイロットパーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。

- 状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

- 駐車制御中は周囲へ車両の進む方向を知らせるために方向指示器を作動させてください。

- 次のような状況ではプロパイロットパーキングを使用しないでください。

- 人や車両などの通行量が多い場所
- 停車および駐車が禁止されている場所
- 車両が入らないほど狭い場所
- 穴や溝などがあるような駐車できない場所
- 通路幅が狭い場所
- 急な勾配のある場所
- 砂地や砂利地などの整備されていない路面
- 雪や凍結などでスリッパしやすい路面
- 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面

⚠ 警告

- 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
- 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
- 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
- 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
- 過積載のとき
- 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- けん引フックなどを取り付けているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
- ドアミラーが開き切っていないとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
- バンパーにへこみなどがあるとき

- ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

アドバイス

- 縁石や車止めは検出できません。
縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。

プロパイロット パーキングの故障について

システムに異常があると、ナビゲーション画面に警告メッセージが表示され、プロパイロット パーキング制御アイコン（）の色が橙色に変わり、プロパイロット パーキングが自動的に解除されます。使用中に警告が表示されたときは、安全な場所に停車して＜パワースイッチ＞をOFFにしてから再度ONにしてください。

上記の操作を行ってもプロパイロット パーキングが起動できないときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット パーキングの設定

1. ナビゲーションシステム画面の
[] ⇒ [] をタッチします。
2. [プロパイロット パーキング] をタッチし、設定項目を選びます。

表示	駐車方法
[前回駐車方法を選択]	ONにすると前回の駐車方法が選択されます。 OFFにすると車庫入れが選択されます。
[左右の自動選択]	ONにすると車両の両側の駐車位置が検出されます。 OFFにすると前回プロパイロット パーキングを使用した側の駐車位置のみ検出されます。 そのとき、方向指示器を作動させると作動方向の駐車位置を検出します。
[駐車方法の設定]	プロパイロット パーキング画面で選択できる駐車方法を設定できます。 ONになっている駐車方法が駐車方法変更アイコンをタッチするごとに選択されます。 OFFになっている駐車方法は駐車方法変更アイコンをタッチしても選択されません。 👉 駐車方法の選択 <u>(P.277)</u>

ソナーの検知条件と制限

⚠ 警告

- **ソナーの性能には限界があります。**
詳細についてはソナーの検知条件と制限をお読みください。

➡ ソナーの検知条件と制限
(P.211)

インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

⚠ 警告

- **インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの性能には限界があります。**

詳細についてはインテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。

➡ インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.275)

プロパイロットパーキングの条件と制限

次のような場合、正常に作動しないことがあります。

- 以下のような状況ではブレーキがかかるなど、適切に駐車制御できない場合があります。
 - ー 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき

- ー 周囲で大きな音が鳴っているとき
- ー 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
- ー 周囲に草が生い茂っているとき
- ー 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
- ー 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
- ー 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
- ー 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
- ー 車両周辺に雪の固まりがあるとき
- 以下のような状況ではシステムが機能を十分に発揮できない場合があります。
 - ー 純正品以外のタイヤを使用しているとき
- 以下のような状況では設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。必要に応じて適切な位置に車両を移動してください。
 - ー 路面が平坦ではないとき
 - ー 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたたりして車両が傾いているとき
- 以下のような状況では駐車位置を検出できない、または検出しにくい場合があります。
 - ー 自車が駐車区画に近すぎるとき
 - ー 駐車区画がロープ、ブロックなどで作られている区画線のない駐車場
 - ー 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
 - ー 路面と区画線のコントラストが低いとき
 - ー 路面の区画線が黄色などの白線以外の色のとき
 - ー 駐車区画が極端に狭いもしくは広いとき
 - ー 区画線が極端に短いとき
 - ー 区画線が極端に細いもしくは太いとき
 - ー 駐車エリアが傾斜しているなどカメラ映像上で平行な区画線に見えないとき
 - ー 区画線が斜め線などと接続されているとき
 - ー 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
 - ー 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
 - ー 駐車区画内に障害物があるとき
 - ー 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ー 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂じん、吹雪など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
 - ー カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
 - ー 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
 - ー 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
 - ー 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
 - ー 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

駐車支援システム

- カメラのレンズが汚れていたり、水滴が付着していたりしているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- 段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 石畳や緑化駐車場のとき
- 画面上で駐車区画内にノイズ状の模様があるように表示されているとき
- 駐車区画内に文字などが描かれているとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 駐車区画と自車が傾いて止まっているとき
- 通路幅が狭いとき
- 前方に障害物があるとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
- 周囲に草が生い茂っているとき
- 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
- 車両周辺に雪の固まりがあるとき
- 以下のような状況では適切な位置に駐車位置が検出されない場合があります。
 - 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
 - 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき

- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 勾配がついている駐車場
- 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差ししかかっているとき
- 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- 純正品以外のタイヤを使用しているときには、設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。冬用タイヤなどへ交換をした際は、日産販売会社にご相談ください。

室内灯

マップランプ/ルームランプ★/リヤ読書灯★/ ラゲッジランプ	P.290
室内間接照明★	P.291

収納装備

グローブボックス	P.292
センターコンソールボックス	P.292
フロアコンソールトレイ	P.292
カップホルダー/ボトルホルダー	P.293
オーバーヘッドコンソール	P.294

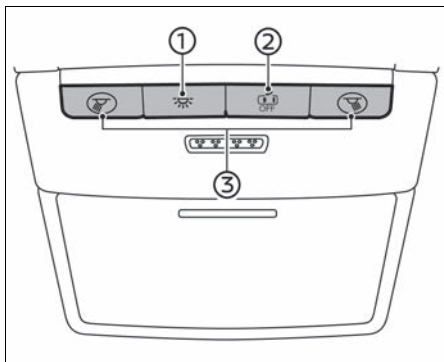
その他の室内装備

先進事故自動通報システム★	P.295
ステアリングヒーター★	P.298
ヒーターシート	P.299
電源ソケット	P.299
USB電源ソケット	P.300
100V AC電源 (1500W) ★	P.301
ワイヤレス充電器★	P.306
アクティブ・ノイズ・コントロール	P.307
ロールサンシェード★	P.308
フロアカーペット	P.308
サンバイザー/バニティーミラー	P.309
チケットホルダー	P.309
アシストグリップ/コートハンガー	P.310

ラゲッジアンダースペース	P.310
ラゲッジフック	P.310

マップランプ／ルームランプ★／ リヤ読書灯★／ラゲッジランプ

マップランプの使いかた



- マップランプは、フロントシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯・消灯します。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
①< 茶 >	スイッチを押すと、マップランプ、ルームランプおよびリヤ読書灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
②< 点灯 OFF >	スイッチが押し込まれていないとき、ドア（バックドアを除く）を開けるとマップランプ、ルームランプ、リヤ読書灯が点灯し、閉めると消灯します。スイッチが押し込まれているとき、消灯します。
③< 点灯 OFF >	スイッチを押すごとに点灯・消灯します。

- <パワースイッチ>がOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

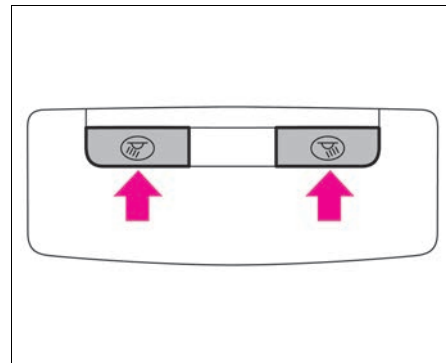
キー連動室内照明システム（ラゲッジランプを除く）

- < 点灯 OFF >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
 - － <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
 - － <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
 - － <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間
 - － ドア（バックドアを除く）が開いているとき

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ルームランプの使いかた



- ルームランプは、セカンドシート天井部の中央にあります。
- < 点灯 OFF >スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

キー連動室内照明システム

- マップランプの< 点灯 OFF >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
 - － <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
 - － <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間

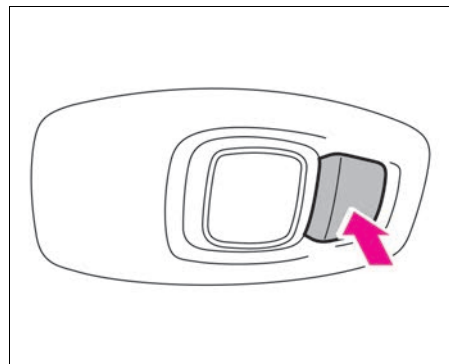
室内灯

- <パワースイッチ>がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間
- ドア（バックドアを除く）が開いているとき

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ルームランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

リヤ読書灯の使いかた



- リヤ読書灯は、セカンドシート天井部の左右にあります。
- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

キー連動室内照明システム（ラゲッジランプを除く）

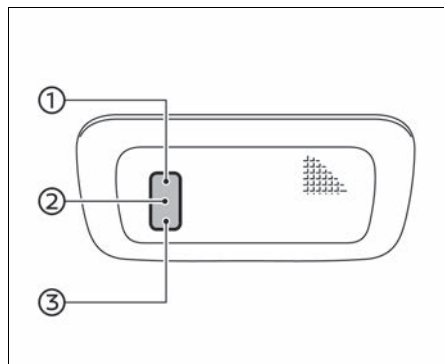
- マップランプの<OFF>スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。

- <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
- <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
- <パワースイッチ>がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間
- ドア（バックドアを除く）が開いているとき

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、リヤ読書灯は10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ラゲッジランプの使いかた



- ラゲッジランプはラゲッジルーム天井部にあります。
- <パワースイッチ>がOFFのときは、を長時間点灯させないでください。

12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

- 次のように点灯・消灯します。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
① ON	常時点灯します。
② DOOR	バックドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
③ OFF	常時消灯します。

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ラゲッジランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

室内間接照明★

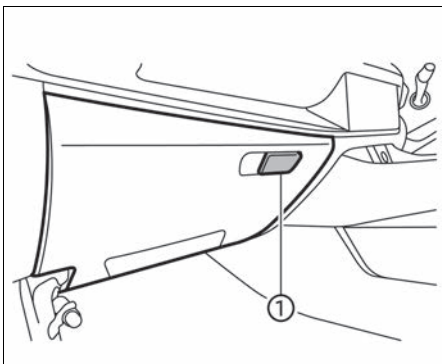
- 室内間接照明はアドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をする
と、明るさ調整およびOFFができます。
設定 [⚙] ⇒ [車両設定] ⇒ [ライト/照明] ⇒ [室内間接照明]

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- グローブボックスを開けたまま走行しない。
ブレーキを掛けたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。
ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。



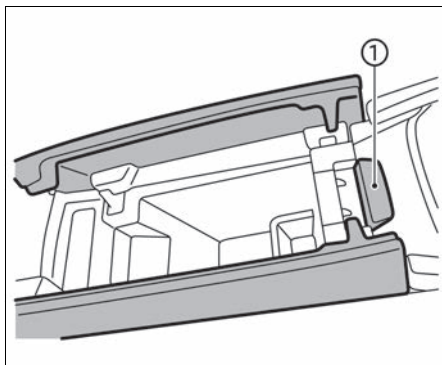
- ノブを引くと、ふたが開きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

センターコンソールボックス

センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 注意

- センターコンソールボックスを開けたままにしない。
開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。



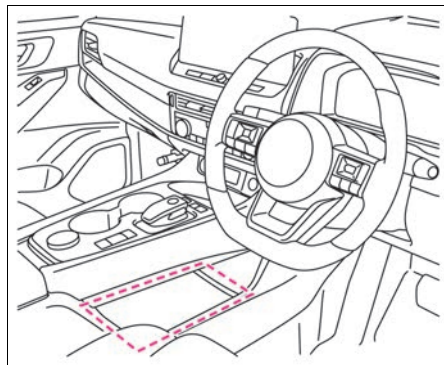
- 開けるときは、ノブ①を引きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

ロアコンソールトレイ

ロアコンソールトレイについて

⚠ 注意

- ロアコンソールトレイに飛び出すおそれがあるものを置かない。
急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

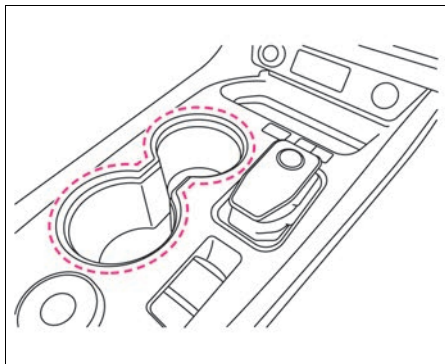


- ロアコンソールトレイは、センターコンソールの下部にあります。

収納装備

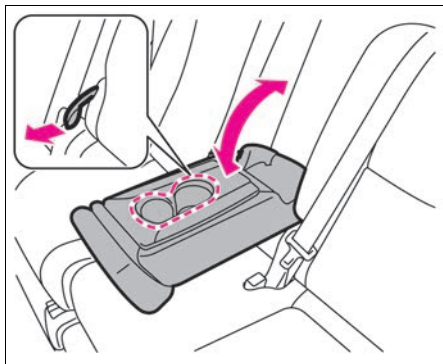
カップホルダー/ボトルホルダー

フロントシート用カップホルダーについて



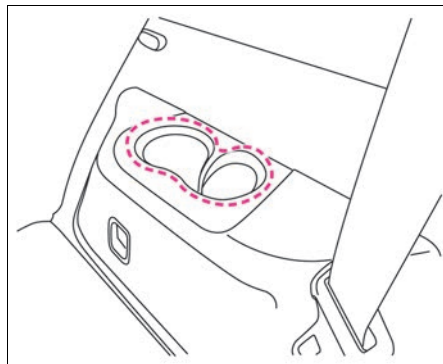
- フロントシート用カップホルダーは、センターコンソールにあります。

セカンドシート用カップホルダーについて



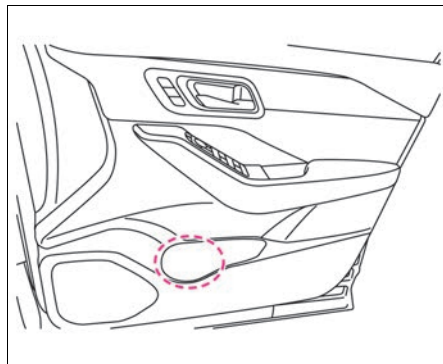
- ストラップを引いてアームレストを前に倒して使います。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

サードシート用カップホルダーについて★



- サードシート用カップホルダーは、サードシート右側にあります。

ボトルホルダーについて



収納装備

- ボトルホルダーは、フロントシートおよびセカンドシートのドアポケットにあります。

カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- 運転中に飲物を出し入れしない。
運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- ビンなどの硬いものは入れない。
側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 熱い飲物を置かない。
熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- 飲物をこぼさないように注意する。
飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- 車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。
故障や火災のおそれがあります。

🚗 アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール

サングラスなどを収納できます。

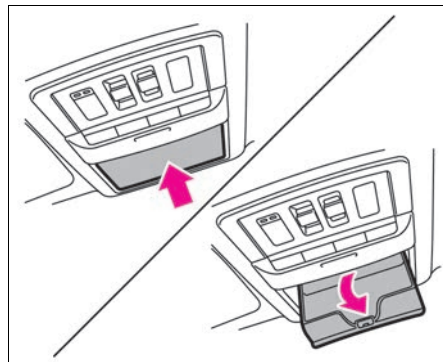
オーバーヘッドコンソールの使いかた

⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。
炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。
収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

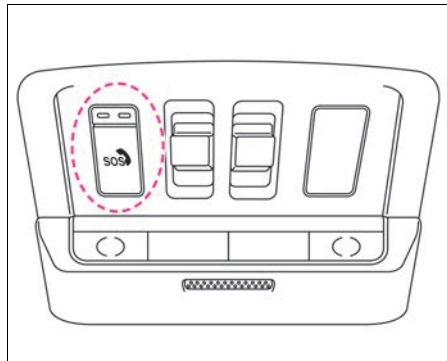


- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

先進事故自動通報システム★

＜SOSコールスイッチ＞を押すことでSOSコールを開始できます。また、エアバッグが作動するレベルの事故では、自動でSOSコールを開始します。

先進事故自動通報システムについて



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜SOSコールスイッチ＞を押すと、SOSコールを開始できます。
- ＜SOSコールスイッチ＞は、マップランプ中央にあります。
- プロパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）により緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。
- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。

- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 日産販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、日産販売会社へお問い合わせください。

先進事故自動通報システムの使いかた

⚠ 警告

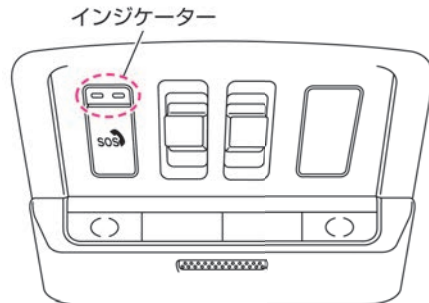
- ＜SOSコールスイッチ＞を押すときは、安全な場所に停車してから行う。
走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。



アドバイス

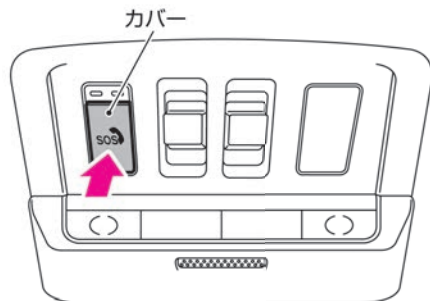
- 次の場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

- ー ＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
- ー インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから約5秒後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
- インジケーターが赤色・緑色ともに消灯している場合は、電波環境のよい場所まで車を移動させてください。



1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
＜SOSコールスイッチ＞のインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、約5秒後に緑色のみ点灯を続けます。

その他の室内装備



2. <SOSコールスイッチ>のカバーを開きます。



3. <SOSコールスイッチ>を約1秒間押します。
緑色のインジケータが点滅し、オペレーターに繋がります。

4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

- SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

SOSコールスイッチのインジケーターについて

- <SOSコールスイッチ>には、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
 (消灯)	 (消灯)	システムOFF サービスエリア外	● システムがOFFの状態です。 ● <パワースイッチ>をONにすると電源が入ります。<パワースイッチ>をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないときは日産販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOSコールを開始できない状態です。車を電波環境の良い場所へ移動させてください。
 (点灯)	 (点灯)	システムON通知	● システムがONになったことを知らせます。 ● システムがONになると、約5秒間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
 (消灯)	 (点灯)	SOSコール開始可能	● SOSコールを開始できる状態です。
 (消灯)	 (点滅)	SOSコール利用中	● オペレーターセンターと通信中、またはオペレーターと通話中の状態です。
 (点灯)	 (消灯)	システム異常 SOSコールサービス契約なし 先進事故自動通報システム使用不可	● システム異常またはSOSコールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、日産販売会社で点検を受けてください。

先進事故自動通報システムに関する 注意事項

アドバイス

- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 12Vバッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでe-POWERシステムを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、マップランプにあるマイクに向かって話してください。
- 先進事故自動通報システムは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをされていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前に車側で初期設定が必要です。サービス契約後は日産販売会社で初期設定を完了してください。

- 車の登録ナンバーを変更したときは、NissanConnect お客さまセンターへ必ずご連絡ください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、NissanConnect お客さまセンターに必ずご連絡いただき、解約を行ってください。

NissanConnect お客さまセンター：

0120-981-523

受付時間 9:00～17:00（年末年始を除く）

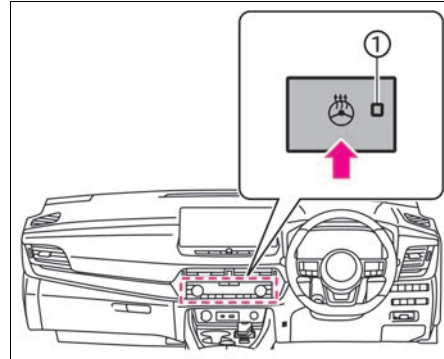
- 先進事故自動通報システムは、国内でのみ利用できます。
- 先進事故自動通報システムは、NissanConnect サービスを申し込みただくことで利用できます。
- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外で<SOSコールスイッチ>を押さないでください。

- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- SOSコールサービスの契約期限後、継続利用を希望しない場合、日産販売会社にて退会手続きを行ってください。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のwebサイトを参照してください。
<https://www.oss-valeo.com/nissan/default.html>

ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。
走行可能表示灯が点灯しているときに使えます。

ステアリングヒーターの使いかた



その他の室内装備

※スイッチの表示灯①の位置は車種により異なります。

- スイッチを押すと約30分間作動します。
(スイッチの表示灯①が点灯)
- 作動中にスイッチを押すと作動が停止します。
(スイッチの表示灯の①が消灯)
- ハンドルの表面温度が一定温度以上のときは、スイッチを押してもステアリングヒーターは作動しません。

ヒーターシート

フロントシートまたはセカンドシート（左右席）★を温めます。

走行可能表示灯が点灯しているときに使えます。

⚠ 注意

- 長時間の連続使用はしない。

低温やけなどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。

- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。

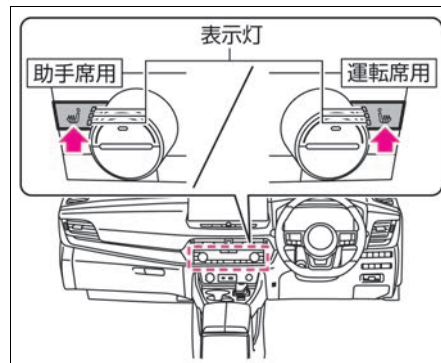
🚗 アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用したりしないでください。

- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。

モード	表示灯	働き
HI	3つ点灯	強
MID	2つ点灯	中
LO	1つ点灯	弱
OFF	消灯	停止

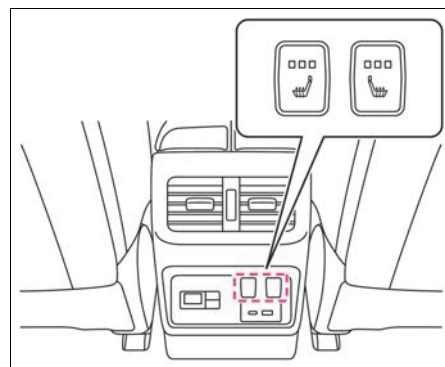
前席ヒーターシートの使いかた



- スイッチを押すと作動します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- スイッチを押すごとに
HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

- e-POWERシステムを再始動すると助手席側はOFFになります。

後席ヒーターシート★の使いかた



※スイッチの位置は車種により異なります。

- スイッチを押すと作動します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- スイッチを押すごとに
HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
- e-POWERシステムを再始動すると助手席側はOFFになります。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。

その他の室内装備

電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- 電源ソケットを使うときは、次のことを守る。

電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

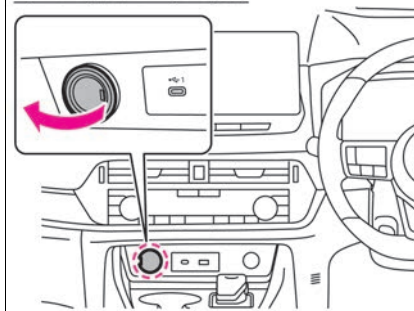
- 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。
- 消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。
- 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

🚗 アドバイス

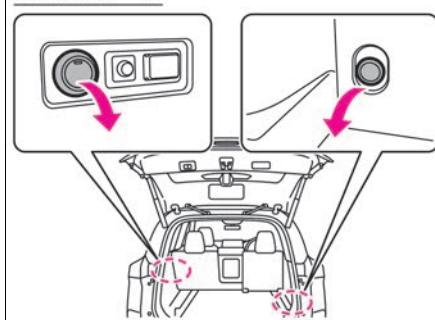
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。

※ラゲッジルームの電源ソケットの位置は車種により異なります。

インストルメントパネル



ラゲッジルーム



- 電源ソケットはインストルメントパネルとラゲッジルームにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするとき、使用機器側の電源をOFFにする

か、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。

USB電源ソケット

USB電源ソケットはモバイル機器などの充電専用です。インストルメントパネルのUSB電源ソケット★は通信も可能です。

USB電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- USB電源ソケットを使用するときは、次のことを守る。

USB電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- 複数のUSB電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない
- 消費電力12W以下のものを使用する
- ケーブルはしっかり奥まで挿入する

その他の室内装備

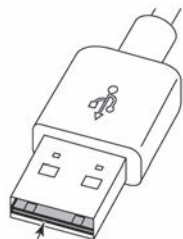
⚠ 警告

- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
- ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。
運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

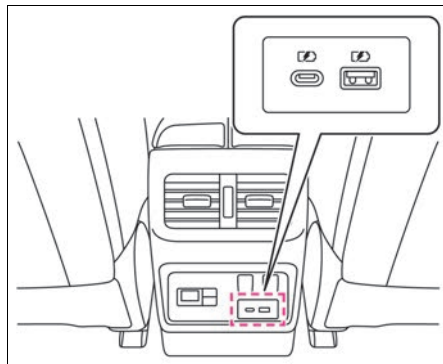
🚗 アドバイス



リバーシブルタイプUSBコネクター
(接点基板が中央にある)

- 両面挿し（リバーシブル）対応のUSBケーブルは、USB電源ソケットの内部端子を破損するおそれがあるので使用しないでください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。

※USB電源ソケットの位置は車種により異なります。



モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ソケットが用意されています。

- USB電源ソケットはセンターコンソールにあります。
- USB Type-Aの容量は、5V（ボルト）、2.4A（アンペア）、12W（ワット）です。
- USB Type-C★の容量は、5V（ボルト）、3A（アンペア）、15W（ワット）です。
- インストルメントパネルのUSB電源ソケット★については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

100V AC電源 (1500W) ★

電気製品の電源をとるときに使います。

100V AC電源 (1500W) について

⚠ 警告

- 換気の悪い場所では、100V AC電源 (1500W) を使用しない。

排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- 駐車中に100V AC電源 (1500W) を使用するときは、シフトポジションを確実にPに入れ、パーキングブレーキを掛ける。

万一シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- お客様が接続される電気製品の取扱説明書や製品に記載の警告・注意事項を守って使用する。

火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- 故障した電気製品や破損した電源プラグ、水没や浸水した、またはそのおそれのある電気製品は使用しない。

火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

その他の室内装備

⚠ 警告

- 電気製品は確実に固定する。また、調理機器などは、内容物を入れたまま走行しない。

振動・急停止などにより電気製品が転倒・落下したり、内容物が飛び出したりするおそれがあります。

- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子を備えたコンセントにプラグを差し込み、アース線をアース端子に接続して使用する。
- 使用する電気製品のプラグ形状と車両側のコンセント形状が一致しない場合は、市販の変換アダプターを使用してアース線を接続する。

⚠ 注意

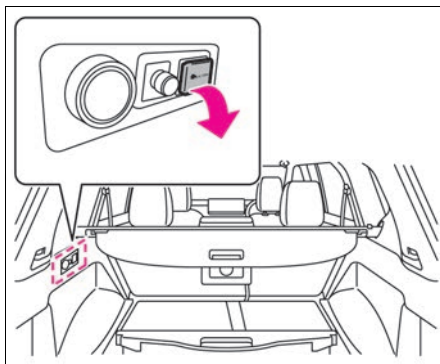
- お子さまだけで100V AC電源（1500W）のコンセントを触らない。
- 車室内で蒸気が出る電気製品を使用しない。

窓ガラスがくもり、運転する際に視界を妨げるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- 車室内が高温のときは、100V AC電源（1500W）が使用できない場合があります。車室内の温度が下がるまで風通しの良い日かげなどに駐車し、窓やドアなどを開けて換気してください。

- 長い延長コードやコードリールを使用したとき、正常に電気製品が作動しないことがあります。
- 電源周波数は50Hzに設定されています。周波数を切り替えたい場合は、日産販売会社にお問い合わせください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電が停止することがあります。
- 災害などに起因する停電時に、他に安定した電源が確保できない場合には、電動車活用社会推進協議会が発行している「災害時における電動車から医療機器への給電活用マニュアル」を参照してください。
- 測定機器は使用しないでください。誤作動するおそれがあります。



- 100V AC電源（1500W）はラゲッジルームにあります。

- AC100V（ボルト）最大負荷 1500W（ワット）の電源としてお使いください。
- 最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。1500Wを超える電気製品を使用すると、100V AC電源（1500W）の保護機能が作動し、コンセントが使用できなくなる場合があります。
- 最大負荷が1500W以下でも、次のような電気製品は正常に作動しないことがあります。
 - ー 一時的に大きな電流が発生する電気製品
 - ー データ測定をする電気製品
 - ー 安定した電力供給を必要とする電気製品
 - ー タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- 最大負荷1500Wで連続使用したとき、作動しない場合があります。
- 接続する電気製品によって、ラジオやTV★が聞こえなくなることがあります。
- 100V AC電源（1500W）を使用しているとき、冷却ファンの音がする場合がありますが、異常ではありません。

100V AC電源（1500W）の使いかた

⚠ 警告

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

その他の室内装備

⚠ 警告

感電するおそれがあります。

- コンセントに水がかからないようにする。

感電するおそれがあります。

- コンセントに金属製の鋭利なもの（ピン・針金など）を差し込まない。

感電するおそれがあります。

- 100V AC電源（1500W）の分解・修理・改造をしない。

感電するおそれがあります。

- 車外で電気製品を使用しているときに、雷が鳴ったらすぐに電気製品の使用を中止してコンセントから抜く。

感電、火災のおそれがあります。

- 100V AC電源（1500W）を家屋内のコンセントや配電盤などに接続し、電気を供給する電源として使用しない。

⚠ 注意

- 100V AC電源（1500W）を使用するときは、車両から離れない。
- e-POWERシステム警告灯が点灯しているときは100V AC電源（1500W）を使用しない。

- 100V AC電源（1500W）をONにするときは、接続する電気製品の電源がOFFになっている事を確認する。

電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

電気製品の電源スイッチが無いものについては、先に100V AC電源（1500W）をONにしてからコンセントに接続してください。

- 車室内で電気製品を使用するときは、落下や転倒などしないように安定した場所で使用する。

ケガをするおそれがあります。

- 100V AC電源（1500W）のコンセントを使用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車などへの充電はしない。

- 接続する電気製品のプラグを、確実にコンセントの根元まで挿入して使用する。

- 100V AC電源（1500W）を使用して、車外で電気製品を使用する場合は、ドアや窓にコードを挟まない。

- 100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、コンセントのふたを閉める。

コンセントにゴミ、ほこりがたまるとショートするおそれがあります。

- コンセントに電気製品のプラグを差し込んだときに、緩いと感じた場合は日産販売会社に問い合わせる。

- タコ足配線をしない。

- ACアダプター付プラグを直接コンセントに取り付けない。

ACアダプターの重さにより、プラグが抜けかかり、場合によっては発熱のおそれがあります。

アドバイス

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

- 複数の電気製品を使用した場合、電気製品の組み合わせにより正常に作動しないことがあります。

- 100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞をOFFにすることを推奨します。（100V AC電源（1500W）システムの待機電力分の節約のため）

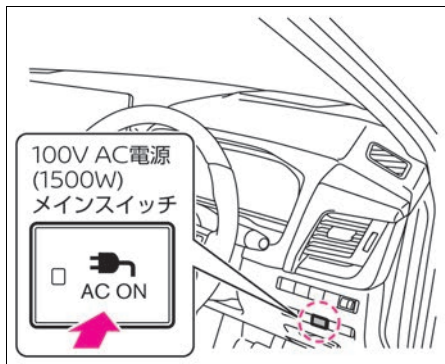
- 走行中の振動や炎天下時などの車室内温度によっては電気製品が故障するおそれがあるため車内で使用しないでください。

- 水平設置が必要な電気製品は正常に動作しない可能性あるため車室内で使用しないでください。

その他の室内装備

アドバイス

- 粉じんの多い場所、直射日光の当たる場所、防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所では使用しないでください。



- ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押して、メーター内の走行可能表示灯が点灯していることを確認します。
<100V AC電源 (1500W) メインスイッチ>を押すと、100V AC電源 (1500W) を使用できます。
(<100V AC電源 (1500W) メインスイッチ>の表示灯が点灯)
- 使用するときは100V AC電源 (1500W) のふたを開けます。
- プラグをコンセントに差し、電気製品の電源を入れて使用してください。

- アース線のある電気製品を使用するときは、電気製品の電源を入れる前にアース線を接続してください。
- 100V AC電源 (1500W) をOFFにするときは、再度<100V AC電源 (1500W) メインスイッチ>を押します。
- 使用後は、100V AC電源 (1500W) のふたを閉めてください。
- 100V AC電源 (1500W) 使用中に、<パワースイッチ>をOFFにすると、100V AC電源 (1500W) もOFFになります。再始動しても、100V AC電源 (1500W) は自動的にONになりません。
- 駐停車中に100V AC電源 (1500W) を使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。

100V AC電源（1500W）で困ったときは

100V AC電源（1500W）が使用できず困ったときは、次のことをご確認ください。これらを確認しても問題が解決できないときは、車両または100V AC電源（1500W）の故障のおそれがあるため、日産販売会社にご連絡ください。

症状	原因	対処方法
100V AC電源（1500W）がONにならない	車室内が高温になっている	車室内の温度が下がるまで風通しの良い日陰などで、窓やドアなどを開けて換気してください。
	走行可能状態になっていない	走行可能状態にして使用してください。
接続する電気製品が使用できない	接続する電気製品の最大負荷が1500Wを超えている	最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。
	接続する電気製品が一時的に大きな電流を流している	一時的に大きな電流が流れない電気製品を使用してください。
	接続する電気製品にあった周波数（50Hz／60Hz）になっていない	電気製品の周波数を変更してください。または、お近くの日産販売会社で電源周波数を変更してください。
	接続する電気製品のプラグ形状が、曲がっている	プラグ形状が曲がった電気製品を使用しないでください。
	接続する電気製品が、故障している	故障した電気製品を使用しないでください。

ワイヤレス充電器★

ワイヤレス充電器はQi対応スマートフォンの充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- 充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。

車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造者などへ影響を確認してから使用する。

ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- 充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。

車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- スマートフォンが濡れた状態で充電しない。

故障、火災または感電のおそれがあります。

- 充電中は金属物やインテリジェントキー、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。

- 充電エリアに水や飲物などの液体をこぼさないように注意する。

故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- 充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。
- 充電エリアの表面を叩かない。
- 充電エリアの清掃にはグリース、オイル、アルコールを使用しない。

アドバイス

- トレイに置くことができないサイズのスマートフォンは、充電することはできません。
- 132×65mm以下のサイズのスマートフォンは、充電できない場合があります。
- 充電エリアとスマートフォンの間に磁気カード、および充電エリアの近くにクレジットカード・ETCカードや磁気記録メディアなどを置かないでください。データが破損する可能性があります。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。

- 充電エリアとスマートフォンの間に磁気カードや、クレジットカードなどを置かないでください。カードのデータが破損する可能性があります。

充電エリアとスマートフォンの間に磁気カード、および充電エリアの近くにクレジットカード・ETCカードや磁気記録メディアなどを置かないでください。データが破損する可能性があります。

- スマートフォンのケースやアクセサリによっては充電に影響をおよぼす可能性があるため、充電を行う前に取り外してください。

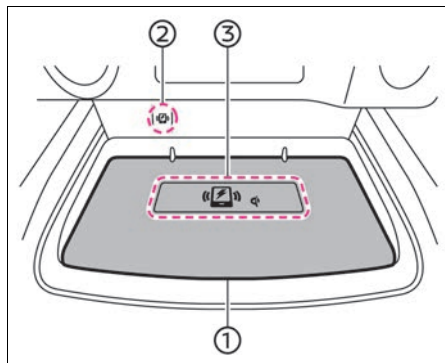
- 充電する前にスマートフォンのバイブレーション機能をOFFにしてください。

- アプリ起動中、またはアプリ使用直後に充電を行うとスマートフォンやワイヤレス充電器の温度が上がります。スマートフォンやワイヤレス充電器の保護機能により充電が停止する場合がありますが、故障ではありません。スマートフォンやワイヤレス充電器が冷えてから充電を再開してください。

- Qi対応スマートフォンを置かなければ充電は開始しませんので、トレイを小物置きとしてご使用できます。

- 走行時の振動や急旋回などにより、スマートフォンが充電エリアからずれた場合は、Qiロゴの上に置き直してください。

その他の室内装備



- ワイヤレス充電器はセンターコンソールにあります。
- スマートフォンを充電エリア①内に置くと充電が始まります。
(インジケーター②がオレンジ色に点灯)
- スマートフォンを置くときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴ [③] の上にくるように置いてください。
- 充電が完了するとインジケーター②が緑色に点灯します。(すべての機種について作動の保証はいたしません)
- 誤作動が発生したり、充電が停止したりすると、インジケーター②がオレンジ色で8秒間点滅後消灯します。
- 充電位置はスマートフォンによって異なる場合があります。
- 充電中に電波障害が発生した場合は充電が停止します。充電が停止したときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴの上にくるように置き直してください。

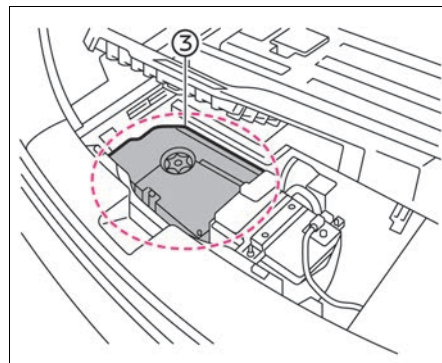
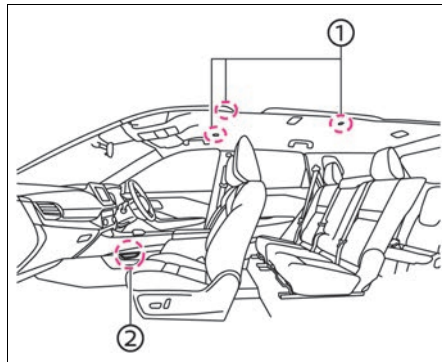
- インテリジェントキーと車両が通信をしているときは充電を停止することがあります。
- スマートフォンにUSBケーブルが接続されていると、インジケーターがオレンジ色に点灯、または点滅する場合がありますが、充電は開始されません。
- スマートフォンの種類によっては、充電が完了してもインジケーターがオレンジ色に点灯したままになる場合があります。
- スマートフォンの機種によっては、うまく動作しない場合があります。スマートフォンに付属の取扱説明書をお読みください。
- 金属物やキー (インテリジェントキー/リモートコントロールエントリーシステム) だけをトレイに置いたとき、数秒間インジケーターが点滅することがありますが、充電は開始しておりません。

アクティブ・ノイズ・コントロール

知識

- アクティブ・ノイズ・コントロールを正常に作動させるために次のことをお守りください。
 - ー スピーカーの周辺に物を置かない。
 - ー マイクの穴をふさがない。
 - ー スピーカー、ウーファー、パワースピーカーなどのオーディオ機器を交換または改造しない。

ー スピーカーやマイク取付部周辺を改造 (デッドニングなど) しない。



- 天井のマイク①でエンジンのこもり音を検知し、スピーカー②とウーファー③から自動的にこもり音を打ち消す音を出すことで車室内の静粛性を高めます。

その他の室内装備

ロールサンシェード★

セカンドシートの左右にあります。

ロールサンシェードの使いかた

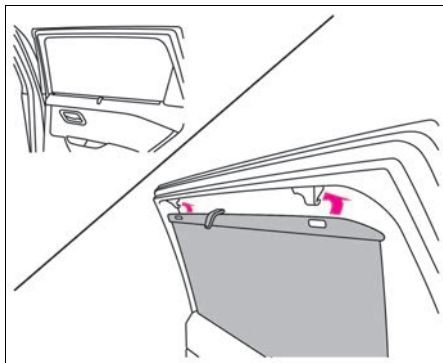
⚠ 注意

- ロールサンシェードを使用しているときは、窓ガラスを開けた状態で走行しない。

風にあおられてロールサンシェードがフックから外れてケガをしたり、シェード部分にしわができたりするおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ロールサンシェードを上方向以外に引っ張らないでください。破損の原因になります。
- ロールサンシェードを格納するときは、傾けた状態で格納しないでください。しわになる場合があります。
- 後席ドアの開閉時はロールサンシェードを操作しないでください。ロールサンシェードが破損するおそれがあります。



- ツマミを持って上方向に引き出し、フックに引っ掛けます。
- 格納するときは、フックから外して元の位置に格納します。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。

固定のしかた

⚠ 警告

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。

フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。

- 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。
- フロアカーペットでペダルを覆わない。
- フロアカーペットを重ねて敷かない。
- 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
- フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。

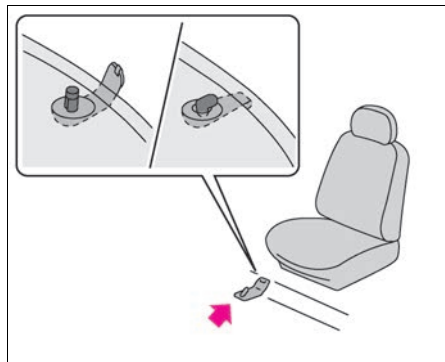
- 運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。

- 運転に支障がないことを確認する。

運転する前、＜パワースイッチ＞がOFFの状態でご各ペダルをいっばいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

- タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。

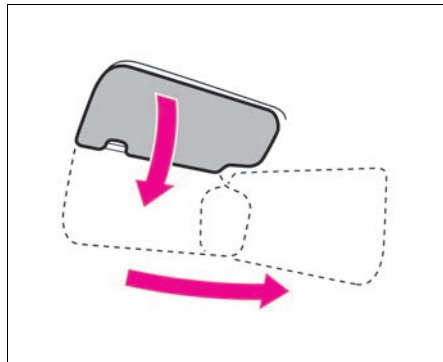
火災につながるおそれがあります。



- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

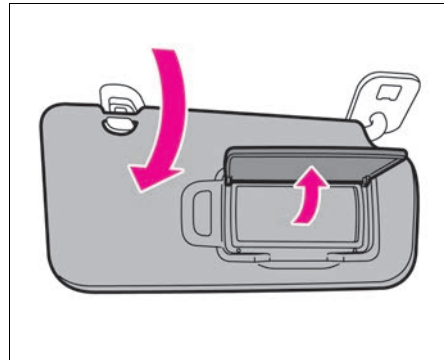
サンバイザー/バニティミラー

サンバイザー



- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

バニティミラーの使いかた



- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。カバーを開けると、天井のランプが点灯します。

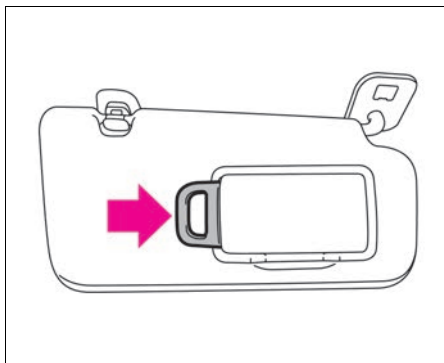
チケットホルダー

チケットホルダーの使いかた

アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になるため、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

その他の室内装備



- サンバイザーにチケットホルダーが付いています。
- カードをスライドさせ、差し込みます。

アシストグリップ/コートハンガー

アシストグリップ/コートハンガーの注意事項

⚠ 注意

- コートハンガーにハンガーなど先のとがった物を掛けない。
SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

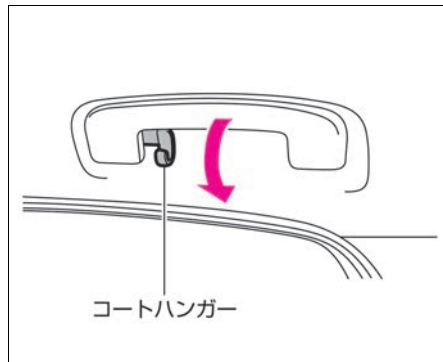
- セカンドシート左右のコートハンガーには1kg以上の物を掛けしないでください。

アシストグリップ/コートハンガーの使いかた

⚠ 注意

- アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。

アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。



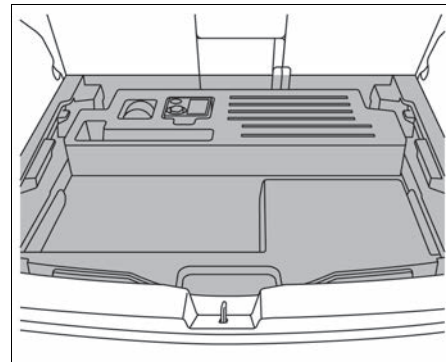
- アシストグリップは、フロントおよびセカンドシート左右にあります。
- セカンドシート左右にはコートハンガーが付いています。

ラゲッジアンダースペース

2列車にはラゲッジアンダースペースがあります。

収納スペースとしてお使いください。

ラゲッジアンダースペースについて



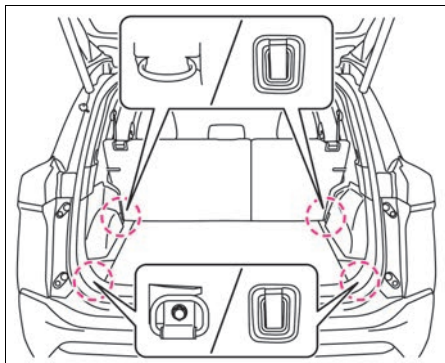
- ボードを外して使います。

ラゲッジフック

ラゲッジフックの使いかた

🚗 アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- フックに3kg以上の物を掛けしないでください。フックが破損するおそれがあります。



荷物の固定用としてロープなどを掛けるときに使用します。

MEMO



まずはじめに

故障したときは	P.314
発炎筒	P.315
けん引について	P.315

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.319
ドアが開かないときは	P.323
e-POWERシステムを始動できないときは	P.324
12Vバッテリーがあがったときは	P.324
出力制限表示灯が点灯したときは	P.328
警告灯がついたときは	P.329
警告メッセージが表示されたときは	P.338
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.360
窓ガラスがくもったときは	P.361
オーバーヒートしたときは	P.361
雪道やぬかるみにはまったときは	P.363
水没したときは	P.364
外装ランプが点灯しないときは	P.365
ヒューズが切れたときは	P.366

まずはじめに

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

⚠ 警告

- 発炎筒はトンネル内では使用しない。

煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

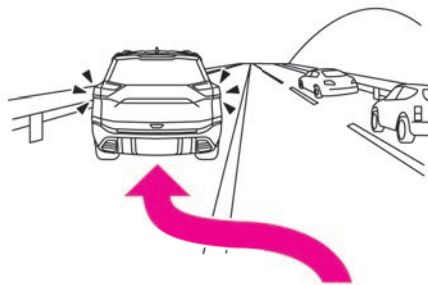
⚠ 注意

- 走行中に走行可能表示灯が消灯したときは、慎重に運転する。

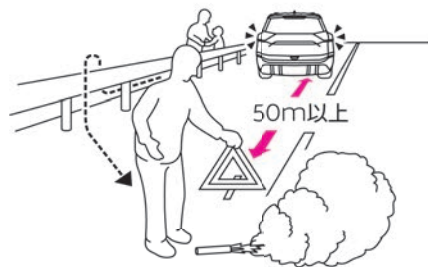
故障により走行可能表示灯が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

🚗 アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。



1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。

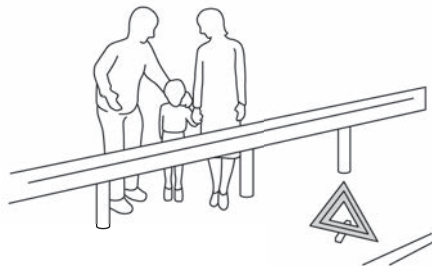


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に

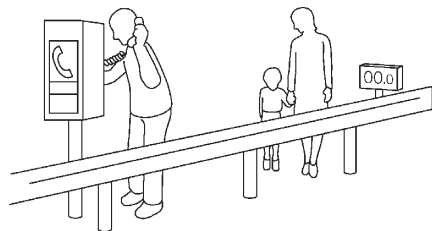
発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。

🔥 発炎筒 (P.315)

避難するときには、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



まずはじめに

4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

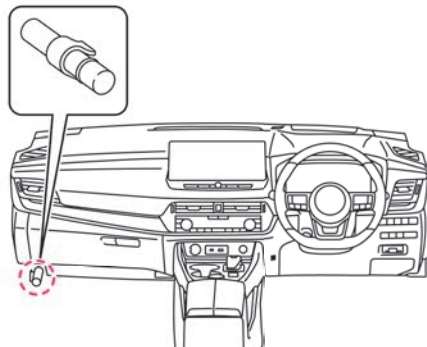
発炎筒の使いかた

⚠ 警告

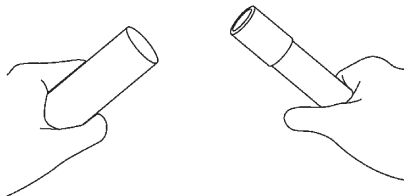
- お子さまには触らせない。
いたずらなどで発火するおそれがあります。
- 可燃物の近くで使用しない。
引火するおそれがあります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。
やけどをするおそれがあります。

🚗 アドバイス

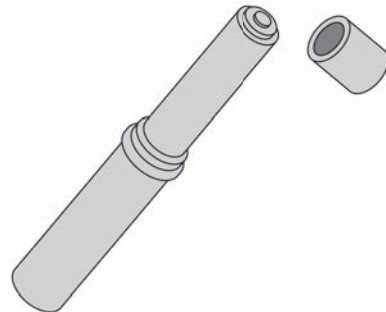
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。



1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引されるときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

この車両で他車をけん引することはできません。

けん引時の注意事項

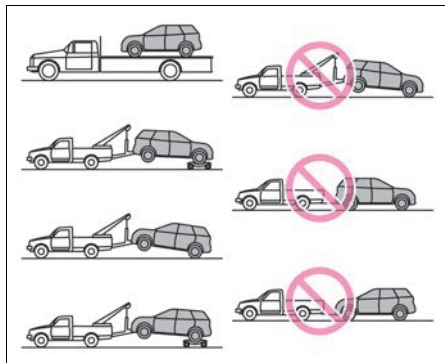
⚠ 注意

- 2WD車の前輪を持ち上げて後輪接地でけん引するときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。

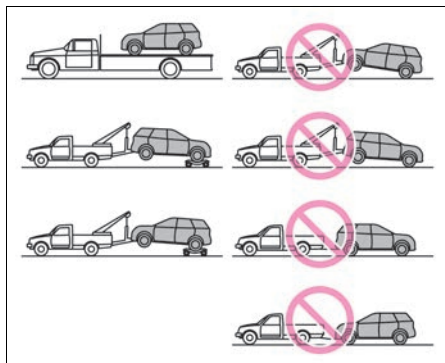
VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

まずはじめに

2WD車



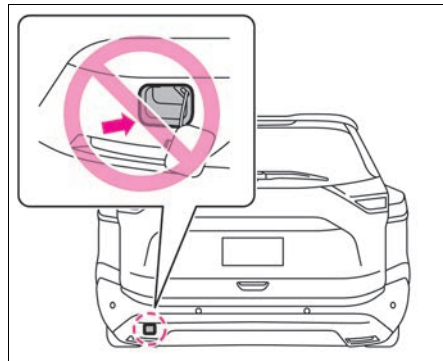
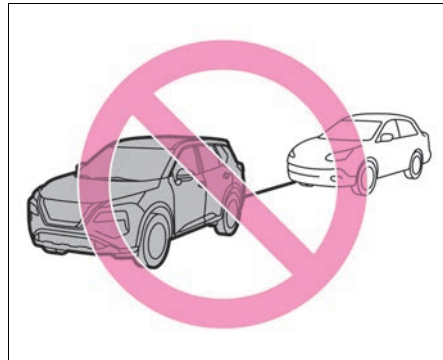
e-4ORCE (4WD) 車



- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE (4WD) 車は4輪を持ち上げてください。

- やむをえず4輪接地の状態ではけん引されるときは、(P.317) をお読みください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷付けないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引中は、プロパイロットをOFFにしてください。
- けん引中は、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしてください。

リヤフックについて



後ろ側についているフック取り付け穴は緊急脱出時、船舶輸送固定時などに使用できません。

まずはじめに

アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

やむをえず4輪接地でけん引される ときは

警告

- 4輪接地でけん引されるときは、**<パワースイッチ>をOFF**にしない。

この車両はオートP機能

( P.170) により、<パワースイッチ>がOFFのときはシフトポジションを**P**から**N**に切り替えることができません。また、けん引中は<パワースイッチ>をOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

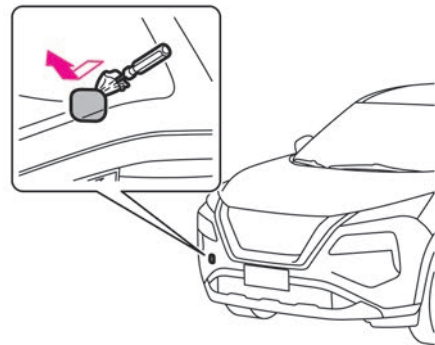
注意

- けん引フックを取り付けるときは、長いほうのフックを使用する。
短いほうのフックを使用するとバンパーやフックが損傷するおそれがあります。
- **e-POWER**システムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなったりすることがあるので注意する。

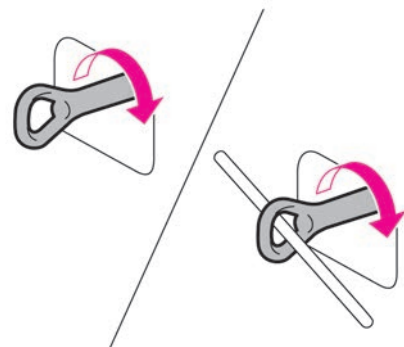
- **e-4ORCE (4WD)** 車で**2WD**に切り替わらないときは、**4輪車載**をする。
- けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。
フック部が破損するおそれがあります。
- 長い下り坂ではけん引しない。
ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- **e-4ORCE (4WD)** 車は**トレーラーに車載するか、4輪接地の状態**でけん引してもらう。
2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引中はローブをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

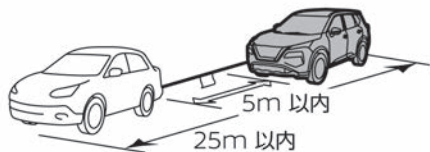


1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。
 工具、タイヤ応急修理キットの格納場所 (P.371)

まずはじめに



3. ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。
ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。
 4. e-POWERシステムを始動しシフトポジションを**N**にして、パーキングブレーキを解除します。
 5. e-POWERシステムが始動できないときは<パワースイッチ>をONにし、シフトポジション**N**にしてください。
- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両には、スベアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。
- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

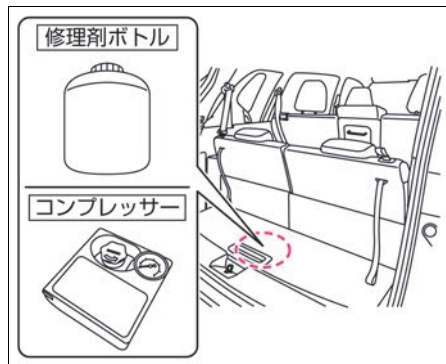
応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
 - ー 約6mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
 - ー タイヤサイド部が損傷を受けたとき
 - ー ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
 - ー タイヤがホイールから外れているとき
 - ー ホイールが破損しているとき
 - ー タイヤが2本以上パンクしているとき
 - ー 修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤ応急修理キットについて

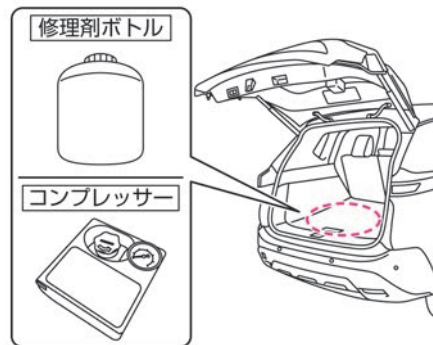


※：車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

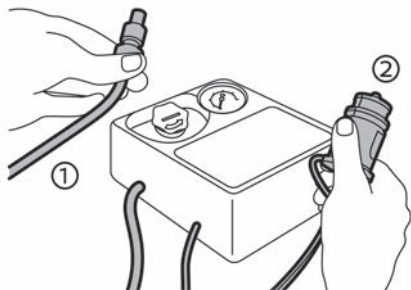
- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。
 - ➡ 工具、タイヤ応急修理キットの格納場所 (P.371)
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。

応急修理のしかた

■ コンプレッサーの準備



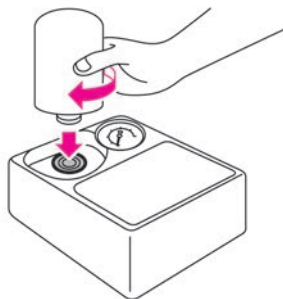
1. ラゲッジルームからタイヤ応急修理キットを取り出します。



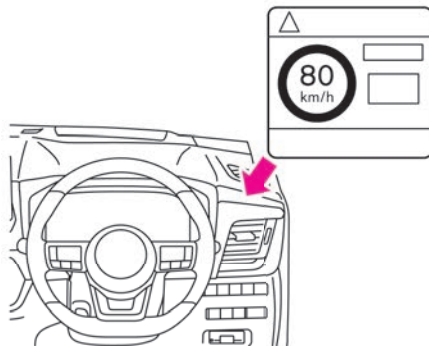
2. コンプレッサーからホース①、電源プラグ②を取り出します。



3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。



4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたを付けたままボトルホルダーに取り付けます。
(ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。)



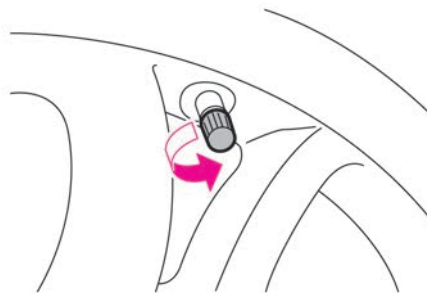
5. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。

⚠ 注意

- ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

■ エアの注入



- 1.パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

⚠ 注意

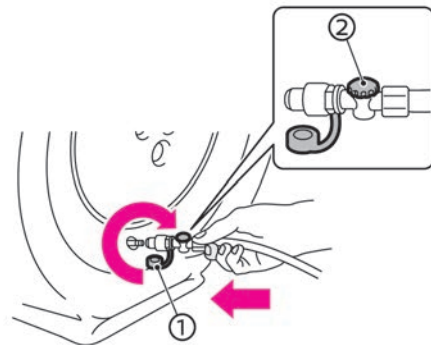
- ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。

接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。

緊急時の対処法

⚠ 注意

- 破裂の危険があるため応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。
- タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「O」の位置）にし、修理を中止する。
バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。
- 空気を入れたあとは、ホースの口金
が熱くなることがあるため、やけど
しないように注意する。

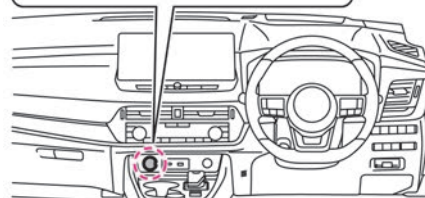
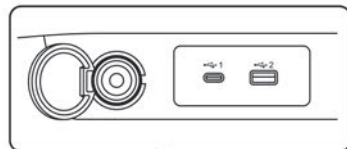


2. ホース先端の保護キャップ①を外し、ホースをパンクしたタイヤのバルブに確実にねじ込みます。
このとき、排気バルブ②が閉まっていることを確認してください。

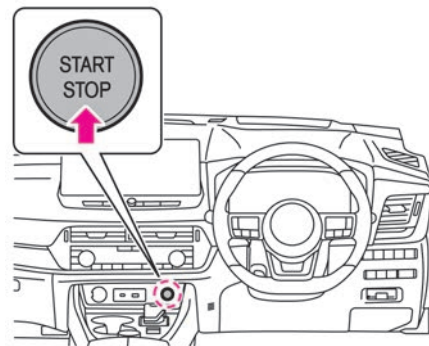


アドバイス

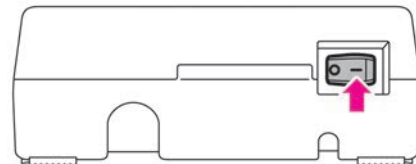
- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがあるため、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。



3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「O」の位置）の状態、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。



4. <パワースイッチ>をONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「I」の位置）にし、タイヤを指定空気圧または180kPa以上になるまで空気を充てんします。この際、実際の空気圧が測れるようにコ

緊急時の対処法

ンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。

※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。

- 指定空気圧または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし電源プラグを電源ソケットから抜きます。
- ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

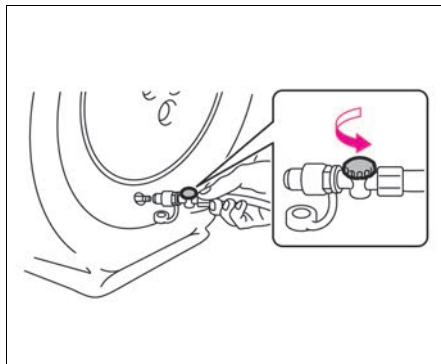
アドバイス

- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。

空気を入れすぎてしまったとき



排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。

■ 点検走行

注意

- 走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。

- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

- ただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
- 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースをタイヤのバルブに取り付け、タイヤ空気圧を確認してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「|」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

JAFの営業所一覧...別冊のメンテナンスノートをお読みください。

緊急時の対処法

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。
- タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。
- タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。
- 分解、改造などは絶対にしない。
- コンプレッサーに衝撃を与えない。故障の原因となります。
- お子さまが誤って手を触れないように注意する。

修理剤について

- 修理剤を口に入れない。
修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- 万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。

それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

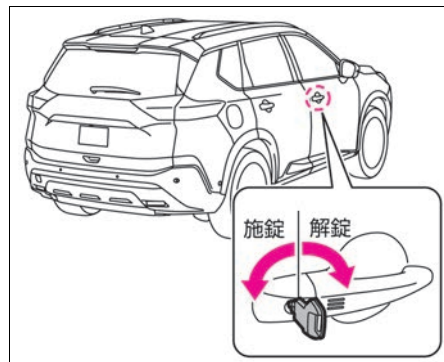
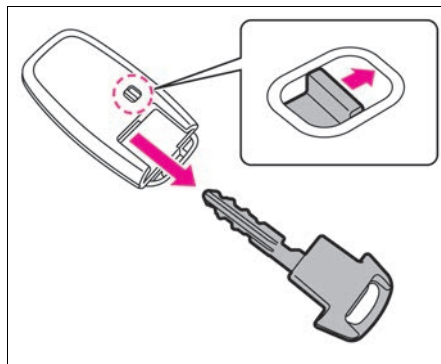
🚗 アドバイス

- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた



運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。

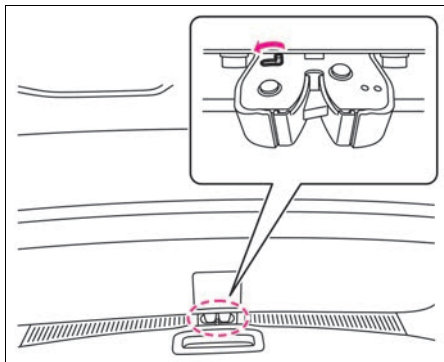
緊急時のバックドアの開けかた

🚗 アドバイス

- 次の手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- <バックドアオープナースイッチ>などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

緊急時の対処法



- お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を使用して、バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。

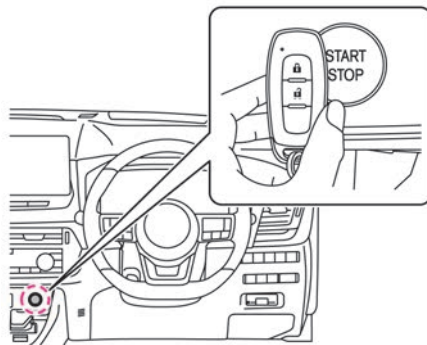
e-POWERシステムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でe-POWERシステムを始動してください。

始動のしかた

アドバイス

- 次の手順でe-POWERシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。



1. <パワースイッチ>を押してから、キーのロゴの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
（ブザーが“ピピッ”と鳴ります）
2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。

- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（[P.323](#)）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
[👉インテリジェントキーの電池交換（P.382）](#)

停止のしかた

e-POWERシステムを停止するときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける。

- <パワースイッチ>をすばやく3回押す。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、e-POWERシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

- ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

- ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。
- ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。
- ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。

火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

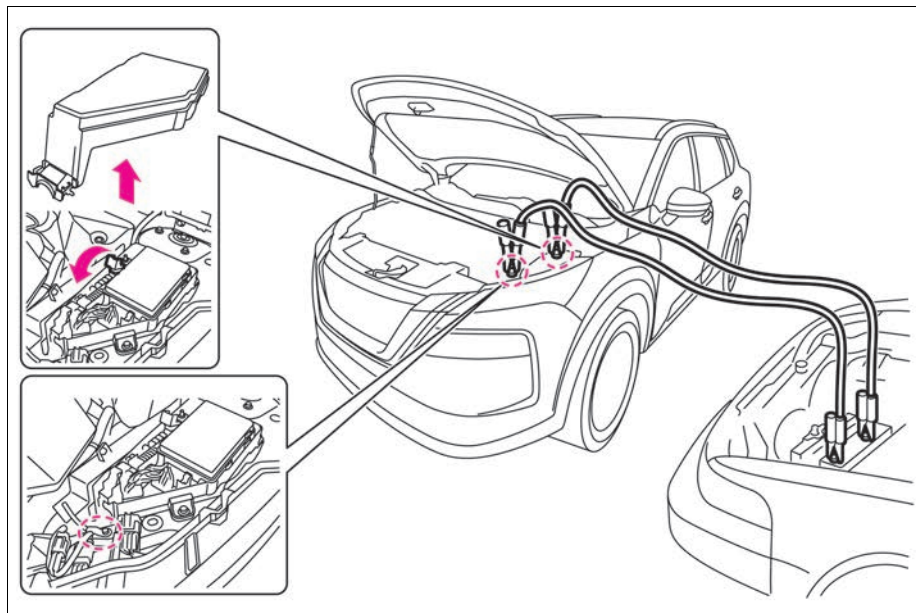
⚠ 警告

- バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。

接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。

しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



ジャンプスタートのしかた

警告

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、エンジンやモーターに絶対に接続しない。

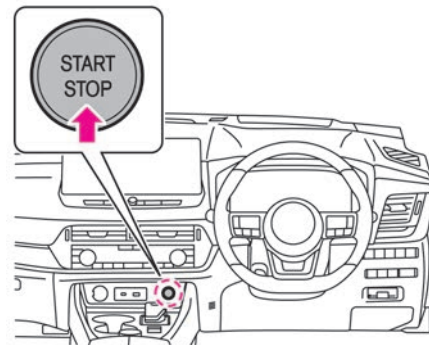
注意

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。
- ブースターケーブルは、確実に接続する。
エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- 冷却ファンやベルトに注意する。
ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

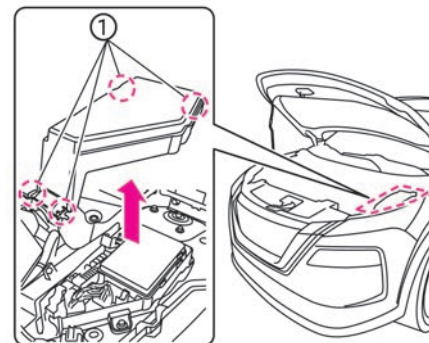
- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。

- e-POWERシステムが始動できない場合には、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。その後、再始動してください。
- 12Vバッテリーがあがると、＜パワースイッチ＞のON・OFFができなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。
- e-POWERシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコン、およびその他の電装品はOFFにしてください。
- e-POWERシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。



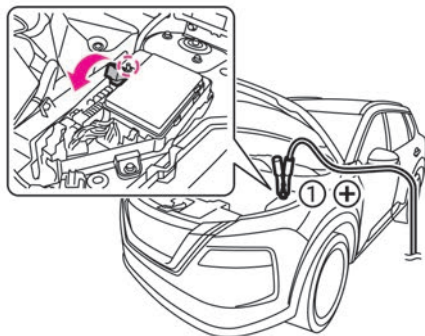
1. 自車と救援車の＜パワースイッチ＞をOFFにします。

🔑 始動する (P.166)

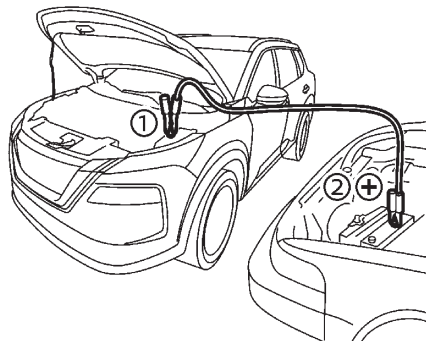


2. 自車のヒューズボックスのカバーをツメ①を押しながら外します。

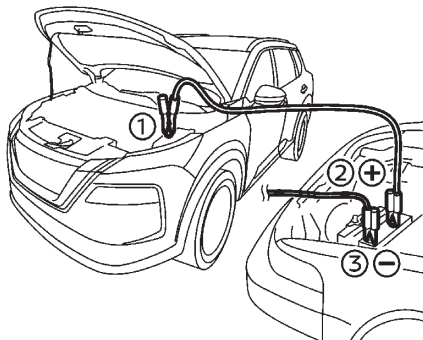
緊急時の対処法



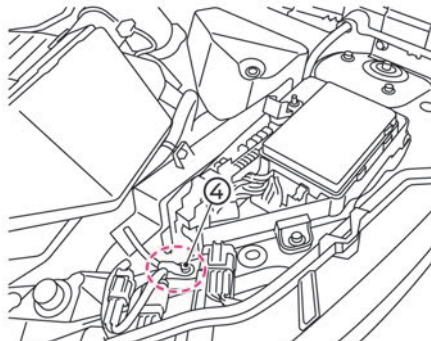
3. ブースターケーブルを自車のヒューズボックス横の⊕端子に接続します。



4. 手順3のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



5. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



6. 手順5で接続したケーブルの反対側④をイラストのような自車の車体④に接続します。
7. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。

8. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、＜パワースイッチ＞を一回押します。
9. 走行可能表示灯が点灯したことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

出力制限表示灯が点灯したときは

出力制限表示灯 [] が点灯したときは、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中に出力制限表示灯 [] が点灯したとき	高速道路を走行しているとき 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯 [] が消灯するまで待ちます。 一般道を走行しているとき 安全な場所に停車し、出力制限表示灯 [] が消灯するまで待ちます。	他の警告灯が点灯しているときは、そちらの警告灯に対する処置を優先して行ってください。出力制限表示灯 [] のみが点灯した場合は、左記の対処方法に従ってください。
停車中に警報音（ブザー）とともに出力制限表示灯 [] が点灯したとき	アクセルペダルから足を離してください。	点灯した状態でシフトポジションを D に入れると、走行用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	油圧警告灯	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● 油圧警告灯が点灯したまま走行しない。 エンジンを破損するおそれがあります。
	e-POWERシステム警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡してください。 ● 点灯したときは、100V AC電源（1500W）★を使用しないでください。
	12V系充電警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 走行可能表示灯が点灯しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● 12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。 バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	故障警告灯 (MIL)	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞をONで警告灯が点灯しているときに、システムチェックにより点滅することがありますが異常ではありません。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
	ABS警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● ＜パワースイッチ＞をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。  アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
	電動パーキングブレーキ警告灯	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞がONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● ＜パワースイッチ＞がONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキ警告灯 (赤色)	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、次の場合は点灯し続けます。 － ブレーキ液が不足しているとき － ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色）が点灯した場合は、車両を停止し、次の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯（黄色）と同時にVDC警告灯  も点灯します） － ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。 － ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられるため、日産販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。
	ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 － ブレーキシステム － 回生ブレーキ － ヒルスタートアシスト － 電動パーキングブレーキ	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社にご連絡ください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯していないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。  アドバイス ● ブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯しているときは、回生ブレーキが作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	シートベルト警告灯	● <パワースイッチ>がONのとき、乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 ● シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。 シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー） ● シートベルトを着用していない状態で車速が一定以上になると、ブザーが一定時間鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● 走行中は全員がシートベルトを着用する。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 📖 知識 ● 助手席シートまたはセカンドシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。 ● シートベルトの着用状態は、アドバンスドドライバアシストディスプレイにも表示されます。 警告メッセージ（🔄 P.340）
	SRSエアバッグ警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。	⚠ 警告 ● <パワースイッチ>をONにしても点灯しないとき、または点灯を続けるときは、放置したまま走行しない。万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
	VDC警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 🔄 VDC（ピークルダイナミクスコントロール）（P.199）

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	EPS（電動パワーステアリング）警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯が点灯すると消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、電動パワーステアリングの操作力補助が制限される、または操作力補助がなくなる状態となり、ハンドル操作が重くなることがあります。その場合でも、マニュアルステアリングの性能は確保されているため、ハンドルをしっかりと握り、通常より強く操作してください。  アドバイス ● ハンドルに長時間力を掛けた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。  知識 ● すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくる場合がありますが、異常ではありません。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	燃料残量警告灯	＜パワースイッチ＞がONのとき、燃料の残量が少ないと黄色に点灯します。	すみやかに指定の燃料を補給してください。 🚗 アドバイス ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、e-POWERシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。 ● 燃料の残量が約7ℓ以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料残量は、上記より若干少なくなります。 ● 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。
	出力制限表示灯	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、次の場合に点灯します。 - ー リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下しているとき - ー 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低いとき - ー 上り坂の連続走行などで、走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に高いとき - ー 発電出力が制限されているとき - ー シフトポジションがNで停車中、アクセルペダルを踏み込んだとき	● 点灯中は走行用モーターまたは発電用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイに出力制限警告（🔍 P.347）が表示されます。 🔍 <u>出力制限表示灯が点灯したときは</u> <u>(P.328)</u>

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電制シフト警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。
	インテリジェントエマージェンシーブレーキ警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 - ー インテリジェントエマージェンシーブレーキの設定をOFFにしているとき - ー VDCの設定をOFFにしているとき - ー インテリジェントエマージェンシーブレーキまたはインテリジェントFCW（前方衝突予測警報）のシステムに異常が発生しているとき - ー フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき - ー 前方からの強い光により、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき - ー 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったとき - ー フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● インテリジェントエマージェンシーブレーキをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➡VDCのON・OFFのしかた (P.200) ● 安全な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。再始動後も警告灯が点灯が表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 車室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。各システムについては、インテリジェントエマージェンシーブレーキ (➡P.227) およびインテリジェントFCW（前方衝突予測警報） (➡P.251) をお読みください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
		● 次の場合にも点灯します。 － 周辺の電波源の影響を受けているとき － センサーの汚れなどで、インテリジェントエマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき － 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき － 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など） － 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき － インテリジェントエマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき － けん引されているとき	
	踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 － 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしているとき － VDCの設定をOFFにしているとき － 踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき ● 次の場合はゆっくり点滅します。 － 踏み間違い衝突防止アシストのシステムが一時的に使用できない場合	● 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ➡ <u>VDCのON・OFFのしかた (P.200)</u> ● 一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動しても警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● システムについては、踏み間違い衝突防止アシスト (➡ P.232) をお読みください。

緊急時の対処法

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	マスターウォーニング	● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。
	車両接近通報システム警告灯	● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	手放し警告灯	● プロパイロットでハンドル支援を行っているとき、ハンドルを持っていない、またはハンドル操作が検出されないと点灯します。 ● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、ハンドル支援は解除されます。 ● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告灯は消灯し、ハンドル支援が復帰します。 ● e-POWERシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 BRAKE START STOP 始動時はブレーキを踏み パワースイッチを押してください	e-POWERシステム始動操作表示	● インテリジェントキーを持って車室内に入ると表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチ>を押すと、走行可能表示灯が点灯し、走行できるようになります。 ● 次の場合、表示が消えます。 - ー 走行可能表示灯が点灯したとき - ー リモコン機能、ドアハンドルのセンサー、またはバックドアのスイッチでドアを施錠したとき
 インテリジェントキーを パワースイッチに 接触させてください	インテリジェントキー非作動時e-POWERシステム始動表示	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてください。 ➡ <u>e-POWERシステムを始動できないときは (P324)</u>
 キー電池残量が 低下しています	インテリジェントキー電池切れ表示	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➡ <u>インテリジェントキーの電池交換 (P382)</u> ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 - ー 表示から約30秒経過したとき - ー <パワースイッチ>をON以外にしたとき

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 エンジンオイル オイル交換まで 232km	オイル交換時期表示	● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離が1,500km未満になると、＜パワースイッチ＞をONにしたときに表示します。	● エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを1秒以上押します。
エンジンオイル  交換してください		● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換距離に達すると表示します。	 アドバイス ● 表示されたときは、できるだけ早くエンジンオイルを交換してください。劣化したエンジンオイルのまま走行し続けると、エンジンが破損するおそれがあります。 ● エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。
 警告  キーが見つかりません	インテリジェントキー持ち出し警告	● 次の場合に表示します。 - ー 走行可能表示灯が点灯している状態で、インテリジェントキーが車外に持ち出されたとき - ー キーを携帯していないとき - ー 携帯しているキーの電池が切れているとき - ー 登録されていないキーを携帯しているとき	● 次のように対処してください。 - ー キーが車外に持ち出されていないか確認してください。 - ー キーを携帯してください。 - ー 新しい電池に交換してください。 ➡ <u>インテリジェントキーの電池交換</u> (P.382) - ー 自車のキーであることを確認してください。 ● e-POWERシステムを停止させるときは、次の操作を行ってください。 - ー ＜パワースイッチ＞を2秒以上押し続ける

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 ⚠ 注意 ● 走行前に表示が消えていることを確認する。 ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	シートベルト警告	● <パワースイッチ>がONのとき、乗員がシートベルトを着用していないと、シートベルトを着用していない席を赤色で表示します。 ● シートベルトを着用している席は緑色で表示されます。 ● 空席は灰色で表示されます。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● 走行中は全員がシートベルトを着用する。 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 📖 知識 ● 助手席シートまたはセカンドシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、シートベルト警告が表示されることがあります。
⚠ 警告  キーシステム故障 取扱説明書を見てください	キーシステム警告	● キーシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。<パワースイッチ>を切り替えられないことがあります。
⚠ 警告  Pレンジに入れてください	P戻し忘れ警告	● シフトポジションがP以外で運転席ドアが開いていると表示します。	● シフトポジションをPに入れてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 警告 パーキングブレーキを解除してください	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキを掛け、運転席ドアを閉めずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。 ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示します。 ● 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキを作動させると表示します。 ➡ <u>電動パーキングブレーキに関する注意事項 (P.170)</u>	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➡ <u>電動パーキングブレーキ (P.170)</u>
 警告 ブレーキペダルを踏んでください	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに<電動パーキングブレーキスイッチ>を押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから<電動パーキングブレーキスイッチ>を押してください。 ➡ <u>電動パーキングブレーキ (P.170)</u>
 ブレーキを踏んでください	オートブレーキホールド警告	● オートブレーキホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
AUTO HOLD  急坂路に停車しています 車が動くことがあります	オートブレーキホールド急坂路注意表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道や滑りやすい路面でオートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。 ➡ <u>オートブレーキホールド (P.171)</u>
AUTO HOLD  急坂路では ブレーキを踏んでください 車が動くことがあります	オートブレーキホールド急坂路操作表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、ブレーキが踏まれていなかった場合に表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、電動パーキングブレーキがかかるときに車両が動き出すおそれがあります。 ➡ <u>オートブレーキホールド (P.171)</u>

緊急時の対処法

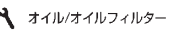
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 AUTO HOLD ブレーキを踏み スイッチを操作すれば 解除できます	オートブレーキ ホールドスイッチ 解除操作表示	● オートブレーキホールド機能作動中、ブレーキペダルを踏まずに<オートブレーキホールドスイッチ>を押したときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んでから<オートブレーキホールドスイッチ>を押してください。 ➡ <u>オートブレーキホールド (P.171)</u>
 給油してください	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。  知識 ● 燃料の残量が約7ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
 警告  オーバーヒート 安全な場所に車を停め 取扱説明書を見てください	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● 表示したときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置してください。 ➡ <u>オーバーヒートしたときは (P.361)</u>  注意 ● 表示したまま走行をしない。 そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
 警告 シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
 警告 4WD 4WDシステム異常 取扱説明書を見てください	4WD警告	● 走行可能表示灯が点灯しているとき、e-4ORCE (4WD) システムに異常があると表示します。	● e-4ORCE (4WD) システムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 警告  踏み間違い衝突防止アシストが作動しました	踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルがすばやく深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➡ <u>踏み間違い衝突防止アシスト (P2332)</u>
 警告 ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからマルチセンシングフロントカメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してe-POWERシステムを再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
△ 警告 システム故障 取扱説明書を見てください	システム故障警告	● プロパイロット（ナビリンク機能付）★、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）★、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）★、インテリジェントDA（ふらつき警報）、標識検知機能、駐車支援機能（フロントソナー、コーナソナー、リヤソナー）が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 ● 再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➡ <u>プロパイロット★ (P.211)</u> ➡ <u>インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.227)</u> ➡ <u>踏み間違い衝突防止アシスト (P.232)</u> ➡ <u>BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.239)</u> ➡ <u>LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.247)</u> ➡ <u>インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.251)</u> ➡ <u>RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.254)</u> ➡ <u>インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.257)</u> ➡ <u>標識検知機能 (P.259)</u>

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 ソナー故障 取扱説明書を見てください	ソナーシステム異常警告	● ソナーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
ふらつき警報  休憩しませんか？	インテリジェントDA（ふらつき警報）表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➡ <u>インテリジェントDA（ふらつき警報）</u> (P.257)
  注意してください	進入禁止標識検知表示	● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➡ <u>標識検知機能</u> (P.259)
  注意してください	一時停止標識検知表示	● 前方の一時停止標識を検知した場合には、メーターに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➡ <u>標識検知機能</u> (P.259)
	最高速度標識検知表示	● 前方の最高速度標識を検知した場合には、メーターおよび走行支援グループ [G] に表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➡ <u>標識検知機能</u> (P.259)

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	ライト消し忘れ警告	● <パワースイッチ>がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 - ー ライトスイッチが<D>の位置にあるとき - ー ライトスイッチを<OFF>の位置に回して、テールランプ表示灯 [PDL] が点灯しているとき	● ライトスイッチを<AUTO>の位置にする、または<OFF>の位置に回してテールランプ表示灯 [PDL] を消灯してください。
メンテナンス 	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。設定については、メンテナンス (P.92) または (P.64) をお読みください。
メンテナンス 	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。設定については、メンテナンス (P.92) または (P.64) をお読みください。
メンテナンス 	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検/交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
	凍結注意アラーム表示	● 外気温が3℃以下になったことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。
 	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
省電源のため自動的に電源OFFします	自動電源OFF表示A	● e-POWERシステムが停止している状態で、＜パワースイッチ＞をONにしたまましばらくすると表示することがあります。	● そのまま＜パワースイッチ＞を切り替えないと、省エネのため＜パワースイッチ＞がOFFになります。
省電源のため自動的に電源OFFしました	自動電源OFF表示B	● e-POWERシステムが停止している状態で、＜パワースイッチ＞をONにしたまま時間が経過し、＜パワースイッチ＞が自動でOFFになったときに表示することがあります。	
システム保護のため出力を一時的に制限しています	出力制限警告	● 出力制限表示灯 [(⚡)] が点灯すると同時に表示します。	● 出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
フロントデフロスターが作動しているためマナーモードは使用できません	マナー（EV）モード警告A	● デフロスターが作動している場合に表示します。	● デフロスターが作動したため、マナー（EV）モードを使用できません。 ● デフロスター停止後に＜EVモードスイッチ＞を押してください。 ➡ <u>マナー（EV）モード (P.194)</u>
バッテリー残量が少ないため現在マナーモードは使用できません	マナー（EV）モード警告B	● リチウムイオンバッテリーの残量が少ない場合に表示します。	● リチウムイオンバッテリー残量低下によりマナー（EV）モード走行はできません。 ● チャージモードで走行するなど、リチウムイオンバッテリー残量を増やしてから＜EVモードスイッチ＞を押してください。 ➡ <u>マナー（EV）モード (P.194)</u>

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
作動条件外のため マナーモードは使用できません	マナー（EV）モード警告C	● マナー（EV）モードの作動条件から外れていると表示します。	● システムの判断によりマナー（EV）モードを使用できません。 （外気温が極端に低いときなど） ● 作動条件を満たすと表示が消えるため、そのときに＜EVモードスイッチ＞を押してください。 ➡ <u>マナー（EV）モード (P.194)</u>
作動条件外のため チャージモードは使用できません	チャージモード警告	● チャージモードの作動条件から外れていると表示します。	● システムの判断によりチャージモードを使用できません。 （外気温が極端に低いときなど） ● 作動条件を満たすと表示が消えるため、そのときに＜EVモードスイッチ＞を押し続けてください。 ➡ <u>チャージモード (P.194)</u>
△警告 e-POWERシステム停止 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告A	● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
△警告 e-POWERシステム故障 次回始動できません 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告B	● e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが再始動できないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
△警告 e-POWERシステム故障 走行制限中 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告C	● e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
△警告 e-POWERシステム停止 安全に停車してください	e-POWERシステム警告D	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
△警告 e-POWERシステム停止 パーキングブレーキを かけてください	e-POWERシステム警告E	● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかにパーキングブレーキを掛け、日産販売会社にご連絡ください。

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 警告  e-POWERシステム故障 安全に停車してください	e-POWERシステム警告F	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
 警告  e-POWERシステム故障 走行制限中 安全に停車してください	e-POWERシステム警告G	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
 警告  e-POWERシステム故障 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告H	● e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
 警告 e-Pedal システムに異常 減速、停車する際は ブレーキを踏んでください	e-Pedal Stepシステム異常警告	● e-Pedal Stepシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
 警告  駐車時は確実に パーキングブレーキを かけてください	電制シフト警告A	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に掛けてください。パーキングブレーキをかけていないと、＜パワースイッチ＞をOFFにできないことがあります。 ● ＜パワースイッチ＞をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。 - ー ①停車してパーキングブレーキを掛けます - ー ②ブレーキペダルを踏み込みながら＜パワースイッチ＞を押して、ONに切り替えます - ー ③シフトポジションをPに切り替えます - ー ④＜パワースイッチ＞を押して、OFFに切り替えます

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
△警告 トランスミッション システム異常 販売店で点検してください	電制シフト警告B	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● シフトポジションがすぐに切り替わらないことがあるため、目的のシフトポジションの位置でセレクトレバーを保持し、シフトポジションが切り替わったことを確認してから手を離してください。 ● オートP機能（ P.167）が作動しないことがあるため、駐車するときはセレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、に切り替わったことを確認してください。
△警告 シフトレバーの位置を 確認してください	シフトポジション警告	● セレクトレバーが中央の位置以外で保持され続けたときに表示します。	● セレクトレバーが中央の位置にあるか確認してください。 ● セレクトレバーが中央の位置にあるときに表示された場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
警告 フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 ➡ <u>プロパイロット★ (P.211)</u> ● 次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 - ー 長い橋を走行しているとき - ー 砂地や雪原を走行しているとき - ー 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。
△ 警告 現在一部の運転支援が使用できません フロントレーダー周辺を拭いてください		● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 ➡ <u>インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.227)</u> ➡ <u>インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.251)</u>	
警告 サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください	サイドレーダーシステム停止警告	● 車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 - ー ➡ <u>BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.239)</u> - ー ➡ <u>RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.254)</u>	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再度ONにしてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 ➡ <u>プロパイロット★</u> (P.211) ➡ インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (➡ P.239) ➡ インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (➡ P.247) ● VDCをOFFにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。
カメラが高温のため 現在使用できません	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 ➡ <u>プロパイロット★</u> (P.211) ➡ インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (➡ P.239) ➡ <u>LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）</u> (P.247)	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再度ONにしてください。
⚠ 警告 カメラが高温のため 一部の運転支援を 制限しています		● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いときに表示します。	● 車室内の温度が下がるとシステムは自動的に作動を再開します。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
滑りやすい路面のため 現在使用できません	スリップ警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 - ー ➡ プロパイロット★ (P.211) - ー インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➡ P.239） - ー インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➡ P.247） ● ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。
 システムOFF	システムOFF表示	● RCTA（後退時車両検知警報）がOFFのとき、シフトポジションをRにすると表示します。 ➡ RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.254)	● RCTA（後退時車両検知警報）をONにすると、シフトポジションをRにしても表示されません。
排気ガスフィルター  セルフクリーニング中 取扱説明書を見てください	GPFセルフクリーニング表示	● GPF内にPMが一定以上堆積したときに表示します。 ➡ GPF（ガソリンパティキュレートフィルター）★ (P.173)	● GPF再生中は、エンジン回転数が上昇し、エンジン音が大きくなる場合がありますが異常ではありません。 ● クルーズコントロール★およびプロパイロット★作動中、アドバンスドドライブアシストディスプレイにGPFセルフクリーニング表示が表示されると、制御がOFFになることがあります。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 排気ガスフィルター メンテナンスが必要です 販売店で点検してください	GPFメンテナンス表示	● GPFが飽和状態で自動再生ができないときに表示します。 ➡ <u>GPF（ガソリンパティキュレートフィルター）★（P173）</u>	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 故障警告灯（MIL）も同時に点灯する場合があります。GPFメンテナンス表示が表示されたり、故障警告灯（MIL）が点灯したりしているときに長時間運転すると、GPFを損傷する可能性があります。 ● クルーズコントロール★およびプロパイロット★作動中、アドバンスドドライバシストディスプレイにGPFメンテナンス表示が表示されると、制御がOFFになります。
 △ 警告 システム故障のため、 一部の運転支援を 使用できません	インテリジェントエマージェンシーブレーキシステム故障警告	● インテリジェントエマージェンシーブレーキシステムが故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにしてから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➡ <u>インテリジェントエマージェンシーブレーキ（P227）</u> ➡ <u>インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）（P251）</u>
 △ 警告 視界不良のため 一部の運転支援を 制限しています	インテリジェントエマージェンシーブレーキシステム視界不良警告	● 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いときに表示します。 ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 悪天候時にはインテリジェントエマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
 △ 警告 現在一部の運転支援が 使用できません 前方カメラ周辺のガラスを 拭いてください	カメラ視界不良警告	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラス凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったときに表示します。 ● 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。
 △ 警告 VDC OFFのため 一部の運転支援が 制限されています	VDC OFF警告	● VDCをOFFにしたときに表示します。	● VDCをOFFにしたときに停止する機能については、(P.200)をお読みください。 ● インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は作動します。
 △ 警告 電波障害のため 一部の運転支援を 制限しています	インテリジェントエマージェンシーブレーキシステム電波障害警告	● 放送局など周辺の電波源により影響を受けているときに表示します。	● 周辺の電波源による影響を受けているときはインテリジェントエマージェンシーブレーキは作動しません。 ● 状態が改善されると、システムは作動を再開します。
 △ 警告 現在一部の運転支援を 制限しています	インテリジェントエマージェンシーブレーキシステム作動制限警告	● インテリジェントエマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき表示します。 ● <u>インテリジェントエマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.231)</u> ● けん引されているときに表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 ● けん引されているときはインテリジェントエマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

緊急時の対処法

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
後席リマインダーが作動しました	後席リマインダー 作動開始表示	● 後席リマインダーのシステムがONになったときに表示します。 ➡ <u>後席リマインダー (P.123)</u>	● ステアリングスイッチで「メッセージを閉じる」を選択すると、一時的にメッセージを消すことができます。 ● ステアリングスイッチで「リマインダーを無効にする」を選択すると、一時的に後席リマインダーをOFFにすることができます。再び後席リマインダーをONにしたいときは、e-POWERシステムを再始動してください。
後席を確認してください	後席リマインダー 表示	● 後席リマインダーがONのとき、走行前に後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションをPに切り替えたときに表示し、ブザーが鳴ります。 ➡ <u>後席リマインダー (P.123)</u>	● 後席を確認してください。

プロパイロット（インテリジェントクルーズコントロール）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 作動範囲外のため現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき ● プロパイロット パーキングが作動しているとき。	● VDCがOFFの場合はプロパイロットを使用することができません。 ● プロパイロットパーキングが作動しているときは、プロパイロットを使用することができません。
 パーキングブレーキが作動しているため使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロットを使用することができません。
 シートベルトが解除されているため使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロットを使用することができません。
 △ 警告 システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動します。再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
 △ 警告 停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください	● プロパイロットにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
 フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➡ <u>レーダーセンサーの取り扱い (P388)</u>
 滑りやすい路面のため現在使用できません	● VDC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではプロパイロットは使用できません。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカールに見えるようなものがあるなど、レーンマーカールが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカールなど）	● 再びハンドル支援を使用したいときは、レーンマーカールがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。
 悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。
 カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 状況が改善されたあと、プロパイロットを再セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
 カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 車室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができません。
 システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
 ハンドル操作の警告 	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに点灯します。 — 表示（赤）により警告します。 ● 点灯後、運転者がハンドルを操作しないときに点滅します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

緊急時の対処法

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 △ 警告 緊急停止	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。
 △ 警告 ハンドルを操作してください	● 車両を緊急停止させたあと、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ...（数秒間）	ドアハンドルのセンサーを押したとき	走行可能表示灯が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
		バックドアのスイッチを押したとき	走行可能表示灯が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか
		キーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したとき	走行可能表示灯が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に＜ドア施錠スイッチ＞を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	ピピピピ...（数秒間）	大雨もしくは洗車で大量の水がドアハンドルにかかったとき	インテリジェントキーを車両から2m以上離すと鳴りやむかスリープモード（🔌 P.109）を作動させると鳴りやむか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

緊急時の対処法

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ポロポロポロ (3回)	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		<パワースイッチ>を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ... (繰り返す)	運転席ドアを開けたとき	<パワースイッチ>がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

- <デフロスタースイッチ>をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。

フロントガラスの外側に露が付く、視界を妨げるおそれがあります。

- <デフロスタースイッチ>を押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。
(<デフロスタースイッチ>の表示灯が点灯)
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
(<デフロスタースイッチ>の表示灯が消灯)

デフロスタースイッチ (🔌 P.151、🔌 P.155)

- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
(スイッチの表示灯が消灯)
<リヤウインドーデフォグガースイッチ> (🔌 P.151、🔌 P.155)
- <リヤウインドーデフォグガースイッチ>を押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告 (🔌 P.342) が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

⚠ 警告

- ボンネットを開けるときは十分に注意する。
エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- <デフロスタースイッチ>をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。
- <デフロスタースイッチ>は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、バッテリーあがりの原因になります。

バックドアガラスのくもりの取りかた

🚗 アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。
- <リヤウインドーデフォグガースイッチ>を押すと約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。
(スイッチの表示灯が点灯)

⚠ 警告

- 蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。

やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

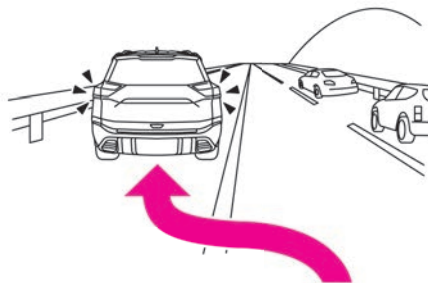
e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。

- エンジンが十分に冷えていないときは、リザーバータンクのキャップを外さない。

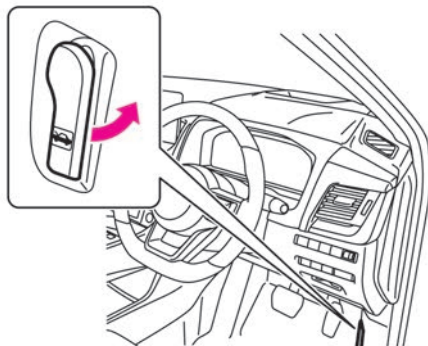
蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。

そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。



1. ただちに安全な場所に停車します。
➡ 故障したときの対処のしかた (P.314)



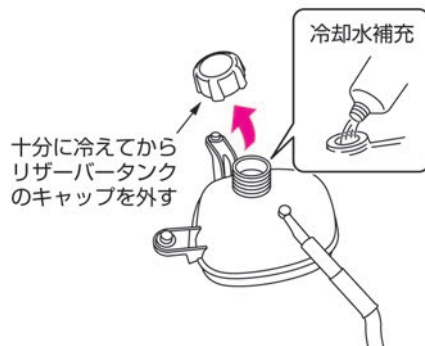
2. e-POWERシステムを始動したままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。

⚠ 警告



オーバーヒート
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

3. アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4. 冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のリザーバータンクに冷却水を補充してください。

② エンジンルーム内の配置図
(P.375)

補充後は、しっかりキャップを閉めてください。

警告



オーバーヒート
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

5. 走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ト警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。

6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

警告

- 周囲の安全を必ず確認する。
周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何も無いことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。
急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

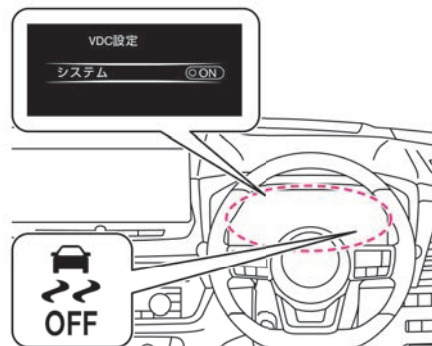
注意

- 脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。

タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。



1. メーターでVDCをOFFにします。
② VDCのON・OFFのしかた
(P.200)
2. e-4ORCE（4WD）車は、ドライブモードセレクター（② P.190）をOFF-ROADまたはSNOWに切り替えます。

緊急時の対処法

3. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
4. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

警告

- 水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

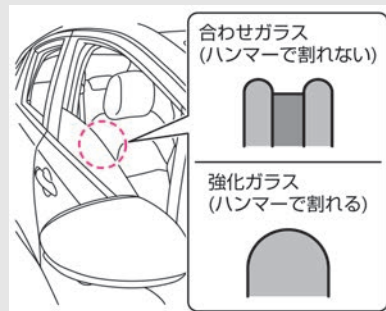
- フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。バックドアガラスを割って脱出してください。
- ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。

合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

警告

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

Eマーク



- 合わせガラス：XI、V-XI
- 強化ガラス：無印、V

JISマーク



- 合わせガラス：L
- 強化ガラス：T

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウィンドースイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、次の方法で脱出してください。
 - ー 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
 - ー 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドア

緊急時の対処法

を強く押し開けて車外に脱出してください。

(車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます)

- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

次の交換可能な電球(バルブ)、方向指示器兼非常点滅表示灯(後面)、番号灯、後退灯以外の外装ランプはすべてLEDです。

LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。

ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象で、機能上の問題ではありません。

また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。

交換可能な電球(バルブ)の位置



⚠ 注意

- 電球交換は、ボンネットや電球が冷えた状態で行う。
やけどをするおそれがあります。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように注意する。
- 電球は確実に取り付け。

電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電

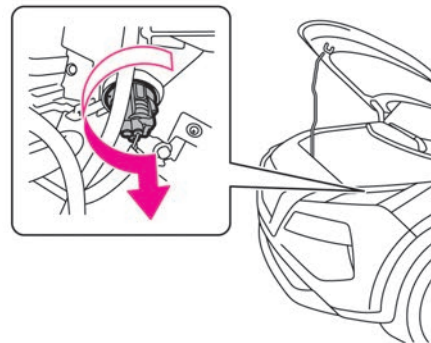
球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。

- 電球交換をするときは、軍手などを着用してください。

方向指示器 兼 非常点滅表示灯(前面)

🚗 アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。



1. ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。
🔄 ボンネットの開けかた、閉めかた (P.375)
2. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。
3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

緊急時の対処法

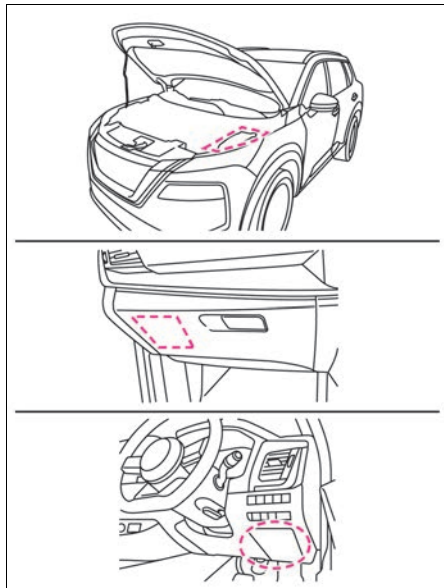
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズボックスの位置



- ヒューズボックスは、次の位置にあります。

- ー エンジンルーム内
- ー グローブボックス奥
- ー 運転席足元

- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

ヒューズ抜きについて

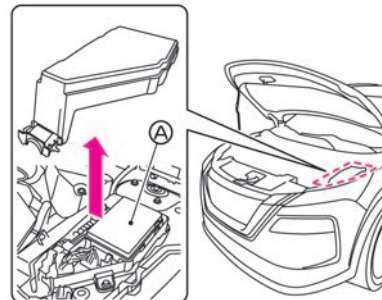
- グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。

ヒューズの点検・交換のしかた（エンジンルーム内）

⚠ 警告

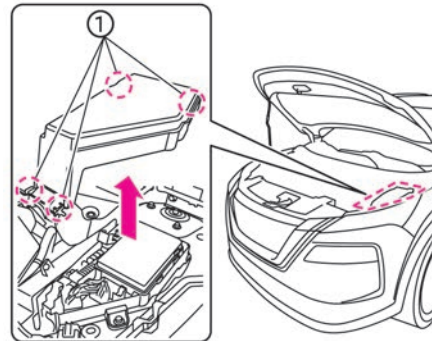
- 高電圧部位、サービスプラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わない。
重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。
電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス



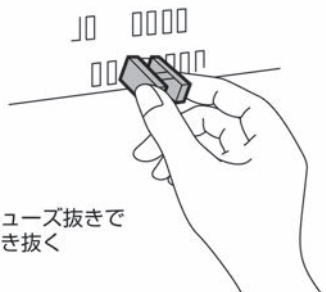
- ①の位置にあるヒューズを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

1. <パワースイッチ>をOFFにし、ボンネットを開けます。
➡ ボンネットの開けかた、閉めかた（P.375）



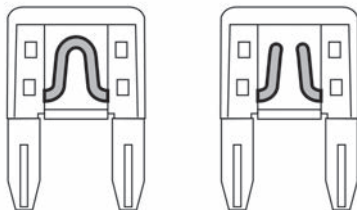
緊急時の対処法

2. ヒューズボックスのカバーをツメ①を押しながら外します。



3. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き (➡ P.366)
ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

ヒューズの参考画像



4. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。
交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

- エンジンルーム内のヒューズを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた (グローブボックス)

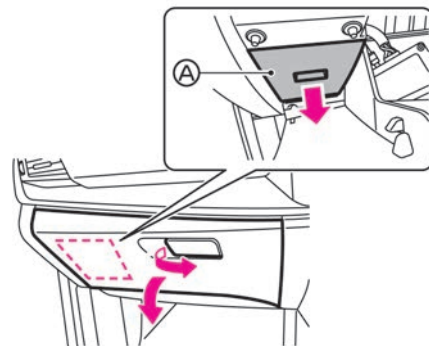
⚠ 警告

- 規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。
電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

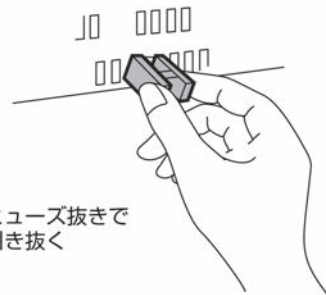
🚗 アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

1. <パワースイッチ>をOFFにします。



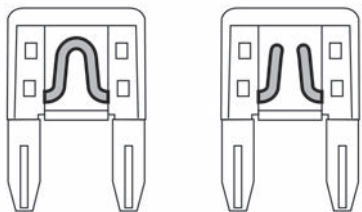
2. グローブボックスを開け、内側のプレート④にある取っ手を手前に引きプレート④を外します。



3. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き (➡ P.366)

緊急時の対処法

ヒューズの参考画像



4. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。

ヒューズの点検・交換のしかた（運転席足元）

⚠ 警告

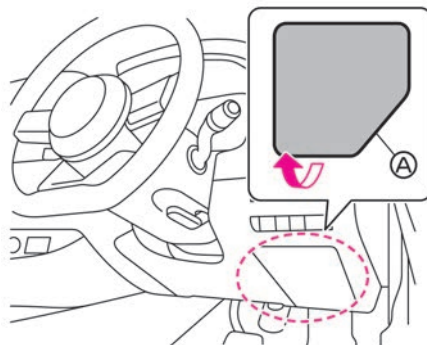
- 規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。
電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

1. <パワースイッチ>をOFFにします。



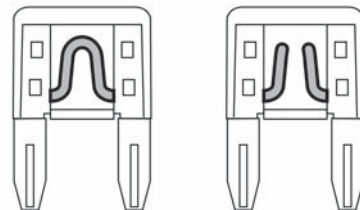
2. プレート①を手前に引き、外します。



ヒューズ抜きで
引き抜く

3. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き（➡P.366）

ヒューズの参考画像



4. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。

メンテナンスの前に

点検整備について	P.370
----------	-------

工具・ジャッキ

工具★・ジャッキについて	P.371
--------------	-------

点検と整備

エンジンルーム	P.375
ウォッシュ液の補給	P.376
寒冷時の取り扱い	P.377
タイヤ	P.378
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.380
ワイパー	P.381
インテリジェントキーの電池交換	P.382
12Vバッテリー	P.383
エンジンオイル	P.384

清掃・お手入れ

外装のお手入れ	P.385
内装のお手入れ	P.390

サービスデータ

点検値	P.393
交換油脂類	P.393
車両仕様	P.395
イベントデータレコーダ（EDR）	P.397
車両状態記録機能	P.398

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。
- **日常点検**
走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がいたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）
- **定期点検**
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具★・ジャッキについて

ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

工具、タイヤ応急修理キットの格納場所

⚠ 注意

- 工具を使ったあとは、元の場所に収納する。

車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（➡P.315）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具・タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のフロアカバー★またはラゲッジボードの下に格納されています。
➡ 応急修理する前に (P.319)
➡ タイヤ応急修理キットについて (P.319)

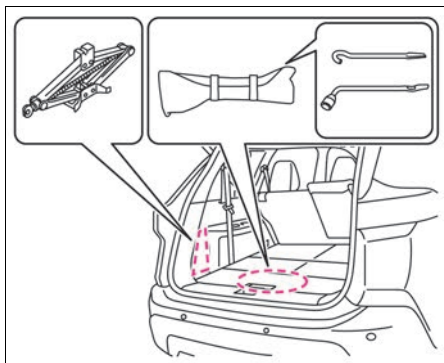
ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出し（ディーラーオプション）

⚠ 注意

- ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。
金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。

🚗 アドバイス

- ジャッキとフロアカバーが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。
- ジャッキを格納場所の下に落とさないようにしてください。周辺部品を壊してしまうおそれがあります。ジャッキを誤って落としたときは、日産販売会社で点検を受けてください。



- この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- ジャッキはラゲッジフロアパネルカバーを外して取り出します。
- ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーはラゲッジボードを持ち上げて取り出します。

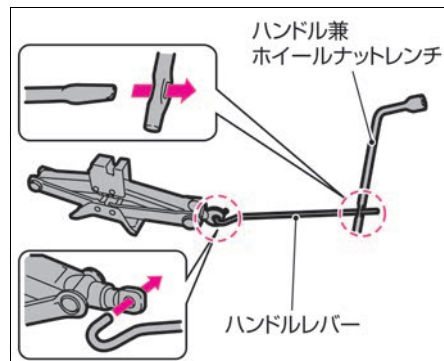
ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。
ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- 工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。
車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。
ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。
ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- ジャッキアップ中はe-POWERシステムを始動しない。
車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。



- ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

ジャッキアップポイント

⚠ 注意

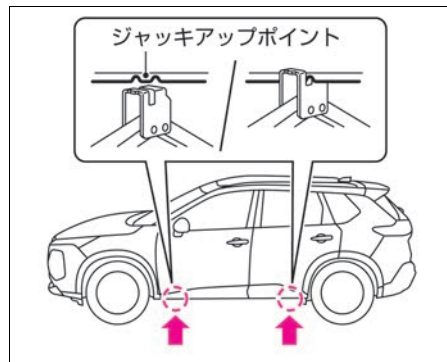
- ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。
 - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
 - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
 - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。

⚠ 注意

- 使用前にパーキングブレーキを掛け、シフトポジションをPにしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

🚗 アドバイス

- ジャッキアップポイント以外の上にはジャッキをかけないでください。車体に変形するおそれがあります。

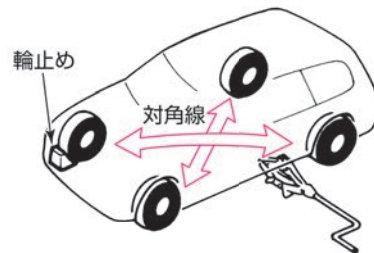


- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。

ジャッキアップのしかた

⚠ 注意

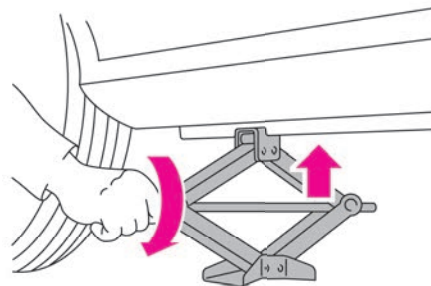
- 柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。
ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。



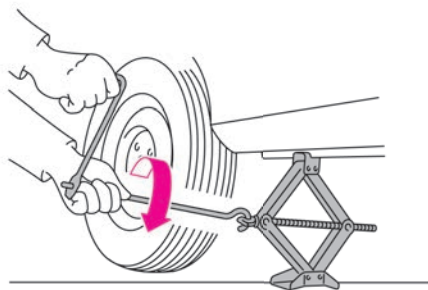
- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。
1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。

🔄 停車・駐車 のしかた (P.175)

2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

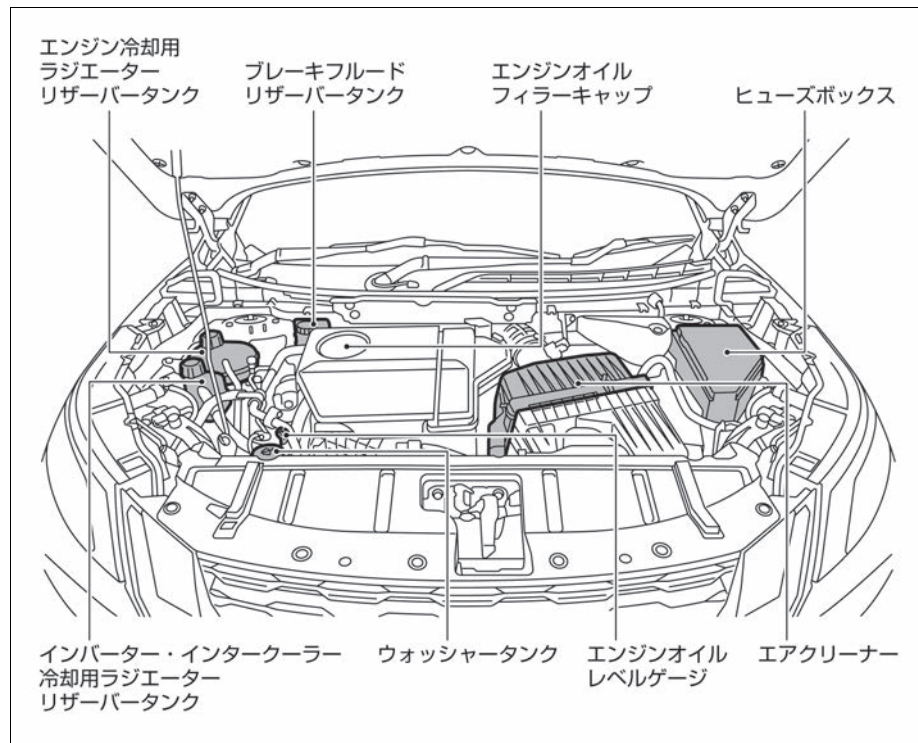


4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- 点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。
故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジンルーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。
e-POWERシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

🚗 アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

- 走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。
ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。
- ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。

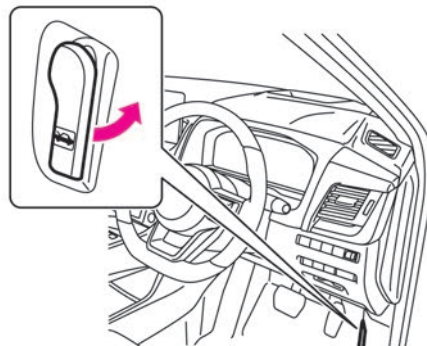
⚠ 警告

e-POWERシステム停止直後はステータが高温になることがあるため、やけどをするおそれがあります。

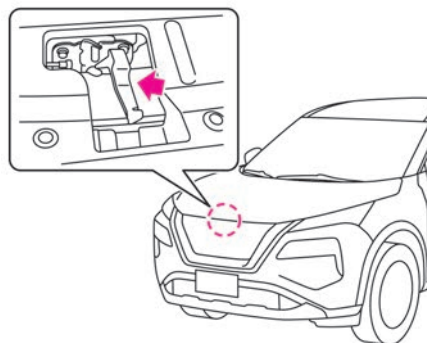
- ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。
- ラジエーターなどの高温部には触れない。
やけどをするおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。

🚗 アドバイス

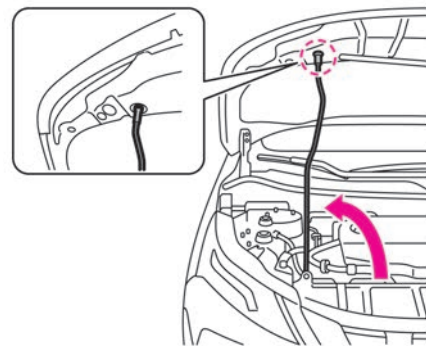
- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。



1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ステータをフックから外し、ボンネット裏側の穴（ステータ差し込み位置）に確実に差し込みます。
4. 閉めるときはステータをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとししないでください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

⚠ 注意

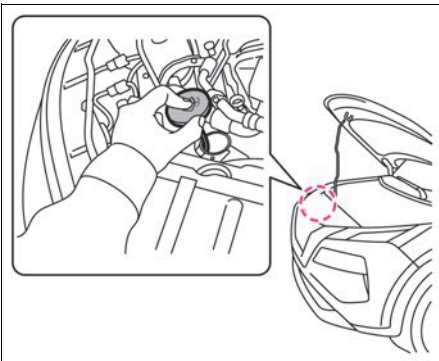
- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。

⚠ 注意

出火するおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。
- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。



- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。
- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
ウォッシャータンク容量については、(➡P.393)をお読みください。

- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約-15℃
50%	約-35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。

➡ 交換油脂類 (P.393)

🚗 アドバイス

- 寒冷地仕様車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落とす。
窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷付けないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。

- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

➡ タイヤチェーンについて (P.380)

雪道を走行するときは、e-4ORCE（4WD）車はドライブモードセレクト（➡ P.190）をSNOWに切り替えます。

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効が悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなる場合があります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- シフトポジションをPにし、パーキングブレーキを掛けずに輪止めをしてください。パーキングブレーキを掛けると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

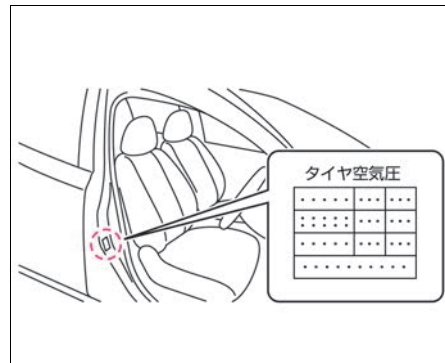
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧



- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。
- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。

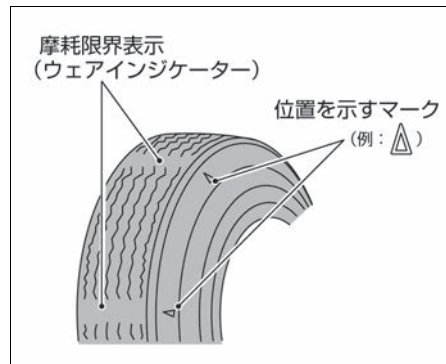
点検と整備

- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がる場合があります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウエアインジケータ（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウエアインジケータ（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。

タイヤ・ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。

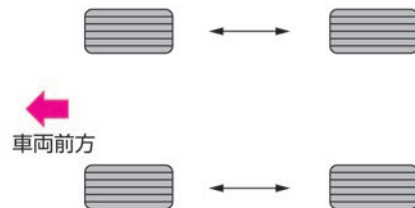
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m (11kg・m) です。

タイヤローテーションのしかた

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

回転方向を示す矢印が付いている場合



左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

タイヤに関する注意事項

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、パースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **5～7年を目安に必ず点検する。**

タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

- 摩耗差の大きいタイヤの装着
- 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
- サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

- 冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーやアルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。
チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性能が十分に発揮できなくなる場合があります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。e-4ORCE（4WD）車も前2輪に装着してください。

点検と整備

- タイヤサイズに適したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。

ワイパー

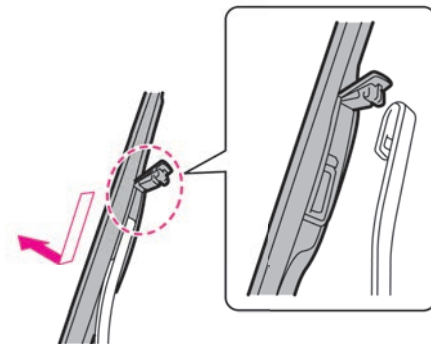
ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷付けたりします。

定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

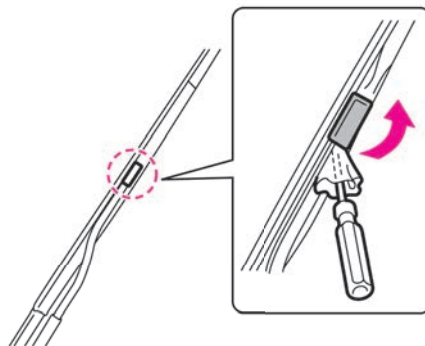
ワイパーブレードの交換のしかた

アドバイス

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
 - ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。
- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。



1. ワイパーアームを起こします。

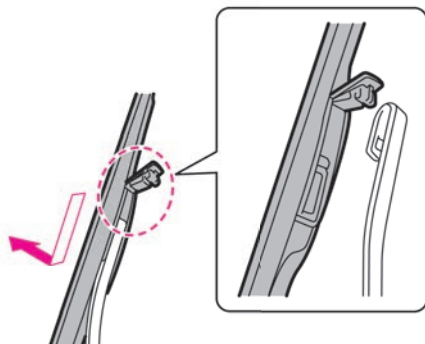


2. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、ストッパーを起こします。

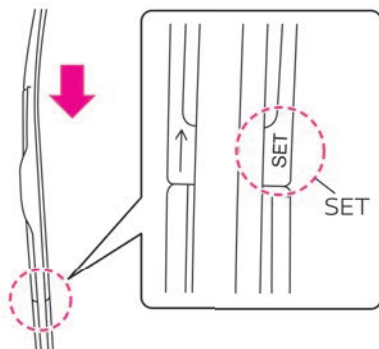
3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。
4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

ワイパーゴムの交換のしかた

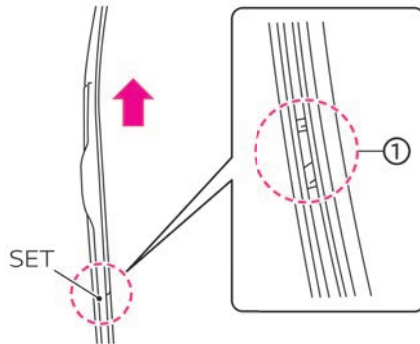
- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。



1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。



2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。
ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
ワイパーゴムの①部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。

インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

⚠ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- 電池を飲み込んだり、体内に入れたしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。

⚠ 注意

- カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。

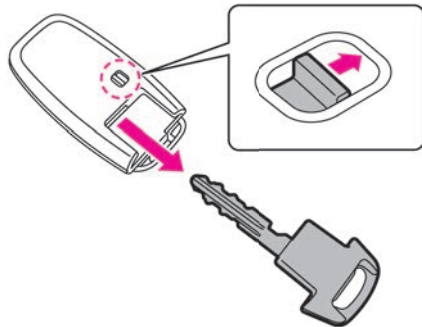
インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

🚗 アドバイス

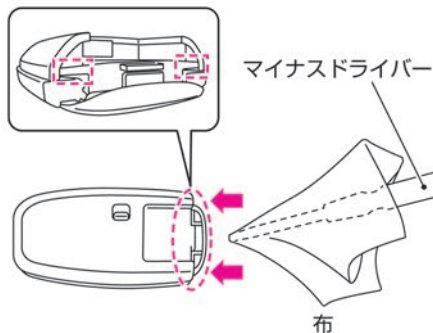
- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。

🚗 アドバイス

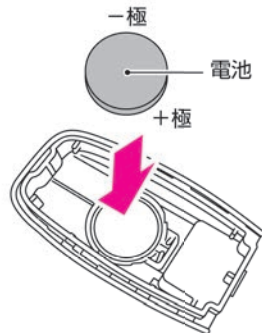
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。



1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。



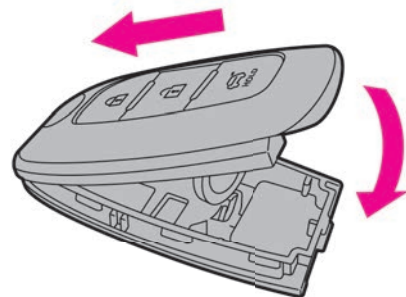
2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池

は、+極を下にして取り付けてください）

使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- 12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。

⚠ 警告

12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗淨し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。

接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- 12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。

しっかりと固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

- バッテリーを交換するときは、バッテリー内部のガスを車外に放出するための排気用チューブを正しく脱着する。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（P.393）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。

オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。

- エンジンオイルフィルターキャップは確実に閉める。

走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色や錆などを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色や錆の原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
 - ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールトールなどが付着したとき
 - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

- 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意



注意

- 下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。

- エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。

e-POWERシステムの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

水や洗剤、ワックスなどの製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。

- 洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、アドバンスドドライバシストディスプレイの設定で【パワーバックドア】をOFFにする。

ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

🔑 リモコンオートバックドア★
(P.116)



アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。

- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷付けるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
- 洗車をするときに、車体に体重を掛けるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは



アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っかかり、洗車できないことがあります。
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 高圧洗浄機を使用するときは、アンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。
- ドアミラーを格納してください。
➡ **ドアミラーの格納のしかた** (P.143)
- 燃料補給口を完全に閉めてください。
➡ **燃料補給口の閉閉** (P.149)
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

ワックスをかけるときは

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。
- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。

ださい。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アルミホイールのお手入れ

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷を付けたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
 - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
 - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
 - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
 - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイントを含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
➡ **レーダーセンサーの取り扱い** (P.388)

レーダーセンサー/カメラ類の取り扱い注意

警告

- センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。
精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。

適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

🚗 アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷を付けないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

バンパーの修理

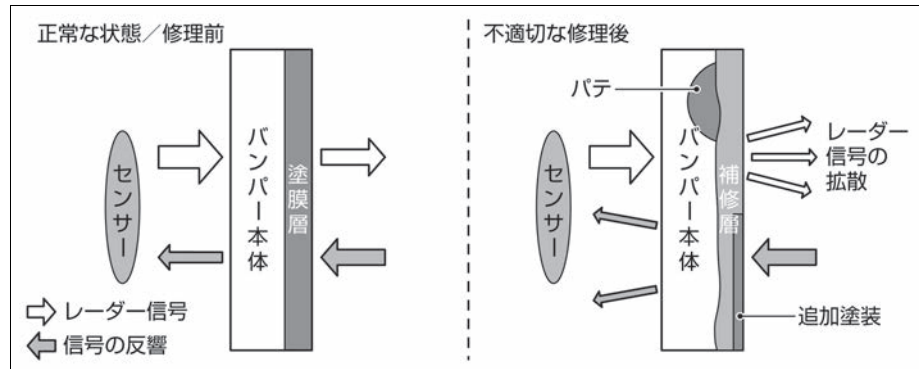
バンパーにはレーダーセンサーが内蔵されているため、修理には細心の注意が必要です。

■ レーダーセンサーの仕組み



レーダーセンサーからレーダー信号を発生させ、その信号の反響により障害物を検出します。

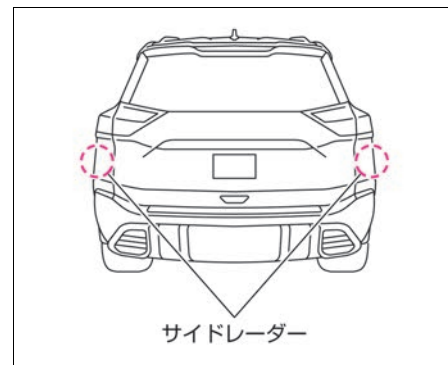
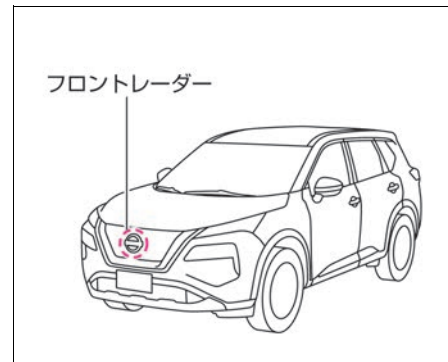
■ バンパーの修理



不適切なバンパー修理（異なる素材のパテ使用や追加塗装など）を行うと、レーダー信号が弱まったり、正しく発信できなかったりするため、障害物を正しく検出する事ができなくなります。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

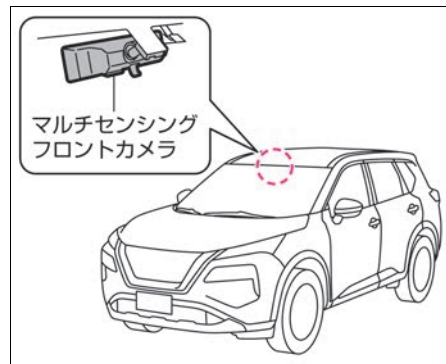


- レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があるため、以下は行わないでください。

- レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
- お客様の手による塗装、修理
- フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着
- レーダーセンサー周辺の鳥糞、虫、泥などの付着の放置
- 衝突などによるレーダーセンサー周辺の破損、傷つきの放置
- フロントバンパー、リヤバンパーを塗装、修理する場合は必ず日産販売会社にご相談ください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

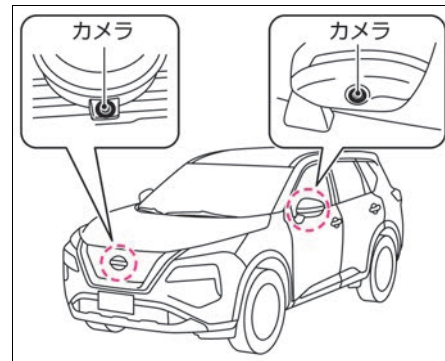
システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。



- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「ヘッドランプ警告」の警告メッセージ（P.343）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。

フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い

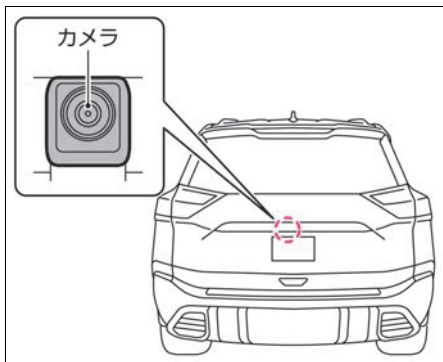
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

リヤビューカメラの取り扱い

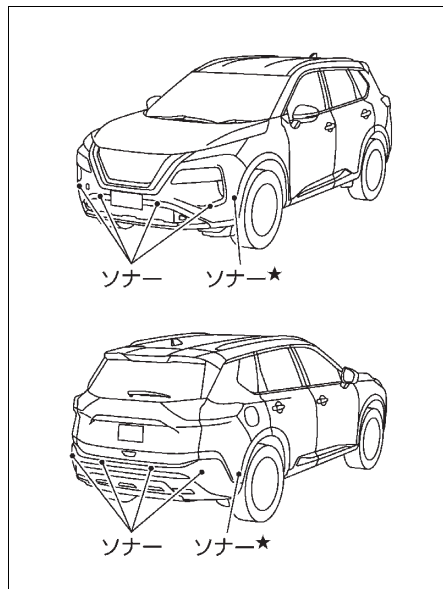
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリーを取り付けしないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
汚れているときは、柔らかい布で傷付けないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセ

サリなどを取り付けしないでください。故障、誤作動の原因になります。

内装のお手入れ

内装のお手入れについて

🚗 アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオやスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーベットの汚れ取り

- 電気掃除機ではこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーベットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカー

ベットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

➡フロアカーベット (P.308)

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

本革シート★のお手入れ

アドバイス

- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などで濡れたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

- ① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。

- ② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
- ③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

IRカット&スーパーUVカット断熱グリーンガラスのお手入れ

アドバイス

- IRカット&UVカットコーティングの傷つきや劣化を防ぐため、次のことをご守りください。
 - ー 前席ドアガラスの汚れがひどいときは、なるべく窓ガラスの開閉を行わない。
 - ー 清掃するときはコンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しない。
 - ー 砂などが付着している布で清掃しない。

前席ドアガラスが強化ガラスの場合、内側にはIRカット&UVカットコーティングが施されています。

- 前席ドアガラスの内側を清掃するときは、水または温水を含ませた柔らかいきれいな布で早めに汚れをふき取ってください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
 - ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。
- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

ガラスの汚れ取り

- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラーのお手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。

- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

点検値

項目		点検値
補器ベルト		調整不要
ブレーキペダル※	床板とのすき間 エンジン回転中、約490N（50kg）で踏んだとき	85mm以上

※ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

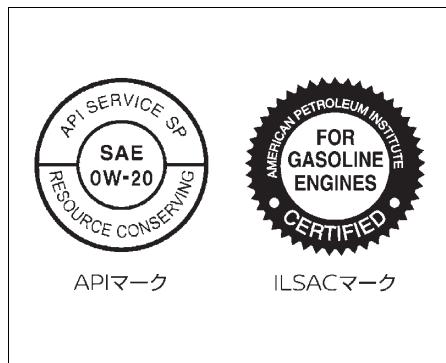
お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
KR15DDT	オイルのみ交換	5.0	日産純正SPストロングセーブ・X・X 0W-20) (API: SP、SAE: 0W-20)
	オイルとオイルフィルター交換	5.1	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、次に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SPをお使いください。ILSACマークのついたものをおすすめします。



APIマーク

ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-20をご使用ください。

エンジン冷却水

適用	規定量 (ℓ)	指定銘柄
全車	8.4 ^{※1}	日産純正スーパーロングライフクーラント ^{※2}

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.83 ℓ）を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

インバーター・インタークーラー冷却水

適用	規定量 (ℓ)	指定銘柄
2WD車	5.4 ^{※1}	日産純正スーパーロングライフクーラント ^{※2}
e-4ORCE（4WD）車	7.7 ^{※1}	

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.55 ℓ）を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

サービスデータ

ギヤボックスオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.54	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとギヤボックスが損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
e-4ORCE（4WD）車	0.85	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	-	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	5.0	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

電球（バルブ）の容量

電球	容量（V-W）	電球のタイプ
番号灯	12-5	W5W※
後退灯	12-16	W16W※

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

サービスデータ

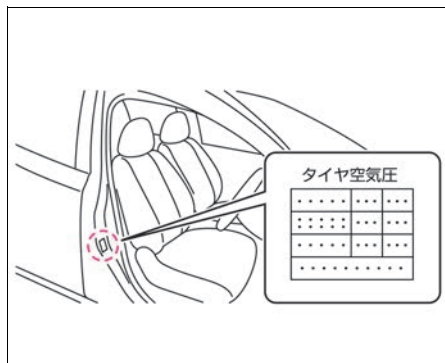
電球		容量 (V-W)	電球のタイプ
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面 (バルブ仕様車)	12-21 (アンバー)	WY21W
	後面	12-21 (アンバー)	WY21W※

※：電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。
 次の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- ハイビーム／ロービーム (LED)
- 車幅灯 (LED)
- フロントフォグランプ (LED) ★
- リヤフォグランプ (LED) ★
- ハイマウントストップランプ (LED)
- 方向指示器兼非常点滅表示灯 (前面) (LED)
- 方向指示器兼非常点滅表示灯 (側面) (LED)
- 尾灯 (LED)
- 制動灯 (LED)
- 方向指示器兼非常点滅表示灯 (後面)
- 番号灯
- 後退灯

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
235/60R18 103H	18 × 7.5J	114.3mm (5穴)	40mm
235/55R19 101V	19 × 7.5J		



タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。

イベントデータレコーダ (EDR)

車両データの記録・蓄積について

● イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。

● 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

この車両に装備されている次のシステムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

次のシステムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速、エンジン回転数などの車両情報

■ プロパイロット (ナビリンク機能付) システム★

プロパイロット (ナビリンク機能付) は下記車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況

サービスデータ

- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロット（ナビリンク機能付）の作動に関する情報
- プロパイロット（ナビリンク機能付）の故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1			
100V AC電源(1500W)			
100V AC電源(1500W)メインスイッチ ...	P.302		
100V AC電源(1500W)	P.301		
12V系充電警告灯	P.55, P.56, P.57		
12Vバッテリー	P.383		
3			
3点式シートベルト	P.26		
A			
A/C (エアコン)			
エアコンスイッチ	P.151		
エアコンを使うときに注意すること	P.160		
オートエアコン (独立温度調整機能 (運転席、助手席、後席))	P.155		
オートエアコン (独立温度調整機能 (運転席、助手席))	P.151		
吹き出し口	P.159		
ABS			
ABS	P.198		
ABS警告灯	P.55, P.56, P.57		
AUTOモード	P.190		
B			
BSW (後側方車両検知警報)	P.239		
E			
e-4ORCE (4WD)			
e-4ORCE (4WD) の扱い方た	P.197		
e-Pedal Step	P.189		
e-POWERシステム			
e-POWERシステム車が事故にあった ときの注意事項	P.17		
e-POWERシステムの取り扱いに関する 注意事項	P.17		
燃費を良くするためのポイント	P.19		
e-POWERシステム警告灯	P.55, P.56, P.57		
e-POWERシステムを始動できないときは	P.324		
e-POWERと上手に付き合うために	P.19		
ECOモード	P.190		
EDR (イベントデータレコーダ)	P.397		
ELR (緊急固定) 付シートベルト	P.26		
EPS (電動パワーステアリング)			
警告灯	P.55, P.56, P.57		
ETC	N		
G			
GPF (ガソリンパティキュレート フィルター)	P.173		
I			
i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロア アンカレッジ	P.41		
L			
LDW (車線逸脱警報)	P.247		
O			
OFF-ROADモード	P.190		
R			
RCTA (後退時車両検知警報)	P.254		
S			
SNOWモード	P.190		
SOSコール	P.295		
SPORTモード	P.190		
SRSエアバッグ	P.29		
SRSエアバッグ警告灯	P.55, P.56, P.57		
STANDARDモード	P.190		
U			
USB電源ソケット	P.300, N		
V			
VDC			
VDC	P.199		
VDC OFF表示灯	P.58, P.59, P.60		
VDC警告灯	P.55, P.56, P.57		

M 「メンテナンスノート」をお読みください。

S 「自動車検査証」をご参照ください。

N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

W

W数（電球の容量） P.395

ア

アームレスト
セカンドシート（2列車） P.132
セカンドシート（3列車） P.136
アウトミラー（ドアミラー） P.142
アシストグリップ P.310
アダプティブLEDヘッドライトシステム
アダプティブLEDヘッドライト
システム P.180
アダプティブLEDヘッドライト
表示灯 P.58, P.59
アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ
各種設定画面 P.81
アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ P.65
アドバンスドドライブアシストディスプレイ
アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ P.64
アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ（ショートカット
メニュー） P.76
警告メッセージ P.338
車両情報画面 P.65
ステアリングスイッチ P.64, P.76
その他の表示機能 P.97
アドバンスドヒルディセントコントロール
（速度設定機能付）
アドバンスドヒルディセント
コントロール表示灯 P.58, P.59, P.60
アラーム（インテリジェントキー） P.360
アルミホイールのお手入れ P.386
アンサーバック機能 P.109

イ

移動物 検知機能 P.81
イベントデータレコーダ（EDR） P.397
イモビライザー（盗難防止装置） P.43
イルミネーションコントロール P.105
インジケーター（表示灯） P.58, P.59, P.60
インテリジェント BSI（後側方衝突防止
支援システム） P.239
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.257
インテリジェント FCW（前方衝突予測
警報） P.251
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援
システム） P.247
インテリジェント アラウンドビュー
モニター
インテリジェント アラウンドビュー
モニター P.263
インテリジェント エマージェンシー
ブレーキ
インテリジェント エマージェンシー
ブレーキ P.227
インテリジェント エマー
ジェンシーブレーキ警告灯 P.55, P.56, P.57
インテリジェント オートライトシステム
（フロントワイパー連動、薄暮れ感知
「おもいやりライト」機能付） P.177
インテリジェント トレースコントロール
（コーナリング安定性向上システム） P.201
インテリジェント ルームミラー P.139
インテリジェントキー
インテリジェントキーが正常に
作動しないとき P.323
機能・使いかた P.108
電池交換のしかた P.382
ドアの施錠・解錠の作動範囲 P.108

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.183
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.144
ウォーニング（警告灯） P.55, P.56, P.57
ウォッシャー
ウォッシャー液の補給 P.376
ウォッシャースイッチ P.187
ウォッシャー液（規定量） P.395
ウォッシャーの噴霧状態点検 **M**
動けなくなったときは P.314
運転するときに注意すること P.23
運転する前に P.22
運転席スイッチ（バックドア） P.117
運転前の準備 P.22

エ

エアコン
エアコンスイッチ P.151
エアコンを使うときに注意すること P.160
オートエアコン（独立温度調整機能
（運転席、助手席、後席）） P.155
オートエアコン（独立温度調整機能
（運転席、助手席）） P.151
吹き出し口 P.159
エアバッグ
SRSエアバッグ P.29
SRSエアバッグ（前席） P.31
SRSエアバッグ警告灯 P.55, P.56, P.57
SRSカーテンエアバッグ P.34
SRSサイドエアバッグ（前席） P.33
エコドライブレポート P.98
エマージェンシーストップシグナル P.198
エンジン
エンジンオイル P.384
エンジンルームから蒸気が出ている
とき P.361

エンジンルーム P.375

オ

応急修理する前に P.319

オーディオ

オーディオ P.162, **N**

ステアリングスイッチ P.162

オートACC機能 P.168

オートエアコン（独立温度調整機能
（運転席、助手席、後席）） P.155

オートエアコン（独立温度調整機能
（運転席、助手席）） P.151

オートクローシャー P.119

オートバックドア P.116

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド P.171

オートブレーキホールド

表示灯 P.58, P.59, P.60

オートロック機能 P.109, P.112

オーバーヒート P.361

オーバーヒート警告が表示されたとき P.361

オーバーヘッドコンソール P.294

お子さまの安全のために P.35

お子さまを乗せるときに注意すること P.35

オドメーター（積算距離計） P.50

音声操作表示 P.99

カ

回生ブレーキ P.14

外装のお手入れ P.385

外装ランプが点灯しないときは P.365

カギ（インテリジェントキー） P.108

各種設定画面 P.81

カップホルダー

サードシート用カップホルダー P.293

セカンドシート用カップホルダー P.293

フロントシート用カップホルダー P.293

カメラ

フロントビュー／サイドビューカメラ P.389

マルチセンシングフロントカメラ P.389

リヤビューカメラ P.389

ガラスアンテナ

ガラスのお手入れ（バックドアガラス） P.392

ガラスルーフ

ガレージモード P.119

ガレージモード

解除 P.120

設定 P.119

寒冷時の取り扱い P.377

キ

キー

インテリジェントキー P.108

インテリジェントキーに関する注意

事項 P.109

インテリジェントキーの電池交換 P.382

メカニカルキー P.108

キースイッチ（パワースイッチ） P.166

キー連動室内照明システム P.109

ク

空気圧（タイヤ） P.378, P.397

くもり取り

デフロスタースイッチ P.361

リヤウインドーデフォグガースイッチ P.361

クラクション（ホーン） P.138

クリアランスランプ（車幅灯）

スイッチ P.177

点灯しないとき P.365

クルーズコントロール

クルーズコントロール P.195

車のお手入れ P.385

グローブボックス P.292

ケ

警告灯 P.55, P.56, P.57

警告灯がついたときは P.329

警告メッセージ P.338

警告メッセージが表示されたときは P.338

警報ブザー音別一覧表

（インテリジェントキー） P.360

けん引について P.315

コ

交換油脂類 P.393

工具 P.371

航続可能距離表示 P.49

後退灯

点灯しないとき P.365

高電圧部品について P.16

後部霧灯（リヤフォグランプ）

スイッチ P.183

点灯しないとき P.365

リヤフォグランプ表示灯 P.58, P.59, P.60

コートハンガー P.310

故障警告灯（MIL） P.55, P.56, P.57

故障したときは P.314

コンセント P.301

コンソールボックス P.292

サ

サードシート	P.136
サービスデータ	P.393
最高速度標識検知	P.53
サイドミラー (ドアミラー)	P.142
サイドレーダー	P.388
サンシェード	P.146
サンバイザー	P.309
サンルーフ (パノラミックガラス ルーフ)	P.145

シ

シート	
サードシート	P.136
セカンドシート	P.130, P.133
チャイルドシート	P.36
パーソナルドライビングポジション	
メモリーシステム	P.126
ヒーターシート	P.299
フロントシート (パワーシート)	P.125
フロントシート (マニュアルシート)	P.128
シートベルト	
シートベルト警告灯	P.55, P.56, P.57
シートベルトの着用のしかた	P.26
シートベルトの注意事項	P.27
事故が起きたときは	P.17
室内灯	P.290
始動しない	P.324
始動のしかた	P.166
シフトレバー (セレクトレバー)	P.169
シャシー制御	P.201
ジャッキ	
ジャッキ	P.371
ジャッキアップのしかた	P.373
車幅灯	
スイッチ	P.177

点灯しないとき	P.365
車両型式	S
車両重量	S
車両仕様	P.395
車両状態記録機能	P.398
車両情報画面	P.65
車両寸法	S
車両接近通報装置	
車両接近通報システム	
警告灯	P.55, P.56, P.57
車両接近通報装置	P.14, P.203
ジャンプスタートのしかた	P.326
収納装備	P.292
出力制限表示灯	P.55, P.56, P.57
出力制限表示灯が点灯したときは	P.328
乗車定員	S
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の 注意事項	P.24

ス

スイッチの操作	
100V AC電源(1500W)メインスイッチ	P.302
e-Pedalスイッチ	P.189
EVモードスイッチ	P.194
ODO TRIPスイッチ	P.50
SOSコールスイッチ	P.295
TRIP RESETスイッチ	P.50
アドバンスドヒルディセント コントロールスイッチ	P.203
イルミネーションコントロール スイッチ	P.105
ウォッシュャースイッチ	P.187
運転席スイッチ (バックドア)	P.117
エアコンスイッチ	P.151, P.155
オートブレーキホールドスイッチ	P.171
ガラスルーフスイッチ	P.146
後席ヒーターシートスイッチ	P.299

後席用エアコンスイッチ	P.158
ステアリングスイッチ	
(アドバンスドドライブアシスト ディスプレイ)	P.64, P.76
ステアリングスイッチ (オーディオ)	P.162
セーフティ・シールドスイッチ	P.247
前席ヒーターシートスイッチ	P.299
デフロスタースイッチ	P.361
電動パーキングブレーキスイッチ	P.170
ドアミラースイッチ	P.142
ドアロックスイッチ	P.113
ドライブモードセクター	P.190
バックドアインナースイッチ	P.118
バックドアインナーロックスイッチ	P.118
バックドアオープナー スイッチ	P.115, P.117
バックドアスイッチ	P.112
パワーウィンドースイッチ	P.144
パワーウィンドーロックスイッチ	P.144
パワースイッチ	P.166
ハンドル支援スイッチ	P.216
非常点滅表示灯スイッチ	P.10
フォグランプスイッチ	P.183
プロパイロットパーキングスイッチ	P.275
ヘッドアップディスプレイスイッチ	P.103
ヘッドランプスイッチ	P.177
ヘッドランプレベライザースイッチ	P.184
方向指示器スイッチ	P.183
ライトスイッチ	P.177
リヤウインドーデフォグガースイッチ	P.361
リヤフォグランプスイッチ	P.183
ワイパースイッチ	P.186
水没したときは	P.364
ステアリング (ハンドル)	P.138
ステアリングスイッチ	
アドバンスドドライブアシスト ディスプレイ	P.64, P.76
オーディオ	P.162, N

音声操作	N
ショートカットメニュー	P.76
ハンズフリーフォン	N
ボイスアシスタント	N
ステアリングヒーター	P.298
スピードメーター（速度計）	P.49
スベアタイヤ	
パンクしたときは	P.319
スモールランプ（車幅灯）	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365

セ

制動灯	
点灯しないとき	P.365
制動灯（ブレーキランプ）	
アクセルOFF時の制動灯	
（ブレーキランプ）について	P.193
設定（メーター）	P.81
セレクトレバー	P.169
センサー（ハンズフリーセンサー）	P.117
洗車のしかた	P.385
前照灯（ヘッドランプ）	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
先進事故自動通報システム	P.295
センターコンソールボックス	P.292
前部霧灯（フォグランプ）	
スイッチ	P.183
点灯しないとき	P.365
フォグランプ表示灯	P.58, P.59, P.60

ソ

走行	P.175
----	-------

走行可能表示灯	P.58, P.59, P.60
走行支援機能画面	P.100
走行時間アラーム（アドバンスド ドライブアシストディスプレイ内の設定）	P.81
走行用モーター	P.14
速度計（スピードメーター）	P.49
ソナー	
ソナー	P.97
ソナー設定（アドバンスドドライブ アシストディスプレイ内の設定）	P.81
ソナーの取り扱い	P.390

タ

タイヤ	
アルミホイールのお手入れ	P.386
応急修理のしかた	P.319
タイヤ・ホイールを交換するとき	P.379
タイヤ・ロードホイールサイズ	P.397
タイヤ応急修理キット	P.319
タイヤチェーンについて	P.380
タイヤの位置交換（ローテーション）	P.379
タイヤの空気圧	P.378, P.397
タイヤの点検項目	P.378
パンク	P.319
冬用タイヤについて	P.380
正しい運転姿勢について	P.22
ダブルプリテンションナー機構	P.26

チ

チケットホルダー	P.309
チャージモード	
EVモードスイッチ	P.194
チャージランプ	
（12V充充電警告灯）	P.55, P.56, P.57

チャイルドシート	P.36
チャイルドシート適合表	P.38
チャイルドセーフティドアロック	P.113
着信表示	P.98
駐車のかた	P.175
チルト・テレスコピックステアリング	P.138
チルトアップ	P.146

ツ

通話表示	P.98
------	------

テ

定期点検	M
停止のしかた	P.167
停車のしかた	P.175
低水温表示灯	P.58, P.59, P.60
テールランプ（尾灯）	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
テールランプ表示灯	P.58, P.59, P.60
手放し警告灯	P.55, P.56, P.57
デフロスタースイッチ	P.361
点検整備について	P.370
電源ソケット	P.299
点検値	P.393
電制シフト警告灯	P.55, P.56, P.57
電池交換のしかた	
（インテリジェントキー）	P.382
電動格納式ドアミラー	P.142
電動パーキングブレーキ	
電動パーキングブレーキ	P.170
電動パーキングブレーキ	
警告灯	P.55, P.56, P.57
電動パーキングブレーキ注意事項	P.170

ト

ドア	
ドアが開かないときは	P.323
ドアスイッチ	P.112
ドアを室内から開けられないとき (チャイルドセーフティドアロック)	P.113
バックドアスイッチ	P.112
フロントドア	P.112
リモコンオートバックドア	P.116
ドアミラー	P.142
ドアミラーヒーター	P.143
ドアロックスイッチ	P.113
灯火装置 (ランプ) の点灯、点滅具合、 汚れ、損傷点検	M
盗難防止装置	
イモビライザー	P.43
時計	P.49
ドライビングポジションメモリー システム	P.126
ドライブコンピュータ	P.65
ドライブモードインジケーター	P.52
ドライブモードセレクター	
ドライブモードインジケーター	P.52
ドライブモードセレクター	P.190
トラブルがおきたときは	
12Vバッテリーがあがったときは	P.324
e-POWERシステムを始動できない ときは	P.324
オーバーヒートしたときは	P.361
外装ランプが点灯しないときは	P.365
警告灯がついたときは	P.329
警告メッセージが表示されたときは	P.338
けん引について	P.315
故障したときは	P.314
出力制限表示灯が点灯したときは	P.328
水没したときは	P.364
ドアが開かないときは	P.323

発炎筒	P.315
パンクしたときは	P.319
ヒューズが切れたときは	P.366
ブザー (警報音) が鳴ったときは	P.360
窓ガラスがくもったときは	P.361
雪道やぬかるみにはまったときは	P.363
トリップメーター (区間距離計)	P.50

ナ

内装のお手入れ	P.390
ナビゲーションシステム	N
ナンバー灯 (番号灯)	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365

ニ

日常点検	M
------	---

ネ

燃費情報表示	P.65
燃費を良くするためのポイント	P.19
燃料	
燃料計	P.49
燃料タンク容量	P.149
燃料補給口	P.149
燃料残量警告灯	P.55, P.56, P.57

ハ

パーキングブレーキ	
電動パーキングブレーキ	P.170
パーソナルディスプレイ	P.53
パーソナルドライビングポジション メモリーシステム	P.126
排気量	S

ハイビームアシスト	P.179
ハイビームアシスト	
ハイビームアシスト表示灯	P.58, P.59, P.60
ハイマウントストップランプ	
点灯しないとき	P.365
挟み込み防止機構	
パノラミックガラスルーフ	P.147
パワーウインドー	P.145
発炎筒	P.315
バックドア	
オートクローガー	P.119
ガレージモードの解除	P.120
ガレージモードの設定	P.119
正常に作動しないとき	P.120
バックドアインナースイッチ	P.118
バックドアオープナースイッチ	P.117
ハンズフリーセンサー	P.117
バックドアガラスのくもりの取りかた	P.361
発達	P.174
バッテリー	
12Vバッテリー	P.383
バッテリー液量の点検・補給	M
リチウムイオンバッテリー	P.14
バッテリーがあがったときは	P.324
バッテリーセーバー	
ヘッドランプ	P.177
マップランプ	P.290
ラゲッジランプ	P.291
リヤ読書灯	P.291
ルームランプ	P.290
発電用モーター	P.14
パノラミックガラスルーフ	
ガラスルーフの開閉	P.146
サンシェード	P.146
チルトアップ	P.146
パノラミックガラスルーフ	P.145
パワーウインドーが正常に作動しない とき	P.145

パワースイッチ	P.166
パワースイッチでのモードの切り替え	
かた	P.167
パンクしたときは	P.319
番号灯	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
ハンズフリーセンサー	P.117
ハンドル	P.138

ヒ

ヒーターシート	P.299
ヒーター付ドアミラー	P.143
非常停止のしかた	P.168
非常点滅表示灯	
点灯しないとき	P.365
尾灯	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
ヒューズ	P.366
ヒューズが切れたときは	P.366
ヒューズが切れたときは	
点灯しないとき	P.366
標識検知機能	
標識検知機能	P.259
表示灯	P.58, P.59, P.60
表示灯がついたときは	P.61
ヒルスタートアシスト	P.201

フ

ブースターケーブルのつながりかた	P.324
フード（ボンネット）	P.375
フォグラмп	
スイッチ	P.183

点灯しないとき	P.365
フォグラмп表示灯	P.58, P.59, P.60
吹き出し口	P.159
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.360
踏み間違い衝突防止アシスト	
低速加速抑制機能	P.234
低速衝突軽減ブレーキ機能	P.234
踏み間違い衝突防止アシスト	P.232
踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	P.55, P.56, P.57
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）	
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）	P.149
フューエルメーター（燃料計）	P.49
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.380
ブレーキ（回生ブレーキ）	P.14
ブレーキ液量の点検・補給	M
ブレーキ警告灯（赤色）	P.55, P.56, P.57
ブレーキシステム警告灯（黄色）	P.55, P.56, P.57
ブレーキの効き点検	M
ブレーキフルード（規定量）	P.395
ブレーキペダルの踏みしろ	M
ブレーキランプ（制動灯）	
アクセルOFF時の制動灯（ブレーキランプ）について	P.193
フロアカーペット	P.308
プロパイロットパーキング	P.275
プロパイロット（ナビリンク機能付）	
プロパイロット（ナビリンク機能付）	P.211
フロントガラスのくもりの取りかた	P.361
フロントドア	P.112

ヘ

ヘッドアップディスプレイ	
ON・OFFのしかた	P.103
警告メッセージ	P.102
車速表示	P.100
速度標識表示	P.101
ナビゲーションシステム表示	P.101
ヘッドアップディスプレイスイッチ	P.103
ヘッドアップディスプレイとは	P.100
ヘッドアップディスプレイの注意事項	P.102
ヘッドアップディスプレイの調整のしかた	P.104
メッセージ表示	P.101
ヘッドランプ	
自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）	P.178
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
ヘッドランプ上向き表示灯	P.58, P.59, P.60
ヘッドランプ下向き表示灯	P.58, P.59, P.60
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検	M
ヘッドランプレレイザースイッチ	P.184
ヘッドレスト	
サードシート	P.138
セカンドシート（2列車）	P.131
セカンドシート（3列車）	P.135
フロントシート	P.129

ホ

ホイールサイズ	P.397
ホイールナットレンチ	P.371

方向指示器	
スイッチ	P.183
点灯しないとき	P.365
方向指示表示灯	P.58, P.59, P.60
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、	
損傷点検	M
防犯装置	
イモビライザー	P.43
ホーム	
ホーム	P.65
ホーンの鳴らしかた	P.138
ポジションインジケータ	P.52
ポジションランプ (車幅灯)	
スイッチ	P.177
点灯しないとき	P.365
ボトルホルダー	P.293
ボンネット	P.375

マ

マスターウォーニング	P.55, P.56, P.57
マップランプ	
キー連動室内照明システム	P.290
マップランプ	P.290
窓ガラスがくもったときは	P.361
マナー (EV) モード	
マナー (EV) モード	P.194
マルチセンシングフロントカメラ	P.389

ミ

ミラー	
インテリジェント ルームミラー	P.139
ドアミラー	P.142

メ

メーター	
アドバンスドドライブアシスト	
ディスプレイ	P.64
アドバンスドドライブアシストディスプレイ (ショートカットメニュー)	P.76
オドメーター (積算距離計)	P.50
各種設定画面	P.81
各部名称	P.46, P.47
警告灯	P.55, P.56, P.57
警告メッセージ	P.338
航続可能距離表示	P.49
車両情報画面	P.65
スピードメーター (速度計)	P.49
時計	P.49
トリップメーター (区間距離計)	P.50
表示灯	P.58, P.59, P.60
ヘッドアップディスプレイ	P.100
メーターの明るさの調節のしかた	P.105
リチウムイオンバッテリー残量計	P.51
メンテナンス設定 (アドバンスドドライブアシストディスプレイ内の設定)	P.81
メンテナンスデータ (サービスデータ)	P.393

モ

モーター	P.14
------	------

ユ

油圧警告灯	P.55, P.56, P.57
雪道の走行のしかた	P.378
雪道やぬかるみにはまったときは	P.363

ラ

ライトスイッチ	P.177
---------	-------

ラゲッジフック	P.310
ラゲッジランプ	
キー連動室内照明システム	P.291
ラゲッジランプ	P.291
ランプ (室内灯)	
マップランプ	P.290
ラゲッジランプ	P.291
リヤ読書灯	P.291
ルームランプ	P.290
ランプ消し忘れ警報	P.177

リ

リチウムイオンバッテリー	
リチウムイオンバッテリー	P.14
リチウムイオンバッテリー残量計	P.51
リバース連動下向ドアミラー	P.143
リモコンオートバックドア	P.116
リヤウインドーデフォグスイッチ	P.361
リヤ読書灯	
キー連動室内照明システム	P.291
リヤビューカメラ	P.389
リヤファイナルドライブオイル (規定量)	P.395
リヤフォグランプ	
スイッチ	P.183
点灯しないとき	P.365
リヤフォグランプ表示灯	P.58, P.59, P.60
リヤワイパースイッチ	P.186

ル

ルームランプ	
キー連動室内照明システム	P.290
マップランプ	P.290
ラゲッジランプ	P.291
リヤ読書灯	P.291
ルームランプ	P.290

レ

冷却水

寒冷時の取り扱い	P.377
冷却水量の点検・補給	M
レーダーセンサー	P.388
レバー（セレクトレバー）	P.169

ロ

ロードホイール

お手入れ	P.386
交換	P.379
サイズ	P.397
ロールサンシェード	P.308
路上で故障したときは	P.314
ロックノブ	P.113

ワ

ワイパー

ワイパー・ウォッシャースイッチ	P.186
ワイパーゴムの交換	P.381
ワイパーブレードの交換	P.381
ワイヤレス充電器	P.306
ワックスをかけるときは	P.386

MEMO

警告灯・表示灯・警告メッセージが表示されたときは

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➡P.329）、警告メッセージ（➡P.338）をお読みください。表示灯については、表示灯（➡P.61）をお読みください。



警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯したときは警告灯（➡P.329）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➡P.338）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、表示灯（➡P.61）をお読みください。

MEMO

MEMO

MEMO